



**Oracle® Business
Intelligence Answers,
Delivers, and
Interactive Dashboards
ユーザーズ・ガイド**

リリース 10.1.3.2

2007 年 3 月

Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド, リリース
10.1.3.2

部品番号 : E05029-01

原本名 : Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards User Guide, Version
10.1.3.2

原本部品番号 : B31767-01

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章： このリリースの新機能

第 2 章： Oracle Business Intelligence 入門

- Oracle BI のエンド・ユーザー向け概要 12
- Oracle BI へのアクセス 14
- Oracle BI での共通のタスクの実行 17
- Oracle BI 内でのナビゲート 21
- Oracle BI の「My Account」 ページの使用 24

第 3 章： Oracle BI Answers でのリクエスト操作の基本

- Oracle BI Answers の概要 28
- Oracle BI Answers のスタート・ページの例 30
- Oracle BI Answers の使用による、リクエストの作成、変更および保存 31
- Oracle BI ダッシュボードへの Oracle BI リクエストの埋込み 41
- Microsoft Excel での Oracle BI リクエストへのアクセスと操作 41
- Oracle BI リクエストと Microsoft Excel の Web クエリー機能の統合 42
- Set 演算による Oracle BI リクエストの条件の結合 43
- Oracle BI リクエストに対して生成された論理 SQL の調査と編集 44
- Oracle BI Answers でのダイレクト・データベース・リクエストの実行 45
- リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot に値を表示する変数の使用 46

第 4 章： Oracle BI Answers でのリクエストのフィルタ

- Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用 50
- プロンプトによる Oracle BI リクエストのフィルタの簡略化 58
- Oracle BI リクエストのフィルタに使用するダッシュボード・プロンプトの作成 63
- 保存済 Oracle BI リクエストのフィルタとしての使用 67
- Oracle BI リクエストでの列フィルタの SQL の編集 67

第 5 章： Oracle BI Answers の結果のフォーマット

Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用	72
Oracle BI Answers における列コンテンツの表示の編集	72
Oracle BI Answers における列コンテンツのレイアウトの編集	73
Oracle BI Answers における列コンテンツのフォーマット	76
Oracle BI Answers における列コンテンツへの条件付フォーマットの適用	78
システム全体のデフォルトとしての Oracle BI Answers の列プロパティ設定の保存	79
Oracle BI Answers のカスタム日付 / 時刻フォーマット文字列の使用	80
結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用	84

第 6 章： Oracle BI Answers での Oracle BI ビューの操作

Oracle BI ビューについて	90
Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行	95
Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューを使用して収集したビューのダッシュボードへの表示	101
Oracle BI タイトル・ビューを使用した、結果へのタイトルの追加	103
Oracle BI テーブル・ビューを使用した、結果へのテーブルの追加	105
列式の編集	108
Oracle BI グラフ・ビューを使用したグラフの結果の表示	112
Oracle BI ピボット・テーブル・ビューを使用したピボット・テーブルの結果の表示	129
Oracle BI ゲージ・ビューを使用したゲージとしての結果の表示	140
結果に適用されるフィルタの Oracle BI フィルタ・ビューを使用した表示	147
Oracle BI 列セクタ・ビューを使用したリクエスト内の列変更の許可	148
ビュー・セクタ・ビューを使用した特定のビューの選択の許可	148
Oracle BI 凡例ビューを使用した結果への凡例の追加	149
Oracle BI ファンネル・グラフ・ビューを使用したファンネル・グラフの結果の表示	150
Oracle BI 説明ビューを使用した結果への説明テキストの追加	151
Oracle BI ティッカ・ビューを使用したスクロール・ティッカでの結果の表示	154
Oracle BI 静的テキスト・ビューを使用した結果へのテキストの追加	157
Oracle BI 結果なしのビューを使用したユーザーへのアラート	159
Oracle BI 論理 SQL ビューを使用したリクエストの論理 SQL の表示	160
Oracle BI セグメントの作成ビューを使用した Oracle Siebel Marketing でのセグメントの作成	161

Oracle BI ターゲット・リストの作成ビューを使用した連絡先およびアカウントのリストの作成 162

第7章： Oracle BI Delivers の使用

- Oracle BI Delivers の概要 164
- Oracle BI Delivers へのアクセス 166
- Oracle BI Delivers のスタート・ページを使用した iBot の作成および管理 167
- Oracle BI Delivers iBot の設定の確認 169
- Oracle BI Delivers iBot の優先順位、データ表示方法および偽装の指定 169
- Oracle BI Delivers iBot を起動するためのリクエストの選択 170
- Oracle BI Delivers iBot のスケジュール 171
- Oracle BI Delivers iBot を受信するユーザーの選択 172
- iBot の配信コンテンツの指定 176
- Oracle BI Delivers iBot の宛先の選択 180
- Oracle BI Delivers iBot の完了時に実行する操作の指定 182
- Oracle BI Delivers iBot の表示、変更、サブスクライブおよびカスタマイズ 186
- Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成 189
- Oracle BI Delivers の配信プロファイルの使用 191
- Oracle BI の「Alerts」へのアクセス 192

第8章： Oracle BI Interactive Dashboards の使用

- Oracle BI Interactive Dashboards の概要 196
- Oracle BI Interactive Dashboards におけるナビゲート 198
- 新しい Oracle BI Interactive Dashboards の作成 199
- Oracle BI Interactive Dashboards への新しいページの追加 200
- Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加 201
 - Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページとレイアウトの操作 202
 - Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの追加と表示 204
 - Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのオブジェクトの名前変更および削除 216
 - Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更 217
- Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更 219

Oracle BI Interactive Dashboards ページの個人用および共有の保存済選択の作成と割当て 221

他の Oracle BI ユーザー・アカウントへのアクセス 224

Oracle BI Publisher レポートの操作 225

Oracle BI ブリーフィング・ブックの操作 228

Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて 232

第 9 章： Oracle BI Presentation Catalog のコンテンツの管理

Oracle BI Presentation Catalog でのフォルダおよびコンテンツの管理 236

Oracle BI Presentation Catalog でのオブジェクトの名前と説明の編集 239

Oracle BI Presentation Catalog でのフォルダや項目のコピーまたは移動 240

索引

1

このリリースの新機能

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、以前 Siebel Systems 社が Siebel Business Analytics Platform として販売していたコンポーネントで構成されており、そこに大幅な機能拡張がいくつか実施されています。

『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のドキュメント・セットの一部です。このマニュアルでは、Answers、Delivers および Interactive Dashboards に関する Oracle のアプリケーションを使用して、重要かつタイムリーなビジネスの決定を行うためのデータを整理し、表示する方法について説明しています。このマニュアルには、新しい記述と、以前は『Siebel Analytics User Guide』というタイトルで公開されていた記述があります。

『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』に記述された新機能

表 1 に、リリース 10.1.3.2 のソフトウェアをサポートするために、このリリースのドキュメントに記述された変更内容を一覧表示します。

表 1. 『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』に記述された製品の新機能

項	説明
すべて	すべての項が、新しい製品名で更新されました。
タイムゾーンに関する新規サポート。 「Oracle BI のタイムゾーンの設定」 (24 ページ)	ユーザーのアカウントに優先タイムゾーンを選択する方法を説明した項目が追加されました。
タイムゾーンに関する新規サポート。 「Oracle BI Answers における列コンテンツの表示の編集」 (72 ページ)	日付や時刻の列に特定のタイムゾーンを適用する方法を説明するため、手順 4 が追加されました。
タイムゾーンに関する新規サポート。 「Oracle BI Answers における列コンテンツのレイアウトの編集」 (73 ページ)	「TimeZone」アイコンを列に追加する方法を説明するため、「TimeZone」アイコンを挿入するには」という項目が追加されました。
RSS フィード機能の追加。 「ダッシュボード・ページのカatalog・フォルダへの RSS フィード・オプションの追加」 (213 ページ)	カATALOG・フォルダに RSS フィードを作成するために必要な URL 情報の取得方法を説明した項目が追加されました。この項では、サード・パーティの RSS リーダーの要件についての情報も説明しています。
ダッシュボード・プロキシ機能の追加。 「他の Oracle BI ユーザー・アカウントへのアクセス」 (224 ページ)	ダッシュボード・プロキシ機能、および別のユーザーのレポートまたはダッシュボード（あるいはその両方）を表示または変更する方法について説明した項目が追加されました。
Oracle BI Publisher の統合。拡張レポートのサポートの削除。 「Oracle BI Publisher レポートの操作」 (225 ページ)	Oracle BI Publisher の統合に関する説明を追加し、拡張レポートに関する説明を削除するため、この項が書きなおされました。「ダッシュボード・ページに表示する Oracle BI Publisher レポートの選択」と「Oracle BI Publisher へのアクセス」という 2 つの項目が、この項に追加されました。
ブリーフィング・ブックを印刷する新機能。 「Oracle BI ブリーフィング・ブックの編集、ダウンロードまたは印刷」 (230 ページ)	ブリーフィング・ブックの PDF ファイルを生成し、印刷する手順について説明するため、手順 8 が追加されました。
RSS フィード機能の追加。 「Oracle BI の「Alerts」へのアクセス」 (192 ページ)	「Alerts」ページに RSS フィードを作成するために必要な URL 情報の取得方法を説明した項目（「アラートに RSS フィードを追加するには」）が追加されました。この項では、サード・パーティの RSS リーダーの要件についての情報も説明しています。

表 1. 『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』に記述された製品の新機能

項	説明
<p>カタログをアーカイブする機能の追加。</p> <p>「Oracle BI Presentation Catalog のアーカイブ」 (238 ページ)</p>	<p>フォルダまたはプレゼンテーション・カタログ全体をアーカイブする方法を説明した項が追加されました。</p>
<p>Oracle BI Answers 内に保存されたリクエストから iBot を作成する機能の追加。</p> <p>「Oracle BI Answers の保存済リクエストから Oracle BI Delivers の iBot の直接作成」 (34 ページ)</p>	<p>Oracle BI Answers に保存されたリクエストから iBot を作成する方法を、具体的な作業とともに説明した項が追加されました。</p>
<p>Oracle BI Delivers のユーザー・インターフェースの改善。</p> <p>「Oracle BI Delivers のスタート・ページを使用した iBot の作成および管理」 (167 ページ) と</p> <p>「Oracle BI Delivers iBot の表示、変更、サブスクライブおよびカスタマイズ」 (186 ページ)</p>	<p>Oracle BI Delivers のユーザー・インターフェースに、様々な全般的改善が実施されました。</p>
<p>Oracle BI Delivers で、サポートされる iBot の結果フォーマットの追加。</p> <p>「iBot の配信コンテンツの指定」 (176 ページ)</p>	<p>新しい機能が追加され、Oracle BI Delivers ユーザーが iBot の結果を、Microsoft Excel または Comma Separated Value (CSV) ファイル・フォーマットの添付ファイルとして送信できるようになりました。</p>
<p>Oracle BI Delivers で、配信デバイスおよび配信プロファイルの管理が改善。</p> <p>「Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成」 (189 ページ)</p>	<p>配信デバイスおよび配信プロファイルを Oracle BI Delivers に表示し、構成する方法が変更され、簡単になりました。</p>
<p>Oracle BI Delivers で、ネストされたフォルダを作成する機能の追加。</p> <p>「「Save iBot」ダイアログ・ボックスを使用した iBot の編成」 (175 ページ)</p>	<p>新しい機能が追加され、Oracle BI Delivers ユーザーが既存のフォルダに新しいフォルダを作成できるようになりました。</p>
<p>Oracle BI Delivers で、iBot を検索する機能の追加。</p> <p>「Oracle BI Delivers のスタート・ページを使用した iBot の作成および管理」 (167 ページ)</p>	<p>新しい機能が追加され、Oracle BI Delivers ユーザーが iBot を名前で検索することにより、iBot サブスクリプションをこれまでより効率的に管理できるようになりました。</p>
<p>Oracle BI Delivers で、カスタム Java プログラムを iBot の一部として実行する機能の追加。</p> <p>「カスタム・スクリプトの操作プロパティについて」 (183 ページ)</p>	<p>新しい機能が追加され、Oracle BI Delivers で、現在の iBot が完了したときにカスタム Java プログラムが実行されるように指定できるようになりました。</p>

表 1. 『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』に記述された製品の新機能

項	説明
Oracle BI にプレゼンテーション変数を使用する機能の追加。 「リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot に値を表示する変数の使用」(46 ページ)	新しい機能が追加され、Oracle BI で、リクエストと iBot にプレゼンテーション変数を指定できるようになりました。
Oracle BI Answers および Interactive Dashboards のユーザー・インタフェースの改善。 「Oracle BI Answers の概要」(28 ページ) と「Oracle BI Interactive Dashboards の概要」(196 ページ)	Oracle BI Answers および Interactive Dashboards のユーザー・インタフェースに全般的な改善が加えられました。
Oracle BI Answers にピボット・テーブルの機能の追加。 「Oracle BI ピボット・テーブル・ビューを使用したピボット・テーブルの結果の表示」(129 ページ)	Oracle BI Answers で、ピボット・テーブルに新しい機能が追加され、様々なグループ・レベルでの合計の作成、セクション・ヘッダーの非表示、セクション・レベルでのページ・ブレイク、合計行への列値の追加、空白行の非表示ができるようになりました。
Oracle BI Answers の複合的なビューに、ドラッグ・アンド・ドロップ機能の追加。 「Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューを使用して収集したビューのダッシュボードへの表示」(101 ページ)	Oracle BI Answers に新しい機能が追加され、ドラッグ・アンド・ドロップを使用して複合的なビュー・オブジェクトを並び替えることができるようになりました。
Oracle BI Answers で、グラフの条件付フォーマット機能の追加。 「グラフの表示のフォーマット」(125 ページ)	Oracle BI Answers に新しい機能が追加され、ルールに基づいてグラフにフォーマットを適用できるようになりました。
Oracle BI Answers で、列の式にコンテンツを簡単に挿入できる機能の追加。 「列式の編集」(108 ページ)	Oracle BI Answers に新しい機能が追加され、ボタン・バーを使用して、列の式に関数、フィルタ、列および変数を挿入できるようになりました。
Oracle BI Answers で、条件付き集計を簡単に適用できる機能の追加。 「列式の編集」(108 ページ)	Oracle BI Answers に新しい機能が追加され、複数の CASE 文を作成しないで、(フィルタ式を使用して) 列の式に条件付き集計を追加できるようになりました。
Oracle BI Answers で、グラフのフォントをカスタマイズする機能の追加。 「Oracle BI グラフ・ビューにおけるグラフの一般的なプロパティの指定」(117 ページ)	Oracle BI Answers に新しい機能が追加され、タイトル、軸タイトル、およびグラフ・ビューのラベルに表示されるテキストと数値をフォーマットできるようになりました。

2

Oracle Business Intelligence 入門

この章では、ほとんどのエンド・ユーザーが通常使用する Oracle Business Intelligence (Oracle BI) の主要な特徴と機能について説明します。具体的には、Oracle BI の概要、セキュリティについての情報、Oracle BI へのアクセス方法、および一般的な作業の手順について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI のエンド・ユーザー向け概要」 (12 ページ)
- 「Oracle BI へのアクセス」 (14 ページ)
- 「Oracle BI での共通のタスクの実行」 (17 ページ)
- 「Oracle BI 内でのナビゲート」 (21 ページ)
- 「Oracle BI の「My Account」 ページの使用」 (24 ページ)

Oracle BI のエンド・ユーザー向け概要

通常、組織は、製品、顧客、価格、連絡先、アクティビティ、資産、商機、従業員などの要素に関する大量のデータを追跡し、保存します。このようなデータは、データベース・ソフトウェアのバージョンが異なり、異なる場所に配置された複数のデータベースに分散して保存される傾向にあります。

整理と分析の終わったデータは、組織のビジネスの状況を測定する基準として使用できます。また、このデータは、市場の傾向、従業員、顧客、およびパートナーの動向の変化を察知する主要なインジケータとしても使用できます。Oracle BI は、エンド・ユーザーがこのようなデータを取得、表示および分析する作業をサポートします。

この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI のコンポーネント」 (12 ページ)
- 「スタンドアロン Oracle BI ユーザーの場合」 (13 ページ)
- 「Oracle BI のセキュリティについて」 (13 ページ)

Oracle BI のコンポーネント

この項では、エンド・ユーザーの観点から Oracle BI のコンポーネントの全般的な概要について説明します。

Oracle BI には、次の 2 つの主要なコンポーネントがあります。

- **Oracle BI Presentation Services。** Oracle BI Presentation Services は、次のインタフェースで構成されます。
 - **Oracle Business Intelligence Answers。** Oracle BI Answers は、ビジネスの質問に対して回答を返します。このインタフェースにより、適切な権限を持つユーザーは、リクエストとも呼ばれるレポートを作成したり、変更することができます。エンド・ユーザーはそのレポートの情報を調査および操作したり、その情報をグラフ、ピボット・テーブル、レポートを使用して表示およびビジュアル化することもできます。また、ユーザーの組織が業界固有の事前作成済みのレポートを購入している場合もあります。

Oracle BI Answers のリクエストの結果は、フォーマット、保存、整理を行ったり、他のユーザーと共有することができます。レポートは、結果がリアルタイムでリフレッシュされるように構成することができます。

Oracle BI Answers で作成されたレポートは、Oracle BI Presentation Catalog に保存することも、Oracle BI のホーム・ページやダッシュボードに統合することもできます。結果は、グラフ化、結果レイアウト、計算、ドリルダウン機能などのオプションを使用して拡張できます。
 - **Oracle Business Intelligence Interactive Dashboards。** Interactive Dashboards は、分析情報へのアクセス・ポイントになります。エンド・ユーザーが Oracle BI にアクセスしたとき、通常は、ユーザーのデフォルトのダッシュボードが最初のページとして表示されます。ダッシュボードは通常、個々のユーザーやグループのニーズに応じたコンテンツが含まれたレポートを表示するために使用されます。履歴データソースと現在のデータソースは、1 つのダッシュボードにマージできます。

適切な権限を持つユーザーは、エンド・ユーザーが利用できるように、Oracle BI Answers の結果をダッシュボードに配置することができます。また、ユーザーの組織が、業界固有の事前作成済レポートが含まれた、事前構成済みのダッシュボードを購入している場合もあります。

- **Oracle Business Intelligence Delivers。** Oracle BI Delivers は、分析結果に基づいて Oracle Business Intelligence Alerts を作成するために使用するインタフェースです。レポート内で特定の結果が検出されると、それを Web、ワイヤレス、モバイルの各通信チャネルを通じて、関係者にすぐ通知することができます。

Oracle BI Delivers は、iBot と呼ばれるインテリジェント・ボットを使用して、特定の結果を検出します。iBot は、ソフトウェアベースのエージェントであり、スケジュールまたはイベントによって起動されると、指定された条件に基づいてデータへのアクセス、データのフィルタおよび分析を実行できます。

適切な権限を持つユーザーは、Oracle BI Delivers を使用して、アラートをトリガーする条件を設定できます。たとえば、顧客のアカウントが重大な状況に達するような特定のイベントが発生したときに、それをユーザーに通知する必要がある場合、アラートを作成し、電子メールや携帯電話などの様々な配信オプションを通して、ユーザーに通知できます。

- **Oracle Business Intelligence アプリケーション。** Oracle BI アプリケーションは、Oracle BI Interactive ダッシュボードと Oracle BI レポートで構成されています。これらは業界単位で事前作成されるもので、業界のベスト・プラクティスを使用して作成され、組織内の主要な業務分野に対応しています。ダッシュボードとレポートは、組織内のエンド・ユーザーのロールごとに内容が変わっています。通常、Oracle BI アプリケーションは、Oracle Siebel CRM アプリケーションなどの他の業務アプリケーションと統合し、そのアプリケーションからアクセスすることができます。Oracle BI アプリケーションを業務系アプリケーションと統合することで、組織のビジネス業務や業界の観点に立ったビジネス・メトリックをレポートで活用することができます。

Oracle BI アプリケーションには、データを抽出、変換し、Oracle Business Analytics Warehouse にロードする Extract Transform Load (ETL) ルーチンが組み込まれています。また、Oracle BI アプリケーションには、Oracle Business Analytics Warehouse とトランザクション・データベースをマップするメタデータが含まれ、組織のあらゆるレベルのための主要なメジャーとメトリックが定義されています。これらのメジャーとメトリックは、Oracle BI Answers のレポート設計者が利用できます。

組織によっては、独自のメタデータ、Oracle BI Interactive Dashboards および Oracle BI レポートを作成する場合があります。このモードは、スタンドアロン Oracle BI と呼ばれます。

スタンドアロン Oracle BI ユーザーの場合

スタンドアロン Oracle BI の出荷時には、メタデータ、事前構成済レポート、または事前構成済ダッシュボードが含まれていません。そのかわり、組織内の管理者が Oracle BI を使用して、企業データを整理し、レポートの作成で使用するサブジェクト領域を作成することができます。また、管理者は、スタンドアロン Oracle BI でユーザーのセキュリティを構成することもできます。

Oracle BI のセキュリティについて

Oracle BI では、ユーザーが承認されたデータにのみアクセスが許可されるセキュリティ・メカニズムがサポートされています。一般的なセキュリティのタイプは次のとおりです。

- **ビジネス・ロジック・オブジェクトのセキュリティ。** このセキュリティ・メカニズムは、サブジェクト領域、テーブル、列などのオブジェクトへのアクセスを制御します。たとえば、ある部門のレポート設計者は、Oracle BI Answers を使用するとき、自分の部門に属するサブジェクト領域しか表示できません。

- **Presentation Catalog オブジェクトのセキュリティ。**このセキュリティ・メカニズムは、ダッシュボード、ダッシュボード・ページ、フォルダ、レポートなど、Oracle BI Presentation Catalog に格納されているオブジェクトにセキュリティを設定できます。ユーザーは、承認されているオブジェクトしか表示できません。たとえば、中間管理職には、部門全体のサマリー情報が含まれたダッシュボードへのアクセス権を許可しないようにすることができます。
- **データ・レベルのセキュリティ。**このセキュリティ・メカニズムは、レポートに利用できるデータの型と量を制御します。複数のユーザーが同じレポートを実行する場合、各ユーザーに返される結果は、ユーザーのアクセス権と組織内のロールによって異なります。たとえば、営業部のバイス・プレジデントにはすべての地域の結果が表示され、営業社員には担当地域のデータしか表示されません。

Oracle BI アプリケーションのセキュリティ・メカニズムでは、Siebel CRM アプリケーションなどの業務系アプリケーションに定義されているセキュリティ階層を使用して、Oracle Business Intelligence 管理者が複数のセキュリティ・システムを管理する必要性を最小限に抑えることができます。また、Oracle BI アプリケーションの要素へのアクセスを厳密に制御することもできます。

Oracle BI へのアクセス

この項では、Oracle BI へのアクセス方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI アプリケーションへのアクセス」(14 ページ)
- 「スタンドアロン Oracle BI へのアクセス」(15 ページ)

注意：Oracle BI では、インターネット・ブラウザの設定で Cookie を許可する必要があります。Oracle BI では、Cookie を使用してユーザーのログオン・セッションが追跡されます。

Oracle BI アプリケーションへのアクセス

組織で使用されているオプションによっては、業務系アプリケーションから 1 つ以上の Oracle BI アプリケーションにアクセスできる場合があります。次の例では、Siebel CRM アプリケーション内の Oracle BI にアクセスする手順を示します。実際にアクセスする方法は、この例と異なる場合があります。

Siebel CRM アプリケーション内の Oracle BI にアクセスするには

- アプリケーションの「Analytics」タブに移動し、そのタブをクリックします。
ユーザーのロールと職責に応じたデフォルトのダッシュボードが表示されます。

図 1 に、Oracle BI アプリケーションのダッシュボードの例を示します。

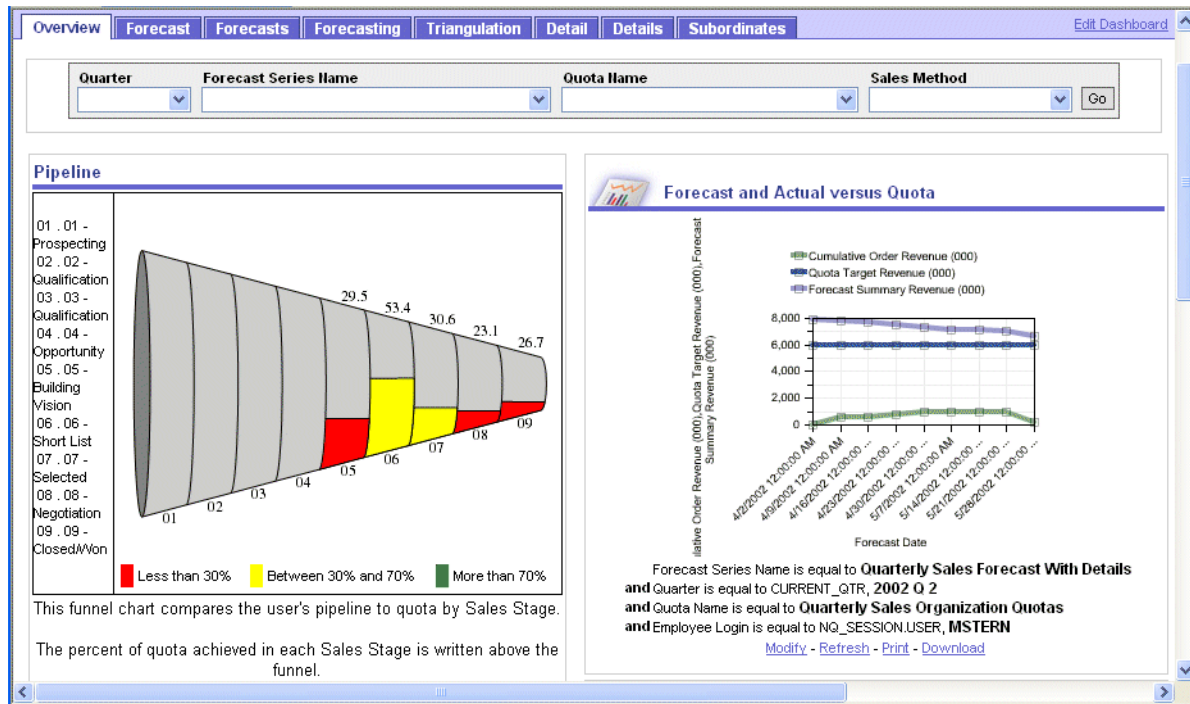


図 1. Oracle BI アプリケーションのデフォルトのダッシュボードのサンプル

Oracle BI アプリケーションは、ダッシュボードとページで構成されています。各ダッシュボードには、1 枚以上のページが含まれ、特定のビジネス業界やユーザー・グループを対象にしたレポートが表示されます。図 1 は、サンプルの Siebel Sales アプリケーションからアクセスした「Pipeline Analytics」ダッシュボードの例を示しています。図 1 では、「Pipeline Analytics」ダッシュボードのページは、ダッシュボードの一番上にタブとして表示されています。

スタンドアロン Oracle BI へのアクセス

スタンドアロン Oracle BI にアクセスするには、組織から割り当てられている URL、ユーザー ID およびパスワードを使用します。

スタンドアロン Oracle BI にアクセスするには

- 1 ブラウザのアドレス・フィールドに URL を入力します（例：http://hostname:port/analytics）。

URL は、お気に入りやブックマークに追加することもできます。

ログイン画面が表示されます。

注意： ログイン画面の例を次に示します。実際のログイン画面は、この例と異なる場合があります。

Oracle Business Intelligence

下にユーザー ID とパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

ユーザー ID

パスワード

言語の選択

Oracle Business Intelligence 10.1.3.2

Copyright © 1997, 2006, Oracle. All rights reserved. これらのプログラム(ソフトウェアおよびドキュメントを含む)には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

- 2 ユーザー ID とパスワードを入力します。
- 3 ログイン画面のドロップダウン・リストから言語を選択できるオプションがある場合は、必要な言語を選択します。
- 4 ログイン資格証明を送信します。

ユーザー ID とパスワードが確認された後、ユーザーのデフォルトのページとして割り当てられている画面が表示されます。この画面は通常、「My Dashboard」というダッシュボードです。ログイン画面で言語を選択した場合、Oracle BI のユーザー・インタフェース画面は、その選択した言語で表示されます。

Oracle BI での共通のタスクの実行

この項では、Oracle BI での共通のタスクの実行方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI の終了」 (17 ページ)
- 「Oracle BI のダッシュボードと保存済リクエストの説明の表示」 (17 ページ)
- 「Oracle BI のダッシュボードまたは保存済リクエストの印刷」 (17 ページ)
- 「Oracle BI のダッシュボード・ページまたはリクエストの電子メール送信」 (18 ページ)
- 「Oracle BI の結果のダウンロード」 (18 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards または Oracle BI リクエストのリフレッシュ」 (20 ページ)
- 「Oracle BI の選択ペインでの情報のリフレッシュ」 (20 ページ)
- 「Oracle BI のダッシュボード・ページまたはリクエストでの書込みテーブルの使用」 (21 ページ)

Oracle BI の終了

Oracle BI を終了する場合、ブラウザのウィンドウを閉じないでください。

Oracle BI を終了するには

- Oracle BI 画面の「Log Out」リンクをクリックします。

Oracle BI のダッシュボードと保存済リクエストの説明の表示

レポートとダッシュボードの設計者は、ダッシュボードやリクエストを Oracle BI Presentation Catalog に保存するときに、説明を入力できます。説明を入力しない場合、デフォルトの説明として、ダッシュボードまたは保存済リクエストの名前が表示されます。

保存済リクエストの説明を表示するには

- Oracle BI Answers の選択ペインで、保存済リクエストのタイトルの上にカーソルを置きます。

ダッシュボードの説明を表示するには

- Oracle BI Interactive Dashboards のダッシュボードの名前の上にカーソルを置きます。
ダッシュボード・ページの説明を表示するには、ページ・タブの上にカーソルを置きます。

Oracle BI のダッシュボードまたは保存済リクエストの印刷

既存のダッシュボードやリクエストは、プリンタに出力される形式で表示できます。プリンタに出力される形式で表示した場合、不要なリンクなどのハイパーテキスト・アイテムは含まれません。

HTML や Adobe PDF (Portable Document Format) を使用して印刷することができます。Oracle BI Publisher のレポートで使用できる印刷オプションは、Adobe PDF のみです。Adobe PDF を使用して印刷するには、Adobe Reader 6.0 以上が必要です。

注意: HTML を使用した印刷方法では、印刷の品質がブラウザの印刷処理能力に依存します。印刷の結果が不十分な場合は、PDF を選択して開き、ダッシュボードまたはリクエストを印刷してください。

ダッシュボードまたはリクエストを印刷するには

- 1 既存のダッシュボードまたはリクエストにナビゲートします。
- 2 リクエストを印刷するには、「Print」リンクをクリックしてから、「HTML」または「PDF」を選択します。ダッシュボード・ページを印刷するには、ダッシュボードの一番下にある「Print」ボタンをクリックしてから、「HTML」または「PDF」を選択します。
 - HTML の場合、新しいウィンドウには不要なリンクが表示されず、選択した項目が表示されます。ブラウザのメニューで、「ファイル」→「印刷」を選択します。
 - PDF の場合、Adobe PDF のウィンドウのオプションを使用して、ファイルを保存または印刷します。

Oracle BI のダッシュボード・ページまたはリクエストの電子メール送信

ダッシュボード・ページまたはリクエストは、電子メールの添付ファイルとして送信できます。使用するフォーマットは、Internet Explorer であれば単一ファイルの Web アーカイブ (.mht)、Mozilla や Firefox であれば Mozilla Archive Format (.maf) のように、ブラウザによって異なります。

注意: Mozilla Archive Format 機能は、個別にダウンロードするプラグインとして用意されています。

また、どのブラウザでも、ダッシュボード・ページまたはリクエストは、HTML ファイルの集合として保存できます。その後、関連するファイルの対応ディレクトリを圧縮して、電子メールで送信することができます。

ダッシュボード・ページまたはリクエストを電子メールで送信するには

- 1 送信するダッシュボード・ページまたはリクエストにナビゲートします。
- 2 リクエストを電子メールで送信するには、「Print」リンクをクリックしてから、「HTML」または「PDF」を選択します。ダッシュボード・ページを電子メールで送信するには、ダッシュボードの一番下にある「Print」ボタンをクリックしてから、「HTML」または「PDF」を選択します。

ブラウザの新しいウィンドウが開き、ダッシュボード・ページまたはリクエストが表示されます。
- 3 ブラウザのツールバーから「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択します。
- 4 ブラウザに適したファイル・タイプを指定し、ファイルを目的の場所に保存します。
- 5 電子メール・アプリケーションを使用して、保存した添付ファイルを送信します。

注意: 保存した添付ファイルは、特定の時刻に存在したリクエストをアーカイブし、元のサイズに戻す手段としても使用できます。

Oracle BI の結果のダウンロード

Oracle BI には、結果をダウンロードするためのオプションがあります。このオプションは、Oracle BI Answers に「Download」リンクのオプションとして表示されます。「Download」リンクは、リクエストとともに、ダッシュボードにも表示されます。

■ Download to Excel

このオプションを選択すると、リクエストの結果を、HTML フォーマットで Microsoft Excel または Microsoft Excel 2000 に取り込んで、テーブルやグラフを表示することができます。また、レポートに含まれる他のビューも表示できます。Excel では、HTML の配置を操作できます。

■ Download Data

このオプションを選択すると、結果をタブ区切りの値リストとしてダウンロードできます。ファイルは、Excel で開くことができるように、.csv 拡張子が付けられます。リクエストをタブ区切りフォーマットでダウンロードした後、サード・パーティのアプリケーションを使用してデータを表示できます。

■ Download Web Page (MHTML)

このオプションを選択すると、結果を Web ページとしてダウンロードできます。これにより、既存のリクエストの基本的データを Web ページ (MHTML) ファイルとしてダウンロードできます。

結果を Microsoft Excel フォーマットでダウンロードするには

- 1 リクエストにナビゲートします。
- 2 「Download」リンクをクリックし、「Download to Excel」または「Download to Excel 2000」を選択します。
「File Download」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 ファイルを目的の場所に保存するか、Excel で開きます。
- 4 必要に応じて、Excel を使用して、フォーマットされた結果を調整します。
詳細は、Excel のドキュメントを参照してください。

結果をタブ区切りの値リストとしてダウンロードするには

- 1 リクエストにナビゲートします。
- 2 「Download」リンクをクリックし、「Download Data」を選択してファイルをハード・ドライブに保存します。

結果を Web ページとしてダウンロードするには

- 1 リクエストにナビゲートします。
- 2 「Download」リンクをクリックし、「Download Web Page (MHTML)」を選択します。
「File Download」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 ファイルをハード・ドライブに保存します。

Oracle BI Interactive Dashboards または Oracle BI リクエストのリフレッシュ

Oracle BI Interactive Dashboards またはリクエストを実行したとき、Oracle BI は、「キャッシュ」という一時保存領域を使用し、頻繁にアクセスする結果や最近アクセスした結果を保存します。これらの結果をキャッシュに格納すると、Oracle BI のパフォーマンスが向上します。リフレッシュ機能を使用すると、リクエストは、Oracle BI Presentation Services のキャッシュに保存された情報を迂回し、Oracle Business Intelligence Server に発行されて処理されます。

注意： Oracle BI Server には、専用のキャッシュがあります。このキャッシュは、Oracle BI Presentation Services のキャッシュとは別です。

特定のダッシュボードまたはリクエストを選択した場合、Oracle BI Presentation Services は、そのキャッシュをチェックし、同じ結果が最近リクエストされていないかどうかを判定します。そのようなリクエストが見つかった場合、Oracle BI Presentation Services は最も新しい結果を返します。これにより、Oracle BI Server やバックエンド・データベースによる不要な処理を回避できます。見つからなかった場合、リクエストは Oracle BI Server に発行されて処理されます。

Oracle BI Server のキャッシュに、リクエストに対する結果が格納されていた場合、そのキャッシュから結果が返されます。格納されていなかった場合、Oracle BI Server は、そのリクエストをバックエンド・データベースに発行します。リクエストは、Oracle BI Server のキャッシュを迂回することはできません。

Oracle BI 管理者は、Oracle BI Presentation Services のキャッシュ設定を構成し、何をいつまでキャッシュするかを指定できます。詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。Oracle BI Server のキャッシュの詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

ダッシュボードまたはリクエストをリフレッシュするには

- 1 既存のダッシュボードまたはリクエストにナビゲートします。
- 2 リクエストをリフレッシュするには、「Refresh」リンクをクリックします。ダッシュボードをリフレッシュするには、「Refresh」ボタンをクリックします。

Oracle BI の選択ペインでの情報のリフレッシュ

Oracle BI の選択ペインは、Oracle BI Answers と Oracle BI Delivers で表示されます。保存されたコンテンツまたは Oracle BI Server のメタデータが変更された場合、画面をリフレッシュして、最新の情報にアクセスできます。

注意： 選択ペインで利用できる情報は、ユーザーの権限と職責によって異なります。

選択ペインの情報をリフレッシュするには

- 保存済リクエスト、フィルタ、ブリーフィング・ブックおよびダッシュボード・コンテンツの情報をリフレッシュするには、選択ペインの一番下にある「Refresh Display」リンクをクリックします。
- サブジェクト領域の Oracle BI Server のメタデータのビューをリフレッシュするには、選択ペインの一番下にある「Reload Server Metadata」リンクをクリックします。

Oracle BI のダッシュボード・ページまたはリクエストでの書込みテーブルの使用

ユーザー名に、バックエンド・データベースに書込みを行う適切な権限がある場合、テーブルの下に書込みボタンが表示されます。この書込み機能を使用すると、バックエンド・データベースの更新または書込みを行うことができます。たとえば、売上ダッシュボードに今四半期の売上目標を入力できます。

ダッシュボードまたはリクエストで書込みテーブルを使用するには

- 1 列ボックスに新しい値を入力します。
ボックスから別の場所にカーソルを移動すると、新しい値が太字で表示されます。
- 2 書込みボタンをクリックします。

Oracle BI 内でのナビゲート

この項では、Oracle BI 内の基本的なナビゲーションについて説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI にアクセスした後に表示される画面」
- 「Oracle BI の機能リンクの使用」 (22 ページ)
- 「Oracle BI のページの操作」 (23 ページ)
- 「Oracle BI でのドリルダウン」 (23 ページ)

Oracle BI にアクセスした後に表示される画面

Oracle BI にアクセスしたとき、最初に表示される画面は通常、「My Dashboard」というパーソナル・ダッシュボードか、ユーザーのジョブ機能に固有のダッシュボードです。ダッシュボードには通常、レポートなど、ユーザーの職責に応じた情報が表示されます。

ダッシュボードの詳細は、[第 8 章「Oracle BI Interactive Dashboards の使用」](#)を参照してください。

[図 2](#)に、サンプルの Oracle BI アプリケーションの「My Dashboard」ページの例を示します。「My Dashboard」ページの外観は、ユーザーの個人的なプリファレンスに基づいて一部変更することができます。

注意：実際のダッシュボードは、この例と異なる場合があります。

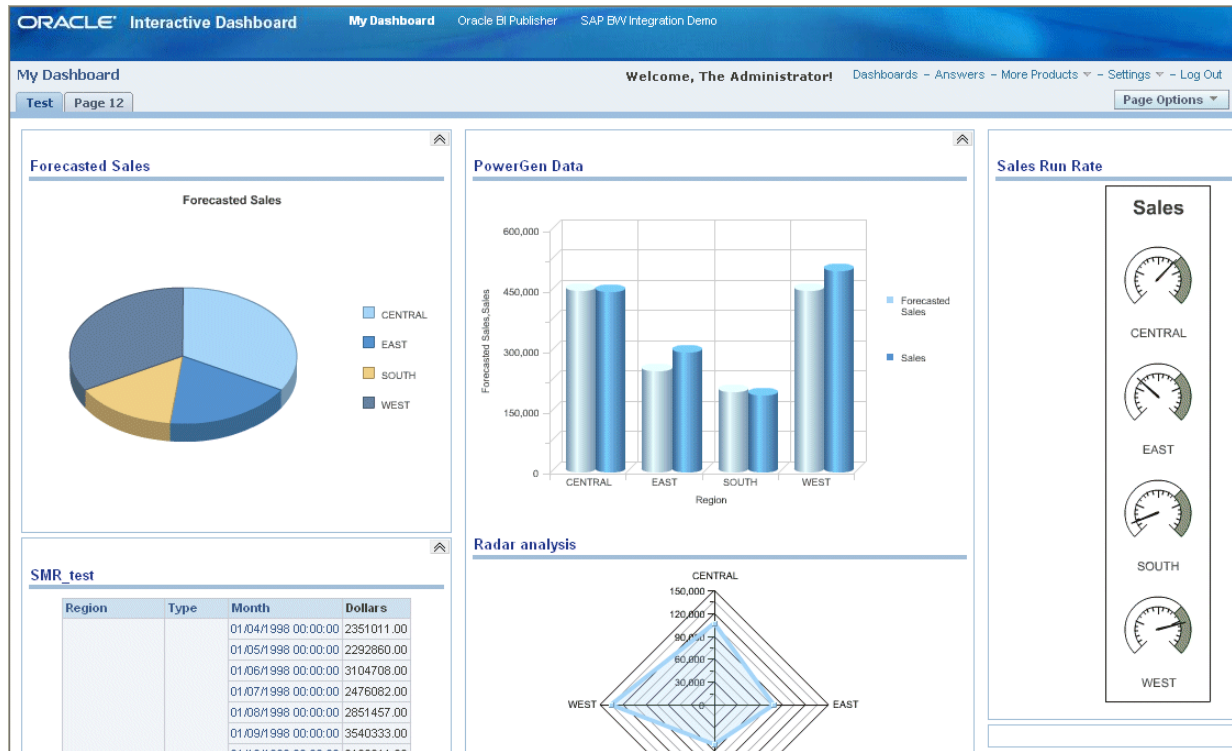


図 2. 「My Dashboard」ページの例

Oracle BI の機能リンクの使用

この項では、Oracle BI の機能にアクセスするリンクについて説明します。

- スタンドアロン Oracle BI では、リンクは画面の右上隅に表示されます。使用できるリンクは、ユーザーの権限の設定によって異なります。
- Oracle BI アプリケーションでは、リンクへのアクセス権が付与されている場合、そのリンクはページの上部に表示されます。他のリンクへは、「Dashboards」、「Answers」、「Delivers」、「Alerts」、「Administration」、「My Account」などのビューとしてアクセスできます。アクセスできるビューは、ユーザーのロールと職責によって異なります。

表 2 で、Oracle BI の機能リンクの一部について説明します。

表 2. Oracle BI の機能リンクの説明

リンク	説明
Alerts!	「Active Alerts」ページにアクセスします。このページから、アクティブなアラートを表示し、管理できます。このリンクは、アクティブなアラートがユーザーにある場合にのみ表示されます。
Dashboards	「Interactive Dashboard」ページにアクセスします。このページから、アクセス権を持つダッシュボードを表示できます。

表 2. Oracle BI の機能リンクの説明

リンク	説明
Answers	Oracle BI Answers にアクセスします。ここから、リクエストを表示、作成および管理できます。
More Products	Oracle BI Publisher、Delivers、Marketing および Disconnected Analytics にアクセスします。
Settings/My Account	「Settings」リンクは、Oracle BI Presentation Services の「Administration」ページ、「Act As」ページおよび「My Account」ページにアクセスします。「My Account」ページでは、一般的なアカウント情報を表示し、Oracle BI アプリケーションのプリファレンスを設定できます。
Log Out	Oracle BI からログアウトするときに使用します。Oracle BI からログアウトするときは、必ずこのリンクを使用してください。

Oracle BI のページの操作

Oracle BI は、ページで構成されています。ページには、次の 2 つのコンポーネントがあります。

- **ペイン**：Oracle BI Delivers と Oracle BI Answers のページには、左ペインと右ペインが表示されます。左ペインは選択ペインであり、保存された情報への移動、保存された情報の選択および管理を行うために使用します。右ペインは、左ペインで選択されたコンテンツの表示および操作を行うために使用します。
- **タブ**：タブは、現在のページに関連した他のページにアクセスするために使用します。タブは、ページの一番上に表示されます。使用可能なタブのリストは、選択したページによって異なります。

Oracle BI の機能リンクを使用すると、これらのページにアクセスできます。各機能リンクから、特定の機能やトピックにアクセスできます。ページには、タブ、領域、ペインなど、他の構成要素やナビゲーション要素が表示される場合があります。

機能リンクの詳細は、「[Oracle BI の機能リンクの使用](#)」(22 ページ) を参照してください。

Oracle BI でのドリルダウン

Oracle BI に表示される結果の多くは、階層型のデータ構造を示します。これらの階層は、Oracle BI のメタデータで指定することによって、階層内の異なるレベルの詳細にアクセスできます。たとえば、売上グラフの情報は、地域によって分類できます。グラフ内の特定の地域をクリックしたときに、メタデータの階層内の次のレベルが国である場合は、地域内の各国を表示できます。

データベース内の実際の項目にドリルダウンすることができます。たとえば、売上を対象にした作業中に、売上レポート内の都市レベルにドリルダウンして、パリに大口の契約案件が見つかったとします。Oracle Siebel の業務系アプリケーションを使用している場合は、その案件をドリルダウンし、Oracle BI アプリケーションでその情報を直接表示できます。

Oracle BI でのテーブルの列のソート

ダッシュボードでは、ソート可能なテーブルの列ヘッダーが多少浮き彫りになって表示されます。列ヘッダーをクリックすると、ソートすることができます。

Oracle BI の「My Account」 ページの使用

Oracle BI の「My Account」 ページで実行できる操作は次のとおりです。

- ユーザーの表示名やユーザー ID など、一般的なアカウント情報を表示します。
- ユーザーのプリファレンスを表示および変更します。
- タイムゾーンを設定します。
- Oracle BI Delivers の iBot の配信オプションを表示および変更します。
- レポートとダッシュボードにアクセスできるユーザーのリストを表示します。

ユーザーの権限設定によっては、これらのオプションの一部を使用できない場合があります。

アカウント設定を表示するには

- 1 Oracle BI にナビゲートします。
- 2 「Settings」（使用可能な場合）をクリックし、「My Account」リンクをクリックします。
ユーザーの「My Account」ページが表示されます。

Oracle BI のプリファレンスの設定

「My Account」ページの「Preferences」セクションにアクセスすると、ユーザー・インタフェース画面を表示する際のデフォルトのダッシュボード、ロケール、言語などのプリファレンスを指定できます。

プリファレンスを変更するには

- 1 Oracle BI にナビゲートします。
- 2 「Settings」（使用可能な場合）をクリックし、「My Account」リンクをクリックします。
- 3 「Preferences」セクションで、次の操作のいずれかを実行します。
 - 「Default Dashboard」ドロップダウン・リストで、Oracle BI にログインしたときに表示するダッシュボードを選択します。
 - 「Locale」ドロップダウン・リストで、このセッションに使用するロケールを選択します。
 - 「User Interface language」ドロップダウン・リストで、Oracle BI を表示する言語を選択します。

Oracle BI のタイムゾーンの設定

タイムゾーン・オプションを使用すると、Oracle BI アカウントの優先タイムゾーンを選択できます。このオプションでは、システム管理者によって設定されたデフォルトのタイムゾーンを、同じ物理的場所に存在していないシステム・ユーザーが上書きすることができます。たとえば、アラートを送信する Oracle BI サーバーのタイムゾーンが米国太平洋標準時で、ユーザーのタイムゾーンが米国中部標準時とします。その場合、中央標準時をユーザーの優先タイムゾーン設定として指定すると、ユーザーにアラートが配信される時間は中央標準時で表示されます。

ユーザーのアカウントのタイムゾーンは、ユーザーが作成、変更、実行、受信、および印刷するすべての項目に自動的に適用されます。

レポートに含まれる日時列は、レポート設計者の指定に従って表示されます。レポート設計者は、特定のタイムゾーンが列に表示されたり、ユーザーのデフォルトのタイムゾーンが列に表示されるように設定することができます。列ヘッダーにはクロック・アイコンが表示され、そのアイコンの上にマウスを置くと、列に使用されているタイムゾーンの名前が表示されます。

管理者が Oracle BI Presentation Server のタイムゾーンを設定する方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

タイムゾーンのプリファレンスを変更するには

- 1 Oracle BI にナビゲートします。
- 2 「Settings」（使用可能な場合）をクリックし、「My Account」リンクをクリックします。
- 3 プリファレンス・セクションの「Time Zone」ドロップダウン・ボックスからタイムゾーンを選択します。
- 4 「Finished」をクリックします。

Oracle BI の配信オプションの設定

「My Account」ページの「Delivery Options」セクションでは、Oracle BI Delivers からの通知を受信するデバイスを追加または変更することができます。

注意： デバイスまたはプロファイルが事前に構成されている場合は、その構成を変更する前に、必ず Oracle BI の管理者に相談してください。

配信オプションの設定の詳細は、「[Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成](#)」（189 ページ）を参照してください。

3

Oracle BI Answers でのリクエスト操作の基本

Oracle BI Answers は、組織が持つデータに対して問合せを発行するために使用する、Oracle BI のインタフェースです。リクエストの結果は、保存、整理、共有、さらには他のコンテンツとの統合が可能です。この章では、Oracle BI Answers の概要と、リクエストの作成、変更および管理に使用する基本的な手順について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Answers の概要」 (28 ページ)
- 「Oracle BI Answers のスタート・ページの例」 (30 ページ)
- 「Oracle BI Answers の使用による、リクエストの作成、変更および保存」 (31 ページ)
- 「Oracle BI ダッシュボードへの Oracle BI リクエストの埋込み」 (41 ページ)
- 「Microsoft Excel での Oracle BI リクエストへのアクセスと操作」 (41 ページ)
- 「Oracle BI リクエストと Microsoft Excel の Web クエリー機能の統合」 (42 ページ)
- 「Set 演算による Oracle BI リクエストの条件の結合」 (43 ページ)
- 「Oracle BI リクエストに対して生成された論理 SQL の調査と編集」 (44 ページ)
- 「Oracle BI Answers でのダイレクト・データベース・リクエストの実行」 (45 ページ)
- 「リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot に値を表示する変数の使用」 (46 ページ)

Oracle BI Answers の概要

Oracle BI Answers は、ビジネスの質問に対して回答を返します。ユーザーは情報を検索および対話処理できるだけでなく、グラフ、ピボット・テーブルおよびレポートを使用して情報をわかりやすく表示し視覚化できます。結果は、保存、整理および共有できます。

Oracle BI Answers で作成したリクエストは、Oracle BI Presentation Catalog に保存することも、Oracle BI のホーム・ページやダッシュボードに統合することもできます。結果は、グラフ化、結果レイアウト、計算およびドリルダウンの各機能を使用して拡張できます。

Oracle BI Answers の機能の多くには自己説明方式が採用されており、各ページにその定義とサマリー情報が表示されます。そのページに関して参照可能な情報がさらにある場合は、「Help」ボタンが表示されます。そのボタンをクリックすると、さらに詳細な情報が表示されます。

表 3 に、Oracle BI Answers で使用する共通用語の定義を示します。

表 3. Oracle BI Answers の共通用語の定義

用語	定義
列	リクエストによって返されるデータの列を表します。結果に含まれる列は、フィルタと連携して決定されます。リクエストを実行するには、少なくとも 1 つの列が返されるように指定する必要があります。
条件	リクエストの条件は、リクエストに指定されている列とフィルタで構成されます。
ダッシュボード	複数の情報セクションで構成され、各セクションには、Oracle BI Answers からの結果、外部の Web コンテンツ、HTML テキスト、グラフィック、他のサイトへのリンク、リクエストのような埋込みオブジェクトなどの項目を挿入できます。ダッシュボードのコンテンツはページに分かれ、ページは、Oracle BI Interactive Dashboards の画面の上部に、タブとして横に並んで表示されます。
ダッシュボード・プロンプト	特殊なダッシュボード・フィルタ・オブジェクトで、特定のダッシュボード・ページ上のすべてのコンテンツに影響を与えます。また、他のダッシュボード・ページ上のコンテンツに影響を与える場合もあります。 詳細は、「 プロンプトによる Oracle BI リクエストのフィルタの簡略化 」(58 ページ) を参照してください。
フィルタ	結果セットを絞り込むメカニズムです。たとえば、売上げ上位 10 項目のみを取得できます。フィルタは列と連携して、結果の内容を決定します。
フォルダ	整理用の構成で、Oracle BI Answers で作成したリクエストなど、ダッシュボードに表示する各種コンテンツを格納します。フォルダは、オペレーティング・システムのディレクトリやサブディレクトリ、また Microsoft Windows のフォルダに似ています。
問合せ	Oracle BI Server に対して発行される、基礎となる SQL です。Oracle BI Answers の使用には、問合せ言語の知識は必要ありません。
結果	指定したリクエスト条件に基づいて、Oracle BI Server から返される出力です。Oracle BI Presentation Services によって、データがフォーマットされ表示されます。

表 3. Oracle BI Answers の共通用語の定義

用語	定義
SELECT 文	Oracle BI Answers では、Structured Query Language (SQL) から変更された形式の SELECT 文が使用されます。Oracle BI Answers は、リクエスト条件を論理 SQL 形式で Analytics Server に送信します。サーバーは、1 つ以上のデータソースに対して、それぞれのデータへのリクエスト、つまり問合せを 1 つ以上生成します。サーバーには、行と列を含むテーブル形式の生データが返されます。サーバーは複数のソースからのデータをマージし、必要に応じて、結果に関連付けられた計算やフィルタをすべて適用します。最後にその結果が、Oracle BI Answers に返されます。
サブジェクト領域	Oracle BI は、サブジェクト領域にデータを表示します。サブジェクト領域は、組織のビジネス領域や、組織内のユーザー・グループに関する情報を表す列で構成されます。 サブジェクト領域には、売買契約、サービス・リクエスト、発注など、サブジェクト領域に含まれる情報のタイプに応じた名前が付けられます。同様に、列には、アカウントや連絡先など、列に含まれる情報のタイプを示す名前が付けられます。
Presentation Catalog	Oracle BI Presentation Catalog には、Oracle BI Answers および Oracle BI Interactive Dashboards によって作成されるコンテンツが格納されます。コンテンツは、共有フォルダまたは個人用フォルダのいずれかに編成できます。Presentation Catalog に格納できるコンテンツのタイプには、Oracle BI Answers によって作成されるリクエスト、HTML コンテンツ、他のイメージ、ドキュメントおよびサイトへのリンクなどがあります。

Oracle BI Answers のスタート・ページの例

図 3 に、Oracle BI Answers のスタート・ページの例を示します。これは、「Answers」リンクをクリックしたとき（または、Oracle BI アプリケーションがある場合は、そのサイト・マップから Answers にアクセスしたとき）、最初に表示される Oracle BI Answers のページです。

Oracle BI Answers のスタート・ページには、2 つのペインがあります。左側の選択ペインには「Catalog」タブと「Dashboards」タブがあり、ユーザーはそれらのタブを使用して操作するアイテムを選択できます。右側のワークスペースには、現行ユーザーが実行可能な操作と作業可能なサブジェクト領域の一覧が表示されます。ワークスペースの最上部にある機能リンクからは、Oracle BI の各機能にアクセスできます。

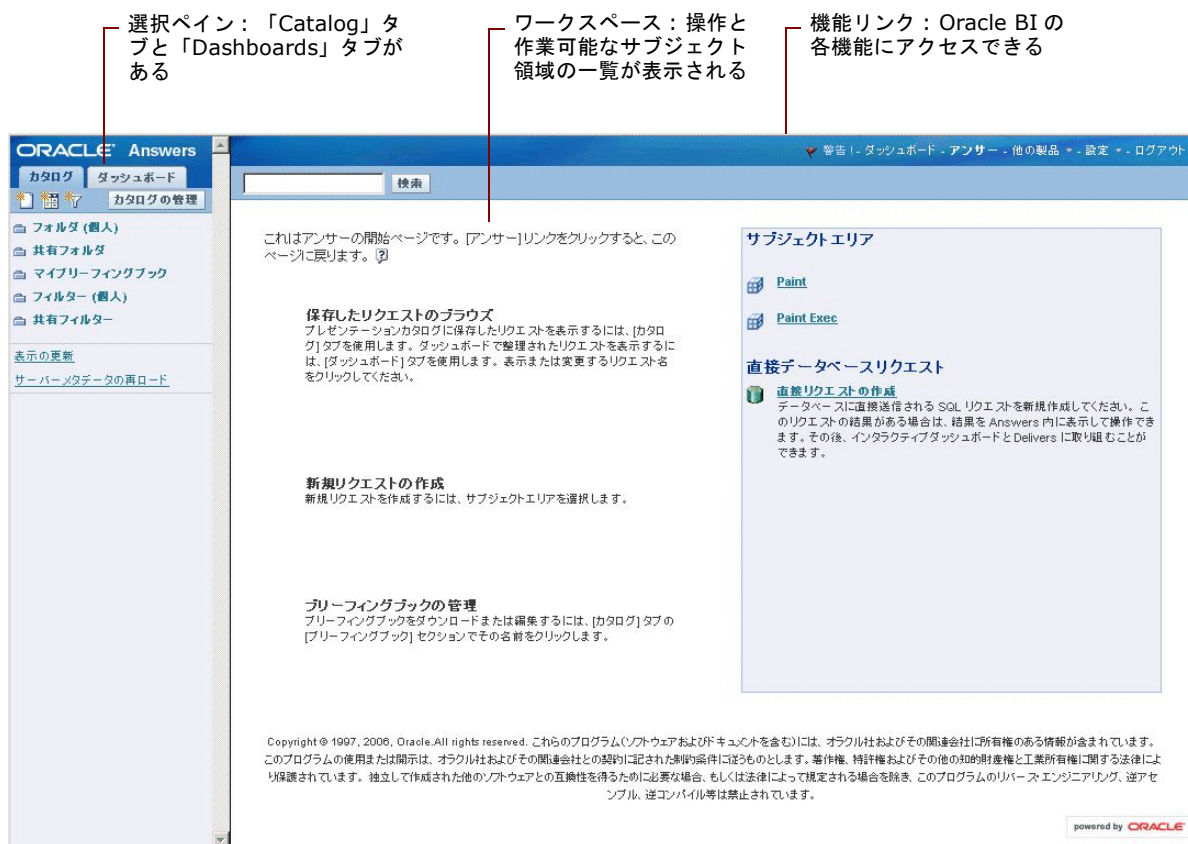


図 3. Oracle BI Answers のスタート・ページの例

Oracle BI Answers の使用による、リクエストの作成、変更および保存

この項では、Oracle BI Answers でのリクエスト操作について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Answers のスタート・ページからサブジェクト領域およびリクエストへのアクセス」(31 ページ)
- 「Oracle BI Answers のワークスペース内のタブへのアクセス」(32 ページ)
- 「Oracle BI Answers のスタート・ページからのリクエストの実行」(34 ページ)
- 「Oracle BI Answers の保存済リクエストから Oracle BI Delivers の iBot の直接作成」(34 ページ)
- 「Oracle BI の新規リクエストの作成または既存リクエストの条件の変更」(35 ページ)
- 「Oracle BI のリクエストでの列のソート順序の指定」(37 ページ)
- 「Oracle BI Answers の選択ペインでの情報のリフレッシュ」(38 ページ)
- 「Oracle BI Answers の結果の表示および操作」(38 ページ)
- 「Oracle BI のリクエストの個人用フォルダまたは共有フォルダへの保存」(39 ページ)
- 「Oracle BI レポートの Lotus Notes データベースへの保存」(40 ページ)

注意：ブリーフィング・ブックの操作方法の詳細は、「Oracle BI ブリーフィング・ブックの操作」(228 ページ)を参照してください。

Oracle BI Answers のスタート・ページからサブジェクト領域およびリクエストへのアクセス

Oracle BI Answers のスタート・ページからは、サブジェクト領域と保存済リクエストにアクセスできます。

注意：Oracle BI Answers に表示される項目は各自のユーザー ID に付与されている権限に応じて決められるため、この項で説明する項目がまったく表示されない場合もあります。

スタート・ページには、次の 2 つの主要な領域があります。

- **選択ペイン。**画面の左側にある選択ペインには、Presentation Catalog に保存されているコンテンツが表示されます。このコンテンツには、個人用および共有のリクエストとフィルタ、またユーザーのブリーフィング・ブック（この機能が組織にライセンスされている場合）などがあります。
- **ワークスペース。**選択ペインの右側にあるワークスペースには、最初、リクエストを作成するために操作可能なサブジェクト領域が表示されています。

保存済リクエストをクリックするなど、選択ペインで選択すると、ワークスペースに選択項目が表示され操作可能になります。

リクエストを新規作成するために、ワークスペースに表示されたサブジェクト領域をクリックすると、選択ペインの表示コンテンツが、選択したサブジェクト領域の列とフィルタに変更され、リクエストに挿入可能となります。また、ワークスペースには、リクエスト操作用のタブが表示されます。

保存済リクエストをダッシュボード別に整理して表示するには

- 1 Oracle BI にアクセスし、「Answers」リンクをクリックします。

- 2 選択ペインで「Dashboards」タブをクリックします。

Presentation Catalog に格納された保存済リクエストを表示するには

- 1 Oracle BI にアクセスし、「Answers」リンクをクリックします。
- 2 選択ペインで「Catalog」タブをクリックします。

保存済リクエストを検索するには

- 「Search」テキスト・ボックスに名前のすべてまたは一部を入力し、「Search」ボタンをクリックします。検索結果がワークスペースに一覧表示されます。

注意： iBot 名に円記号 (¥) を使用する場合は (たとえば Na¥me)、検索に使用する検索文字列に、追加の円記号 (エスケープ文字) を含める必要があります。たとえば、Na¥me という iBot がある場合、その iBot の詳細を取得するには、検索文字列を Na¥¥me にする必要があります。この円記号を追加しないと、エラー・メッセージが表示されます。

Oracle BI Answers のスタート・ページに戻るには

- Oracle BI 内の任意の場所から、「Answers」リンクをクリックします。

Oracle BI Answers のワークスペース内のタブへのアクセス

Oracle BI Answers のワークスペースには、リクエスト操作に使用する次のタブが表示されます。

- **「Criteria」タブ：** このタブからは、リクエストに選択された列にアクセスできます。またこのタブには、最も一般的なビュー・タイプにアクセスするためのボタンが用意されています。
- **「Results」タブ：** このタブでは、リクエストの結果を操作できます。
- **「Prompts」タブ：** このタブでは、リクエストをフィルタ処理するプロンプトを作成できます。
- **「Advanced」タブ：** このタブは上級ユーザー用で、リクエストに対して生成された XML と論理 SQL を操作できます。

各タブの画面には、その説明と、リクエストの作成、アクセスおよび管理を支援するボタンが配置されています。各タブにあるそれぞれのボタンの上にマウスを置くと、その機能の説明が表示されます。[33 ページの表 4](#)で、各タブの詳細を説明します。

Oracle BI Answers のワークスペース内のタブにアクセスするには

- 新規リクエストの作成または保存済リクエストの変更を行うサブジェクト領域をクリックします。ワークスペースに、リクエスト操作に使用するタブが表示されます。

[表 4](#)で、Oracle BI Answers のワークスペース内の各タブについて説明します。

表 4. Oracle BI Answers のワークスペース内のタブ





タブ	説明
「Criteria」タブ	<p>リクエストに適用する列およびフィルタを表示または変更するときに使用します。結果が返される順序、列の小計、フォーマット（ヘッダーや小数点以下の桁数など）、および列式（Rank 関数や Percentile 関数の追加など）を指定できます。また、列フィルタの追加または変更もできます。</p> <p>それぞれのビュー・ボタンをクリックすることで、このタブから次の 4 種類の一般的なビューにアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">  複合的なレイアウト・ビューが表示されます。このビューでは、複数のビューを組み合わせて、それらをダッシュボードに表示できます。  テーブル・ビューが表示されます。このビューでは、テーブル形式で結果を表示できます。  グラフ・ビューが表示されます。このビューでは、様々なグラフ形式で結果を表示できます。  ピボット・テーブル・ビューが表示されます。このビューは、行、列、セクションのヘッダーを入れ替えて、別の観点から表示するために使用します。
「Results」タブ	<p>リクエストの結果を操作するときや、グラフ、ティッカ、ピボット・テーブルなど、結果の各種ビューを作成するときに使用します。データの表示に使用するグラフやピボット・テーブル、結果の説明に使用するプレーン・テキストやフォーマット済テキスト、HTML など、様々なタイプのビューを追加できます。</p> <p>デフォルトの結果ビューは、タイトル付きの単純なテーブルです。Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理者が組織内で別の結果ビューをデフォルトで構成している場合があります。</p> <p>複数のビューを組み合わせて、それらをページの任意の場所に配置できます。たとえば、データの各種ビューを反映したピボット・テーブル、相互関係を詳細に表示するグラフ、結果を絞り込むフィルタを作成して横並びに配置できます。また、ダッシュボード内にリクエストを埋め込んで、ダッシュボード・ページに他の関心のあるリクエストへのリンク、関連グラフィック、ニュースなどを含まれます。</p>

表 4. Oracle BI Answers のワークスペース内のタブ

タブ	説明
「Prompts」タブ	プロンプトを作成し、ユーザーがリクエストのフィルタ値を選択できるようにするときに使用します。ユーザーはプロンプトによって値を選択することで、リクエスト内のすべてのビューを動的にフィルタできます。
「Advanced」タブ	リクエストに対して生成された XML と論理 SQL を直接操作するとき使用します。SQL および基礎となるデータソースの構造に関する知識があるユーザーは、このタブを使用して、リクエストに対して生成された SQL 文を表示し、直接操作できます。たとえば、サブジェクト領域を変更したり、高度な SQL 文を追加できます。 また、「Advanced」タブからは、外部の Web ページ、ポータルまたはアプリケーションから保存済リクエストを実行するとき使用できるリンクにアクセスすることもできます。 注意： 「Advanced」タブの使用は、複雑なデータ分析の必要性と知識がある開発者または上級ユーザーに限定することをお勧めします。「Advanced」タブへのアクセス権が付与されるのは、適切な職責を持つユーザーのみです。

Oracle BI Answers のスタート・ページからのリクエストの実行

この項では、Oracle BI Answers のスタート・ページからリクエストを実行する方法について説明します。保存済リクエストを実行するか、新規リクエストを作成できます。

My Folders フォルダは、頻繁に実行するリクエストを保存する目的で設計されています。このフォルダは、「Catalog」タブの選択ペインの一番上にあります。このフォルダは、最初は空です。リクエストを保存することで、このフォルダに格納できます。リクエストの保存方法の詳細は、「[Oracle BI のリクエストの個人用フォルダまたは共有フォルダへの保存](#)」(39 ページ) を参照してください。

保存済リクエストを実行するには

- 選択ペインの「My Folders」リストまたは共有フォルダから、保存済リクエストをクリックします。

注意：フォルダからリクエストを選択すると、そのリクエストがただちに実行されます。

新規リクエストを作成するには

- サブジェクト領域をクリックし、リクエストに含める列およびフィルタを選択します。次に、「Results」タブをクリックするか、結果ビュー・ボタンのいずれかをクリックします。

詳細は、「[Oracle BI の新規リクエストの作成または既存リクエストの条件の変更](#)」(35 ページ) を参照してください。

Oracle BI Answers の保存済リクエストから Oracle BI Delivers の iBot の直接作成

この項では、Oracle BI Answers の保存済リクエストから Oracle BI Delivers の iBot を直接作成する方法について説明します。

Oracle BI Answers の保存済リクエストから Oracle BI Delivers の iBot を直接作成するには

- Oracle BI Answers の選択ペインの「My Folders」リストまたは共有フォルダから、保存済リクエストに対応付けられた「Create iBot」リンクをクリックします。

注意： Oracle BI Delivers を使用していない組織では、「Create iBot」リンクは使用できません。

表示された Oracle BI Delivers の「Schedule」タブを使用して、保存済リクエストに iBot スケジュール設定を指定します。

詳細は、「Oracle BI Delivers iBot のスケジュール」（171 ページ）を参照してください。

Oracle BI の新規リクエストの作成または既存リクエストの条件の変更

次の手順を使用して、リクエストに含める列およびフィルタを選択します。リクエストのサブジェクト領域は、リクエストに含まれるテーブルおよび列とともに、選択ペインの「Catalog」タブに一覧表示されます。

警告： リクエストの作成が完了する前にブラウザの「更新」ボタンをクリックすると、すべてのフレームがリロードされ変更が無視されることに注意してください。

新規リクエストを作成または既存リクエストの条件を変更するには

- 1 次の操作のいずれかを実行します。

- 既存リクエストを変更するには、選択ペインの「Catalog」タブで目的のリクエストをクリックし、「Modify」ボタンをクリックします。

「Criteria」タブがワークスペースに表示されます。

ヒント： 「Criteria」タブに直接進むには、[Ctrl] キーを押しながらリクエストをクリックします。

- 新規リクエストを作成するには、Oracle BI Answers のスタート・ページでサブジェクト領域をクリックするか、新規リクエストの作成ボタンをクリックします（作成ボタンは、選択ペインの「Catalog」タブの上部にあり、リクエストの操作時はワークスペースの右上隅に表示されます）。

新規リクエストの作成を選択すると、元のリクエストがワークスペースから消去され、同じサブジェクト領域での操作を続行できます。

リクエストのサブジェクト領域が、その列とともに選択ペインに表示されます。

- 2 列をクリックし、リクエストに追加します。

ヒント： 通常、リクエストには、選択ペインのファクト・テーブルの列を 1 つ以上含める必要があります。ファクトはビジネス・パフォーマンスにおける主要な加算メジャーで、店舗ごとの売上額や、営業日ごとの未解決および解決済サービス・リクエスト数などが該当します。ファクトを含めずにリクエストを実行しても、多くの場合は意味のないレポートが生成され、クエリーのパフォーマンスが悪化したり、予想外の結果が発生する原因となります。ファクトなしでリクエストを構築する場合は、最初に Oracle BI の管理者に相談してください。

- 3 列ボタンを使用して、リクエストでの各列の使用方法を制御します。

列ボタンの詳細は、36 ページの表 5 を参照してください。

- 4 ワークスペースで列を並べ替えるには、現在の場所から別の場所に列名をドラッグ・アンド・ドロップします。

5 結果をプレビューするには、次の操作のいずれかを実行します。

- ワークスペースの上部にあるテーブル、グラフまたはピボット・テーブルの結果ビュー・ボタンのいずれかをクリックします。
- プレビュー・ボタンをクリックして、ダッシュボードに結果がどのように表示されるかを確認します。



注意：このプレビュー・ボタンがない場合、ボタンが表示されないように Oracle BI Presentation Services 管理者が設定しています。

- 「Results」タブをクリックして、ドロップダウン・リストからビューを選択します。

6 リクエストを保存するには、次の操作のいずれかを実行します。

- 「Save Request」ボタンをクリックします。

詳細は、「Oracle BI のリクエストの個人用フォルダまたは共有フォルダへの保存」(39 ページ) を参照してください。

- 「Save and Schedule」ボタンをクリックして、Oracle BI Answers にリクエストを保存し、保存済リクエスト用の iBot を Oracle BI Delivers に作成します。

注意：Oracle BI Delivers を使用していない組織では、「Save and Schedule」ボタンは使用できません。

Oracle BI Delivers で、新規 iBot に「Schedule」タブが表示されます。

詳細は、「Oracle BI Delivers iBot のスケジュール」(171 ページ) を参照してください。

表 5. Oracle BI のリクエスト列に使用するボタン






ボタン	説明
	<p>Order By. 結果が返される順序を、昇順または降順で指定します。結果は、複数の列で順序付けできます。複数の列を選択して順序付けを行うと、「Order By」ボタンにその順序が示されます。</p> <p>列に指定されたソート順序を削除または変更するには、その順序が変更または削除されるまで「Order By」ボタンをクリックします。</p> <p>ボタンに表示されるイメージは、選択したソート順序によって異なります。この表のボタン例では、上向きと下向きの 2 本の矢印が横に並んでいます。「Order By」ボタンの各形状の詳細は、37 ページの表 6 を参照してください。</p>
	<p>Format Column. 列が持つフォーマットの多様なプロパティを編集できます。このボタンには、人差し指が左下方向を指している手のイメージが表示されます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用」(72 ページ) を参照してください。</p>
	<p>Edit Formula. 列ヘッダーと、Rank 関数や Percentile 関数の追加など、列式を変更できます。所定の列の複数の値または値の範囲をビンに集約することもできます。このボタンには、イタリックの小文字 fx のイメージが表示されます。詳細は、「列式の編集」(108 ページ) を参照してください。</p>

表 5. Oracle BI のリクエスト列に使用するボタン

ボタン	説明
	<p>Filter By Column. 列のフィルタを作成または編集できます。このボタンには、ファンネルのイメージが表示されます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」(50 ページ) を参照してください。</p>
	<p>Remove Column. リクエストから列を削除できます。このボタンには、大文字の X のイメージが表示されます。</p>

Oracle BI のリクエストでの列のソート順序の指定

Oracle BI Answers では、リクエストに表示される 1 つ以上の列のソート順序を指定できます。「Order By」ボタンをクリックすると、選択した列が結果に適用するソート順序を表す新しいイメージが表示されます。

Oracle BI Answers で列を基準にリクエストをソートするには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを表示します。
- 2 ソートする列の「Order By」ボタンをクリックします。
ボタンがソート順序を示すボタンに変わります。
- 3 目的のソート順序が表示されるまで、「Order By」ボタンをクリックします。

表 6 に、使用可能なソート順序と、「Order By」ボタンに表示される各ソート順序のイメージを示します。

表 6. Oracle BI Answers の「Order By」ボタンの形状






形状	説明
	上向きと下向きの 2 本の矢印のイメージは、選択された列が結果のソートに使用されないことを示します。
	上向きの矢印のイメージは、選択した列のアイテムを使用して、結果が昇順でソートされることを示します。
	<p>「Order By」ボタンに表示される数字は、その列が結果に適用される第一のソート列でないことを示します。この数字は、ソート処理が適用される順序に対応しています。</p> <p>この例では、上向きの矢印に数字の 2 が表示されており、その列が第二のソート列として使用されることを示しています。上向きの矢印は、選択した列のアイテムを使用して、結果が昇順でソートされることを示します。</p>

表 6. Oracle BI Answers の「Order By」 ボタンの形状

形状	説明
	下向きの矢印のイメージは、選択した列のアイテムを使用して、結果が降順でソートされることを示します。
	「Order By」 ボタンに表示される数字は、その列が結果に適用される第一のソート列でないことを示します。表示された数字は、ソート処理が適用される順序に対応しています。 この例では、下向きの矢印に数字の 2 が表示されており、その列が第二のソート列として使用されることを示しています。下向きの矢印は、選択した列のアイテムを使用して、結果が降順でソートされることを示します。

Oracle BI Answers の選択ペインでの情報のリフレッシュ

保存されたコンテンツまたは Oracle BI Server のメタデータが変更された場合、画面をリフレッシュして、最新の情報を表示できます。

保存済リクエスト、フィルタ、ブリーフィング・ブックおよびダッシュボード・コンテンツの情報を、選択ペインでリフレッシュするには

- 選択ペインの下部にある次のリンクをクリックします。

Refresh Display

サブジェクト領域に関する Oracle BI Server のメタデータのビューの情報を、選択ペインでリフレッシュするには

- 選択ペインの下部にある次のリンクをクリックします。

Reload Server Metadata

Oracle BI Answers の結果の表示および操作

Oracle BI Answers の基本的な結果を表示および操作する手順は次のとおりです。

結果を表示および操作するには

- 1 「Results」 タブをクリックします。

結果がテーブル形式でワークスペースに表示されます。

- 2 (オプション) 次の操作を 1 つ以上実行します。

- 前後のページに移動して結果を参照するには、ページの下部にあるページ移動ボタンを使用します。

注意： ページ移動ボタンは、結果が 2 ページ以上にわたる場合にのみ表示されます。

- リクエストに使用されている条件を編集するには、「Criteria」 タブまたはヘッダー・ツールバーを表示するオプションをクリックします。

- リクエストにプロンプトを追加するには、「Prompts」 タブをクリックします。

- リクエストに生成された XML または論理 SQL を編集するには、「Advanced」タブをクリックします。
注意:「Advanced」タブの使用は、上級ユーザーと開発者にのみ限定することをお勧めします。「Advanced」タブへのアクセス権が付与されるのは、適切な職責を持つユーザーのみです。詳細は、「Oracle BI リクエストに対して生成された論理 SQL の調査と編集」(44 ページ)を参照してください。
- 総計または列の合計を結果に追加するには、テーブル・ビューまたはピボット・テーブル・ビューを使用します。
 - 総計を追加するには、ワークスペースの上部にある「Grand Totals」ボタンをクリックします。
 - 個々の列の合計を追加する場合は、その列の「Total By」ボタンをクリックします。**注意:**「Total By」ボタンは、合計できる列でのみ使用可能です。

Oracle BI のリクエストの個人用フォルダまたは共有フォルダへの保存

個人用フォルダのいずれかに保存したリクエストには、そのユーザーしかアクセスできません。共有フォルダに保存したリクエストには、そのフォルダへのアクセス権を持つ他のユーザーもアクセスできます。

トップレベルの個人用フォルダは、My Folder と呼ばれます。一意な名前を持つすべてのユーザーが、My Folder という名前のフォルダを持ちます。このフォルダは、頻繁に実行するリクエストと、頻繁にアクセスするその他のコンテンツを保存する目的で設計されています。

選択ペインの下部にある「Refresh Display」リンクをクリックすると、保存したフォルダの下にリクエストが一覧表示されます。

リクエストを個人用フォルダまたは共有フォルダに保存するには

- 1 「Save Request」ボタンをクリックします。
「Choose Folder」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 リクエストの保存先となる個人用フォルダまたは共有フォルダを選択します。
サブフォルダを指定するには、次の操作のいずれかを実行します。
 - サブフォルダにナビゲートします。
 - 「Create Folder」をクリックして、新しいサブフォルダを作成します。
 - 「Folder」ボックスにパスを入力します。
- 3 リクエストの説明的な名前を入力します。
この名前は、選択ペイン内のリクエストにマウス・ポインタを置いたときに表示されます。
- 4 (オプション) リクエストの説明を入力します。
この説明は、Oracle BI 管理者が Oracle Business Intelligence Catalog Manager を使用するときに表示されます。
- 5 「OK」をクリックします。

Oracle BI レポートの Lotus Notes データベースへの保存

Oracle BI レポートを Lotus Notes データベースに追加する方法には、次の 2 通りがあります。

- レポートを Web アーカイブ・ファイル (ファイル拡張子は .mht) に保存し、そのファイルを Lotus Note データベースにアップロードします。
- Oracle BI Delivers を使用してレポートにスケジュールを設定し、Lotus Notes サーバーの特定のアドレスに電子メールでレポートを自動送信します。電子メールは、Lotus Notes サーバーによって処理され、データベースに書き込まれます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューについて」 \(90 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

[「Microsoft Excel での Oracle BI リクエストへのアクセスと操作」 \(41 ページ\)](#)

[「Oracle BI リクエストと Microsoft Excel の Web クエリー機能の統合」 \(42 ページ\)](#)

Oracle BI ダッシュボードへの Oracle BI リクエストの埋込み

リクエストをダッシュボードに埋め込むと、リクエストが自動実行され、ダッシュボードにその結果が表示されます。ここでは、現在の結果にアクセスできます。たとえば、日次ベースで売上データを把握している企業の販売管理者であれば、本日の製品売上金額をダッシュボードのフロント・ページに表示できれば便利です。

Oracle BI Answers では、結果の取得方法は、キャッシュの実装方法に応じて最も効率的な方法が使用されます。結果は、キャッシュから取得するか、またはリクエストの再実行と結果の再キャッシュを通じて取得します。

保存済リクエストの埋込みには、Dashboard Editor を使用できます。Dashboard Editor の詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加](#)」(201 ページ) を参照してください。

Microsoft Excel での Oracle BI リクエストへのアクセスと操作

Oracle BI の Microsoft Excel アドインを使用している組織では、Microsoft Excel 内から保存済リクエストを開き、その結果を操作できます。アドインによって Excel アプリケーションに Oracle BI ツールバーが追加され、これを使用して、Oracle BI のプレゼンテーション・カタログに保存されているリクエストにナビゲートし、それを Microsoft Excel で開き、その結果を操作、保存およびリフレッシュできます。

注意： なんらかのセキュリティ機能を使用している組織では、結果を Excel のスプレッドシートにダウンロードできない場合があります。詳細は、Oracle BI 管理者にお問い合わせください。

Microsoft Excel での Oracle BI ツールバーの使用

この項では、Microsoft Excel で Oracle BI ツールバーを使用する方法について説明します。図 4 に、アメリカ英語版の Oracle BI ツールバーの例を示します。

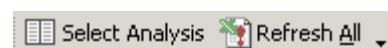


図 4. Microsoft Excel での Oracle BI ツールバーの例

Microsoft Excel から保存済リクエストへの初回アクセス時は、Oracle BI Presentation Services のユーザー ID とパスワードの入力を求められます。保存済の Excel ワークブックに Oracle BI のユーザー ID とパスワードを含めるよう Microsoft Excel で設定しておけば、ワークブックにアクセスするたびにログイン資格証明を入力する必要がなくなります。ワークブックが他のユーザーと共有されている場合は、ログイン資格証明を保存しないのが一般的です。

Microsoft Excel で保存済リクエストを開くときは、次の 2 通りのデータ・フォーマットから選択できます。

■ Unformatted Data

このフォーマットは、リクエスト条件に対応するデータ・ビューです。このデータ・ビューには、リクエストの基礎となるデータのみが表示され、適用済のレポート・フォーマットや、Oracle BI Answers の複合的なレイアウト・ビューを使用して収集されたビューはすべて除外されます。Excel の機能を使用して、行および列を追加し、除算などを行うことができます。

■ Formatted Results

このフォーマットは、Oracle BI Answers でリクエストに対して収集された複合的なレイアウト・ビューの Microsoft Excel 版です。このフォーマットには、列フォーマットや総計のように Microsoft Excel と互換性のあるアイテムと、複合的なレイアウト・ビューに挿入されたビューが含まれます。

注意： Oracle BI のリクエスト用のグラフ・ビューは、Microsoft Excel の「Formatted Results」ビューに含めることはできません。

Oracle BI コンテンツを含む Microsoft Excel ワークブックは、Excel の保存機能を使用して保存できます。

次に、Oracle BI ツールバーを使用して各種機能を実行する手順を示します。

Microsoft Excel 内から保存済リクエストを開くには

- 1 Oracle BI ツールバーの「Select Analysis」ボタンをクリックします。
- 2 ユーザー ID とパスワードを入力してログイン・ボタンをクリックし、ログイン資格証明を送信します。
ウィンドウが表示され、そこで Oracle BI Presentation Catalog から保存済リクエストを選択できます。このウィンドウには、アクセス可能な個人用コンテンツと共有コンテンツが表示されます。
- 3 目的の保存済リクエストにナビゲートし、それをクリックして選択し「OK」をクリックします。
追加のオプション・ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 データ・フォーマットを選択します。
- 5 保存済の Excel ワークブックにログイン資格証明を含めるように Microsoft Excel を設定するには、ユーザー ID とパスワードを記憶するオプションを選択します。
- 6 「Continue」をクリックします。
Microsoft Excel にリクエストが表示されます。

Microsoft Excel ワークブックに含まれる Oracle BI データをリフレッシュするには

- 次の操作のいずれかを実行します。
 - Oracle BI ツールバーの「Refresh All」ボタンをクリックします。
 - データ領域で右クリックし、「Refresh Data」オプションを選択します。

Oracle BI リクエストと Microsoft Excel の Web クエリー機能の統合

Oracle BI Answers のデータ・リクエストを Excel の Web クエリー (IQY) 機能と統合すると、Excel 内からリクエストを実行できるようになります。この機能は、レポートの印刷や配布にも役立ちます。

Excel で IQY ファイルを開くと、Oracle BI のユーザー ID とパスワードの入力を求められます（空白以外のパスワードが必要です）。次に、保存済リクエストの結果が取得され、Excel のスプレッドシートに配置されます。Excel のスプレッドシートを保存すると、それ以降は Excel 内からデータを直接リフレッシュできます。

注意： なんらかのセキュリティ機能を使用している組織では、結果を Excel のスプレッドシートにダウンロードできない場合があります。詳細は、Oracle BI 管理者にお問い合わせください。

デフォルトでは、クエリーをリフレッシュするたびに、ユーザー ID とパスワードの入力を求められます。ユーザー ID とパスワードをスプレッドシート内に保存することもできます。詳細は、Excel のドキュメントを参照してください。

注意： Excel の IQY 機能に統合できるリクエストは、1 つ以上のテーブル・ビューまたはピボット・テーブル・ビューに結果が表示されるリクエストのみです。他のビュー・タイプはサポートされていません。

Oracle BI リクエストを Excel の IQY 機能に統合するには

- 1 つ以上のテーブル・ビューまたはピボット・テーブル・ビューを持つリクエストを保存します。
- Oracle BI Answers の「Advanced」タブで、Web クエリー・ファイルの生成およびダウンロードを行うリンクをクリックします。
- ファイルを目的の場所に保存します。

ファイルを Excel で開いた後は、変更、追加フォーマットの指定、グラフでの拡張などの操作を実行できます。詳細は、Excel のドキュメントを参照してください。

Set 演算による Oracle BI リクエストの条件の結合

サブジェクト領域を選択し、リクエストに列を追加したら、Set 演算を使用して、1 つ以上のサブジェクト領域の条件を結合できます。この操作によって、2 つ以上のリクエストの結果が 1 つの結果に結合されます。

注意： それぞれの構成リクエストで選択されている列の数とデータ型は、同じである必要があります。列の長さは、同じでなくてもかまいません。

次の表に、Set 演算子と、それらが結果に及ぼす効果を一覧表示します。

Set 演算子	結果に及ぼす効果
Union	すべてのリクエストから行を重複排除で返します。
Union All	すべてのリクエストからすべての行を返します。重複行も含まれます。
Intersect	すべてのリクエストに共通する行を返します。
Minus	最初のリクエストから、他のリクエストにない行を返します。

複数の Oracle BI リクエストの結果を結合するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、サブジェクト領域を選択し、リクエストに列を追加します。

- 「Criteria」タブで、次のボタンをクリックします。
Combine with Similar Request
「Subject Area」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 手順 1 で選択したサブジェクト領域に結合するデータを持つサブジェクト領域を選択します。
このサブジェクト領域は、手順 1 で選択したものと同じでも、異なるものでもかまいません。
「Set Operations」ページが表示されます。
- 画面の指示に従って、結合リクエストを構築します。
- 「Union」ボタンをクリックして演算タイプを選択し、最初のリクエストに結合する列を選択ペインから選択します。

Oracle BI リクエストに対して生成された論理 SQL の調査と編集

この項では、リクエストに対して生成された SQL または XML を調査または編集する方法について説明します。

注意：ここで説明する手順は、「Advanced」タブにアクセスする職責のある上級ユーザーと開発者のみを対象とします。高度な SQL に関する知識と Oracle BI Server のメタデータの操作ノウハウがあること、さらには『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』に記載されている SQL 情報に精通し、基礎となるデータソースの内容と構造を理解していることが前提です。

たとえば、基礎となるプレゼンテーション・オブジェクトが変更された場合に、リクエストを再作成しないで、リクエストの論理 SQL を編集できます。

「Advanced」タブでは、外部の Web ページ、ポータルまたはアプリケーションから保存済リクエストを実行したり、結果を Microsoft Excel にダウンロードする際に使用できるリンクにアクセスすることもできます。結果を参照するセクションに、それらのリンクと使用手順が表示されます。

注意：なんらかのセキュリティ機能を使用している組織では、結果をダウンロードできない場合があります。詳細は、Oracle BI 管理者にお問い合わせください。

リクエストに対して生成された XML または SQL を調査または編集するには

- Oracle BI Answers でリクエストを作成または変更し、「Advanced」タブをクリックします。
システム生成の XML と論理 SQL が、リクエストに対して表示されます。
- システム生成の SQL に続く「Advanced SQL Clauses」セクションを使用して、サブジェクト領域の変更、GROUP BY 句や HAVING 句の追加、DISTINCT 処理の指定などを行います。

- このリクエストを、同じまたは別のサブジェクト領域にある類似のリクエストと結合し、その結果に対して UNION や INTERSECT などの Set 演算を実行するには、「Criteria」タブの次のボタンをクリックします。

Combine with Similar Request

SQL または XML を直接編集する場合は、次の手順に進みます。

警告： 次の手順で「Set SQL」ボタンをクリックすると、このリクエストの「Criteria」タブにアクセスできなくなることに注意してください。

- SQL を変更する場合は、前述の注意文に目を通し、「Edit」ウィンドウで SQL を直接変更し「Set SQL」ボタンをクリックします。

警告： リクエストは、Presentation Catalog に XML 形式で格納されます。次の手順で XML を変更すると、Presentation Catalog にあるリクエストが変更されます。

- XML を変更する場合は、前述の注意文に目を通し、「Edit」ウィンドウで XML を直接変更し「Set XML」ボタンをクリックします。

Oracle BI Answers でのダイレクト・データベース・リクエストの実行

適切な権限を持つユーザーは、ダイレクト・データベース・リクエストを作成し、物理的なバックエンド・データベースに直接発行できます。リクエストの結果は Oracle BI Answers 内で表示および操作でき、その後 Oracle BI Interactive Dashboards と Oracle BI Delivers に組み込まれます。

物理リクエストの作成と発行ができるかどうかは、Oracle BI Presentation Services 管理における次の権限設定によって決まります。

■ Edit Direct Database Requests

この権限が設定されているユーザーは、ダイレクト・データベース・リクエストを作成できます。デフォルトでは、この権限は、Oracle BI Presentation Services 管理者として定義されているユーザーにのみ設定されます。

■ Execute Direct Database Requests

この権限が設定されているユーザーは、物理リクエストを発行できます。デフォルトでは、この権限はどのユーザーにも設定されていません。設定は Oracle BI Presentation Services 管理者が変更できます。

ダイレクト・データベース・リクエストを実行するには

- Oracle BI Answers のスタート・ページで、次のリンクをクリックします。

Create Direct Request

「Criteria」タブが開きます。

- 画面の指示に従って、Oracle Business Intelligence Server Administration Tool の物理レイヤーに定義されたデータベースへの接続プールの名前を指定します。

接続プールの詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

- 3 画面の指示に従って、物理リクエストを作成します。

警告: Oracle BI Answers からダイレクト・データベース・リクエストを発行するときは、Oracle BI Server のセキュリティ・ルールが無視され、適用できなくなります。

- 4 Oracle BI Presentation Services のキャッシュを経由しないようにするには、バイパス・オプションをクリックします。
- 5 リクエストを発行するには、「Results」タブをクリックします。
結果があれば、ワークスペースに表示されます。

リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot に値を表示する変数の使用

セッション変数、リポジトリ変数 (User.displayName など) またはプレゼンテーション変数を参照し、その値をリクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot に使用できます。変数の詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。この項の内容は次のとおりです。

- 「セッション変数、リポジトリ変数およびプレゼンテーション変数とは」 (46 ページ)
- 「変数の参照が可能な場所」 (47 ページ)
- 「セッション変数の参照構文」 (47 ページ)
- 「リポジトリ変数およびプレゼンテーション変数の参照構文」 (47 ページ)
- 「リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot で参照可能な事前定義済変数」 (48 ページ)

セッション変数、リポジトリ変数およびプレゼンテーション変数とは

セッション変数とリポジトリ変数は、サーバーに保持されている事前定義済の値です (NQ_SESSION.System.currentTime など)。プレゼンテーション変数は、ダッシュボード・プロンプトで宣言が必要な変数で (「Set Variable」フィールドを使用)、その名前と値は、最初の宣言時、またはリクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot での参照時にユーザーが決めます。

ダッシュボード・プロンプトでのプレゼンテーション変数の宣言方法の詳細は、「Oracle BI リクエストのフィルタに使用するダッシュボード・プロンプトの作成」 (63 ページ) を参照してください。

次に、セッション変数またはプレゼンテーション変数の参照の使用例を示します。

- 例 1: セッション変数の参照

レポートのタイトル・ビューに現行ユーザーの名前を表示できるようにするには、レポートのタイトル・ビューにセッション変数 @{NQ_SESSION.User.displayName} への参照を追加します。このセッション変数によって、タイトル・ビューに現行ユーザーの名前が表示されます。

■ 例 2: プレゼンテーション変数の参照

ダッシュボード・レポートに特定の地域の入力を求めるプロンプトが表示される場合は、ダッシュボード・レポートのタイトルに、ユーザーが選択した地域が表示されると便利です。それには、レポートのタイトルに、@{variables.myFavoriteRegion} などのプレゼンテーション変数への参照を追加します。プレゼンテーション変数の myFavoriteRegion は、事前にダッシュボード・プロンプトに対して宣言しておく必要があります。このプレゼンテーション変数によって、ダッシュボード・プロンプトにユーザーが入力した地域が表示されます。

変数の参照が可能な場所

変数を参照できる領域は次のとおりです。

- タイトル・ビュー
- 説明ビュー
- 列フィルタ
- 列式
- 条件付フォーマットの条件（プレゼンテーション変数のみ）
- ダイレクト・データベース・リクエスト
- ダッシュボード・プロンプト

ユーザーは変数の値の入力を求められ、それがリクエスト（セッション）変数に設定され、Oracle BI サーバーに渡されます。

- グラフのスケール・マーカー
- ゲージ範囲の設定
- 静的テキスト
- iBot のヘッドラインおよびテキスト

セッション変数の参照構文

セッション変数の参照構文は次のとおりです。

@{NQ_SESSION.variableName}

例：@{NQ_SESSION.dashboard.description}

- NQ_SESSION: このアイテムがセッション変数を参照することを示します。
- variableName: 現行のセッション・コンテキスト内で使用可能なオブジェクトへの参照。例：dashboard.description

リポジトリ変数およびプレゼンテーション変数の参照構文

リポジトリ変数およびプレゼンテーション変数の参照構文は次のとおりです。

- @{<variableName>}{<value>}[format] - リポジトリ変数の場合
例：@{dashboard.path} - 現行のダッシュボードへのパスを挿入します。
- @{variables.<variableName>}{<value>}[format] - プレゼンテーション変数の場合
例：@{variables.myFavoriteRegion}{Central} - プレゼンテーション変数 myFavoriteRegion の値を挿入します。
 - variables: リクエストでプレゼンテーション変数を参照するときに必要な接頭辞。
 - variableName: 現行の評価コンテキスト内で使用可能なオブジェクトへの参照。例：@{variables.myFavoriteRegion}
 - value (オプション) : variableName によって参照される変数が移入されない場合 (未定義の場合) に使用する値を示す定数または変数参照。
 - format (オプション) : 変数のデータ型に依存するフォーマット・マスク。例：#、##0、MM/DD/YY hh:mm:ss など

注意：@ 記号の後に「{」がない場合は、@ 記号として扱われます。詳細は、「Oracle BI Answers における列コンテンツの表示の編集」(72 ページ) を参照してください。

リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot で参照可能な事前定義済変数

次の表に、リクエスト結果、ダッシュボードおよび iBot で参照可能な事前定義済変数の一覧を示します。

表 7.

オブジェクト	変数	例
システム	productVersion currentTime	system.productVersion = 10.1.3.2 (Build 091506.1900) system.currentTime = 2006-9-21 14:1:35
セッション	locale language rtl timeZone loginTime logoutTime lastAccessTime currentUser	session.locale = en-gb session.language = en session.rtl = false session.timeZone = Unknown Time Zone session.loginTime = 2006-9-21 14:0:17 session.logoutTime = 2006-9-21 16:0:17 session.lastAccessTime = 2006-9-21 14:01:35 session.currentUser = administrator
ユーザー	id displayName homeDirectory	user.id = administrator user.displayName = administrator user.homeDirectory = /users/administrator
ダッシュボード	currentPage xml	dashboard.currentPage = test page name dashboard.xml = the dashboard XML

4

Oracle BI Answersでのリクエストのフィルタ

フィルタは、Oracle BI のリクエストを実行したときに表示される結果の絞込みに使用します。フィルタはリクエストに対して選択した列と連携して、結果の内容を決定します。Oracle BI Answers には、フィルタ条件に基づいて、その条件と一致する結果のみが表示されます。フィルタは、列レベルごとに適用されます。他のフィルタと組み合わせて、リクエストの結果をさらに絞り込むこともできます。ダッシュボード・プロンプトと呼ばれる別の種類のフィルタは、ダッシュボード内のすべてのアイテムに適用できます。

この章では、Oracle BI Answers でリクエストを絞り込むためのフィルタの作成および使用方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」(50 ページ)
- 「プロンプトによる Oracle BI リクエストのフィルタの簡略化」(58 ページ)
- 「Oracle BI リクエストのフィルタに使用するダッシュボード・プロンプトの作成」(63 ページ)
- 「保存済 Oracle BI リクエストのフィルタとしての使用」(67 ページ)
- 「Oracle BI リクエストでの列フィルタの SQL の編集」(67 ページ)

Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用

列フィルタを使用すると、特定の質問への回答である結果を取得するようにリクエストを制約することができます。列フィルタは選択した列と連携して、結果の内容を決定します。たとえば、業界に応じて、列フィルタを使用して、業績の上位 10 社、特定ブランドの売上、最も利益率の高い顧客などを検索できます。列フィルタはリクエストごとに作成でき、個人用のフィルタ・フォルダ (My Filters) に保存するか、または他のユーザーも使用できるように共有のフィルタ・フォルダに保存することができます。

列フィルタは、次の要素で構成されます。

- フィルタを適用する列 (「Order Quantity」など)
- フィルタを適用するとき使用する値 (10 など)
上級ユーザーは、SQL 式、セッション変数、リポジトリ変数 (Oracle BI リポジトリで定義されているもの)、プレゼンテーション変数などを使用して、値を定義したり制限したりできます。
- 値の適用方法を定める演算子 (Less Than など)
たとえば、販売個数が含まれている列を選択し、Less Than 演算子を使用して値を 10 に指定すると、結果には、販売個数が 10 個未満の注文数しか表示されません。

列フィルタには、次のような特性もあります。

- 同じサブジェクト領域の他の列フィルタと組み合わせて、リクエストの結果をさらに絞り込むことができます。
挿入句フィルタと呼ばれる機能を使用すると、SQL を知らなくても、複数のフィルタをグループ化して、複雑なフィルタを作成できます。
- 同じサブジェクト領域にすでに保存されているリクエストの結果に基づいて、値を絞り込むことができます。
ナビゲーションおよびプロンプトの実行中に、フィルタが置換されるのを防ぐこともできます。

フィルタは、Oracle BI Server に発行される SQL SELECT 文の WHERE 句に変換されます。WHERE 句は、結果として返される行を、指定した条件に一致するものだけに制限する場合に使用します。上級ユーザーであれば、フィルタに SQL を直接入力することもできます。

この項では、Oracle BI Answers で列フィルタを操作する手順について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [「Oracle BI Answers での列フィルタの作成」 \(51 ページ\)](#)
- [「Oracle BI Answers での列フィルタの保存」 \(55 ページ\)](#)
- [「Oracle BI リクエストへの保存済列フィルタの適用」 \(56 ページ\)](#)
- [「Oracle BI Answers での列フィルタの編集」 \(56 ページ\)](#)
- [「Oracle BI Answers での列フィルタの式の編集」 \(57 ページ\)](#)
- [「Oracle BI Answers での列フィルタの削除」 \(57 ページ\)](#)
- [「Oracle BI Answers での列フィルタの結合」 \(57 ページ\)](#)
- [「ナビゲーションおよびプロンプト実行中のフィルタの置換の防止」 \(58 ページ\)](#)

Oracle BI Answers での列フィルタの作成

次の手順では、Oracle BI Answers で列フィルタを作成する方法について説明します。

結果に列を表示しない場合は、非表示にできます。詳細は、「[Oracle BI Answers における列コンテンツの表示の編集](#)」(72 ページ) を参照してください。

注意：列フィルタの作成が完了する前にブラウザの「更新」ボタンをクリックすると、すべてのフレームがリロードされ変更が無視されることに注意してください。

Oracle BI Answers で列フィルタを作成するには

1 Oracle BI Answers で、次の操作のいずれかを実行します。

- 特定のリクエストに使用するフィルタを作成するには、フィルタを追加するリクエストを表示して、「Criteria」タブをクリックし、フィルタに含める列の「Filter」ボタンをクリックします。

ヒント：リクエストに含まれていない列のフィルタを追加するには、「Criteria」タブで [Ctrl] キーを押しながら、選択ペインで列の名前をクリックします。

- 複数のリクエストに使用するフィルタを作成するには、選択ペインの上部にある「New Saved Filter」ボタンをクリックし、フィルタに使用する列が含まれているサブジェクト領域を選択します。

「Saved Filter」画面が表示されたら、選択ペインの「Columns」領域から列を選択します。

2 「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスで、「Operator」ドロップダウン・リストから演算子を選択します。

選択できる演算子と値が、左側の列に表示されます。右側の列には、選択した列の種類に応じて、期間を指定するためのカレンダー・ボタンや、長い値リストの絞込みに使用する文字列検索ボックスなど、追加のオプションが表示されます。

3 値を指定するには、「Value」ボックスに入力するか、右側の列から選択します。

演算子を選択して値を指定するときは、次の表に示すガイドラインを使用してください。

演算子	使用ガイドライン
is equal to / is in	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値と一致しているレコードのみが含まれます。
is not equal to / is not in	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値と一致していないレコードのみが含まれます。
is less than	数字または日付が含まれている列に有効。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値より小さいレコードのみが含まれます。
is greater than	数字または日付が含まれている列に有効。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値より大きいレコードのみが含まれます。

演算子	使用ガイドライン
is less than or equal to	数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値以下のレコードのみが含まれます。
is greater than or equal to	数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値以上のレコードのみが含まれます。
is between	数字または日付が含まれている列に有効。2 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した 2 つの値の間にあるレコードのみが含まれます。
is null	<p>テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。値は指定しないでください。この演算子は、列にデータが存在しないかどうかのみをテストします。結果には、列にデータが存在しないレコードのみが含まれます。</p> <p>場合によって、データが存在するかどうかを確認すると便利なことがあります。is null 演算子は、そのような条件をテストするための手段として使用できます。たとえば、世界中の営業所の住所録があり、そこから米国の住所のみを抽出するとします。この作業は、「State」フィールドにデータが存在するかどうかを確認することで実行できます。このフィールドは、米国以外の住所には移入されず (Null)、米国の住所に対してのみ移入されます (not Null)。米国の住所リストを取得するために、特定の値が入った列を確認する必要はありません。</p>
is not null	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。値は指定しないでください。この演算子は、列にデータが存在するかどうかのみをテストします。結果には、列にデータが存在するレコードのみが含まれます。
is in top	<p>テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 個のレコードのみが含まれます。n は、フィルタに値として指定した整数です。</p> <p>この演算子の対象は、ランク付けされた結果です。たとえば、この演算子を使用して、業績の上位 10 社のリストを取得することができます。</p>
is in bottom	<p>テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 個のレコードのみが含まれます。n は、フィルタに値として指定した整数です。</p> <p>この演算子の対象は、ランク付けされた結果です。たとえば、この演算子を使用して、報告された問題の数が最も少ない顧客のリストを取得することができます。</p>
contains all	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータに、フィルタに指定した値がすべて含まれているレコードのみが含まれます。
does not contain	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータに、フィルタに指定した値が何も含まれていないレコードのみが含まれます。

演算子	使用ガイドライン
contains any	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。結果には、列のデータに、フィルタに指定した値が少なくとも 1 つ含まれているレコードのみが含まれます。
begins with	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値で始まるレコードのみが含まれます。
ends with	テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタに指定した値で終わるレコードのみが含まれます。
is LIKE (パターン一致)	テキストが含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。ワイルド・カード文字として、パーセント記号 (%) を使用する必要があります。値にパーセント記号を最大 2 つ指定できます。結果には、列のデータがフィルタに指定したパターンの値と一致しているレコードのみが含まれます。
is not LIKE (パターン一致)	テキストが含まれている列に有効。1 つまたは複数の値を指定します。ワイルド・カード文字として、パーセント記号 (%) を使用する必要があります。値にパーセント記号を最大 2 つ指定できます。結果には、列のデータがフィルタに指定したパターンの値と一致していないレコードのみが含まれます。
is prompted	<p>テキスト、数字または日付が含まれている列に有効。この演算子を選択した列には、ダッシュボード・プロンプトでフィルタされることを示すフラグが付けられます。つまり、ダッシュボード・プロンプトが使用されていると、結果には、要求される列のデータが、ユーザーの選択した内容と一致しているレコードのみが含まれます。</p> <p>注意: この演算子は、事前にフィルタした値を使用しないダッシュボード・プロンプトに含まれる列に必要となります。</p>

- 4 列に多数の選択肢がある場合は、ページ・コントロールを使用して、選択肢の間をナビゲートします。
- 特定のページにナビゲートするには、そのページ番号をクリックします。
 - 次のページに進むには、二重右矢印のページ移動ボタン (>>) をクリックし、前のページに戻るには、二重左矢印のページ移動ボタン (<<) をクリックします。
 - 最後のページに進むには、三重右矢印のページ移動ボタン (>>>) をクリックし、先頭ページに戻るには、三重左矢印のページ移動ボタン (<<<) をクリックします。
- 5 日付の列に期間を指定するには、カレンダー・ボタンを使用します。
- 1 つの日のみを指定する場合は、開始日と終了日に同じ日付を指定します。

- 6 テキストまたは数字の列の「All Choices」リストまたは「Limited Choices」リストに表示する値リストを制限するには、「Match」ボックスを使用します。

たとえば、East 地域の結果を確認するとします。「Match」ボックスに「E」と入力すると、リストには E で始まる値のみが表示されます。フィルタに他の制約を設定している場合は、それらの制約に該当する選択肢のみが「Limited Choices」リストに表示されます。
- 7 SQL 式またはシステム変数（Oracle BI リポジトリで定義されているもの）を追加するには、次の操作を実行します。
 - a 「Add」ボタンをクリックして、適切なオプションを選択します。

選択したオプションに応じて「Value」ボックスのラベルが変化します。
 - b ボックスに SQL 式またはシステム変数名を入力します。
- 8 プレゼンテーション変数を追加するには、次の操作を実行します。
 - a 「Add」ボタンをクリックして、「Variable」を選択し、「Presentation」オプションを選択します。

「Presentation Variable」フィールドと「Default」フィールドが表示されます。
 - b 正しい構文を使用して、プレゼンテーション変数を入力します。

変数の使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』のリクエストの操作に関する章を参照してください。
 - c プレゼンテーション変数から返される値がない場合に使用するデフォルト値（オプション）を入力します。
- 9 値、SQL 式、システム変数またはプレゼンテーション変数を削除するには、その横にある「Delete」ボタンをクリックします。

すべての定義を削除するには、「Clear Values」ボタンをクリックします。
- 10 別のリクエストで、同じサブジェクト領域の列の値に基づいてこのフィルタを制限するには、「Advanced」ボタンをクリックして、次のオプションを選択します。

Filter based on results of another request

「Filter on Saved Request」ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細は、「[保存済 Oracle BI リクエストのフィルタとしての使用](#)」(67 ページ) を参照してください。
- 11 フィルタを SQL に変換するには、「Advanced」ボタンをクリックして、次のオプションを選択します。

Convert this filter to SQL

「Advanced SQL Filter」ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細は、「[Oracle BI リクエストでの列フィルタの SQL の編集](#)」(67 ページ) を参照してください。

12 終了したら「OK」をクリックします。

「Criteria」タブの「Filters」領域、または「Saved Filters」ページに、フィルタが表示されます。

注意：「Edit Column Formula」ダイアログの「Column Formula」タブから「Create/Edit Filter」ダイアログにアクセスした場合は、「Insert Filter」ダイアログにフィルタが表示されます。詳細は、「[列式の編集](#)」（108 ページ）を参照してください。

注意：「Edit Column Formula」ダイアログの「Bins」タブから「Create/Edit Filter」ダイアログにアクセスした場合は、「Bins」タブにフィルタが表示されます。詳細は、「[列式の編集](#)」（108 ページ）を参照してください。

Oracle BI Answers での列フィルタの保存

フィルタは、リクエストの一部として保存することも、他のリクエストで再利用できるように保存することもできます。特定のリクエスト用に作成したフィルタは、リクエストを保存すると、そのリクエストの一部として保存され、リクエストを実行するたびに適用されます。フィルタは、他のリクエストでも使用できるように明示的に保存することもできます。

保存済フィルタと、サブジェクト領域に対するフィルタが含まれるフォルダは、サブジェクト領域の名前の後ろに表示されます。サブジェクト領域に対する保存済フィルタがない場合、またはユーザー名に適切な権限が割り当てられていない場合、ページのこの部分は空白になります。

列フィルタを Oracle BI リクエストの一部として保存するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、「Save Request」ボタンをクリックします。
- 2 「Choose Folder」ダイアログ・ボックスで、リクエストの保存場所を選択します。
- 3 リクエストの保存方法の詳細は、「[Oracle BI のリクエストの個人用フォルダまたは共有フォルダへの保存](#)」（39 ページ）を参照してください。

他の Oracle BI リクエストで使用できるように列フィルタを保存するには

- 1 「Criteria」タブの「Filters」領域で、保存するフィルタの「Save Filter」ボタンをクリックします。
- 2 「Choose Folder」ダイアログ・ボックスで、フィルタの保存先となるフォルダを選択します。
 - 個人用にフィルタを保存するには、「My Filters」をクリックします。
My Filters に保存したフィルタは、保存したユーザーしか使用できません。
 - 他のユーザーが使用できるようにフィルタを保存するには、「Shared Filters」をクリックします。
共有フォルダに保存したフィルタは、そのフォルダへのアクセス権限を持つ他のユーザーも使用できます。
- 3 サブフォルダを指定するには、次の操作のいずれかを実行します。
 - ナビゲートします。
 - 「Create Folder」をクリックして、新しいサブフォルダを作成します。
 - 「Folder」ボックスにパスを入力します。

- 4 フィルタの名前を入力します。
この名前は、選択ペインに表示されます。
- 5 (オプション) フィルタの説明を入力します。
説明は Oracle BI 管理者が Catalog Manager を使用するときに表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。
選択ペインで「Refresh Display」リンクをクリックすると、My Filters フォルダまたは共有フィルタ・フォルダの Filters フォルダにフィルタが一覧表示されます。

Oracle BI Answers で保存済フィルタのプロパティを表示するには

- 選択ペインでフィルタを探してクリックします。

Oracle BI リクエストへの保存済列フィルタの適用

保存済列フィルタは、リクエストに適用できます。フィルタの内容を適用することも、フィルタへの参照を適用することも可能です。

保存済列フィルタの内容を適用すると、そのフィルタの実際の内容が「Criteria」タブの「Filters」領域にコピーされます。そのため、保存済フィルタを変更しないで、フィルタ条件を操作できます。保存済フィルタへの参照を適用すると、保存済フィルタが名前のみに基づいて参照されます。フィルタは表示はできても、その内容は変更できません。

保存済列フィルタを Oracle BI リクエストに適用するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、保存済列フィルタを追加するリクエストを表示します。
- 2 選択ペインで、適切な Filters フォルダにナビゲートして、適用する保存済フィルタをクリックします。
「Apply Saved Filter」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 「Filter Options」領域で、目的のオプションがあれば指定します。
- 4 「OK」をクリックします。
「Criteria」タブの「Filters」領域に、フィルタが表示されます。

Oracle BI Answers での列フィルタの編集

ユーザー ID に適切な権限が割り当てられている場合は、列フィルタを編集してプロパティを変更できます。

Oracle BI Answers で列フィルタを編集するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブの「Filters」領域で、編集するフィルタのメニュー・ボタンをクリックし、「Edit Filter」を選択します。
「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注意: 「Edit Filter」オプションは、フィルタの編集権限が割り当てられている場合にのみ使用できます。

- 2 変更してから「OK」をクリックします。

Oracle BI Answers での列フィルタの式の編集

ユーザー ID に適切な権限が割り当てられている場合は、列フィルタの式を編集できます。

Oracle BI Answers でフィルタの列式を編集するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブの「Filters」領域で、式を編集するフィルタのメニュー・ボタンをクリックし、次のオプションを選択します。
Edit Column Formula
- 2 「Column Formula」タブの「Column Formula」領域に、式を入力します。
詳細は、「Help」ボタンをクリックしてください。

Oracle BI Answers での列フィルタの削除

Oracle BI リクエストのフィルタは、1 つだけ削除することも、すべて削除することもできます。

注意： フィルタが適用された状態で保存されていたリクエストの場合、フィルタを削除するには、リクエストを再保存します。

列フィルタを Oracle BI リクエストから削除するには

- Oracle BI Answers の「Criteria」タブの「Filters」領域で、次の操作のいずれかを実行します。
 - リクエストから 1 つのフィルタのみを削除するには、そのフィルタの「Delete」ボタンをクリックします。
 - リクエストからすべてのフィルタを削除するには、「Remove Filters」ボタンをクリックします。

Oracle BI Answers での列フィルタの結合

挿入句フィルタという列フィルタの結合を使用すると、SQL を知らなくても、複雑なフィルタを作成できます。

列フィルタは、AND 演算子と OR 演算子で結合できます。AND 演算子は、各フィルタに指定されている条件をすべて満たす必要があることを意味します。これは、列フィルタの結合に使用されるデフォルトの方法です。OR 演算子は、少なくとも 1 つの列フィルタに指定されている条件を満たす必要があることを意味します。

結合した列フィルタは保存できます。

Oracle BI Answers で列フィルタを結合するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、リクエストに 2 つ以上の列フィルタを追加します。または、保存済フィルタに 2 つ以上の列フィルタを追加します。
「Filters」領域に、追加したフィルタが AND 演算子で結合されて一覧表示されます。
- 2 AND 演算子を OR 演算子に変更するには、AND 演算子をクリックします。

- 3 列フィルタを追加したら、AND 演算子と OR 演算子をクリックしてフィルタをグループ化し、目的のフィルタの組合せを作成します。

結合されたフィルタ要素は、四角い枠で囲まれます。

- 4 枠で囲まれた要素の切取り、コピーまたはグループ解除を行うには、省略記号ボタンをクリックして、適切なオプションを選択します。

ナビゲーションおよびプロンプト実行中のフィルタの置換の防止

レポートのフィルタの内容は、ナビゲーションやプロンプトの実行中に影響を受けないように保護できます。保護されたフィルタは、常に結果に適用されます。

注意：保存済フィルタの内容は、そのフィルタを編集するだけで保護できます。ただし、Is Prompted 演算子は保護できません。

ナビゲーションおよびプロンプトの実行中にフィルタが変更されないように保護するには

- Oracle BI Answers の「Criteria」タブの「Filters」領域で、保護するフィルタのメニュー・ボタンをクリックし、「Protect Filter」オプションを選択します。

選択すると、このオプションの横にチェック・マークが表示されます。

関連項目

[「プロンプトによる Oracle BI リクエストのフィルタの簡略化」\(58 ページ\)](#)

プロンプトによる Oracle BI リクエストのフィルタの簡略化

フィルタは、リクエストを実行したときに表示される結果を制限します。Oracle BI Answers には、条件と一致する結果のみが表示されます。

フィルタ処理を簡略化するために、Oracle BI Answers には、ダッシュボード・プロンプトと条件プロンプトという 2 種類のプロンプトが用意されています。

- ダッシュボード・プロンプトは、ダッシュボードに埋め込まれたリクエストをフィルタする特殊なフィルタです。ダッシュボード・プロンプトは、フィルタと同じ列が含まれている埋込みリクエストをフィルタします。ダッシュボード内のすべての埋込みリクエストをフィルタすることも、同一ダッシュボード・ページ内の埋込みリクエストのみをフィルタすることもできます。

ダッシュボード・プロンプトでは、複数の列を使用して、この後にユーザーが行う選択の選択肢を制限できます。たとえば、最初の列で地域に基づくフィルタ、次の列で地区に基づくフィルタを実行する場合、ユーザーが選択した地域に含まれる地区のみが選択肢として表示されるように、地区の列を制限できます。ダッシュボード・プロンプトは、ユーザーごとにプログラマ的にカスタマイズできるように、動的に移入することも可能です。

- 条件プロンプトは、ユーザーが個々のリクエストに対して行う選択の助けとなります。条件プロンプトには、列フィルタ・プロンプトとイメージ・プロンプトの 2 種類があります。

- 列フィルタ・プロンプトは、リクエスト内の列に対する一般的なフィルタ機能です。列フィルタ・プロンプトでは、列のすべての選択肢を表示したり、ダッシュボード・プロンプトのように、列の選択肢を制限して表示できます。たとえば、リクエストに Region=East というフィルタが含まれている場合、City 列の選択肢は、East 地域に含まれる都市のみに制限されます。これにより、データが存在しなくなる可能性のある相互排他的なフィルタを選択することがなくなります。
- イメージ・プロンプトは、ユーザーがリクエストの条件を選択する際にクリックするイメージを表示します。たとえば、営業部門では、地図の画像から担当区域をクリックして販売情報を確認したり、製品画像をクリックしてその製品に関する販売情報を確認できます。HTML の <map> タグの使用方法がわかれば、イメージ・マップの定義を作成できます。

この項では、プロンプトを操作する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI リクエストへの列フィルタ・プロンプトの追加」(59 ページ)
- 「Oracle BI リクエストへのイメージ・プロンプトの追加」(61 ページ)

ダッシュボード・プロンプトの設定方法については、「Oracle BI リクエストのフィルタに使用するダッシュボード・プロンプトの作成」(63 ページ)を参照してください。

Oracle BI リクエストへの列フィルタ・プロンプトの追加

列フィルタ・プロンプトを使用すると、値を選択してリクエスト内の列をフィルタできます。選択可能なフィルタ値の範囲と、そのリクエストに対するフィルタ値の選択方法を定義できます。

列フィルタ・プロンプトは「Prompts」タブに表示されます。1つのリクエストに複数の列フィルタ・プロンプトを作成した場合、プロンプトはリストの先頭から順に実行されます。

Oracle BI Answers で列フィルタ・プロンプトを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、列フィルタ・プロンプトを追加するリクエストを表示し、「Prompts」タブをクリックします。
- 2 「Create Prompt」ドロップダウン・リストから「Column Filter Prompt」を選択します。
「Column Filter Prompt Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 「Caption」ボックスに、列フィルタ・プロンプトのキャプションを入力します。
このキャプションは、ユーザーの画面に表示されます。キャプションには、、、<table> などの HTML マークアップ・タグを入れることができます。
- 4 「Description」ボックスに説明を入力します。
説明は Oracle BI 管理者が Catalog Manager を使用するときに表示されます。
- 5 「Filter on Column」ドロップダウン・リストから、フィルタするリクエスト内の列を選択し、「Operator」ドロップダウン・リストから、使用する演算子を選択します。
ユーザーに演算子を選択させる場合は、演算子「*Prompt User」を選択します。
- 6 適切なオプションをクリックして、値の選択方法を指定します。
値は、ドロップダウン・リストから選択するか、選択肢を参照してテキスト・ボックスに入力することができます。

7 列フィルタ・プロンプトに対してユーザーが選択できる値を 1 つに制限するには、「Single Value Only」チェック・ボックスを選択します。

8 次の適切なオプションをクリックして、ユーザーの画面に表示する値を選択します。

- 値を表示しない場合は、「None」をクリックします。

この場合、値はユーザーが入力する必要があります。

- 選択可能な値をすべて表示する場合は、「All Values」をクリックします。

- 値のサブセットを表示する場合は、「Limited Values」をクリックします。

複数の列に対するプロンプトを作成する場合、またはリクエストにすでにフィルタが定義されている場合は、値を制限すると便利です。それにより、データが存在しないような値をユーザーが選択するのを避けることができます。たとえば、リクエストに country 列と city 列があり、すでに Country=France というフィルタが定義されているとします。この場合、city 列のフィルタに「Limited Values」を選択すると、選択肢はフランス国内の都市のみに制限されるため、Country=Italy や City=Paris のような相互排他的なフィルタを選択することが避けられます。

- SQL 文の結果に値を制限するには、「SQL Results」オプションをクリックし、テキスト・ボックスに SQL 文を入力します。

9 「Other Options」領域でオプションを選択します。

- 1 ページに表示する選択肢の数を明示的に制限するには、「Choices per page」ボックスにその数を入力します。

- ユーザーがフィルタの選択肢を制限できるようにするには、次のオプションの横にあるチェック・ボックスを選択します。

Allow user to constrain choices

選択肢を制限すると、ユーザーはフィルタとして使用する値を見つけやすくなります。たとえば、フィルタにフランス国内のすべての都市が含まれている場合に、フィルタの選択肢を P で始まる都市に制限することができます。

- ユーザーがこの列フィルタを省略できるようにするには、次のオプションの横にあるチェック・ボックスを選択します。

Allow user to skip prompt

これによって、「Skip Prompt」オプションが表示されます。ユーザーはこのオプションをクリックすることで、このフィルタの選択を省略できます。

10 終了したら「OK」をクリックします。

列フィルタ・プロンプトが「Prompts」タブに表示されます。

Oracle BI Answers で列フィルタ・プロンプトのプロパティを変更するには

1 「Properties」リンクをクリックして、「Column Filter Prompt Properties」ダイアログ・ボックスを表示します。

2 変更してから「OK」をクリックします。

Oracle BI Answers で列フィルタ・プロンプトの実行順序を上下に移動するには

- 「Move Up」リンクと「Move Down」リンクをクリックします。

これらのリンクが表示されるのは、「Prompts」タブに複数のプロンプトが表示されているときのみです。

Oracle BI Answers で列フィルタ・プロンプトを削除するには

- 「Delete」リンクをクリックします。

Oracle BI リクエストへのイメージ・プロンプトの追加

イメージ・プロンプトは、ユーザーがリクエストの条件を選択する際にクリックするイメージを表示します。たとえば、複数の製品画像から製品をクリックできるとします。選択した製品は、基礎となるリクエストのフィルタに使用されます。イメージ・プロンプトを作成するには、HTML の <map> タグを使用してイメージ・マップ定義を作成する方法を理解する必要があります。

イメージ・プロンプトは、Oracle BI Answers の「Prompts」タブに表示されます。1 つのリクエストに複数のイメージ・プロンプトを作成した場合、プロンプトはリストの先頭から順に実行されます。

Oracle BI Answers でイメージ・プロンプトを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers では、イメージ・プロンプトを追加するリクエストを表示し、「Prompts」タブをクリックします。
- 2 「Create Filter」ドロップダウン・リストから「Image Prompt」を選択します。
「Image Map Prompt Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 「Caption」ボックスに、イメージ・プロンプトのキャプションを入力します。
このキャプションは、ユーザーの画面に表示されます。キャプションには、、、<table> などの HTML マークアップ・タグを入れることができます。
- 4 「Description」ボックスに説明を入力します。
説明は Oracle BI 管理者が Catalog Manager を使用するときに表示されます。
- 5 「Image URL」ボックスに、画像の場所と名前を入力します。
ユーザーが単独で使用するイメージ・プロンプトの場合は、c:¥mycomputer¥temp¥map.gif など、自分しかアクセスできない場所を指定できます。他のユーザーも使用できるイメージ・プロンプトの場合は、¥¥ALLUSERS¥graphics¥map.gif など、汎用命名規則（UNC）に準拠した名前を指定します。
- 6 「HTML」ボックスに、HTML の適切な <map> タグとデータを入力します。
- 7 HTML からイメージ・マップ情報を抽出するには、「Extract Image Map from HTML」リンクをクリックします。
「Image Map Prompt Properties」ダイアログ・ボックスが拡大し、「HTML」ボックスに入力した領域のタイトル、形状および座標が表示されます。

- 各領域の「Column」ボックスに、ユーザーがクリックしたときに渡す列の名前と、使用する値を入力します。
注意：列には、< テーブル . 列名 > の形式で完全修飾列名を指定する必要があります。
 - スペースが含まれる列名は二重引用符で囲みます。次に例を示します。
 - "Country name"
 - "Units shipped"
- 8 終了したら「OK」をクリックします。
イメージ・プロンプトが「Prompts」タブに表示されます。
- 9 イメージ・プロンプトをプレビューするには、プレビュー・ボタン（使用できる場合）をクリックします。
注意：このプレビュー・ボタンがない場合、ボタンが表示されないように Oracle BI Presentation Services 管理者が設定しています。
- 10 画像の領域をクリックすると、その領域に作成された基礎となるフィルタが表示されます。「Refresh」リンクをクリックすると、結果を表示できます。フィルタ条件を変更した後で「Refresh」リンクを再びクリックすると、変更内容が結果に反映されます。

Oracle BI Answers でイメージ・プロンプトのプロパティを変更するには

- 1 「Properties」リンクをクリックして、「Image Map Prompt Properties」ダイアログ・ボックスを表示します。
- 2 変更してから「OK」をクリックします。

Oracle BI Answers でイメージ・プロンプトの実行順序を上下に移動するには

- 「Move Up」リンクと「Move Down」リンクをクリックします。
これらのリンクが表示されるのは、「Prompts」タブに複数のプロンプトが表示されているときのみです。

Oracle BI Answers でイメージ・プロンプトを削除するには

- 「Delete」リンクをクリックします。

関連項目

[「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」\(50 ページ\)](#)

Oracle BI リクエストのフィルタに使用するダッシュボード・プロンプトの作成

ダッシュボード・プロンプトを使用すると、埋込みリクエストの結果をフィルタして、プロンプト条件に一致する結果のみが表示されます。ダッシュボード・プロンプトでは、ダッシュボードに埋め込まれたすべてのリクエストをフィルタすることも、特定のダッシュボード・ページ内のリクエストのみをフィルタすることもできます。

ダッシュボード・プロンプトに使用する列と演算子を選択して、ダッシュボードでのプロンプトの表示方法と値の選択方法を指定します。ここでのユーザーの選択により、ダッシュボードまたはダッシュボード・ページに埋め込まれたレポートの内容が決まります。ダッシュボード・プロンプトに含める列はすべて、そのプロンプトでフィルタする各リクエストの投影リストまたはフィルタに含める必要があります。リクエスト内の列にフィルタを設定するか、フィルタ条件を Is Prompted に設定する必要があります。プロンプトに含まれていてもリクエストに含まれていない列では、リクエストをフィルタできません。

ダッシュボード・プロンプトに複数の列を含める場合は、この後にユーザーが行う選択の選択肢を制限できます。たとえば、ある列は Region、次の列は District に基づくフィルタを実行するとします。District の「Constrain」チェック・ボックスを選択すると、District 列を制約して、ユーザーが Region で選択したものと一致する地区のみが選択肢として表示されるようになります。ユーザーが Region プロンプトから east region を選択した場合は、District プロンプトには east region 内の地区のみが表示されます。

注意：制約列は、プロンプト内の他のすべての列によって制約されます。たとえば、プロンプトに Year 列、Region 列および District 列を定義して、District の「Constrain」チェック・ボックスを選択すると、District に表示される値は、Region および Year に入力した値によって制限されます。

変数と SQL 式を使用してダッシュボード・プロンプトを動的に移入し、ユーザーごとにプログラム的にカスタマイズすることもできます。変数は、Oracle BI Server Administration Tool で作成できます。動的または静的なリポジットリ変数のみでなく、セッション変数も作成できます。変数の詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

ダッシュボード・プロンプトで宣言されるプレゼンテーション変数も、レポートの様々な領域で参照できます。ダッシュボード・プロンプトで入力した値は、ダッシュボードに表示されるリクエストの結果に（プレゼンテーション変数を使用して）表示できます。変数の使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』のリクエストの操作に関する章を参照してください。

注意：作成する変数が、Oracle BI Server のデータに基づいて Oracle BI Publisher のレポートで使用するものである場合、変数名は、レポートに含めるパラメータ名と同じにする必要があります。

ダッシュボード・プロンプトを作成したら、My Folders の下の個人用フォルダ、または共有フォルダに保存します。個人用フォルダに保存したプロンプトは、保存したユーザーのダッシュボードでしか使用できません。共有フォルダに保存したプロンプトは、共有フォルダ内のオブジェクトの使用権限を持つ他のユーザーも使用できます。ダッシュボード・プロンプトを保存したら、ダッシュボードに追加することができます。

Oracle BI Answers でダッシュボード・プロンプトを作成するには

- 1 「Answers」リンクをクリックして、Oracle BI Answers のスタート・ページにナビゲートし、選択ペインの上部にある次のボタンをクリックします。

New Dashboard Prompt...

- 2 フィルタとして使用する列が含まれているサブジェクト領域を選択します。

「Dashboard Prompt」ページが表示されます。

注意：フィルタとして使用する列が、埋込みリクエストの列フィルタ・プロンプトにも定義されている場合は、ダッシュボード・プロンプトでその埋込みリクエストをフィルタするために、「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスでフィルタにその列の値を設定する必要があります。値を Is Prompted に設定すると、現在の列は事前にフィルタされなくなります。ダッシュボード・プロンプトに定義する列はすべて、同じサブジェクト領域のものである必要があります。また、ダッシュボード・プロンプトでフィルタする埋込みリクエストにも定義する必要があります。

- 3 「Scope」ドロップダウン・リストで、ダッシュボード・プロンプトをダッシュボード全体に適用するか、または特定のダッシュボード・ページに適用するかを指定します。

- 4 ダッシュボード・プロンプトでフィルタとして使用する列を選択するには、選択ペインでその列をクリックします。

ダッシュボード・プロンプトには複数の列を追加できます。

プロンプトから列を削除するには、その列の「Delete」ボタンをクリックします。

注意：ダッシュボード・プロンプトに追加する列の数によっては、パフォーマンスに影響が出る場合があります。たとえば、ドロップダウン・リストに値を表示する列には、Oracle BI Server にリストの移入を求めるリクエストが必要になります。通常の場合、列の数は 9 個未満に制限してください。

- 5 次のオプションを選択します。

- a 「Edit Formula」ボタンをクリックして、「Edit Column Formula」ダイアログ・ボックスを表示します。ここでは、列の式を変更できます。詳細は、「[列式の編集](#)」(108 ページ) を参照してください。

- b 「Operator」ドロップダウン・リストから、使用する演算子を選択します。

注意：作成するダッシュボード・プロンプトが、Oracle BI Server または SQL Server からデータを受信する Oracle BI Publisher のレポートで使用するものである場合、「Operator」は「is equal to/is in」に設定する必要があります。

- c 「Control type」を選択し、フィルタの値の選択方法を指定します。

値は、カレンダー、ドロップダウン・リストまたは複数の値リストから選択するか、編集ボックスに入力することができます。

- d ドロップダウン・リストを選択した場合は、「Show」リストで、ドロップダウン・リストに表示する値を指定します。

すべての値を表示することも、SQL 文を作成してドロップダウン・リストを特定の値に制限することもできます。

- e ある列の選択肢を、ユーザーがその前の列で選択した内容に応じて制限する場合は、「Constrain」チェック・ボックスを選択します。

- f 「Default to」リストで、ユーザーに初期値として表示する値を選択します。

レポートのデフォルト値、すべての選択肢または特定の値を表示できます。特定の値を選択した場合は、その値を入力できるフィールドが表示されます。

- 9 「Set Variable」リストでは、ダッシュボード・プロンプトに使用する変数を、サーバー・リクエスト変数とプレゼンテーション変数のどちらを使用して移入するかを選択できます。

このプロンプトに変数名を宣言しない場合は、フィールドを空白にしておきます。

このプロンプトの変数の宣言に「Server」または「Presentation」を選択した場合は、変数名を宣言するフィールドが追加表示されます。

注意：作成するダッシュボード・プロンプトが、Oracle BI Server または SQL Server からデータを受信する Oracle BI Publisher のレポートで使用する場合、「Set Variable」は「Presentation」に設定する必要があります。

サーバー変数を設定した場合は、初期化ブロックを通じて、サーバー変数が明示的にこの変数の値より優先されます。

たとえば、ドロップダウン・リストから「Presentation」を選択した場合、「myFavoriteRegion」のように入力してプレゼンテーション変数を宣言することができます。ここで宣言した変数は、ダッシュボードに表示したときに、リクエストおよび iBot で参照可能です。

変数の使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』のリクエストの操作に関する章を参照してください。

- h 「Label」ボックスに、フィルタのラベルとして使用する名前を入力します。

「Label」ボックスを空白にした場合は、列のラベルがフィルタのラベルとして使用されます。

- 6 プロンプト内の列の順序を変更するには、「Order By」ボタンをクリックします。

これによって、ユーザーに表示する選択肢の順序が制御されます。

- 7 選択したプロンプトと後続のすべてのプロンプトをフィルタ内の新しい行に表示する場合は、「Group」リストのボックスをクリックします。

- 8 プロンプトがダッシュボードでどのように表示されるかをプレビューするには、プレビュー・ボタン（使用できる場合）をクリックします。

注意：このプレビュー・ボタンがない場合、ボタンが表示されないように Oracle BI Presentation Services 管理者が設定しています。

ダッシュボード・プロンプトを保存するには

- 1 ダッシュボード・プロンプトの作成が終了したら、「Save」ボタンをクリックします。

- 2 「Choose Folder」ダイアログ・ボックスで、ダッシュボード・プロンプトにわかりやすい名前を付けて、個人用フォルダまたは共有フォルダに保存します。

ダッシュボード・プロンプトには、このプロンプトをダッシュボード全体に適用するか、または特定のダッシュボード・ページに適用するかを区別できる名前を付けると便利です。保存するダッシュボード・プロンプトが、Oracle BI Server または SQL Server からデータを受信する Oracle BI Publisher のレポートで使用する場合、ダッシュボード・プロンプトの名前は、そのレポートのパラメータ名と同じにする必要があります。

注意：個人用フォルダに保存したプロンプトは、保存したユーザーしか使用できません。共有フォルダに保存したプロンプトは、そのフォルダへのアクセス権限を持つ他のユーザーも使用できます。

- 3 (オプション) 「Description」ボックスに説明を入力します。
説明は Oracle BI 管理者が Catalog Manager を使用するときに表示されます。

ダッシュボード・プロンプトを編集するには

- 1 「Answers」リンクをクリックして、Oracle BI Answers のスタート・ページに移動します。
- 2 ダッシュボード・プロンプトを探します。
 - 選択ペインの「Catalog」タブで、プロンプトを保存したフォルダを開くと表示されます。
 - 「Dashboard」タブでは、プロンプトを追加したダッシュボードまたはダッシュボード・ページを開くと表示されます。
- 3 ダッシュボード・プロンプトをクリックして編集します。
ダッシュボード・プロンプトは、Dashboard Editor で編集することもできます。

ダッシュボード・プロンプトをダッシュボードまたはダッシュボード・ページに追加するには

- 1 Oracle BI Interactive Dashboards で、ダッシュボード・プロンプトの追加先とするダッシュボードまたは特定のダッシュボード・ページにナビゲートして、Dashboard Editor のリンクをクリックします。
Dashboard Editor が表示されます。
- 2 選択ペインの「Saved Content」領域で、追加するダッシュボード・プロンプトを含むフォルダにナビゲートします。
- 3 ダッシュボード・ページのセクションに、ダッシュボード・プロンプトをドラッグ・アンド・ドロップします。
ダッシュボード・プロンプトの有効範囲が「Dashboard」に設定されている場合は、ダッシュボード・プロンプトはダッシュボードのすべてのページに適用されますが、ダッシュボード・ページごとに表示されるわけではありません。ダッシュボード・プロンプトの有効範囲が「Page」に設定されている場合は、ダッシュボード・プロンプトは、追加先のページにしか影響を与えません。ダッシュボード・プロンプトの有効範囲が「Dashboard」に設定されている場合は、ダッシュボード・レベルのプロンプトに選択した値が、ページ・レベルのダッシュボード・プロンプトに指定した値より優先されます。

関連項目

[「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」\(50 ページ\)](#)

[「Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加」\(201 ページ\)](#)

保存済 Oracle BI リクエストのフィルタとしての使用

フィルタは、他のフィルタと組み合わせるだけでなく、別のリクエストから返された値に基づいて作成することもできます。保存済リクエストのうち、値の列を返すものであれば、リクエスト内で選択した列のフィルタに使用できます。

別の保存済リクエストの結果に基づいてフィルタを作成するには

- 1 「Filter on Saved Request」ダイアログ・ボックスで、「Relationship」ドロップダウン・リストから、結果とフィルタする列との関係を選択します。
- 2 参照して、目的の保存済リクエストにナビゲートするか、リクエストの完全なパスをテキスト・ボックスに入力します。
保存済リクエスト内に一致する列名がある場合は、その列名が「Use Values in Column」ドロップダウン・リストに表示されます。別の列を使用する場合は、かわりにその列を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。
「Criteria」タブの「Filters」領域に、フィルタが表示されます。

関連項目

[「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」\(50 ページ\)](#)

Oracle BI リクエストでの列フィルタの SQL の編集

論理 SQL の WHERE 句を編集して、フィルタとして使用することができます。この機能は、通常は必要ありませんが、高度なフィルタ機能を求めるユーザーのために用意されたものです。SQL 構文の総合的な説明は、サード・パーティの SQL に関するリファレンス・ブック、データベース・ベンダーの SQL に関するリファレンス・マニュアル、またはオンライン・リファレンス・サイトを参照してください。

列フィルタに生成された SQL を編集するには

- 1 列フィルタのダイアログで、「Advanced」ボタンをクリックして、次のメニュー・オプションを選択します。
Convert this filter to SQL
- 2 テキスト・ボックスに変更内容を入力してから「OK」をクリックします。
「Criteria」タブの「Filters」領域に、フィルタが表示されます。

Oracle BI Answers のフィルタの例

この項では、架空のデータソースに対する各種のサンプル・リクエストに、どのような SQL が使用されているかを示します。フィルタは WHERE 句で定義します。これらの例を参照して、フィルタを使用して取得できる情報の種類を確認してください。

ここに示す例を実際のリクエストに使用する場合は、実際の組織のデータソースで使用されているテーブル名および列名を参照するように、例を変更する必要があります。

例 1: 最も売上高が多い顧客の洗い出し

次のサンプル・リクエストでは、2003 年の売上高が上位 10 に入る顧客に関するデータが報告されます。

```
SELECT Customers.Customer, Periods.Year,
SalesFacts.Dollars, RANK(SalesFacts.Dollars),
Sales_YAgo.DollarsPctChgVsYago,
RANK(Sales_YAgo.DollarsYago)
FROM "SuppliersSales"
WHERE Periods.Year = 2003
AND RANK(SalesFacts.Dollars) <= 10 ORDER BY 4
```

例 2: 特定ブランドの売上げ報告

次のサンプル・リクエストでは、Fizzy Brands 社に関するデータが報告されます。

```
SELECT * from "SodaTable"
WHERE Product.Brand = 'Fizzy Brands'
```

例 3: 所定の金額より高い給与の報告

次のサンプル・リクエストでは、WHERE 句内のフィルタにより、出力対象が 75000（たとえば、米ドルの場合は 75,000 ドル）を上回る年収の従業員に絞り込まれます。

```
SELECT "Name.Lastname", "Name.Firstname",
"salary.YearlySalary" FROM "SalaryTable"
WHERE "salary.YearlySalary" > 75000
ORDER BY 3 DESC
```

例 4: East 地域の営業員のシェア

次のサンプル・リクエストでは、データが 2003 年の East 地域の顧客に絞り込まれます。

```
SELECT Periods.Year, Customers.Region,
Customers.SalesRep, SalesFacts.Dollars,
```



```
SalesFacts."ShareOfRegion$",  
Sales_YAgo."ShareOfRegion$YAgo"  
FROM "SupplierSales"  
WHERE Periods.Year = 2003  
AND Customers.Region = 'East'
```

例 5: 製品カテゴリ別の売上高の報告

次のサンプル・リクエストでは、ファクト・テーブルの最新日付における製品カテゴリ別の売上高が、ローカル通貨で報告されます。LatestSalesDate は、動的リポジットリ変数です。

```
SELECT Product."Product Category Name", "Facts -- Non Aggregatable".Currency, "Facts  
Local Currency".SalesAmount FROM Adventureworks1 WHERE Time.Date =  
VALUEOF(LatestSalesDate)
```

関連項目

[「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」\(50 ページ\)](#)

5

Oracle BI Answers の結果のフォーマット

この章では、結果のフォーマット方法について説明します。リクエストを実行した後、デフォルトのフォーマット・ルールを使用して結果がフォーマットされます。関連情報に焦点を絞り特定のデータ要素を注目させるように、結果に適用するフォーマットを詳細に指定できます。また、結果とダッシュボードの表示をカスタマイズすることもできます。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用」(72 ページ)
- 「Oracle BI Answers のカスタム日付 / 時刻フォーマット文字列の使用」(80 ページ)
- 「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」(84 ページ)

Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用

リクエストを作成する場合、列およびその内容の表示やレイアウトを制御するように列のプロパティを編集できます。列の内容が特定の条件を満たす場合のみ、フォーマットを適用するように指定することもできます。デフォルトでは、列を選択した場合、現在のリクエストにのみ適用されます。

ユーザー ID に適切な権限がある場合、選択内容をシステム全体のデフォルト設定として保存できます。これによって、その列からのデータまたは特定のデータ型の列からのデータが結果に表示されるたびに使用されるようになります。

この項では、列フォーマット関数の使用方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Answers における列コンテンツの表示の編集」 (72 ページ)
- 「Oracle BI Answers における列コンテンツのレイアウトの編集」 (73 ページ)
- 「Oracle BI Answers における列コンテンツのフォーマット」 (76 ページ)
- 「Oracle BI Answers における列コンテンツへの条件付フォーマットの適用」 (78 ページ)
- 「システム全体のデフォルトとしての Oracle BI Answers の列プロパティ設定の保存」 (79 ページ)

Oracle BI Answers における列コンテンツの表示の編集

結果における列コンテンツのデフォルト表示は、カスケード・スタイル・シート (CSS) および XML メッセージ・ファイルがベースになっています。「Column Properties」ダイアログ・ボックスの「Value Format」タブを使用して、いくつかのデフォルト設定 (使用するフォントやフォントのサイズ、コピーや貼付けの形式など) を上書きできます。選択内容は、操作中のリクエストの列コンテンツにのみ適用されます。

列コンテンツの表示を編集するには

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Value Format」タブをクリックします。
- 2 フォント、セル、境界、イメージおよびその他のフォーマット・オプションを選択します。

詳細は、「Oracle BI Answers における列コンテンツのフォーマット」 (76 ページ) を参照してください。

このタブで使用可能な表示フォーマットの詳細は、「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」 (84 ページ) を参照してください。

- 3 「Data Format」タブで、次のオプションを選択することにより、データの表示方法を制御できます。

Override Default Data Format

このオプションにより、デフォルトの表示特性を上書きできます。表示される選択オプションは、データ型によって異なります。たとえば、列に数値データがある場合、その数値データの処理方法 (パーセンテージ、月名、日付など) を選択できます。表示する小数の桁数、負の数の表示方法、表示桁数および 3 桁ごとの区切り文字を選択できます。列にテキストがある場合、テキストの処理方法 (プレーン・テキスト、HTML またはリンクなど) を選択できます。選択した内容によって、「Custom Text Format」テキスト・ボックスには、データの表示に使用可能な HTML 文字列が表示されます。

- テキストにカスタム・フォーマットを使用するには、ドロップダウン・リストから「Custom Text Format」を選択して、カスタム・フォーマットを入力します。特別なフォーマット処理を行う HTML コールを入力できます。また、JavaScript、VBScript などを含む有効な HTML 文字列を入力することもできます。

注意：最初の文字はアットマーク文字 (@) にする必要があります。これにより、カスタム・フォーマットで表示することができないデバイスが、適切なデフォルト・フォーマットでデータを表示できます。

たとえば、次のサンプル HTML では、テーブルおよびピボット・テーブルにおける列の幅および高さが設定されます。この例では、大カッコで囲まれた html 文字列 ([html]) は、HTML を使用することを意味し、アットマーク文字 (@) は、列コンテンツが動的であることを意味します。

```
@[html]<span style="width:200px; height:50px">@</span>
```

HTML、JavaScript、VBScript などの説明は、サード・パーティの資料を参照してください。

- カスタムの数値フォーマットを作成する場合、有効桁にシャープ記号 (#) を使用したり、数字の桁数が指定の桁数以上になるように数字のゼロ (0) を使用することができます。

たとえば、##.# と指定すると 12.34 は 12.3 と表示され、##.000 と指定すると 12.34 は 12.340 と表示されます。
- 4 日付や時刻の列を編集する場合、「Data Format」タブに「Display Time Zone」ドロップダウン・リストが表示されます。このドロップダウン・リストでその列に対して特定のタイムゾーンを選択し適用できます。これには次のオプションがあります。
- ドロップダウン・リストから「Default」タイムゾーン・オプションを選択した場合、管理者がデフォルトのタイムゾーンを指定していると、システムのデフォルト・タイムゾーンが列の時刻値の表示に使用されます。
 - ドロップダウン・リストから「Default」タイムゾーン・オプションを選択した場合でも、管理者がデフォルトのタイムゾーンを指定していないと、ユーザーの設定したタイムゾーンが列の時刻値の表示に使用されます。
 - ドロップダウン・リストから「Data」タイムゾーン・オプションを選択した場合、データベースから取得した元のデータが表示されます。
 - 特定のタイムゾーンを選択した場合（たとえば、「GMT +05:45 Kathmandu」）、管理者がシステムのデフォルト・タイムゾーンを指定していると、システムのデフォルト・タイムゾーンは選択したタイムゾーンに変換されます。
- 5 終了したら「OK」をクリックします。

Oracle BI Answers における列コンテンツのレイアウトの編集

「Column Properties」ダイアログ・ボックスの「Column Format」タブを使用して、次の作業を実行します。

- その列を結果に表示するかどうかを指定する作業。

列は通常、デフォルトで表示されます。ただし、列（フィルタの作成に使用する列など）が結果に表示されないようにリクエストすることもできます。
- 代替テーブルおよび列ヘッダーを割り当ててから、カスタム・フォーマットに適用する作業。

- 「TimeZone」アイコンを挿入する作業。このアイコンを日付や時刻の列に含めると、テーブルやピボット・ビューのタイムゾーン・ヘッダーに時計のアイコンが表示されます。ユーザーがこのアイコンをクリックすると、この列で使用されている表示タイムゾーンの名前が表示されます。
- 繰り返し列ラベルなどの重複データの表示を制御する作業。
 テーブルにおいてある列のデータは、そのテーブルの別の列にあるデータの行との関連で繰り返して表示されることがあります。たとえば、ある列で顧客名をリストし、別の列でその顧客が所在する地域をリストする場合、地域データは各顧客行に対して繰り返して表示されます。重複データは一度だけ表示するように選択することも、毎行表示するように選択することもできます。繰り返している重複データを一度だけの表示にすると、テーブルが若干読みやすくなり、そのデータの特徴をより明確にできます。
- ユーザーが結果を使用して操作する際に実行する処理（別のリクエストやダッシュボードへのナビゲーションなど）を指定する作業。

選択内容は、操作中のリクエストの列コンテンツにのみ適用されます。

列を結果において非表示にするには

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Column Format」タブをクリックします。
- 2 「Hide Column」チェック・ボックスを選択して、チェック・マークを付けます。

カスタム・テーブルおよび列ヘッダーを作成するには

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Column Format」タブをクリックします。
- 2 「Headings」領域で、「Custom Headings」チェック・ボックスを選択します。
 これにより、ヘッダー・テキストまたはヘッダー・フォーマット（またはテキストとフォーマットの両方）を変更できます。
- 3 テーブルまたは列のヘッダーのテキストを変更するには、適切なテキスト・ボックスに新しいヘッダーを入力します。
 デフォルトのヘッダーのかわりに、このリクエストのヘッダーが使用されます。

注意：また、「Column Heading Interaction」領域および「Value Interaction」領域で、他のリクエストまたはダッシュボードへのナビゲーションを指定することもできます。詳細は、「ユーザーが列をクリックしたときの処理を指定するには」（75 ページ）を参照してください。

- 4 テーブルまたは列のヘッダーのフォーマットを変更するには、テキスト・ボックスの横にある「Edit Format」ボタンをクリックします。
 「Edit Format」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 5 フォント、セル、境界およびスタイル・フォーマットの詳細オプションを選択します。
 詳細は、「Oracle BI Answers における列コンテンツのフォーマット」（76 ページ）および「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」（84 ページ）を参照してください。

「TimeZone」アイコンを挿入するには

この作業が完了すると、「TimeZone」アイコンが列に表示されるようになります。ユーザーが「TimeZone」アイコンをクリックすると、表示タイムゾーンの名前が表示されます。

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Column Format」タブをクリックします。
- 2 「Headings」領域で、「Show TimeZone」アイコンをクリックします。

重複データを抑止するには

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Column Format」タブをクリックします。
- 2 「Value Suppression」領域で、適切なオプションを選択します。
 - 繰返しデータを一度だけ表示し、重複行を抑止するには、「Suppress」をクリックします。
 - 繰返しデータを毎行表示するには、「Repeat」をクリックします。
 - デフォルトの表示特性のままにするには、「Default」をクリックします。

ユーザーが列をクリックしたときの処理を指定するには

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Column Format」タブをクリックします。
- 2 ユーザーが列をクリックしたときの処理を指定するには、適切なオプションをクリックします。
 - デフォルトの処理に戻すには、「Default」をクリックします。
 - ドリルダウン機能を有効にするには、「Drill」をクリックします。
 - (ユーザーが列ヘッダーまたは列値をクリックしたときに) 他の保存済リクエストまたはダッシュボードにナビゲートできるようにする手順は次のとおりです。
 - a (「Column Heading Interaction」領域または「Value Interaction」領域の)「Type」ドロップダウン・リストから「Navigate」を選択し、「Add Navigation Target」ボタンをクリックします。
「Target」と「Caption」のフィールドが表示されます。
 - b 「Browse」ボタンをクリックして「Choose Request/Dashboard」ダイアログ・ボックスを開き、リクエストまたはダッシュボードにナビゲートして「OK」をクリックすると、対象が選択されます。
 - c キャプションのテキストを「Caption」フィールドに入力します (オプション)。
ユーザーがレポートにある列ヘッダーまたは列値をクリックすると、キャプションのテキストが表示されます。
「Caption」フィールドにテキストが入力されていない場合、対象となるレポートやダッシュボードのタイトルが、キャプションとして表示されます。
 - d 複数の保存済リクエストやダッシュボードにナビゲートできるようにするには、「Add Navigation Target」ボタンをクリックしてから、前の手順を繰り返します。

- e 「OK」をクリックして変更を保存します。
ユーザーがレポートを表示して列ヘッダーまたは列値をクリックするときに、次のルールが適用されません。
- 他の保存済リクエストやダッシュボードの複数のナビゲーション・パスが存在する場合、ポップアップ・ウィンドウには、それぞれのリクエストやダッシュボードに対応するキャプションが表示されます。ここで、ユーザーがキャプションをクリックすると、目的のリクエストまたはダッシュボードにナビゲートします。
- ナビゲーション・パスが1つのみの場合は、そのリクエストまたはダッシュボードが表示されます。
- ドリルダウンやナビゲーションを無効にするには、「No Interaction」をクリックします。
- 書き込み機能を追加するには、「Write Back」をクリックします。

Oracle BI Answers における列コンテンツのフォーマット

「Edit Format」ダイアログ・ボックス（および「Column Properties」ダイアログ・ボックスの「Value Format」タブにあるオプション）を使用して、テーブルやピボット・テーブルなどの表形式のセル内に表示される列データのフォント、セル、境界およびスタイル・フォーマットの詳細オプションを選択します。また、テーブルおよび列のヘッダーの設定を選択することもできます。

注意：スタイル・フォーマットの詳細オプションを使用するには、カスケード・スタイル・シートの使用方法を理解している必要があります。

列のデフォルト・フォーマット・プロパティを上書きすると、選択した内容は静的になります。列に対して条件付フォーマット・プロパティを指定すると、条件が満たされた場合のみ選択した内容が適用されます。

水平方向および垂直方向の位置合せの選択は、ワード・プロセッサにおける行端揃え機能の選択と同様です。垂直方向の位置合せは、その列データの範囲が他の列にある複数の行に及ばないかぎり、影響はありません。

設定をシステムのデフォルトとして保存する場合、保存場所はすべてのユーザーがアクセス可能な場所にする必要があります。詳細は、「システム全体のデフォルトとしての Oracle BI Answers の列プロパティ設定の保存」(79 ページ) を参照してください。

- 1 「Font」領域で、フォント・ファミリー、サイズ、色、スタイル（太字など）およびその他の適用する設定（下線など）を選択します。
- 2 「Cell」領域で、位置合せを選択します。
 - 水平方向の位置合せの場合、次の表に記載されたオプションのいずれかを選択します。

オプション	使用方法
Left	左側にデータの位置を合せます。これは、テキスト・データで最も一般的な行端揃え方法です。
Right	右側にデータの位置を合せます。これは、数値データで最も一般的な行端揃え方法です。
Center	データを中央に配置します。
Default	この列に関連付けられたデータ位置合せをデフォルトのままにします。

- 垂直方向の位置合せの場合、次の表に記載されたオプションのいずれかを選択します。

オプション	使用方法
Top	データをテーブルのセルの上揃えにします。
Bottom	データをテーブルのセルの下揃えにします。
Center	データをテーブルのセルの中央揃えにします。
Default	この列に関連付けられた垂直位置合せをデフォルトのままにします。

- 3 「Cell」領域で、セルの中に表示するイメージを選択するには、「Image」ボタンをクリックします。

「Graphics」ダイアログが開きます。

- イメージを表示しない場合は、「No Image」オプションをクリックします。
- カスタム・イメージを挿入するには、「Custom Image」オプションをクリックして、適切なパスをテキスト・ボックスに指定します。

イメージは、結果を表示するすべてのユーザーがアクセス可能である必要があります。カスタム・イメージは、条件付きの結果にも無条件の結果にも使用できます。

- Oracle BI Answers に同梱されているイメージを挿入するには、グラフィック選択ウィンドウでイメージの横にあるラジオ・ボタンを選択します。
このウィンドウには、メーターや傾向の矢印など、条件付フォーマットに役立つイメージが表示されます。左ペインには、イメージのカテゴリが表示されます。イメージのカテゴリをクリックすると、右ペインにそのカテゴリのイメージが表示されます。
- セルにおけるイメージの位置を指定するには、「Image Placement」ドロップダウン・リストを使用して、次の表に記載されたオプションのいずれかを選択します。

オプション	使用方法
Default	イメージをデフォルトの位置に表示します。これは、通常、列データまたはヘッダーの左側です。
Images Left	イメージを列データまたはヘッダーの左側に表示します。
Images Right	イメージを列データまたはヘッダーの右側に表示します。
Images Only	イメージのみを表示し、列データやヘッダーは表示しません。

- 4 「Cell」領域で、セルの背景色を選択します。
- 5 「Border」領域で、セルにおける境界の位置、色およびスタイルを選択します。
- 6 Oracle BI スタイル・シートで指定されたスタイル要素とクラス要素よりも優先して適用する場合は、「Advanced Style Options (CSS)」領域で選択します。
 - a 使用する設定をクリックします。
 - b クラス、スタイルまたはスタイル・シートの場所を指定します。
- 7 終了したら「OK」をクリックします。

Oracle BI Answers における列コンテンツへの条件付フォーマットの適用

テーブルおよびピボット・テーブルの条件付フォーマットは、特定の条件を満たすデータ要素に注意を向ける際に役立ちます。たとえば、ノルマが達成されていない営業成績の数値を特定の色で表示したり、ノルマに対し一定のパーセンテージを超えた各営業担当者の名前の横にトロフィなどのイメージを表示することができます。

そのためには、リクエストで使用する列を 1 つ以上選択し、必要な条件を指定して、条件を満たしたときに適用するフォント、セル、境界およびスタイル・シートのオプションを選択します。データの条件付フォーマットおよびそのデータが格納されるテーブルのセルの条件付フォーマットには、色、フォント、イメージなどがあります。条件を指定する手順は、フィルタの作成手順と非常に似ています。

データの値に基づいてデータまたはテーブルのセルに複数のフォーマットの 1 つが表示されるように複数の条件を追加できます。たとえば、ノルマが達成されていない営業成績の数値をある色で表示し、ノルマが達成された営業成績の数値は別の色で表示することができます。

従来のテーブルとピボット・テーブルでは、条件付フォーマットに微妙な差異がいくつかあります。ある列の値に基づいて別の列をフォーマットする条件付フォーマットは、ピボット・テーブルには反映されませんが、標準のテーブルには反映されます。たとえば、地域の売上高に基づいてその地域名の色を設定する場合、ピボット・テーブルには反映されません。ただし、売上データの値に基づいて売上データの色を設定する場合は、ピボット・テーブルに反映されます。実際の名前に基づいて地域名の色を設定する場合なども同様です（東部地域は太字の色付きで値を表示するなど）。

注意：ピボット・テーブルでは、テーブルで計算または集計された値に対して条件が評価されます。条件付フォーマットは、データをパーセンテージや指標として表示するように「Show As」オプションを選択した場合でも、基になる値に対して適用されます。

選択内容は、操作中のリクエストの列コンテンツにのみ適用されます。

リクエストにおいて条件付フォーマットを列に追加するには

- 1 Oracle BI Answers で、列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開いてから、「Conditional Format」タブをクリックします。
- 2 「Add Condition」ボタンをクリックして、リクエストで条件の作成に使用する目的の列を選択します。「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスが開きます。

注意：「Conditional Format」タブから「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスにアクセスする場合、ダイアログ・ボックスには条件付フォーマットに適用されるオプションのみが表示されます。たとえば、「Operator」ドロップダウン・リストには、条件付フォーマットで使用される演算子のサブセットが表示され、プレゼンテーション変数にのみ適用できます。

「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスの使用の詳細は、「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」(50 ページ) を参照してください。

「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックすると、「Edit Format」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 フォント、セル、境界、イメージおよびスタイル・フォーマットの詳細オプションを選択します。詳細は、「Oracle BI Answers における列コンテンツのフォーマット」(76 ページ) を参照してください。

注意：イメージを条件付フォーマットの一部として指定すると、条件に応じて結果に表示されます。

4 終了したら「OK」をクリックして、「Column Properties」ダイアログ・ボックスに戻ります。

5 終了したら「OK」をクリックするか、別の条件を指定します。

「Column Properties」ダイアログ・ボックスには、条件だけでなく適用対象の条件付フォーマットも表示されます。

列はリストされる順に評価されます。

6 列の順序を変更するには、「Move Up」または「Move Down」のボタンをクリックします。

7 列を条件から削除するには、「Delete」ボタンをクリックします。

8 条件または条件付フォーマットを編集するには、編集対象をクリックします。

条件付フォーマットを Oracle BI の結果に適用する例

次の例では、条件付フォーマットを結果に適用する方法について説明します。

リクエストに 10 のランキング・カテゴリがあり、列の値が 1 の場合に最低ランキングを示し、値が 10 の場合に最高ランキングを示すものとします。次のイメージを表示するように条件付フォーマットを適用します。

- 値が 1、2 または 3 である列に低ランクを示すイメージ。
- 値が 4、5、6 または 7 である列に平均ランクを示す別のイメージ。
- 値が 8、9 または 10 である列に高ランクを示す 3 番目のイメージ。

「Graphics」ダイアログ・ボックスで「Images Only」イメージ配置オプションを選択すると、結果にはその列のイメージのみが表示され、ランキング番号は表示されません。

システム全体のデフォルトとしての Oracle BI Answers の列プロパティ設定の保存

ユーザー ID に適切な権限があると、「Column Properties」ダイアログ・ボックスの「Value Format」タブ、「Column Format」タブおよび「Conditional Format」タブで設定を保存できます。この設定は、特定の列に対するシステム全体で使用するデフォルトとして使用するためや、特定のデータ型の列に対するシステム全体で使用するデフォルトとして使用するための設定です。設定保存後のリクエストで、この列またはこのデータ型の列を使用するすべてのユーザーは、デフォルトでこれらのタブの設定を使用します。

システム全体のデフォルトとして設定を保存するには

- Oracle BI Answers の「Column Properties」ダイアログ・ボックスで「Save」ボタンをクリックして選択を行います。

注意：「Save」ボタンは、適切な権限を持つユーザーのみが使用できます。

関連項目

[「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」\(84 ページ\)](#)

Oracle BI Answers のカスタム日付 / 時刻フォーマット文字列の使用

カスタムの日付 / 時刻フォーマット文字列により、タイムスタンプ、日付および時刻が格納される列のフォーマットに、追加オプションが用意されます。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Answers の一般的なカスタム・フォーマット文字列」(80 ページ)
- 「Oracle BI Answers の ODBC カスタム・フォーマット文字列」(81 ページ)
- 「Oracle BI Answers の整数フィールドのカスタム・フォーマット文字列」(82 ページ)
- 「時に変換するための Oracle BI Answers カスタム・フォーマット文字列」(82 ページ)
- 「時と分に変換するための Oracle BI Answers カスタム・フォーマット文字列」(83 ページ)
- 「時、分および秒に変換するための Oracle BI Answers カスタム・フォーマット文字列」(83 ページ)

カスタムの日付 / 時刻フォーマット文字列を Oracle BI Answers で入力するには

- 1 Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、タイムスタンプ、日付または時刻が格納される列に対応する「Format Column」ボタンをクリックします。
「Column Properties」ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 「Data Format」領域で次のオプションを選択します。
Override Default Data Format
- 3 「Date Format」フィールドで、ドロップダウン・リストから「Custom」を選択します。
- 4 「Custom Date Format」フィールドで、次の表に示すように、左大カッコ文字と右大カッコ文字 ([]) を含めてカスタム・フォーマット文字列を正確に入力します。
注意： カスタム・フォーマット文字列は「Custom Date Format」フィールドに入力する必要があります。カスタム・フォーマット文字列は、ドロップダウン・リストから選択するものではありません。

Oracle BI Answers の一般的なカスタム・フォーマット文字列

表 8 に、一般的なカスタム・フォーマット文字列とその表示結果を示します。これにより、日付 / 時刻フィールドはユーザーのロケールで表示できるようになります。

表 8. 一般的なカスタム・フォーマット文字列

一般的なフォーマット文字列	表示結果
[FMT:dateShort]	ロケールの短い日付書式で日付の書式をフォーマットします。[FMT:date] と入力することもできます。
[FMT:dateLong]	ロケールの長い日付書式で日付の書式をフォーマットします。
[FMT:dateInput]	システムに入力可能な書式で日付の書式をフォーマットします。
[FMT:time]	ロケールの時刻書式で時刻の書式をフォーマットします。

表 8. 一般的なカスタム・フォーマット文字列

一般的なフォーマット文字列	表示結果
[FMT:timeHourMin]	ロケールの時刻書式で時刻の書式をフォーマットしますが、秒は省略します。
[FMT:timeInput]	システムに入力可能な書式で時刻の書式をフォーマットします。
[FMT:timeInputHourMin]	システムに入力可能な書式で時刻の書式をフォーマットしますが、秒は省略します。
[FMT:timeStampShort]	[FMT:dateShort] [FMT:time] と入力したものと同じです。これにより、ロケールの短い日付書式における日付とロケールの時刻書式における時刻で書式がフォーマットされます。[FMT:timeStamp] と入力することもできます。
[FMT:timeStampLong]	[FMT:dateLong] [FMT:time] と入力したものと同じです。これにより、ロケールの長い日付書式における日付とロケールの時刻書式における時刻で書式がフォーマットされます。
[FMT:timeStampInput]	[FMT:dateInput] [FMT:timeInput] と入力したものと同じです。これにより、システムに入力可能な書式で日付と時刻の書式がフォーマットされます。
[FMT:timeHour]	ロケールの書式において時間フィールドの書式のみフォーマットします（たとえば、8 PM など）。

Oracle BI Answers の ODBC カスタム・フォーマット文字列

表 9 に、ODBC 標準型のカスタム・フォーマット文字列とその表示結果を示します。これらにより、ODBC 標準に準拠した日付 / 時刻フィールドが表示されます。

表 9. ODBC カスタム・フォーマット文字列

ODBC フォーマット文字列	表示結果
[FMT:dateODBC]	標準 ODBC の yyyy-mm-dd 形式（年が 4 桁、月が 2 桁、日が 2 桁）で日付の書式をフォーマットします。
[FMT:timeODBC]	標準 ODBC の hh:mm:ss 形式（時、分、秒がそれぞれ 2 桁）で時刻の書式をフォーマットします。
[FMT:timeStampODBC]	[FMT:dateODBC] [FMT:timeStampODBC] と入力したものと同じです。これにより、yyyy-mm-dd 形式の日付と hh:mm:ss 形式の時刻で書式がフォーマットされます。
[FMT:dateTyped]	<i>date</i> という単語の後に標準 ODBC の yyyy-mm-dd 形式で日付が表示されます。日付は一重引用符 (') で囲まれて表示されます。
[FMT:timeTyped]	<i>time</i> という単語の後に標準 ODBC の hh:mm:ss 形式で時刻が表示されます。時刻は一重引用符 (') で囲まれて表示されます。
[FMT:timeStampTyped]	<i>timestamp</i> という単語の後に標準 ODBC の yyyy-mm-dd hh:mm:ss 形式でタイムスタンプが表示されます。タイムスタンプは一重引用符 (') で囲まれて表示されます。

Oracle BI Answers の整数フィールドのカスタム・フォーマット文字列

表 10 に、整数フィールドを操作する際に使用可能なカスタム・フォーマット文字列を示します。これにより、月および曜日の名前はユーザーのロケールで表示できるようになります。

整数フィールドには、月や曜日を表す整数が入ります。月の場合、1 は 1 月を表し、2 は 2 月を表し、それ以降同様に 12 月まで続きます。曜日の場合、1 は日曜を表し、2 は月曜を表し、それ以降同様に 7（土曜を表す）まで続きます。

表 10. 整数フィールドのフォーマット文字列

整数フィールドのフォーマット文字列	表示結果
[MMM]	月の名前の省略形をユーザーのロケールで表示します。
[MMMM]	月のフルネームをユーザーのロケールで表示します。
[DDD]	曜日名の省略形をユーザーのロケールで表示します。
[DDDD]	曜日名のフルネームをユーザーのロケールで表示します。

時に変換するための Oracle BI Answers カスタム・フォーマット文字列

表 11 に、データの書式を時刻の時にフォーマットするために使用できるカスタム・フォーマット文字列を示します。これらは、次のようなフィールドで使用できます。

- その日の開始時刻（12:00 AM）からの経過時間を表す整数または実数が格納されるフィールド。
- 80 ページの表 8 の説明にある、[FMT:timeHour] 形式で出力されるフィールド。この形式では、時間のフィールドのみをロケールの形式で表示します（たとえば、8 PM など）。

表 11. 時に変換するためのフォーマット文字列

データ変換フォーマット文字列	表示結果
[FMT:timeHour]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（時間単位）を示すことが前提となります。この時間の長さは hh 表示に書式がフォーマットされます。ここで、hh は時間の長さを示します。端数はこの値から切り捨てられます。たとえば、この値が 2 の場合は 2 AM にフォーマットされます。この値が 12.24 の場合は、12 PM にフォーマットされます。
[FMT:timeHour(min)]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（分単位）を示すことが前提となります。この時間の長さは hh 表示に書式がフォーマットされます。ここで、hh は時間の長さを示します。端数はこの値から切り捨てられます。たとえば、この値が 2 の場合は 12 AM にフォーマットされます。この値が 363.10 の場合は、06 AM にフォーマットされます。
[FMT:timeHour(sec)]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（秒単位）を示すことが前提となります。この時間の長さは hh 表示に書式がフォーマットされます。ここで、hh は時間の長さを示します。時間の端数部分は値から切り捨てられます。たとえば、この値が 600 の場合は 12 AM に、この値が 3600 の場合は 1 AM に、この値が 61214.30 の場合は 5 PM に、それぞれフォーマットされます。

時と分に変換するための Oracle BI Answers カスタム・フォーマット文字列

表 12 に、データの書式を時刻の時と分にフォーマットするために使用できるカスタム・フォーマット文字列を示します。これらは、その日の開始時刻（12:00 AM）からの経過時間を表す整数または実数が格納されるフィールドに使用できます。

これらは、80 ページの表 8 の説明にある、[FMT:timeHourMin] 形式で出力される箇所にも使用できます。このフォーマットでは、時刻がロケールの時刻書式で表示されますが、秒は省略され表示されません。

表 12. 時と分に変換するためのフォーマット文字列

データ変換フォーマット文字列	表示結果
[FMT:timeHourMin]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（分単位）を示すことが前提となります。この値は hh:mm 表示に変換されます。ここで、hh は時間、mm は分を示します。端数はこの値から切り捨てられます。たとえば、この値が 12 の場合は 12:12 AM に、この値が 73 の場合は 1:13 AM に、この値が 750 の場合は 12:30 PM に、それぞれフォーマットされます。
[FMT:timeHourMin(sec)]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（秒単位）を示すことが前提となります。この値は hh:mm 表示に変換されます。ここで、hh は時間、mm は分を示します。端数はこの値から切り捨てられます。たとえば、この値が 60 の場合は 12:01 AM に、この値が 120 の場合は 12:02 AM に、この値が 43200 の場合は 12:00 PM に、それぞれフォーマットされます。
[FMT:timeHourMin(hour)]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（時間単位）を示すことが前提となります。この時間の長さは hh:mm 表示に変換されます。ここで、hh は時間、mm は残りの分を示します。たとえば、この値が 0 の場合は 12:00 AM に、この値が 1.5 の場合は 1:30 AM に、この値が 13.75 の場合は 1:45 PM に、それぞれフォーマットされます。

時、分および秒に変換するための Oracle BI Answers カスタム・フォーマット文字列

表 13 に、データの書式を時刻の時、分および秒にフォーマットするために使用できるカスタム・フォーマット文字列を示します。これらは、時刻を表す整数または実数が格納されるフィールドに使用できます。

これらは、「Oracle BI Answers の一般的なカスタム・フォーマット文字列」（80 ページ）の説明にある、[FMT:time] 形式で出力される箇所にも使用できます。このフォーマットは、時刻がロケールの時刻形式で表示されます。

表 13. 時、分および秒に変換するためのフォーマット文字列

データ変換フォーマット文字列	表示結果
[FMT:time]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（秒単位）を示すことが前提となります。この値は hh:mm:ss 表示に変換されます。ここで、hh は時間、mm は分、ss は秒を示します。たとえば、この値が 60 の場合は 12:01:00 AM に、この値が 126 の場合は 12:02:06 AM に、この値が 43200 の場合は 12:00:00 PM に、それぞれフォーマットされます。
[FMT:time(min)]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（分単位）を示すことが前提となります。この値は hh:mm:ss 表示に変換されます。ここで、hh は時間、mm は分、ss は秒を示します。たとえば、この値が 60 の場合は 1:00:00 AM に、この値が 126 の場合は 2:06:00 AM に、この値が 1400 の場合は 11:20:00 PM に、それぞれフォーマットされます。
[FMT:time(hour)]	これは、値がその日の開始時刻から経過した時間の長さ（時間単位）を示すことが前提となります。この値は hh:mm:ss 表示に変換されます。ここで、hh は時間、mm は分、ss は秒を示します。たとえば、この値が 6.5 の場合は 6:30:00 AM にフォーマットされます。この値が 12 の場合は 12:00:00 PM にフォーマットされます。

結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用

表示フォーマットは、結果およびダッシュボードの表示に影響します。表示フォーマットを適用する以外に、表示フォーマットの属性をコピーしてから貼り付けたり、フォーマットされたリクエストを保存してスタイル・テンプレートとして使用することもできます。この項の内容は次のとおりです。

- 「レポートおよびダッシュボードの表示のカスタマイズ」(84 ページ)
- 「表示フォーマット属性のコピー、貼付けおよびクリア」(86 ページ)
- 「保存済リクエストを他のリクエストの表示のスタイル・テンプレートとして使用する方法」(86 ページ)

レポートおよびダッシュボードの表示のカスタマイズ

Oracle BI Answers および Dashboard Editor の表示フォーマット・ダイアログ・ボックスでは、レポートおよびダッシュボードの表示属性へのアクセスおよび制御を行う手段が用意されています。フォーマットするオブジェクトによっては、ダイアログ・ボックスに、フォント、セルおよび境界の制御、背景色、詳細なフォーマット・オプション（セル・パディングなど）、HTML のカスタム CSS スタイル・オプションなど、様々なオプションが表示されます。

Oracle BI Interactive Dashboards の表示フォーマットは、ダッシュボードの列やセクションの表示（背景色や境界など）に影響します。Oracle BI Answers の表示フォーマットは、オブジェクトの表示（テーブルの列やタイトルのサイズなど）に影響します。

水平方向および垂直方向の位置合せの選択は、ワード・プロセッサの行端揃え機能の選択と同様です。垂直方向の位置合せは、その列データの範囲が他の列にある複数の行に及ばないかぎり、影響はありません。

次の手順では、表示フォーマット・ダイアログ・ボックスのアクセス方法と使用方法について説明します。

一般的なフォーマット・ダイアログ・ボックスにアクセスするには

- 次の操作のいずれかを実行します。
 - Dashboard Editorで、列またはセクションの「Properties」ボタンをクリックして、「Format Column」または「Format Section」を選択します。
 - Oracle BI Answersで、表示フォーマットをサポートするビューにある表示フォーマット・ボタンをクリックします。
- 注意：** テーブル・ビューで列のフォーマットを行うボタンをクリックしてから「Value Format」タブを使用することもできます。ピボット・テーブル・ビューでセクション・プロパティ・ボタンをクリックしてから「Section Properties」タブを使用することもできます。

表示フォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。

表示フォーマット・ダイアログ・ボックスを使用するには

- 1 「Font」領域で、フォント・ファミリー、サイズ、色、スタイル（太字など）およびその他の適用する設定（下線など）を選択します。
- 2 「Cell」領域で、位置合せを選択します。
 - 水平方向の位置合せの場合、次の表に記載されたオプションのいずれかを選択します。

オプション	使用方法
Left	左側にデータの位置を合せます。これは、テキスト・データで最も一般的な行端揃え方法です。
Right	右側にデータの位置を合せます。これは、数値データで最も一般的な行端揃え方法です。
Center	データを中央に配置します。
Default	デフォルトのデータ配置のままにします。

- 垂直方向の位置合せの場合、次の表に記載されたオプションのいずれかを選択します。

オプション	使用方法
Top	データを上揃えにします。
Bottom	データを下揃えにします。
Center	データを中央揃えにします。
Default	デフォルトの垂直位置合せのままにします。

- 3 「Cell」領域で、背景色を選択します。
- 4 「Border」領域で、セルにおける境界の位置、色およびスタイルを選択します。
ヒント: 「Position」ドロップダウン・リストの近くの上下左右の境界をクリックして、カスタム境界の選択や選択解除を行うことができます。
- 5 Oracle BI スタイル・シートで指定されたスタイル要素とクラス要素よりも優先して適用する場合は、「Advanced Style Options (CSS)」領域で選択します。
 - a 使用する設定をクリックします。
 - b クラス、スタイルまたはスタイル・シートの場所を指定します。**注意:** スタイル・フォーマットの詳細オプションを使用するには、カスケード・スタイル・シートの使用方法を理解する必要があります。
- 6 終了したら「OK」をクリックします。

表示フォーマット属性のコピー、貼付けおよびクリア

Oracle BI Answers では、オブジェクト（テーブルの列など）に適用する表示フォーマット属性の範囲をコピーして、同じ型のオブジェクト（同じテーブルにある別の列や別のテーブルにある列など）に貼り付けることができます。また、デフォルトの表示に戻すこともできます。

コピーと貼付けがサポートされるビューには、テーブル、ピボット・テーブルおよびグラフ・ビューがあります。

フォーマット属性をコピーして貼り付けるには

- 1 コピー元フォーマットが含まれるオブジェクト（行、列、テーブルのセルなど）を選択します。
- 2 表示フォーマット・ダイアログ・ボックスにアクセスして、フォーマット・コピーのボタンをクリックします。
- 3 フォーマットの貼付け先オブジェクトを選択して、表示フォーマット・ダイアログ・ボックスにアクセスし、フォーマット貼付けのボタンをクリックします。

デフォルト表示に戻すには

- オブジェクトの表示フォーマット・ダイアログ・ボックスにアクセスして、フォーマット・クリアのボタンをクリックします。

保存済リクエストを他のリクエストの表示のスタイル・テンプレートとして使用する 方法

Oracle BI Answers では、リクエストの表示をカスタマイズしてから保存した後に、テンプレートとして使用できます。これにより、フォーマットを保存済リクエストから新規リクエストや既存リクエストに適用することができます。

保存したリクエストをテンプレートとして使用することがサポートされているビューには、テーブル、ピボット・テーブルおよびグラフ・ビューがあります。

保存したリクエストをテンプレートとして使用するには

- 1 ビュー・フォーマットをインポートするボタン（ワークスペース上部にある）をクリックします。



- 2 「Choose Request」ダイアログ・ボックスで、保存されたリクエストにナビゲートし、「OK」をクリックします。
- 3 「Saved Results」リンクまたはダッシュボード・プレビュー・ボタンをクリックすると、結果があれば表示されます。

注意：このプレビュー・ボタンがない場合、ボタンが表示されないように Oracle BI Presentation Services 管理者が設定しています。

6

Oracle BI Answers での Oracle BI ビューの操作

この章では、Oracle BI ビューの作成方法および変更方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI ビューについて」(90 ページ)
- 「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」(95 ページ)
- 「Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューを使用して収集したビューのダッシュボードへの表示」(101 ページ)
- 「Oracle BI タイトル・ビューを使用した、結果へのタイトルの追加」(103 ページ)
- 「Oracle BI テーブル・ビューを使用した、結果へのテーブルの追加」(105 ページ)
- 「列式の編集」(108 ページ)
- 「Oracle BI グラフ・ビューを使用したグラフの結果の表示」(112 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブル・ビューを使用したピボット・テーブルの結果の表示」(129 ページ)
- 「Oracle BI ゲージ・ビューを使用したゲージとしての結果の表示」(140 ページ)
- 「結果に適用されるフィルタの Oracle BI フィルタ・ビューを使用した表示」(147 ページ)
- 「Oracle BI 列セレクト・ビューを使用したリクエスト内の列変更の許可」(148 ページ)
- 「ビュー・セレクト・ビューを使用した特定のビューの選択の許可」(148 ページ)
- 「Oracle BI 凡例ビューを使用した結果への凡例の追加」(149 ページ)
- 「Oracle BI ファンネル・グラフ・ビューを使用したファンネル・グラフの結果の表示」(150 ページ)
- 「Oracle BI 説明ビューを使用した結果への説明テキストの追加」(151 ページ)
- 「Oracle BI ティッカ・ビューを使用したスクロール・ティッカでの結果の表示」(154 ページ)
- 「Oracle BI 静的テキスト・ビューを使用した結果へのテキストの追加」(157 ページ)
- 「Oracle BI 結果なしのビューを使用したユーザーへのアラート」(159 ページ)
- 「Oracle BI 論理 SQL ビューを使用したリクエストの論理 SQL の表示」(160 ページ)
- 「Oracle BI セグメントの作成ビューを使用した Oracle Siebel Marketing でのセグメントの作成」(161 ページ)
- 「Oracle BI ターゲット・リストの作成ビューを使用した連絡先およびアカウントのリストの作成」(162 ページ)

Oracle BI ビューについて

この項では、Oracle BI ビューの一般情報とビューの結果の処理方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI ビューの概要」(90 ページ)
- 「Oracle BI ビューの説明」(91 ページ)
- 「Oracle BI カスタム・フォーマットを使用したデータ型のフォーマットとデータ駆動ナビゲーションの構成」(95 ページ)
- 「Oracle BI での結果のドリルダウン」(95 ページ)

Oracle BI ビューの概要

ビューでは、Oracle BI Presentation Services の表示機能を使用して、その結果を直感的で意味のある方法で参照することが可能です。たとえば、グラフやピボット・テーブルなど、多彩な形式で結果を表示できます。また、それらをドリルダウンして、詳細な情報、説明テキスト、結果の範囲を限定するフィルタ・リストなどを取得できます。

新しいリクエストを実行すると、結果がテーブルに表示され、デフォルトでテーブルの前にタイトルが表示されます (Oracle BI Presentation Services 管理者が組織内で別の結果ビューをデフォルトで構成している場合があります)。そのために、タイトル・ビューで保存されたリクエストが、テーブル・ビューで基本テーブルの結果が表示されます。リクエストの既存ビューはカスタマイズまたは削除することができます。また、その他のビューを追加してから、それらを組み合わせてワークスペース内の任意の場所に配置することもできます。

複数のビューからなる結果を用意すると、データにおける傾向や関係の識別に役立ちます。ダッシュボードで表示されるように結果をカスタマイズすると、ダッシュボードに表示するビューの組合せや配置をプレビューできます。

リクエストは、ビューのコレクションとして保存できます。また、ダッシュボード内にリクエストを埋め込んで、ダッシュボード・ページに他の関心のあるリクエストへのリンク、関連グラフィック、ニュースなどの要素を含められます。

Oracle BI ビューの説明

Oracle BI Answers では、「Results」タブでビューを選択できます。表 14 に、ビューについて示します。また、頻繁にアクセスされるビューのいくつかは、Oracle BI Answers の「Criteria」タブで、適切なビュー・ボタンをクリックして参照できます。

注意：ユーザーの権限によって、すべてのビューにアクセスできるか、または特定のビューしかアクセスできないかが決まります。

表 14. Oracle BI ビューの名前および説明

ビュー名	説明
Compound Layout	<p>複合的なレイアウト・ビューは、ダッシュボード上に各種のビューを収集して表示するために使用します。</p> <p>「Criteria」タブでは、次のボタンをクリックして複合的なレイアウト・ビューにアクセスできます。</p>  <p>詳細は、「Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューを使用して収集したビューのダッシュボードへの表示」(101 ページ) を参照してください。</p>
Title	<p>タイトル・ビューは、結果にタイトル、サブタイトル、ロゴ、カスタムのオンライン・ヘルプ・ページへのリンクおよびタイムスタンプを追加するために使用します。</p> <p>詳細は、「Oracle BI タイトル・ビューを使用した、結果へのタイトルの追加」(103 ページ) を参照してください。</p>
Table	<p>テーブル・ビューは、結果を標準的なテーブルで表示するために使用します。ユーザーは、結果をナビゲートしたり、ドリルダウンすることができます。また、合計の計算、ヘッダーのカスタマイズ、列式や集計ルールの変更などの操作を行えます。さらに、列とその内容の外観を制御したり、列の内容がある条件を満たす場合に適用されるフォーマットを指定することもできます。</p> <p>「Criteria」タブでは、次のボタンをクリックしてテーブル・ビューにアクセスできます。</p>  <p>詳細は、「Oracle BI テーブル・ビューを使用した、結果へのテーブルの追加」(105 ページ) を参照してください。</p>

表 14. Oracle BI ビューの名前および説明

ビュー名	説明
Chart	<p>グラフ・ビューは、レイアウト・グラフに列をドラッグ・アンド・ドロップするために使用します。タイトル、凡例の位置、軸タイトルおよびデータ・ラベルはカスタマイズできます。また、グラフのサイズとスケールをカスタマイズしたり、スタイル・シートを使用して色を制御することができます。</p> <p>Oracle BI Answers では、棒グラフ、列グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、円グラフ、散布グラフなど、各種の標準的なグラフ・タイプがサポートされています。また、カスタムのグラフ・サブタイプとして、2D または 3D、絶対値、クラスタ化、積重ね、組合せ、カスタムなどを指定できます。</p> <p>「Criteria」タブでは、次のボタンをクリックしてグラフ・ビューにアクセスできます。</p>  <p>詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューを使用したグラフの結果の表示」(112 ページ) を参照してください。</p>
Pivot Table	<p>ピボット・テーブルは、行、列、セクションのヘッダーを入れ替えて、別の観点から表示するために使用します。ユーザーは、ヘッダーをドラッグ・アンド・ドロップして結果の配置を自由に変更したり、それらをプレビューして設定を適用することができます。また、ピボット・テーブルをナビゲートしたり、情報をドリルダウンすることもできます。さらに、複雑なピボット・テーブルを作成すると、集計された合計や関連性のない合計を変更データの隣に表示して、柔軟な分析を行えます。対話型の結果セットを作成するには、各要素を複数のページに配置して、ユーザーがそれらの要素を選択できるようにします。</p> <p>「Criteria」タブでは、次のボタンをクリックしてピボット・テーブル・ビューにアクセスできます。</p>  <p>詳細は、「Oracle BI ピボット・テーブル・ビューを使用したピボット・テーブルの結果の表示」(129 ページ) を参照してください。</p>
Gauge	<p>ゲージ・ビューは、目盛り盤、縦棒、電球などのゲージに結果を表示するために使用します。</p> <p>詳細は、「Oracle BI ゲージ・ビューを使用したゲージとしての結果の表示」(140 ページ) を参照してください。</p>

表 14. Oracle BI ビューの名前および説明

ビュー名	説明
Filters	<p>フィルタ・ビューは、リクエストに対して有効なフィルタを表示するために使用します。フィルタを使用すると、特定の質問への回答である結果を取得するようにリクエストを制約することができます。</p> <p>詳細は、「結果に適用されるフィルタの Oracle BI フィルタ・ビューを使用した表示」(147 ページ) を参照してください。</p>
Column Selector	<p>列セレクタ・ビューは、結果に表示される列をユーザーが動的に変更することを許可するために使用します。これにより、データを複数のディメンションにおいて分析することが可能になります。ファクトを変更すると、結果の内容を動的に変更できます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI 列セレクタ・ビューを使用したリクエスト内の列変更の許可」(148 ページ) を参照してください。</p>
View Selector	<p>ビュー・セレクタ・ビューは、保存されている複数のビューの中から特定のビューの結果を選択するために使用します。ダッシュボード内に配置すると、ビュー・セレクタは、選択可能なドロップダウン・リストとして表示されます。</p> <p>詳細は、「ビュー・セレクタ・ビューを使用した特定のビューの選択の許可」(148 ページ) を参照してください。</p>
Legend	<p>凡例ビューは、結果に適用されている特別なフォーマットについて説明するために使用します。たとえば、ゲージに適用したカスタム色の意味などが明記されます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI 凡例ビューを使用した結果への凡例の追加」(149 ページ) を参照してください。</p>
Funnel Chart	<p>ファンネル・グラフ・ビューは、目標値と実績値を量、レベル、色で比較した 3D グラフを表示するために使用します。販売パイプラインなど、時間の経過とともに減少する目標値の描画に役立ちます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI ファンネル・グラフ・ビューを使用したファンネル・グラフの結果の表示」(150 ページ) を参照してください。</p>
Narrative	<p>説明ビューは、結果を 1 つ以上の段落テキストとして表示するために使用します。結果の文の各欄にプレースホルダを配置して、それぞれの行の区切り方法を指定できます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI 説明ビューを使用した結果への説明テキストの追加」(151 ページ) を参照してください。</p>
Ticker	<p>ティック・ビューは、リクエストの結果を、インターネット上の多くの金融サイトやニュース・サイトで流れる株式ティックと類似するティックまたはマーキーとして表示するために使用します。ユーザーは、どの情報を表示するか、またページ上に情報をどのように流すかを制御できます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI ティッカ・ビューを使用したスクロール・ティックでの結果の表示」(154 ページ) を参照してください。</p>

表 14. Oracle BI ビューの名前および説明

ビュー名	説明
Static Text	<p>静的テキスト・ビューは、結果に静的テキストを含めるために使用します。HTML ファイルを使用して、バナー、ティッカ、ActiveX オブジェクト、Java アプレット、リンク、指示、説明、グラフィックなどを結果に追加できます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI 静的テキスト・ビューを使用した結果へのテキストの追加 (157 ページ) を参照してください。</p>
No Results	<p>結果なしのビューを使用すると、リクエストによって結果が返されない場合に説明テキストの表示を指定できます。</p> <p>詳細は、「Oracle BI 結果なしのビューを使用したユーザーへのアラート (159 ページ) を参照してください。</p>
Logical SQL	<p>論理 SQL ビューは、リクエストに対して生成された SQL 文を表示するために使用します。このビューは、トレーナーおよび Oracle BI 管理者には有用なものです。通常、一般ユーザーの結果には含まれていません。</p> <p>このビューは変更できません。削除することのみ可能です。</p> <p>論理 SQL ビューの操作方法については、「Oracle BI 論理 SQL ビューを使用したリクエストの論理 SQL の表示 (160 ページ) を参照してください。</p>
Create Segment	<p>セグメントの作成ビューは、Oracle Siebel Marketing バージョン 7.7 (またはそれ以上のバージョン) の対応アプリケーションでのみ使用可能です。このビューは、結果に「Create Segment」リンクを表示するために使用します。このリンクをクリックすると、オラクル社の Siebel Marketing の対応アプリケーション内に結果データに基づいたセグメントを作成できます。</p> <p>セグメントの作成ビューの操作方法については、「Oracle BI セグメントの作成ビューを使用した Oracle Siebel Marketing でのセグメントの作成 (161 ページ) を参照してください。</p>
Create Target List	<p>ターゲット・リストの作成ビューは、Oracle Siebel Life Sciences Analytics アプリケーションに統合される Oracle Siebel Life Sciences の対応アプリケーションで使用可能です。このビューは、結果に「Create Target List」リンクを作成するために使用します。このリンクをクリックすると、オラクル社の Siebel 対応アプリケーション内に結果データに基づいたターゲット・リストを作成できます。</p> <p>ターゲット・リストの作成ビューの操作方法については、「Oracle BI ターゲット・リストの作成ビューを使用した連絡先およびアカウントのリストの作成 (162 ページ) を参照してください。</p>

Oracle BI カスタム・フォーマットを使用したデータ型のフォーマットとデータ駆動ナビゲーションの構成

Oracle BI カスタム・フォーマットを使用すると、表示するデータ型のフォーマットを設定できます。たとえば、日付を mm/yy、yyyy mm または yyyy-mm-dd の形式で表示できます。カスタム・フォーマットを SQL CASE 関数と組み合わせると、赤信号、投票バー、スコアカードなどのグラフィック・インジケータを追加できるようになります。

カスタム・フォーマットでは、関連するリクエストやコンテンツに対するデータ駆動ナビゲーションも可能になります。カスタム・フォーマットを使用したデータ駆動ナビゲーションは、テーブル・ビューとピボット・テーブル・ビューでサポートされています。

カスタム・フォーマットについては、「[Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用](#)」(72 ページ) を参照してください。

Oracle BI での結果のドリルダウン

Oracle BI 管理者が、あるサブジェクト領域にディメンション・レベルの階層を設定した場合は、グラフ、テーブルおよびピボット・テーブル上にあるデータをドリルダウンできます。詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」](#) (28 ページ)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」](#) (95 ページ)

Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行

Oracle BI Answers で各種の結果ビューを操作する際には、複合的なレイアウト・ビューのアクセスやビューのプレビューなどのタスクを実行します。この項では、これら共通のタスクを実行するための手順について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [「Oracle BI ビューの保存」](#) (96 ページ)
- [「Oracle BI ビューの印刷」](#) (96 ページ)
- [「Oracle BI ビューのコピーの作成 \(複製\)」](#) (97 ページ)
- [「Oracle BI Interactive Dashboard における Oracle BI ビューの表示方法のプレビュー」](#) (97 ページ)
- [「Oracle BI ビューの削除」](#) (98 ページ)
- [「Oracle BI ビューでの結果のリフレッシュ」](#) (98 ページ)
- [「Oracle BI ビューの操作中の新規リクエストの作成」](#) (99 ページ)
- [「Oracle BI ビューの操作中の保存済リクエストのオープン」](#) (99 ページ)
- [「別の Oracle BI ビューからの複合的なレイアウト・ビューのアクセス」](#) (99 ページ)
- [「Oracle BI Delivers ユーザーに配信するための Oracle BI ビューのカスタマイズ」](#) (100 ページ)

Oracle BI ビューの保存

Oracle BI Answers では、操作中のビューをいつでも保存できます。

Oracle BI ビューを保存するには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 2 「Choose Folder」ダイアログ・ボックスで、ビューの保存先となる個人用フォルダまたは共有フォルダを選択します。

サブフォルダを指定するには、次の操作のいずれかを実行します。

- ナビゲートします。
- 「Create Folder」をクリックして、新しいサブフォルダを作成します。
- 「Folder」ボックスにパスを入力します。

- 3 ビューの説明的な名前を入力します。

この名前は、選択ペイン内のリクエストにマウスのカーソルを置くとときに表示されます。

- 4 (オプション) ビューの説明を入力します。

この説明は、Oracle BI 管理者が Catalog Manager を使用するときに表示されます。

- 5 「OK」をクリックします。

Oracle BI ビューの印刷

Oracle BI Interactive Dashboards および Oracle BI Answers では、PDF と印刷コントロール・オプションの指定、ヘッダーとフッターの追加、および HTML や Adobe PDF (Portable Document Format) を使用した操作中のオブジェクトの印刷を実行できます。Adobe PDF を使用して印刷するには、Adobe Reader 6.0 以上が必要です。

注意: HTML を使用した印刷方法では、印刷の品質がブラウザの印刷処理能力に依存します。印刷の結果が不十分な場合は、PDF を選択して開き、ダッシュボードまたはリクエストを印刷してください。

PDF と印刷コントロール設定を指定するには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



「PDF and Print Control」ダイアログ・ボックスが表示されます。

詳細は、「[Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更](#)」(217 ページ)にある、PDF と印刷オプションの変更に関する項を参照してください。

Oracle BI ビューを印刷するには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 2 HTML または PDF を選択します。
 - HTML の場合、新しいウィンドウに選択した項目が表示されます。ブラウザのメニューで、「ファイル」→「印刷」を選択します。
 - PDF の場合、Adobe PDF のウィンドウに選択した項目が表示されます。Adobe PDF のウィンドウのオプションを使用して、ファイルを保存または印刷します。

Oracle BI ビューのコピーの作成（複製）

Oracle BI Answers では、ビューを複製してコピーを作成できます。ビューの複製は、元のビューを保持しながらビューに変更を加える場合や、既存のビューに基づいて新しいビューを作成する場合に役立ちます。

複製したビューの名前には、数字の 2 が追加されます。この名前は、ビューの保存時に変更できます。

Oracle BI ビューを複製するには

- 1 Oracle BI Answers のビューで、ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 2 リストから「Duplicate View」を選択します。複製されたビューがワークスペースに表示されます。

Oracle BI Interactive Dashboard における Oracle BI ビューの表示方法のプレビュー

Oracle BI Answers では、Oracle BI ビューをプレビューして、そのビューがダッシュボードにどのように表示されるかを確認できます。複合的なレイアウト・ビューをプレビューする場合は、ビューのコレクションがどのように表示されるかを確認できます。

Oracle BI Answers で、テーブル・ビューやピボット・テーブル・ビューなど、結果データを表示するビューを操作する場合は、ビューの操作中に結果が反映されるのを確認することもできます。

ダッシュボードに表示されている Oracle BI ビューをプレビューするには

- ワークスペースの上部にある、次のプレビュー・ボタンをクリックします。



注意: このプレビュー・ボタンがない場合、ボタンが表示されないように Oracle BI Presentation Services 管理者が設定しています。

ダッシュボードのプレビューが新しいウィンドウに表示されます。

ビューの操作中に結果を表示するには

- 1 「Display Results」 オプションを選択します。
- 2 「Display Results」 リンクをクリックして、結果を表示します。

Oracle BI ビューの削除

Oracle BI Answers では、操作中のビューをいつでも削除できます。

Oracle BI ビューを削除するには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 2 リストから「Delete View」を選択します。

ワークスペースに、複合的なレイアウト・ビューまたは別のビューが表示されます。

Oracle BI ビューでの結果のリフレッシュ

Oracle BI Answers で、テーブル・ビューやピボット・テーブル・ビューなど、結果データを表示するビューを操作する場合は、現行リクエストの結果をリフレッシュできます。結果のリフレッシュは、結果の範囲を限定するフィルタを追加するなどの変更を加えた後で、その影響を確認するために役立ちます。

Oracle BI ビューで現行リクエストの結果をリフレッシュするには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



リフレッシュ機能の詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards または Oracle BI リクエストのリフレッシュ](#)」(20 ページ) を参照してください。

Oracle BI ビューの操作中の新規リクエストの作成

Oracle BI Answers では、現行リクエストのビューの操作中に新規リクエストを作成できます。

Oracle BI の新規リクエストを作成するには

- 1 操作中のビューを保存します。
現行のビューを保存しない場合は、すべての変更が破棄されます。
- 2 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 3 リストのサブジェクト領域をクリックして選択します。
- 4 ワークスペースに「Criteria」タブが表示されます。ここで、新規リクエストを作成します。

Oracle BI ビューの操作中の保存済リクエストのオープン

Oracle BI Answers では、現行リクエストのビューの操作中に、以前の保存済リクエストを操作できます。

Oracle BI の保存済リクエストをオープンするには

- 1 操作中のビューを保存します。
現行のビューを保存しない場合は、すべての変更が破棄されます。
- 2 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 3 「Open」ダイアログ・ボックスでリクエストにナビゲートし、「OK」をクリックします。
ワークスペースに「Criteria」タブが表示されます。ここで、新規リクエストを変更します。

別の Oracle BI ビューからの複合的なレイアウト・ビューのアクセス

Oracle BI Answers のビューの操作中は、複合的なレイアウト・ビューにいつでもアクセスまたは戻ることができます。

Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューにアクセスまたは戻るには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



複合的なレイアウト・ビューがワークスペースに表示されます。操作中のビューは他のビューとともに、ワークスペース内の複合的なレイアウト・ビューに表示されます。

Oracle BI Delivers ユーザーに配信するための Oracle BI ビューのカスタマイズ

Oracle BI では、Oracle BI Delivers の「Destinations」タブで指定されている出力先に基づいて配信コンテンツが自動的にフォーマットされます。ビューが特定の出力先用にフォーマットされるように手動で制御する場合は、Oracle BI Answers の「Specialize View」機能を使用して Oracle BI のフォーマットを上書きできます。複合的なレイアウト・ビュー全体または一部のビューを特化できます。上書きの設定は、特化されたビューが削除されるまで有効になります。

Oracle BI ビューを配信用に特化するには

- 1 ワークスペースの上部にある次のボタンをクリックします。



- 2 「Specialize View」を選択して、リストから次のいずれかを選択します。

- HTML

HTML は通常、ダッシュボードで使用されます。特化された HTML ビューの名前には、(HTML) と追加されています。

- Delivery

配信は通常、ユーザーの配信デバイスへの iBot コンテンツの配信に使用されます。特化された配信ビューの名前には、(配信) と追加されています。

- Text (Mobile devices)

テキストは通常、テキスト処理が可能な携帯電話などのデバイスで使用されます。特化されたテキスト・ビューの名前には、(テキスト) と追加されています。

ビューが、特化されたビューになります。

- 3 そのビューを保存します。

関連項目

[「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」\(84 ページ\)](#)

Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューを使用して収集したビューのダッシュボードへの表示

この項では、複合的なレイアウト・ビューにアクセスした後、そのビューを使用して各種のビューを収集してからダッシュボードに表示するための手順について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Answers における Oracle BI の結果ビューの追加、削除および再配置」(101 ページ)
- 「Oracle BI Answers での Oracle BI ビューのプロパティの編集」(102 ページ)

Oracle BI の複合的なレイアウト・ビューにアクセスするには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成および変更します。
- 2 「Criteria」または「Results」タブで、次のボタンをクリックします。



「Results」タブをクリックして、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択することもできます。

複合的なレイアウト・ビューがワークスペースに表示されます。

Oracle BI Answers における Oracle BI の結果ビューの追加、削除および再配置

この項では、Oracle BI Answers の複合的なレイアウト・ビューを使用して、ビューを追加、削除および再配置する手順について説明します。

Oracle BI の新しいビューを追加するには

- 1 ワークスペースの上部にある「Add View」領域で、次のボタンをクリックします。



- 2 リストからビューを選択します。

ワークスペースの最後に新しいビューが配置されます。

注意：新しいテーブル・ビュー、グラフ・ビュー、ピボット・テーブル・ビューまたはフィルタ・ビューを追加するには、ワークスペースの上部にある「Add View」領域で、適切なボタンをクリックすることもできます。

Oracle BI ビューを削除するには

- 1 ビューの次のボタンをクリックします。



ワークスペースからビューが削除されます。

Oracle BI ビューを再配置するには

ビュー（タイトル、凡例、テーブル、グラフなど）は、マウスを使用して再配置できます。

- 1 カーソルを、再配置するビューの上端の内側に置きます。
- 2 ビューで、マウスの左ボタン（使用可能な場合）をクリックしたままの状態にします。
そのビューが透明な移動可能オブジェクトとして表示されます。
- 3 マウスを使用して、ビューを所定の位置にドラッグします。
ビューは、次のように再配置できます。
 - ビューの境界を使用する場合
各ビューには、4つの境界（上、下、左、右）があり、レポート内にある他のビューの境界に隣接させることができます。ビューをドラッグ・アンド・ドロップして、別のビューの境界の隣に表示します。
 - レポートの外側の境界を使用する場合
各レポートでは、1つ以上のビューが四角形または長方形の中に配置されています。レポートには、4つの境界（上、下、左、右）があります。ビューをドラッグ・アンド・ドロップして、レポートの外側の境界に表示します。この操作により、ビューがレポートの長さ全体または幅全体に表示されます。
- 4 マウスのボタンを放します。
ビューが、ワークスペース内の黄色のバーで示されている位置に再配置されます。
- 5 その他のビューを再配置する場合は、前の手順を繰り返します。

Oracle BI Answers での Oracle BI ビューのプロパティの編集

複合的なレイアウト・ビューからは、ビューのワークスペースの該当する画面に直接移動できます。

Oracle BI ビューのプロパティを編集するには

- ビューの次のボタンをクリックします。



ワークスペースの表示方法が変更され、ビューのオプションと設定が表示されます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

Oracle BI タイトル・ビューを使用した、結果へのタイトルの追加

タイトル・ビューは、結果にタイトル、サブタイトル、ロゴ、カスタムのオンライン・ヘルプ・ページへのリンクおよびタイムスタンプを追加するために使用します。タイトルとサブタイトルは、組織内で使用しているスタイル・シートに従ってフォーマットされます。

タイトル・ビューは、常に最初のビューとして結果に追加されます。

Oracle BI タイトル・ビューを操作するには

1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。

- 新しいタイトル・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Title」を選択します。
- 既存のタイトル・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択し、タイトル・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。

2 「Title」テキスト・ボックスに、タイトルとして表示するテキストを入力します。

注意：「Title」テキスト・ボックスでは、テキスト、サーバー変数（@{user.id}、@{system.CurrentTime} など）およびプレゼンテーション変数（@{myFavoriteRegion} など）がサポートされています。HTML マークアップは含められません。

プレゼンテーション変数の詳細は、「保存済 Oracle BI リクエストのフィルタとしての使用」（67 ページ）を参照してください。

タイトルを指定しないと、保存済リクエストの名前がタイトルとして使用されます。保存されていないリクエストの場合は、「Title」テキスト・ボックスが空白になります。

3 保存したリクエストの名前を非表示にする場合、次のチェック・ボックスの選択を解除します。

Display Saved Name

4 (オプション) 「Subtitle」テキスト・ボックスに、サブタイトルとして表示するテキストを入力します。

サブタイトル・テキストは、実際のタイトルに続いて、新しい行に表示されます。

5 タイトルまたはサブタイトルに追加フォーマットを設定する場合、次の操作を実行します。

- a 「Title」および「Subtitle」ダイアログ・ボックスの右側にある編集ボタンをクリックします。
- b フォント、セル、および境界の各オプションを選択し、「OK」をクリックします。

注意：ここで新たにキャプションを入力すると、元のタイトルまたはサブタイトルが上書きされてしまいます。

6 カスタマイズされたヘルプやリクエスト関連の他の情報へのリンクを提供する場合は、「Help URL」テキスト・ボックスに適切な URL を入力します。

URL は、このリクエストを表示するすべてのユーザーがアクセス可能である必要があります。

- 7 ログ・イメージまたはその他のグラフィックを表示する場合は、「Logo」テキスト・ボックスに適切なパスを指定します。

イメージまたはグラフィックは、このリクエストを表示するすべてのユーザーがアクセス可能である必要があります。

fmap 関数を使用すると、現在の Analytics スタイル・ディレクトリにあるイメージを参照できます。この関数は、カスタム・グラフィックをスタイルとともにパッケージ化して移植可能にします。

fmap の構文は次のとおりです。

```
fmap:location/image_name
```

各要素の説明を示します。

fmap:	fmap 関数の始まり。
location	現在のスタイル・ディレクトリ (s_stylename) にあるフォルダ (Images フォルダなど) へのパス。次に例を示します。 s_oracle/Images
	注意: 現在のスタイル・ディレクトリにあるロゴ・イメージやグラフィックは、同じフォルダに格納してください。
/	必須のセパレータ。
image_name	グラフィックの名前。次に例を示します。 newlogo.gif

完全な fmap コマンドは、次の例のようになります。

```
fmap:Images/newlogo.gif
```

現在のスキン・ディレクトリ内のフォルダにあるイメージも参照できます。

- 8 リクエストの実行を開始した日付や時間を表示する場合は、「Started Time」ドロップダウン・リストからタイムスタンプ・オプションのいずれかを選択します。
- 9 終了したら、タイトル・ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」\(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」\(95 ページ\)](#)

Oracle BI テーブル・ビューを使用した、結果へのテーブルの追加

テーブル・ビューは、結果を標準的なテーブルで表示するために使用します。ユーザーは、結果をナビゲートしたり、ドリルダウンすることができます。また、レポートや列の合計の追加、テーブルや列のカスタム・ヘッダーの指定、列式や集計ルールの変更を実行できます。さらに、列のプロパティを編集して、列とその内容の外観やレイアウトを制御したり、列の内容がある条件を満たす場合に適用されるフォーマットを指定することもできます。

ページ・コントロールとページ当たりの行数の指定、列やテーブルのヘッダーの表示、緑のバー・スタイルの適用、ダッシュボードでの列ソートの有効化を実行できます。ダッシュボードでは、ソート可能なテーブルの列ヘッダーが多少浮き彫りになって表示されます。

ユーザー名に適切な権限がある場合、テーブル・ビューに書き込み機能を追加できます。これにより、バックエンド・データベースへの更新または書き込みが可能になります。たとえば、売上ダッシュボードに今四半期の売上目標を入力できます。Oracle BI Presentation Services 管理者は、ユーザーがテーブル・ビューに書き込み機能を追加できるように、この機能を事前に設定および構成しておく必要があります。書き込み機能の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

テーブル・ビューは、デフォルトで、2 つ目のビューとして結果に追加されます (Oracle BI Presentation Services 管理者が組織内で別の結果ビューをデフォルトで構成している場合がある)。

Oracle BI テーブル・ビューを操作するには

1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。

- 新しいテーブル・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Table」を選択します。

複合的なレイアウト・ビューか「Criteria」タブにある「Table」ボタンをクリックしても、テーブル・ビューを追加できます。

- 既存のテーブル・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択し、テーブル・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。

2 各列で個別に動作するボタンの表示を行うには、オプションを選択して、ヘッダー・ツールバーを表示させます。

3 リクエストに表示される 1 つ以上の列のソート順序を指定するには、列の「Order By」ボタンをクリックします。

結果は、複数の列で順序付けできます。複数の列を選択して順序付けを行うと、「Order By」ボタンにその順序が示されます。ソートの詳細は、「[Oracle BI のリクエストでの列のソート順序の指定](#)」(37 ページ) を参照してください。

4 レポートの合計を指定するには、次の操作を実行します。

- レポートの総計を追加する場合は、ワークスペースの上部にある「Grand Totals」ボタンをクリックし、「Report-Based Total」オプションが選択済であることを確認してください。

- 個々の列の合計を追加する場合は、その列の「Total By」ボタンをクリックし、「Report-Based Total」オプションが選択済であることを確認してください。

「Total By」ボタンは、合計できる列でのみ使用可能です。

注意: 「Report-Based Total」オプションが選択されていない場合、Oracle BI Server では、フィルタをメジャーに適用する前に、結果セット全体に基づいて合計が計算されます。

- カスタム・テキストを合計ヘッダーに挿入するには、「Total By」ボタンをクリックしてから「Format Labels」オプションを選択して、「Edit Format」ダイアログ・ボックスを表示します。次のようなカスタム・テキストを「Caption」フィールドに入力します。

- @ : データ値を表示します。
たとえば、「Region」列に合計を指定した後、合計ヘッダーの「Caption」フィールドに次のテキストを入力したとします。

- All values in the @
Western Region では、合計ヘッダーに次のテキストが表示されます。
All values in the Western Region

- "@" : @ 記号を表示します。
- "¥" : 二重引用符を表示します。
- "¥¥" : ¥ 記号を表示します。
- ¥ : ¥ 記号を表示します。

二重引用符の構文は、単一の文字に限定されません。一般的に、二重引用符で囲まれた文字列も円記号でエスケープ処理できます。次に例を示します。

- "1234567890¥¥abc¥¥d¥"x¥"yz!@#%^&*()-+={ } [] ; : ' | ? / > < , . ` ~"

前述の文字列は、次のように表示されます。

- 1234567890¥abc¥d"x"yz!@#%^&*()-+={ } [] ; : ' | ? / > < , . ` ~

- 5 カスタム・ヘッダーの追加または列式の編集を行うには、「Edit Formula」ボタンをクリックします。

「Edit Column Formula」ダイアログ・ボックスが表示されます。

「Column Formula」タブでは、次の操作を実行できます。

- カスタム・ヘッダーを指定する場合は、「Custom Headings」オプションを選択して、適切な場所に新しいヘッダー・テキストを入力します。
- 列式を編集する場合は、「Column Formula」領域に入力するか、ボタン・バーを使用して演算子、関数、フィルタ、列および変数を必要に応じて追加します。詳細は、「[列式の編集](#)」(108 ページ)を参照してください。

SQL 関数の使用方法の詳細は、ヘルプ・ボタンをクリックしてください。

- 列の集計ルールを変更する場合は、ドロップダウン・リストから選択します。

「Bins」タブでは、所定の列の複数の値または値の範囲をビンに集約できます。

- ビンを追加して名前を付けます。

結果セット内にビンを構成する各種の値が出現する場合、すべてビン名に置き換えられます。また、必要に応じて集計も実行されます。

- 6 列のプロパティを編集したり、列の内容がある条件を満たす場合に適用されるフォーマットを指定するには、「Format Column」ボタンをクリックします。
「Edit Column Format」ダイアログ・ボックスが表示され、選択が可能になります。
 - 列をフォーマットする方法とナビゲーションを列フォーマットの一部として追加する方法の詳細は、「Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用」(72 ページ) を参照してください。
 - 条件付フォーマットの追加方法の詳細は、「Oracle BI Answers における列コンテンツへの条件付フォーマットの適用」(78 ページ) を参照してください。
- 7 終了したら、テーブル・ビューのリクエストを保存できます。

テーブル・ビューに書き込み機能を追加するには

- 1 テーブル・ビューで、次の「Write Back Properties」ボタンをクリックします。



「Write Back」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Enable Write Back」チェック・ボックスを選択します。
- 3 「Template Name」ボックスに、テンプレート名を入力します。
どのテンプレート名を入力するかは、Oracle BI Presentation Services 管理者に問い合わせてください。
- 4 「Button Text」ボックスに、ボタン名を入力します。
- 5 「Button Position」リストで、ボタンの表示場所を選択します。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 書き込み列の「Properties」ボタンをクリックして「Column Properties」ダイアログ・ボックスを開き、「Column Format」タブをクリックします。
- 8 「Value Interaction」の「Type」リストで、「Write Back」→「OK」をクリックします。
- 9 終了したら、テーブル・ビューのリクエストを保存できます。

ページ・コントロールとページ当たりの行数の指定、列やテーブルのヘッダーの表示、緑のバー・スタイルの適用、ダッシュボードでの列ソートの有効化を実行するには

- 1 テーブル・ビューで、ワークスペースの上部にある「Table View Properties」ボタンをクリックします。
- 2 各種のオプションを選択します。

注意：列ソートを有効にするオプションをダッシュボードに表示するかどうかの構成は、Oracle BI Presentation Services 管理者が行います。このオプションがない場合、ボタンが表示されないように Oracle BI Presentation Services 管理者が設定しています。

関連項目

「Oracle BI Answers の概要」(28 ページ)

「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」(95 ページ)

列式の編集

この項では、列式を編集する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「列式を手動で編集するには」(108 ページ)
- 「ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に演算子と文字を追加するには」(108 ページ)
- 「ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に関数を追加するには」(108 ページ)
- 「ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に列式を追加するには」(109 ページ)
- 「ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に変数を追加するには」(109 ページ)
- 「ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域にフィルタを追加するには」(110 ページ)
- 「Bins」タブを使用して CASE 文を列式の領域に追加するには」(111 ページ)

列式を手動で編集するには

- 1 テーブル・ビュー（または「Criteria」タブの「Columns」領域）で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」ボタンをクリックします。
- 2 「Edit Formula」ダイアログ・ボックスに、「Column Formula」タブを表示します。
- 3 「Column Formula」領域に、式を入力します。
- 4 終了したら「OK」をクリックします。

ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に演算子と文字を追加するには

- 1 テーブル・ビュー（または「Criteria」タブの「Columns」領域）で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」ボタンをクリックします。
- 2 「Edit Formula」ダイアログ・ボックスに、「Column Formula」タブを表示します。
- 3 ボタン・バーの最初の 8 つのボタンをクリックして、テキスト領域に次の演算子または文字を挿入します。
 - 加算：（「+」ボタンを押すと、「+」が挿入される）
 - 減算：（「-」ボタンを押すと、「-」が挿入される）
 - 乗算：（「x」ボタンを押すと、「*」が挿入される）
 - 除算：（「/」ボタンを押すと、「/」が挿入される）
 - パーセンテージ：（「%」ボタンを押すと、「/100」が挿入される）
 - 開きカッコ：（「(」ボタンを押すと、「(」が挿入される）
 - 閉じカッコ：（「)」ボタンを押すと、「)」が挿入される）
 - 連結：（「||」ボタンを押すと、「||」が挿入される）

ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に関数を追加するには

- 1 テーブル・ビュー（または「Criteria」タブの「Columns」領域）で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」ボタンをクリックします。

- 2 「Edit Formula」 ダイアログ・ボックスに、「Column Formula」 タブを表示します。
- 3 「Function」 ボタンをクリックして「Insert Function」 ダイアログ・ボックスを表示し、関数グループ・ツリーから関数を選択します。
- 4 関数グループを開き、そのグループ内にある関数リストを表示します。
- 5 関数の名前をクリックして、ダイアログの下部に選択した関数の構文と説明を表示します。
- 6 「OK」 ボタンをクリックして 2 つ目のダイアログを閉じてから、「Column Formula」 領域に選択した関数式を挿入します。

「Function」 ボタンをクリックする際に「Column Formula」 領域で特定のテキストが選択される場合、挿入した関数式に選択テキストが取り込まれます。

「Function」 ボタンをクリックする際に列式でテキストが選択されない場合、関数式が挿入されて最初の引数 (expr または expr1 トークンで示される) が自動的に選択されます。

ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に列式を追加するには

- 1 テーブル・ビュー (または「Criteria」 タブの「Columns」 領域) で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」 ボタンをクリックします。
- 2 「Edit Formula」 ダイアログ・ボックスに、「Column Formula」 タブを表示します。
- 3 「Column」 ボタンをクリックして、使用可能な列名のメニューから列を選択します。このメニューの列は、現在のレポートの条件ですでに選択されているものです。
メニューから列名を選択すると、列式が「Column Formula」 領域に挿入されます。

ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域に変数を追加するには

- 1 テーブル・ビュー (または「Criteria」 タブの「Columns」 領域) で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」 ボタンをクリックします。
- 2 「Edit Formula」 ダイアログ・ボックスに、「Column Formula」 タブを表示します。
- 3 「Variable」 ボタンをクリックして、セッション、リポジトリまたはプレゼンテーションの変数が選択可能なメニューを表示します。
メニューから変数を選択すると、「Insert Variable」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 変数の名前 (デフォルト値を指定できる) を入力します。
- 5 「OK」 をクリックして、ダイアログを閉じます。

変数の適切な式が作成され、「Column Formula」 領域に挿入されます。次の例に、blah というセッション変数の式を示します。

```
"Sales Measures".Dollars + VALUEOF(NQ_SESSION.blah)
```

注意： リポジトリ変数とセッション変数は、VALUEOF 関数の引数として指定してください。

- 静的リポジトリ変数は、名前で参照する必要があります。

たとえば、"prime_begin" と "prime_end" という静的リポジトリ変数の値を使用する際の正しい構文を、次の例に示します。

```
CASE WHEN "Hour" >= VALUEOF("prime_begin") AND "Hour" < VALUEOF("prime_end") THEN
'Prime Time' WHEN ...ELSE...END
```

- 動的リポジトリ変数は、完全修飾名で参照する必要があります。

動的リポジトリ変数を使用する場合、初期化ブロックとリポジトリ変数の名前はそれぞれ二重引用符 (") で囲みます。また、それらをピリオドで区切ってから、カッコで囲む必要があります。たとえば、Region Security という初期化ブロックの REGION 動的リポジトリ変数の値を使用する際の正しい構文を、次の例に示します。

```
SalesSubjectArea.Customer.Region = VALUEOF("Region Security"."REGION")
```

- セッション変数には、先頭に NQ_SESSION を付ける必要があります。また、それらをピリオドで区切ります。NQ_SESSION 部分とセッション変数名は、カッコで囲む必要があります。

変数名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符 (") で囲みます。たとえば、REGION というセッション変数の値を使用する際の正しい構文を、次の例に示します。

```
"SalesSubjectArea"."Customer"."Region" = VALUEOF(NQ_SESSION.REGION)
```

- プレゼンテーション変数は、名前とオプションのデフォルト値を使用して参照されます。

変数の適切な式が作成され、「Column Formula」領域に挿入されます。次の例に、blah というプレゼンテーション変数およびデフォルト値の 10 の式を示します。

```
"Sales Measures".Dollars + @{blah}{10}
```

変数の使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』のリクエストの操作に関する章を参照してください。

ボタン・バーを使用して「Column Formula」領域にフィルタを追加するには

- 1 テーブル・ビュー（または「Criteria」タブの「Columns」領域）で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」ボタンをクリックします。
- 2 「Edit Formula」ダイアログ・ボックスに、「Column Formula」タブを表示します。
- 3 「Filter」ボタンをクリックして、複合フィルタ・エディタを含む「Insert Filter」ダイアログを表示します。
このフィルタは最初は空白です。フィルタに移入するには、選択ペインの列をクリックして列フィルタを追加してからフィルタ式を作成します。
- 4 選択ペインの列名をクリックして、「Create/Edit Filter」ダイアログを表示します。
このダイアログの使用法の詳細は、「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」（50 ページ）を参照してください。

- 5 フィルタ式を作成したら、「OK」をクリックして「Create/Edit Filter」ダイアログを閉じます。
作成したフィルタ式は、「Insert Filter」ダイアログの複合フィルタ定義に追加されます。

フィルタ式は、次の形式になります。

```
FILTER(<expression> USING <filter_expression>)
```

各要素の説明を示します。

- <expression> は、少なくとも 1 つのメジャーを含む式です。たとえば、"sales + 1" という式は、"sales" がメジャーである場合にのみ許可されます。"productid" は、スカラー属性である場合は拒否されます。
- <filter_expression> はブール式 (TRUE または FALSE と評価される) であるため、メジャーは含まれません。また、この式にネストされたクエリーは含められません。

注意: 「Filter」ボタンをクリックする前に「Column Formula」領域で特定のテキストを選択した場合、そのテキストは式トークンのかわりに挿入済のフィルタ式に取り込まれます。たとえば、「Filter」ボタンをクリックする前に "Sales Measures".Dollars を選択した場合、複合フィルタ式で filter_expressions トークンが次のように置き換えられます。

```
FILTER("Sales Measures".Dollars USING ((Periods."Year" = '1999') AND ((Markets.District = 'CINCINNATI DISTRICT') OR (Markets.District = 'DENVER DISTRICT'))))
```

- 6 複数の式を含む複合フィルタ式を作成するには、選択ペインのその他の列名をクリックして、式の定義を続けます。

これら複数の式の間の関連を指定する場合は、AND または OR リンクを使用します。

- 7 「OK」をクリックして、「Insert Filter」ダイアログを閉じます。

これにより、適切なフィルタ式が作成され、「Edit Column Formula」ダイアログの「Column Formula」領域に挿入されます。

- 8 「OK」をクリックして、「Edit Column Formula」ダイアログを閉じます。

フィルタ式が「Criteria」タブの列名に表示されます。

「Bins」タブを使用して CASE 文を列式の領域に追加するには

- 1 テーブル・ビュー (または「Criteria」タブの「Columns」領域) で、編集対象の式がある列の「Edit Formula」ボタンをクリックします。

- 2 「Edit Formula」ダイアログ・ボックスに、「Bins」タブを表示します。

「Bins」タブを使用すると、「Column Formula」領域で CASE 文を使用した式を簡単に作成できます。

注意: 「Bins」タブはボタン・バーの影響を受けませんが、このタブを使用して CASE 文を作成すると、「Column Formula」タブのクリック時にボタン・バーは非表示になります。ボタン・バーは、すべてのピンを選択を解除しないと表示されません。

- 3 「Add Bin」 ボタンをクリックして、「Create/Edit Filter」 ダイアログを表示します。
「Create/Edit Filter」 ダイアログを使用すると、「Edit Column Formula」 ダイアログの「Column Formula」 領域にフィルタ式を CASE 文として作成できます。
このダイアログの使用の詳細は、「Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用」(50 ページ) を参照してください。
- 4 「OK」 をクリックして「Create/Edit Filter」 ダイアログを閉じ、「Bins」 タブに新しいフィルタ式や更新されたフィルタ式を表示します。
- 5 「Column Formula」 タブをクリックして、フィルタ式を CASE 文として表示します。
- 6 終了したら「OK」 をクリックします。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」\(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」\(95 ページ\)](#)

Oracle BI グラフ・ビューを使用したグラフの結果の表示

グラフ・ビューは、列をグラフに配置してから、タイトル、凡例の場所、軸タイトル、データ・ラベル、サイズおよびスケールをカスタマイズするために使用します。折れ線グラフや棒グラフなどのグラフ、2D などのグラフ・サブタイプ、および形状や塗りつぶしパターンなどの列スタイルを選択できます。また、境界と色を設定したり、その他のグラフ特性を制御することもできます。これらの結果は、グラフ・ビューでドリル可能です。

グラフには、面グラフ、棒グラフ、バブル・グラフ、折れ線グラフなどを、グラフ・サブタイプには、2D、3D、絶対値、クラスタ化、積重ね、組合せ、カスタムなどを選択できます。

この項では、グラフを操作する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [「Oracle BI グラフの説明」\(113 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビュー・ボタンの説明」\(115 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューの追加または変更する一般的な手順」\(116 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおけるグラフの一般的なプロパティの指定」\(117 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおけるグリッド線の表示の制御」\(119 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおける凡例の場所の指定」\(119 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおける背景、文字および境界の色の指定」\(120 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおける軸として表示する列の選択」\(120 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおける軸スケール・オプションの設定」\(121 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおけるスケール・マーカの編集」\(121 ページ\)](#)
- [「Oracle BI グラフ・ビューにおける軸のタイトルとラベルの指定」\(123 ページ\)](#)
- [「ユーザーがグラフを Oracle BI においてクリックしたときに行う処理の指定」\(124 ページ\)](#)

- 「グラフの表示のフォーマット」(125 ページ)
- 「円グラフにおけるデータ・ラベルの選択」(128 ページ)

注意: Oracle BI では、サード・パーティ製のグラフ・エンジンが使用されます。グラフのタイプ、そのサイズおよびグラフの要素数は、軸や凡例が表示されるかどうかに影響を与える場合があります。Web ブラウザのページで利用可能なスペースの広さにより制約されます。幅と高さを調整すると、表示されない軸と凡例の値を表示できる場合があります。

Oracle BI グラフの説明

表 15 に、「Graph」ドロップダウン・リストから選択できるグラフとその使用方法を示します。すべてのグラフで、データのすべてのタイプが適切とはかぎりません。デフォルトのグラフは縦棒グラフです。

表 15. Oracle BI グラフの選択肢

グラフのタイプ	説明
Area	<p>面グラフは折れ線グラフに似ていますが、線の下領域が塗りつぶされます。面グラフでは、各変数で構成される全体におけるパーセンテージが表示されません。</p> <p>面グラフは、ある期間におけるパーセンテージや累積値に関する変動の調査（たとえば、測定結果などのメジャーを使用しているグループの比較や、グループの傾向の表示）に役立ちます。</p>
Horizontal Bar	<p>横棒グラフは、グラフの棒を水平方向に表示することでファクトを比較するために使用できます。</p> <p>横棒グラフは、類似項目における差異の比較（たとえば、様々な期間における競合製品の売上高や同一製品の売上高、様々な市場における同一製品の売上高）に役立ちます。</p>
Bubble	<p>バブル・グラフは散布グラフのバリエーションで、データの要素が円（バブル）として表示されます。3 変数を 2 つのディメンションで表示します。変数の 1 つは、x 軸座標における円の場所を表します。別の変数値は、y 軸座標における円の場所を表します。3 番目の値は、円の相対サイズを表します。</p> <p>バブル・グラフは、3 変数のあるデータを描画したり、ある期間における財務データの変動を表示する際に役立ちます。</p> <p>ヒント: バブル・グラフを作成するには、ある 1 つの変数を x 軸座標として、別の変数を y 軸座標として、3 番目の変数を円の半径軸として表示します。レベル軸にはディメンション列が 1 つ以上必要です。</p>
Vertical Bar	<p>縦棒グラフでは、縦棒の列を使用してファクトが比較されます。</p> <p>縦棒グラフは、類似項目における差異の比較に役立ちます。</p>
Line	<p>折れ線グラフは、複数のファクトを描画するために使用できます。</p> <p>折れ線グラフは、データにおけるパターンと傾向の表示に役立ちます。</p>

表 15. Oracle BI グラフの選択肢

グラフのタイプ	説明
Line Bar Combo	<p>折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフでは、2種類のデータが様々な範囲で表示されます。1つが棒グラフとして表示され、もう1つが折れ線グラフとして棒グラフに重なるように表示されます。</p> <p>折れ線グラフと棒グラフの組合せグラフは、複数のデータ間における傾向の関係を表示する際に役立ちます。</p> <p>ヒント: グラフの棒と列は任意の組合せで指定できますが、それぞれ1つ存在する必要があります。折れ線が適切に表示されるようにすべての列を指定しますが、グラフの棒のみ必要な場合は、棒グラフを使用してください（このグラフ・タイプで棒のみが選択されている場合、列の選択によっては線として描画される場合があります）。</p>
Pareto	<p>パレート・グラフは、棒グラフと折れ線グラフを組み合わせた形態で、条件が降順に表示されます。このグラフでは、折れ線にはパーセンテージの累積合計が表示されます。</p> <p>パレート・グラフは、重要な要素（最高と最低、最多と最少など）の判別に役立ちます。</p>
Pie	<p>円グラフでは、データ・セットが全体におけるパーセンテージとして表示されます。</p> <p>円グラフは、全体における各部分（地域別や地区別の売上高など）の比較に役立ちます。</p>
Radar	<p>レーダー・グラフでは、棒グラフと同じ情報が描画されますが、グラフの中心から放射状にデータが表示されます。各データ要素には、固有の軸があります。</p> <p>レーダー・グラフは、均一とばらつきの調査に役立ちます。</p>
Scatter	<p>散布グラフでは、x-y 値がある点が個々の独立した点として、x 軸と y 軸のグリッドに散布状に表示されます。2つの独立変数に基づいてデータが点として描画されます。このグラフによってデータを大量の点で描画でき、点の密集度を調査できます。</p> <p>散布グラフは、大量のデータ・セットにおける関係と傾向の調査に役立ちます。</p> <p>ヒント: 散布グラフを作成するには、それぞれのファクトを x 軸座標値と y 軸座標値で描画します。これらのファクトは、レベル軸における選択で描画されます。</p>
Step	<p>階段グラフは、ファクトの描画と比較に使用します。</p> <p>階段グラフは、値が断続的に変化するデータの傾向を図示する際に役立ちます。</p>

グラフの選択内容によって、「Type」ドロップダウン・リストで選択可能なサブタイプが決まります。グラフのすべてのタイプでサブタイプがあるとはかぎりません。たとえば、バブル・グラフとレーダー・グラフにはサブタイプがありません。グラフのサブタイプにおけるデフォルトは、「3D」オプションです（利用可能な場合）。グラフのタイプの選択によっては、サブタイプのオプションに次が含まれている場合があります。

- 面グラフ：「3D」および「2D」
- 棒グラフ：「3D」、「2D」、「3D Stacked」および「2D Stacked」
- 折れ線グラフ：「3D」および「2D」
- パレート・グラフ：「3D」および「2D」
- 円グラフ：「3D」および「2D」
- 散布グラフ：「Scatter」および「Scatter with Lines」

グラフのタイプの選択内容によっても、「Style」ドロップダウン・リストで選択可能なスタイルが決まります。グラフのすべてのタイプでスタイルがあるとはかぎりません。スタイルのデフォルトは、「Solid Fill」です（利用可能な場合）。グラフのタイプの選択によっては、グラフのスタイルに次が含まれている場合があります。

- 面グラフ：「Solid Fill」および「Pattern Fill」
- 棒グラフ：「Rectangle」、「Cylinder」、「Gradient」、「Triangle」、「Diamond」および「Pattern Fill」
- 折れ線グラフ：「Rectangle」、「Cylinder」、「Gradient」、「Triangle」、「Diamond」および「Pattern Fill」
- パレート・グラフ：「Rectangle」、「Cylinder」、「Gradient」、「Triangle」、「Diamond」および「Pattern Fill」
- 円グラフ：「Solid Fill」および「Pattern Fill」

Oracle BI グラフ・ビュー・ボタンの説明

グラフ・ビュー・ページの上にあるボタンにより、様々なグラフ設定にアクセスできます。表 16 に、グラフ・ビュー・ボタンと設定を示します。

表 16. Oracle BI グラフ・ビュー・ボタンと設定










グラフ・ビュー・ボタン	説明
	<p>グラフの一般的なプロパティ（グラフのタイトル、データ・ラベルの表示可否、グラフのサイズなど）を設定します。</p> <p>詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューにおけるグラフの一般的なプロパティの指定」（117 ページ）を参照してください。</p>
	<p>軸タイトルとデータ・ラベルをグラフの下部に表示したりグラフの左側に表示する制御を行います。</p> <p>詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューにおける軸のタイトルとラベルの指定」（123 ページ）を参照してください。</p>
	<p>軸に表示するスケールのプロパティ（ティック・マークの数やスケール・タイプなど）を設定します。</p> <p>詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューにおける軸スケール・オプションの設定」（121 ページ）を参照してください。</p>

表 16. Oracle BI グラフ・ビュー・ボタンと設定

グラフ・ビュー・ボタン	説明
	グリッド線をグラフに表示する制御を行います。 詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューにおけるグリッド線の表示の制御」(119 ページ) を参照してください。
	凡例の場所を設定します。また、凡例のサイズを変更するオプションがあります。 詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューにおける凡例の場所の指定」(119 ページ) を参照してください。
	背景の色、文字の色および境界の色を設定します。 詳細は、「Oracle BI グラフ・ビューにおける背景、文字および境界の色の指定」(120 ページ) を参照してください。
	ユーザーがグラフをクリックしたときに行う処理（下位レベルのデータへのドリルダウン、関連する保存済リクエストやダッシュボードへの自動ナビゲートなど）を制御します。 詳細は、「ユーザーがグラフを Oracle BI においてクリックしたときに行う処理の指定」(124 ページ) を参照してください。
	ユーザーはグラフの系列（色、線の幅、行の記号など）の表示をフォーマットできます。 詳細は、「グラフの表示のフォーマット」(125 ページ) を参照してください。
	円グラフの場合、これによってユーザーがデータのラベルを選択できます。 詳細は、「円グラフにおけるデータ・ラベルの選択」(128 ページ) を参照してください。 バブル・グラフの場合、これによってユーザーが円のサイズをスライド・バーで変更できます。

Oracle BI グラフ・ビューの追加または変更する一般的な手順

次の手順は、グラフ・ビューを追加または変更する基本的な手順を示します。

注意： 結果と互換性がないグラフを選択すると、結果は表示されません。

Oracle BI グラフ・ビューを追加または変更するには

- Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しいグラフ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Chart」を選択します。
複合的なレイアウト・ビューか「Criteria」タブにある「Chart」ボタンをクリックしても、グラフ・ビューを追加できます。

- 既存のグラフ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択し、グラフ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。

- 2 グラフ、サブタイプおよびスタイルの選択を行います。
グラフのタイプを選択することにより、サブタイプとスタイルの選択肢が決まります。サブタイプやスタイルがない場合、ドロップダウン・リストは使用できません。
ドロップダウン・リストで選択した内容に応じて、グラフ・ビューが変更され、選択内容が反映されます。
- 3 列をグラフに追加するには、列を選択ペインでクリックするか「Criteria」タブで追加します。
- 4 列をグラフから削除するには、「Criteria」タブをクリックしてから、列の「Delete」ボタンをクリックします。
- 5 グラフ・ビュー・ページの上部にあるボタンを使用して、さらにグラフ設定を指定します。
- 6 変更内容を表示するには、「Redraw」ボタンをクリックします。
「Redraw」ボタンはいつでもクリックできます。これによりグラフ・ビューがリフレッシュされます。
- 7 変更内容を破棄して元のグラフからやり直すには、「Clear」ボタンをクリックします。
- 8 グラフのサイズを変更するには、垂直スライド・バーと水平スライド・バーを使用します。
- 9 終了したら、グラフ・ビューのリクエストを保存できます。

Oracle BI グラフ・ビューにおけるグラフの一般的なプロパティの指定

グラフの一般的なプロパティ（グラフのタイトル、データ・ラベルの表示可否など）を設定できます。グラフの幅と高さも設定できます。

データ・ラベルは、デフォルトで、選択された 2D グラフ・タイプで有効にされます。データ・ラベルは、3D 棒と列のようなグラフに影響を与えません。

既存のグラフにあるすべての要素が表示されるよう、グラフのデフォルト・サイズ（高さや幅など）は、使用できるスペースに合わせて変更されます。グラフにおける高さや幅の比率は、グラフのサイズが変更されても維持されます。グラフにある要素のサイズは、グラフで使用できるスペースに基づいて自動的に変更されます。

注意： グラフにある要素の数が大幅に増加しても、グラフをかなり大きくすることができます。

たとえば、3 種類の製品の売上高を 3 列で表示する棒グラフを作成し、グラフのサイズがページの約 25 パーセントになるように表示するリクエストを作成するものとします。レポートを後で実行したときに 6 種類の製品が返された場合、グラフのサイズは、元の幅の 2 倍に広がるか、ページの約 50 パーセントを占めるサイズになりますが、グラフにおける各列の幅は同じままになります。

グラフにある要素のサイズは、グラフに適合するよう必要に応じて変更されます。前述の例では、グラフはページの約 25 パーセントを占めるサイズのまま維持され、列のサイズは使用できるスペースに合わせて変更されます。

Oracle BI グラフ・ビューの一般的なプロパティを設定するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上部にある次のボタンをクリックします。



「General」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 グラフのカスタム・タイトルを入力するには、「Custom Title」チェック・ボックスを選択してから、グラフのタイトル文字列を入力します。
- 3 グラフのタイトル文字列をフォーマットするには、フォーマット・ボタン（タイトル・フィールドの隣）をクリックします。

「Text Format」ダイアログ・ボックスが表示されるので、次に示す変更を行ってから「OK」をクリックします。

- 「Family」：ドロップダウン・リストからフォント・ファミリーを選択します。
 - 「Size」：文字列の表示で使用するフォントのポイント・サイズを入力します。
 - 「Color」：これをクリックすると「Color Selector」ダイアログ・ボックスが表示されるので、色を選択するか、必要な色の 16 進コードを入力します。
 - 「Style」：ドロップダウン・リストからスタイルを選択します。
フォントのスタイルは、フォントがインストールされている場合のみ選択できます（Arial の太字や Arial のイタリックなど）。
 - 「Truncate」：表示する文字列の文字数を入力します。
- 4 データ・ラベルの表示方法を指定するには、次に示すようなオプションを「Show」ドロップダウン・リストから選択します。
 - 「Always」：常にデータ・ラベルを表示します。
 - 「Never」：データ・ラベルを表示しません。
 - 「On rollover」：マウス・ポインタがデータ・ラベルに移動したときにデータ・ラベルを表示します。
 - 「Default (On rollover)」：デフォルトの動作を使用してデータ・ラベルを表示します。この例では、デフォルトの動作は大カッコ文字で表示されます（「On rollover」）。
 - 5 グラフのラベル文字列をフォーマットするには、フォーマット・ボタンをクリックすると「Text Format」ダイアログ・ボックスが表示されるので、変更を行ってから「OK」をクリックします（詳細は、前述の手順を参照）。
 - 6 「Override Default Data Format」チェック・ボックスを選択して、データ・ラベルが現在表示されているデフォルト数値フォーマットよりも優先して適用するために、次のオプションを使用して選択します。
 - 「Treat Numbers As」：データ・ラベルを数値、パーセンテージまたは通貨として表示します。
 - 「Negative Format」：マイナス記号または丸カッコを使用して負の数値のデータ・ラベルを表示します。
 - 「Decimal Places」：小数点以下の指定桁数（最大 6 桁）を使用して数値を表示します。

- 「Use 1000's Separator」：カンマ文字を使用して千の桁を区切って表示します（たとえば、1,000,000,000.00）。

注意： 数値フォーマットが、「Criteria」タブにおいて代表する列から継承されます。複数の列を同じ軸に対して選択した場合、数値フォーマットは継承されません。

- 7 グラフのサイズを指定するには、数値を「Width」と「Height」のフィールドに入力します。

- グラフの幅と高さをピクセル単位で指定します。

- 8 「OK」をクリックします。

グラフ・ビューがリフレッシュします。グラフのサイズが、選択した内容に応じて変更される場合があります。

Oracle BI グラフ・ビューにおけるグリッド線の表示の制御

グリッド線がグラフに表示されるかどうかを制御できますし、表示する場合にグリッド線の色を指定することもできます。

Oracle BI グラフ・ビューでグリッド線の表示を制御するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Additional Charting Options」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Grid Lines」タブをクリックします。
- 3 選択してから「OK」をクリックします。

グラフ・ビューがリフレッシュします。

Oracle BI グラフ・ビューにおける凡例の場所の指定

凡例の場所を指定できますし、凡例のサイズを変更するオプションを設定できます。

Oracle BI グラフ・ビューで凡例の場所を指定するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Additional Charting Options」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Legend」タブをクリックします。
- 3 選択してから「OK」をクリックします。

グラフ・ビューがリフレッシュします。グラフのサイズが、選択した内容に応じて変更される場合があります。

Oracle BI グラフ・ビューにおける背景、文字および境界の色の指定

グラフにおける背景の色、文字の色および境界の色を指定できます。

Oracle BI グラフ・ビューで背景の色、文字の色および境界の色を指定するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Additional Charting Options」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Borders & Colors」タブをクリックします。
- 3 選択してから「OK」をクリックします。

グラフ・ビューがリフレッシュします。

Oracle BI グラフ・ビューにおける軸として表示する列の選択

グラフ・ビューの左側にある列領域では、リクエストに含まれている列が表示されます。列を選択すると、異なる軸としてグラフに表示することができます。軸に描画されたファクト・データ用にメジャー・ラベルが表示されるかどうかも指定することができます。

使用可能な軸は、「Graph」ドロップダウン・リストから選択したグラフのタイプに応じて変わる場合があります。グラフ・ビューで使用するグラフ軸ボタンに関する説明を、[表 17](#) に示します。

表 17. Oracle BI グラフ・ビューで使用するグラフ軸ボタン

グラフ軸ボタン	軸
	レベル軸（散布グラフとバブル・グラフ用）
	水平軸
	垂直軸（レーダー・グラフ用で、これはファクト軸）
	凡例軸
	オーバーレイ軸
	半径軸
	円グラフ値の軸（レーダー・グラフ用で、これはレーダー軸）

Oracle BI グラフ・ビューで軸として表示する列を選択するには

- 1 グラフの左側にある列領域で、グラフで対応する軸として列を表示するために、軸ボタンのいずれかに対応する適切なチェック・ボックスを選択します。
軸ボタンは、「Graph」ドロップダウン・リストから選択したグラフのタイプに応じて変わります。
- 2 列をグラフに追加するには、列を選択ペインでクリックしてから軸として設定します。
「Criteria」タブで列をリクエストに追加する場合と同様です。
- 3 軸にスケールの単位を表示するには、適切なチェック・ボックスを選択します。
- 4 「Redraw」をクリックすると、グラフ・ビューがリフレッシュします。

Oracle BI グラフ・ビューにおける軸スケール・オプションの設定

軸の制限値、スケールに使用するティック・マーク、スケール・タイプ、およびスケール・マーカのプロパティを制御できます。

Oracle BI グラフ・ビュー用に軸スケール・オプションを設定するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Axis Scaling」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 選択してから「OK」をクリックします。

数値軸のあるグラフでは、軸スケール・オプションの設定によりスケールの選択方法が決まります。

- 「Default」を選択すると、システムでは正数のスケールが選択され、軸が正数のゼロ（0）に設定されます。
- 「Zoom」を「Data Range」に選択すると、システムではスケールが選択されます。軸における値の範囲を吟味してから、スケールにおける適切な最小値と最大値を選択します。大きな値のセットがすべて互いにパーセンテージの小さい値の範囲内に収まるグラフを作成する場合に役立ちます。グラフが値において拡大するため、差異が容易に判別されます。
- 軸スケール値を特定の値に手動で設定することもできます。

グラフ・ビューがリフレッシュします。グラフのサイズが、選択した内容に応じて変更される場合があります。

Oracle BI グラフ・ビューにおけるスケール・マーカの編集

スケール・マーカにより、重要な点、しきい値、範囲などをマークする濃い背景範囲や線を強調します。線や範囲は、グラフのタイプに応じて 1 つ以上の軸に適用できます。

注意： グラフのタイプによっては、スケール・マーカを使用しないグラフがあります（円グラフなど）。

次の手順は、スケール・マーカを編集する一般的な手順を示します。

Oracle BI グラフ・ビューのスケール・マーカーを編集するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Axis Scaling」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 次のボタンをクリックします。

Edit Scale Markers

「Scale Markers Table Editor」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 「Add」ボタンをクリックして最初のスケール・マーカーを追加し、マーカーの選択を行います。

詳細オプションには、スケールを静的な値、変数または特定の列名に設定したり SQL 問合せの結果としてスケールを設定するオプションが含まれています。スケール・マーカーのタイプの詳細と詳細オプションの使用方法の詳細は、次に示す手順を参照してください。

- 4 「OK」を引き続いてクリックすると、ダイアログ・ボックスが閉じます。

グラフ・ビューがリフレッシュします。グラフのサイズが、選択した内容に応じて変更される場合があります。

線のスケール・マーカーを作成するには

- 1 「Type」ドロップダウン・リストから「Line」を選択します。
- 2 3 番目の列で線の幅を入力します。
- 3 4 番目の列で線の位置を入力します。
- 4 線の色を入力します。
- 5 線のキャプションを入力します。

範囲のスケール・マーカーを作成するには

- 1 「Type」ドロップダウン・リストから「Range」を選択します。
- 2 3 番目の列で範囲の下限值を入力します。
- 3 4 番目の列で範囲の上限値を入力します。
- 4 範囲の色を入力します。
- 5 範囲のキャプションを入力します。

範囲と線の値に関する詳細設定の使用

これらの値におけるオプションには、静的な値、変数、リクエストに含まれている列から取り込んだ値、または SQL 問合せから取得した値が含まれます。次に示すように、グラフをレンダリングする際に評価したプレゼンテーション変数、SQL 問合せまたは列の結果に基づいて、詳細オプションにより値を動的に設定できます。

- 「Static value」：静的にコーディングされた値です。

- 「Presentation Variable」：プレゼンテーション変数の値です。
- 「Column Name」：メジャー列値（数値を生成可能な値）にのみ基づいて、最初の値のみが適用されます。
- 「SQL Query」：SQL 問合せの結果に基づきます。結果はテーブルになる場合がありますが最初の行のみで、最初の列セル値のみ適用されます。

注意：前述のいずれかで有効な値がない場合、スケール・マーカは無視されます。

詳細設定を指定するには

- 1 フィールドの隣にある「Properties」ボタンをクリックします。
- 2 いずれかのオプションを選択してから、適切な値を入力します。
- 3 終了したら「OK」をクリックします。

Oracle BI グラフ・ビューにおける軸のタイトルとラベルの指定

軸タイトルとデータ・ラベルが、それぞれグラフの下部と左側に表示されるかどうかを制御できます。

注意：グラフのサイズを調整すると、軸ラベルの表示に影響する場合があります。

Oracle BI グラフ・ビューで軸タイトルを指定するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上部にある次のボタンをクリックします。



「Axis Titles and Labels」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 軸タイトルとラベルを更新するには、「Left」または「Bottom」のタブを選択します。
- 3 グラフのカスタム軸タイトルを入力するには、「Custom Title」チェック・ボックスを選択してから、グラフのタイトル文字列を入力します。
- 4 軸のタイトル文字列をフォーマットするには、フォーマット・ボタン（タイトル・フィールドの隣）をクリックします。

「Text Format」ダイアログ・ボックスが表示されるので、次に示す変更を行ってから「OK」をクリックします。

- 「Family」：ドロップダウン・リストからフォント・ファミリーを選択します。
 - 「Size」：文字列の表示で使用するフォントのポイント・サイズを入力します。
 - 「Color」：これをクリックすると「Color Selector」ダイアログ・ボックスが表示されるので、色を選択するか、必要な色の 16 進コードを入力します。
 - 「Style」：ドロップダウン・リストからスタイルを選択します。
 - 「Truncate」：表示する文字列の文字数を入力します。
- 5 軸のスケール・ラベルを表示する方法を、次のように指定します。
 - 「Display scale labels」：グラフに表示するスケール・ラベルを選択します。

- 「Rotate labels」：このチェック・ボックスを選択してから、ドロップダウン・リストから値を選択することで、軸のスケール・ラベルを表示する際にラベルを回転する度数（180 度までの値）を指定します。
 - 「Abbreviate」：このチェック・ボックスを選択してからドロップダウン・リストから、各軸ラベルの略称を表示するための値を選択します。
- 6 スケールのラベル文字列をフォーマットするには、フォーマット・ボタンをクリックすると「Text Format」ダイアログ・ボックスが表示されるので、変更を行ってから「OK」をクリックします（詳細は、前述の手順を参照）。
 - 7 「Override Default Data Format」チェック・ボックスを選択して、軸のスケール・ラベルが現在表示されているデフォルト数値フォーマットよりも優先して適用するために、次のオプションを使用して選択します（「Left」タブのみ該当）。
 - 「Treat Numbers As」：ラベルを数値、パーセンテージまたは通貨として表示します。
 - 「Negative Format」：マイナス記号または丸カッコを使用して負の数値のラベルを表示します。
 - 「Digits」：小数点以下の指定桁数を使用して数値を表示します。
 - 「Use 1000's Separator」：カンマ文字を使用して千の桁を区切って表示します（たとえば、1,000,000,000.00）。
 - 8 ラベルが重ならないように表示するには、「Stagger labels」チェック・ボックスを選択します（「Bottom」タブのみ該当）。
 - 9 ラベルを 1 つおきに表示するには、「Skip labels」チェック・ボックスを選択します（「Bottom」タブのみ該当）。
 - 10 「OK」をクリックします。
グラフ・ビューがリフレッシュします。

ユーザーがグラフを Oracle BI においてクリックしたときに行う処理の指定

ユーザーがグラフを表示しているときにグラフをクリックした場合に行う処理のタイプを指定できます。グラフに対する処理のタイプを次に示します。

- **ドリル**。ユーザーは詳細情報にドリルダウンすることができます。これはデフォルトの処理です。
- **ナビゲート**。ユーザーは、1 つ以上の保存済みリクエストやダッシュボードにナビゲートすることができます。
- **なし**。グラフにおけるドリルダウンとナビゲートを無効にします。

Oracle BI グラフ・ビューにおけるユーザー操作に対応する処理を指定するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Additional Charting Options」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Interaction」タブをクリックします。

（ユーザーがグラフをクリックしたときに）他の保存済みリクエストやダッシュボードにナビゲートできるようにする手順は次のとおりです。

- a 「Navigate」ラジオ・ボタンを選択して、「Add Navigation Target」ボタンをクリックします。
「Target」フィールドと「Caption」フィールドが表示されます。
 - b ユーザーが他の保存済リクエストやダッシュボードにナビゲートできるようにする場合は、「Browse」ボタンをクリックして「Choose Request/Dashboard」ダイアログ・ボックスを開き、対象となるリクエストまたはダッシュボードにナビゲートし、「OK」をクリックして対象を選択します。
 - c (オプション) キャプションのテキストを「Caption」フィールドに入力します。
キャプションの文字列は、ユーザーがグラフをクリックすると表示されます。
「Caption」フィールドにテキストが入力されていない場合は、対象となるレポートやダッシュボードのタイトルがキャプションとして表示されます。
 - d 複数の保存済リクエストやダッシュボードにナビゲートできるようにするには、「Add Navigation Target」ボタンをクリックしてから、前の手順を繰り返します。
 - e 「OK」をクリックして変更を保存します。
ユーザーがグラフをクリックすると、次のルールが適用されます。
 - 複数のナビゲーション・パスが他の保存済リクエストやダッシュボードに存在する場合、ポップアップ・ウィンドウにおいて、それぞれのリクエストやダッシュボードに対応するキャプションが表示されます。ユーザーが特定のキャプションをクリックすると、必要なリクエストまたはダッシュボードにナビゲートします。
 - ナビゲーション・パスが1つのみの場合は、そのリクエストまたはダッシュボードが表示されます。ドリルダウンやナビゲーションを無効にするには、「None」ラジオ・ボタンを選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

グラフの表示のフォーマット

次のような2種類の設定に基づいてグラフの表示をフォーマットできます。1つはグラフの系列の位置で、もう1つは、列値に適用される条件に関する設定です。

- 「位置に基づいたグラフ・フォーマット」(125 ページ)
- 「列値に基づいたグラフ・フォーマット」(126 ページ)

位置に基づいたグラフ・フォーマット

位置フォーマットにより、グラフの凡例における値の位置に基づいて、グラフの系列の表示をカスタマイズできます。色、線の幅および行の記号の観点でグラフの系列の表示をフォーマットできます。

次に例を示します。

- 棒の色、線の幅および線の記号を変更する例
ユーザーが折れ線グラフと棒グラフの組合せグラフを、2つのデータ系列で作成しました。棒が位置1にあり、線が位置2にあると仮定した場合、棒の色、線の幅、およびデータの点を示す記号を変更できます。

列値に基づいたグラフ・フォーマット

条件付フォーマットにより、列の値に基づいてグラフの表示をカスタマイズすることができます。特定の列値や列値の範囲に基づいてグラフのデータを表示するために使用する色を指定できます。

次に例を示します。

■ 特定の列値に基づいてグラフの色を条件付きで変更する例

2種類の飲料（ラムネとコーラ）の売上高を比較する棒グラフをユーザーが作成するものと仮定します。棒グラフを作成するときに、ユーザーは2つの条件を指定するものとします。その1つはラムネの売上高を示す棒は黄色で表示し、もう1つはコーラの売上高を示す棒は青色で表示する条件です。

■ 列値の範囲に基づいてグラフの色を条件付きで変更する例

すべての営業担当者の営業成績を2つのランクにより比較する棒グラフを営業管理者が作成するものと仮定します。棒グラフを作成するときに、営業管理者は2つの条件を指定するものとします。その1つは営業成績が250,000ドル未満である営業担当者はすべて赤色の棒で表示し、もう1つは営業成績が250,000ドルを超えている営業担当者はすべて緑色の棒で表示する条件です。

グラフの表示をフォーマットするには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上部にある次のボタンをクリックします。



「Format Chart Data」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Positional」タブをクリックして、その位置に基づいてグラフの系列の表示をフォーマットします。

選択肢は、グラフのタイプによって異なります。次に例を示します。

- グラフの系列をカスタマイズするには、「Use Default」チェック・ボックスの選択を解除します。
- グラフの系列をデフォルト設定に戻すには、「Use Default」チェック・ボックスを再び選択します。
- 新しいフォーマット系列制御処理を追加するには、「Add」ボタンをクリックします。現行のグラフでこの系列が使用されていない場合でも、必要に応じて使用されます（ドリルなど）。
- グラフのすべての系列をデフォルト値に戻すには、「Clear All」ボタンをクリックします。
これによって、追加されたすべてのフォーマット系列位置も削除されます。
- 色を変更するには、色ボックスをクリックして、「Color Selector」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- 他のグラフ系列属性を変更するには、目的のタブをクリックしてから、表示されているオプションから棒や線の属性を選択します。

- 3 「Conditional」タブをクリックして、特定の列値や列値の範囲に適用される条件に基づいてグラフの表示をフォーマットします。

グラフの特定の列値や列値の範囲に条件を適用する手順は次のとおりです。

- a 「Add Condition」ボタンをクリックして、条件を適用する対象となる列を選択します。
「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- b 演算子を選択し、対象となる条件に対応する特定の列値や列値の範囲を入力します。
- c 終了したら「OK」をクリックします。
新しい条件が「Format Chart Data」ダイアログ・ボックスに表示されます。
- d 条件を満たしたときにグラフの系列を表示するために使用する色を選択するには、「Color」ボタンをクリックして「Color Selector」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- e 条件を更新するには、「Filter」ボタンをクリックすると、「Create/Edit Filter」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- f 適用対象となる条件の順番を変更するには、各条件の隣にある上矢印または下矢印をクリックします。

グラフの既存条件を表示する手順は次のとおりです。

- 左側の列にあるリンクをクリックします。

4 終了したら「OK」をクリックします。

条件付フォーマットをグラフにおいて適用するためのルール

グラフにおいて条件を作成したり使用する場合は、次のルールが適用されます。

- 条件は、グラフが使用している列からのみ作成できます。
- フォーマット条件が相互に競合する場合、競合条件は次の優先順位で処理されます。
 1. Measure: 通常、交差する点の値を表示するために使用される Y 軸。
 2. Legend: グラフに描画できるデータ点の系列をグループ化する方法。
 3. Category: 通常、測定対象の値を区切るために使用される X 軸。
 4. Position: グラフの系列が表示される順番。

前述の階層において、Category は Position より優先され、Legend は Category より優先され、Measure は Legend より優先されます。

- 条件付フォーマットが適用されているグラフにおいてユーザーがドリル操作を行うと、次のルールが適用されます。
 - メジャーに基づいた条件付フォーマットは、次のグラフに繰り越されません。
 - ディメンショナル属性に基づいた条件付フォーマットは、ドリル先でない場合は次のグラフに繰り越されません。
たとえば、「Lemonade = Blue」の条件付フォーマットが設定してある場合に年にドリルしても、「Lemonade = Blue」は適用されません。

列値における条件付フォーマットのグラフ例外

次の表に、条件付フォーマットが列値に適用されるグラフ例外を示します。

表 18. 条件付フォーマットが列値に適用されるグラフ例外

グラフのタイプ	例外
階段グラフ	Measure: フォーマットは使用できません。 Legend: フォーマットは使用できます。 凡例のみがフォーマットできます。階段グラフでは、X 軸においてデータが変化する箇所を接続する線が描画されます。グラフを作成すると、凡例を使用して、条件付フォーマットで線の色を変更できます。 Category: フォーマットは使用できません。
折れ線グラフ	Measure: 記号フォーマットは使用できますが、線フォーマットは使用できません。 Legend: 記号フォーマットと線フォーマットは使用できます。 Category: 記号フォーマットは使用できますが、線フォーマットは使用できません。
レーダー・グラフ	Measure: 記号フォーマットは使用できますが、線フォーマットは使用できません。 Legend: 記号フォーマットと線フォーマットは使用できます。 Category: 記号フォーマットは使用できますが、線フォーマットは使用できません。
パレート・グラフ	Measure: フォーマットは使用できます。 Legend: パレート・グラフの一部ではありません。 Category: フォーマットは使用できます。

円グラフにおけるデータ・ラベルの選択

データ・ラベルは、ユーザーがマウス・ポインタを円グラフの要素の上に移動したときに表示されます。値の表示方法とデータ・ラベルで表示される内容を指定できます。

合計のパーセンテージや実際値として値を表示することができます。データ・ラベルでは、値または名前のみ（あるいはその両方）を表示することができます。

選択によっては、グラフのサイズが変更されデータ・ラベルの表示ができる場合があります。

データ・ラベルを選択するには

- 1 グラフ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



- 2 データ・ラベルで表示される内容と値を選択します。
- 3 終了したら「OK」をクリックします。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

Oracle BI ピボット・テーブル・ビューを使用したピボット・テーブルの結果の表示

ピボット・テーブル・ビューは対話型ビューで、これによって行、列およびセクションのヘッダーを入れ替えて、別の観点からデータを表示することができます。ピボット・テーブルはナビゲートとドリルが可能で、特に傾向レポートに役立ちます。

この項では、ピボット・テーブルを作成する一般的な手順だけでなく、ピボット・テーブルの追加フォーマット・オプションについても説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI ピボット・テーブル・ビューの追加または変更の一般的手順」(129 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブルにおける複数ページのドロップダウン・リストの使用」(132 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブルにおけるデフォルト集計ルールの上書き」(132 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブルにおけるフォーマットの適用」(133 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブルでの累計の表示」(136 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブルでの項目の相対値の表示」(136 ページ)
- 「Oracle BI ピボット・テーブルでの計算の使用」(137 ページ)

Oracle BI ピボット・テーブル・ビューの追加または変更の一般的手順

ピボット・テーブルの追加や変更を行うと、リクエストに含まれる列が、ピボット・テーブルのテンプレートに要素として表示されます。ピボット・テーブルの位置の詳細は、[131 ページの表 19](#) を参照してください。

Oracle BI ピボット・テーブル・ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しいピボット・テーブル・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Pivot Table」を選択します。

複合的なレイアウト・ビューか「Criteria」タブにある「Pivot Table」ボタンをクリックしても、ピボット・テーブル・ビューを追加できます。
 - 既存のピボット・テーブル・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックしてから、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択し、ピボット・テーブル・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。
- 2 ピボット・テーブルのテンプレートの表示と各列で個別に動作するボタンの表示を行うには、オプションを選択して、ヘッダー・ツールバーを表示させます。

ワークスペースには、ピボット・テーブルのテンプレートが表示されます。
- 3 列をピボット・テーブル・ビューに追加するには、選択ペインで列をクリックします。
- 4 リクエスト列（ピボット・テーブルの要素として表示される）を、ピボット・テーブルのテンプレートのドラッグ先にドラッグ・アンド・ドロップします。

- 5 プレビューを表示するには、「Display Preview」オプションを選択します。
「Display Preview」リンクをクリックすると、結果のリフレッシュができます。
- 6 グラフ・ビューをピボット・テーブルの隣に追加するには、「Chart Pivoted Results」オプションを選択します。
グラフ・ビューの詳細は、「[Oracle BI グラフ・ビューを使用したグラフの結果の表示](#)（112 ページ）を参照してください。
- 7 結果をソートするには、「Order By」ボタンをクリックします。
ボタンがソート順序を示すボタンに変わります。
 - 上矢印は昇順を示します。
 - 下矢印は降順を示します。ソートの詳細は、「[Oracle BI のリクエストでの列のソート順序の指定](#)（37 ページ）を参照してください。
- 8 合計を追加するには、次の操作を実行します。
 - a 「Pages」、「Section」、「Row」および「Column」の領域における合計の場合、合計ボタンをクリックしてから選択を行います。
 - 合計がない場合は、「None」を選択します。
 - データ・アイテムの前後に合計を表示するには、「Before」または「After」を選択します。たとえば、地域を含む行に合計を追加してから「Before」オプションを指定すると、地域における個々の地区が一覧される前に合計が表示されます。
 - b カスタム・テキストを合計ヘッダーに挿入するには、合計ボタンをクリックしてから「Format Labels」オプションを選択して、「Edit Format」ダイアログ・ボックスを表示します。次のようなカスタム・テキストを「Caption」フィールドに入力します。
 - @ : データ値を表示します。
たとえば、「Region」列に合計を指定した後、合計ヘッダーの「Caption」フィールドに次のテキストを入力したとします。
- All values in the @
Western Region では、合計ヘッダーに次のテキストが表示されます。
All values in the Western Region
 - "@" : @ 記号を表示します。
 - "¥" : 二重引用符を表示します。
 - "¥¥" : ¥ 記号を表示します。
 - ¥ : ¥ 記号を表示します。二重引用符の構文は、単一の文字に限定されません。一般的に、二重引用符で囲まれた文字列も円記号でエスケープ処理できます。次に例を示します。
 - "1234567890¥¥abc¥¥d¥"x¥"yz!@#%^&*()-+={ } [] ; : ' | ? / > < , . ` ~"前述の文字列は、次のように表示されます。
 - 1234567890¥¥abc¥¥d¥"x¥"yz!@#%^&*()-+={ } [] ; : ' | ? / > < , . ` ~

- c 「Measures」領域における合計の場合は、合計を行う行または列の「More Options」ボタンをクリックしてから、「Aggregation Rule」を選択し、値の選択を行ってから「Report-Based Total」オプションが選択済であることを確認します。

注意：「Report-Based Total」オプションが選択されていない場合、Oracle BI Server では、フィルタをメジャーに適用する前に、結果セット全体に基づいて合計が計算されます。

この要素の位置に応じて、「Measures」要素で示されるサマリー・データの合計が列または行として表示されます。列と行の合計にはラベルが含まれます。

「Totals」ボタンがグレー表示されている場合、合計は表示されません。

- 9 列、メジャーまたは行の追加オプションで処理するには、「More Options」ボタンか「Formatting」ボタンをクリックしてから、ドロップダウン・リストから選択を行います。
ヘッダーに適用できる表示フォーマットの詳細は、「[結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用](#) (84 ページ) を参照してください。
- 10 列のラベルや値をフォーマットするには、「Totals」ボタンか「More Options」ボタンをクリックしてから、適切なフォーマット・オプションを選択します。
列のフォーマットの詳細は、「[Oracle BI ピボット・テーブルにおけるフォーマットの適用](#) (133 ページ) を参照してください。
- 11 終了したら、ピボット・テーブル・ビューのリクエストを保存できます。

表 19. Oracle BI ピボット・テーブルの位置

位置	説明
Pages	表示するデータをユーザーが選択できる対話型結果セットが用意されます。「Pages」位置に表示される列の値は、初期フィルタ条件として使用されます。値がドロップダウン・リストで表示され選択できます。選択した内容に基づいて、ピボット・テーブル（ピボット・テーブルにおいて定義された「Sections」、「Columns」、「Rows」および「Measures」で構成される）が表示されます。詳細は、「 Oracle BI ピボット・テーブルにおける複数ページのドロップダウン・リストの使用 (132 ページ) を参照してください。
Sections	初期フィルタ条件が用意されます。「Section」列の各値に対して、一意のピボット・テーブルが表示され、ピボット・テーブルにおいて定義された「Columns」、「Rows」および「Measures」で構成されます。
Columns	要素が列の方向に表示されます。ピボット・テーブルには複数の列を含めることができます。
Rows	要素が行の方向に表示されます。列と同様に、ピボット・テーブルには複数の列を含めることができます。

表 19. Oracle BI ピボット・テーブルの位置

位置	説明
Measures	<p>サマリー・データがあるピボット・テーブルのセクションが移入されます。「Measures」領域にある要素が、ページ、セクション、行および列のフィールドにある要素に基づいて要約されます。「Measures」要素における各値は、ソースの行と列が交差する箇所におけるデータのサマリーを示します。</p> <p>「Measure Labels」要素は、「Columns」領域にデフォルトで表示されますが、「Measures」列ラベルの位置を示します。合計処理と順序付け処理の機能も用意されます。メジャーが1つのみある場合、この要素を除外することができます。</p>
Excluded	<p>列がピボット・テーブルの結果から除外されます。ピボット・テーブルが作成された後にリクエストの条件として追加される列は、除外として追加されます。</p> <p>ピボット・テーブルを表示した後、ピボット・テーブル・ビューのデザイナーで列を除外すると、Oracle BI Presentation Services では、既存のデータを使用してピボット・テーブル・ビューの再表示が行われます。ピボット・テーブル・ビューのリクエスト定義で列を除外すると、Oracle BI ではデータベースに対して再び問合せが行われて、データが更新されます。</p>

Oracle BI ピボット・テーブルにおける複数ページのドロップダウン・リストの使用

ピボット・テーブル・ビューの「Pages」領域に複数の属性を配置すると、複数ページのドロップダウン・リストを作成できます。ユーザーがピボット・テーブルをダッシュボードに表示すると、ページのヘッダーに配置された属性の連結一覧ではなく、各属性のドロップダウン・リストが表示されます。

たとえば、「Region」と「Brand」を「Pages」領域に配置すると、「Region」ドロップダウン・リストにより、「Brand」に連結した「Region」を表示するのではなく、ユーザーが特定の地域を選択して、選択した地域のデータのみを表示できます。

独立したドロップダウン・リストをOracle BI ピボット・テーブルに作成するには

- 1 対象となる属性を「Pages」領域にドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 「Pages layout」領域にある2番目（または後続）の属性において「More Options」ボタンをクリックします。
- 3 「Start New Page Drop Down」オプションを選択します。

属性のドロップダウン・リストが、ピボット・テーブルのプレビューより上に表示されます。

他の属性のドロップダウン・リストを「Pages」領域に作成できます。レポートが保存されると、レポートにアクセスできるユーザーがドロップダウン・リストを使用できる状態になります。

Oracle BI ピボット・テーブルにおけるデフォルト集計ルールの上書き

メジャーのデフォルト集計ルールはOracle BI リポジトリにおいて指定されるか、レポートの元の作成者が指定します。

メジャーのデフォルト集計ルールを Oracle BI ピボット・テーブルで上書きするには

- 1 上書きされるデフォルト集計ルールのあるメジャーの「More Options」ボタンをクリックします。
- 2 「Aggregation Rule」オプションを選択してから、適用対象となる集計ルールを選択します。
メジャーの選択済集計ルールは、チェック・マークの印が付きます。

Oracle BI ピボット・テーブルにおけるフォーマットの適用

緑のバー・スタイルと表示フォーマットをピボット・テーブルに適用できます。内部に格納されるセクション、行、列、メジャーおよびコンテンツの表示をカスタマイズすることもできます。たとえば、セクション、値、メジャー・ラベルのフォント、セル、境界およびスタイル・シートのオプションを指定できます。セクションの場合、列ヘッダーの位置をそのセクションの値とともに含めてカスタマイズできます。指定した列に対して改ページを挿入することもできるため、値がセクション列で変更されるたびに、その列の新しいセクションが新しいページに表示されます。空白の行と繰返しセクション列値を非表示にすることもできます。

列をフォーマットする方法とナビゲーションを列フォーマットの一部として追加する方法の詳細は、「[Oracle BI Answers の列フォーマット関数の使用](#)」(72 ページ) を参照してください。

条件付フォーマットを追加することもできます。これによって、あるしきい値を満たした場合にデータ要素に注意を向ける際に役立ちます。ピボット・テーブルで条件付フォーマットを列に追加するには、「[Oracle BI Answers における列コンテンツへの条件付フォーマットの適用](#)」(78 ページ) を参照してください。

ピボット・テーブルへの緑のバー・スタイルと表示フォーマットの追加

緑のバー・スタイルでは、行や列が交互に薄い緑色で表示されます。表示フォーマットによりピボット・テーブルの表示全体が影響を受け、バーのデフォルト色である緑色を変更することもできます。

緑のバー・スタイルと表示フォーマットをピボット・テーブルに適用するには

- 1 ピボット・テーブル・ビューで、ワークスペースの上部にある「Table View Properties」ボタンをクリックします。
- 2 緑のバー・スタイルの適用処理を追加するには、緑のバー・スタイルを適用するチェック・ボックスを選択します。
スタイルの適用方法を変更するには、ドロップダウン・リストから選択します。
- 3 表示フォーマット処理を追加するには、代替フォーマット・ボタンをクリックします。
表示フォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 バーのデフォルト色を緑色から変更するには、セル・フォーマットの新規背景色を選択します。
表示フォーマットの詳細は、「[結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用](#)」(84 ページ) を参照してください。

ピボット・テーブルにおけるセクション・プロパティの変更

セクション・プロパティのオプションを使用すると、次の操作ができます。

- 列ヘッダーの位置をそのセクションの値とともに含めてカスタマイズできます。

- 改ページのオプションを挿入できます。改ページの挿入先に対して列を指定できます。値が列で変更されるたびに、新しい列が新しいページに表示されます。この機能は、データ駆動型の詳細レポートに役立ちます。
- 空白の行を表示したり非表示にできます。
- セルと境界のプロパティ設定を適用できます。
- さらに別のフォーマットをセクションに適用できます。たとえば、セクションの幅と高さを指定できます。

セクション・プロパティをピボット・テーブルで変更するには

- 1 ピボット・テーブル・ビューで、「Section Properties」ボタンをクリックします。
「Section Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 セクションの表示を指定するには、「Section Properties」ダイアログ・ボックスで次のように選択を行います。
 - a 列ヘッダー表示プロパティを指定するオプションをクリックします。
 - b 次に示すように、ドロップダウン・リストから「Insert Page Break Option」を選択することで、改ページのために使用する列を指定します。
 - 「No Page Break」：改ページは挿入されません（デフォルト値）。
 - 「Innermost Column」：セクションとセクションの間において改ページが挿入されます。外側の列にある値が変更されると、内側の列にある値も変更されているものとみなされます。したがって、改ページを内側の列に設定すると、改ページがセクションとセクションの間に手動で挿入されます。
 - 「Outermost Column」：この列のセクション・ラベルが変更されると、改ページが挿入されます。
 - < テーブル . 列名 >（たとえば、Markets.Region や Products.Brand）：この列のセクション・ラベルが変更されると、改ページが挿入されます。
 - c 「Show Blank Rows」チェック・ボックスを次のように使用します。
 - このチェック・ボックスを選択すると、行が空のテキスト文字列で値がない場合でもすべての行が表示されます。
 - このチェック・ボックスの選択を解除すると、表示する結果がない場合、行は非表示になります（デフォルト値）。このオプションが役立つ場合があります（空白のアドレス行を非表示にする場合など）。
- 3 セクションの追加プロパティをフォーマットするには、「Additional Formatting Options」セクションで選択を行います。

ピボット・テーブルにおけるセクションと行のフォーマットの変更

セクションと行のコンテンツのフォーマットを行うオプションを使用すると、次の操作ができます。

- 表示フォーマットをセクションや行のヘッダーと値に適用できます。
- セクションの値や行の値をピボット・テーブルの計算で使用できますが、その表示を結果において非表示に抑制できます。
- セクションの値が新しい行に配置されるように指定できます。

- 繰返しセクション値が表示されないように指定できます。
- ピボット・テーブルで使用するために新しい計算を定義できます。
- セクションや行をピボット・テーブルで複製できます。
- 列をピボット・テーブル・ビューから削除できます。

セクションと行のフォーマットをピボット・テーブルで変更するには

- ピボット・テーブル・ビューでセクションまたは行の「More Options」ボタンをクリックしてから、ドロップダウン・リストから選択します。
 - 表示フォーマットをセクションと行のヘッダーや値に適用するには、適切なオプション（「Format Headings...」または「Format Values...」）を選択します。
表示フォーマットを適用する方法の詳細は、「[結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用](#)（84 ページ）を参照してください。
 - セクションや行を出力で非表示にするには、「Hidden」を選択します。
 - セクションの値が新しい行に配置されるように指定するには、「New Row」で「Place Value」を選択します。詳細は、「[「New Row」設定の「Place Value」の使用](#)（135 ページ）を参照してください。
 - セクションの値を一度表示してから繰返しセクション値を非表示にするには、「Hide Repeated Values」を選択します。詳細は、「[「Hide Repeated Values」設定の使用](#)（135 ページ）を参照してください。
 - 新しい計算を定義するには、「[Oracle BI ピボット・テーブルでの計算の構築](#)」（138 ページ）を参照してください。
 - セクションや行をピボット・テーブルで複製するには、「Duplicate Layer」を選択します。
 - 複製されたセクションや行をピボット・テーブルで削除するには、「Remove Duplicate」を選択します（「Duplicate Layer」オプションを使用した後のみ表示可能）。
 - 列をリクエストから削除するには、「Remove Column」を選択します。
リクエストのピボット・テーブルとその他のすべての結果ビューから列が削除されます。

「Hide Repeated Values」設定の使用

「Hide Repeated Values」設定を使用すると、セクションの列値を一度表示して、繰り返される値が変わるまで出力を抑止できます。セクション列の値が変更されると、右揃えで階層が表示されます。この設定の使用方法の詳細は、「[セクションと行のフォーマットをピボット・テーブルで変更するには](#)」（135 ページ）を参照してください。

「New Row」設定の「Place Value」の使用

「New Row」設定の「Place Value」を使用すると、セクションの値を様々な行で表示できます。セクションの値が行においてともに表示されている場合、セクションの値が新しい行に表示されるように指定できます。

Oracle BI ピボット・テーブルでの累計の表示

ピボット・テーブル内の数値メジャーは累計として表示できます。メジャーの連続する各セルには、そのメジャーのそれまでのセルすべての合計が表示されます。このオプションは表示機能のみで、実際のピボット・テーブルの結果には影響しません。

通常、累計は、重複している列、または最後の値を 100 パーセントとしたパーセンテージで列のデータを表示するオプションが選択されているメジャーに対して表示されます。累計は、すべての合計に適用されます。各詳細レベルの累計は個別に計算されます。

累計オプションが選択されていても、列ヘッダーには影響はありません。累計オプションが有効になっていることを列ヘッダーに示す場合には、列ヘッダーのフォーマットを設定できます。

累計に有効な使用ルールは次のとおりです。

- 累計には、SQL RSUM 関数との互換性がありません（この関数の結果は累計の累計となります）。
- すべての累計は、新しいセクションごとにリセットされます。累計は、セクション内のブレイクまたはセクション間で継続している場合にはリセットされません。
- メジャーが 1 つの列または行に表示されない場合、そのメジャーは左から右、さらに上から下の方向に合計されます（右下のセルに総計が含まれます）。累計は、行または列ごとにリセットされません。
- 最小値、最大値および平均値のローリングはサポートされていません。

メジャーを累計として表示するには

- 「Measures」領域で、合計する行または列の「More Options」ボタンをクリックし、次のオプションを選択します。

「Display as running sum」

Oracle BI ピボット・テーブルでの項目の相対値の表示

ピボット・テーブル内の格納されているメジャーまたは計算されているメジャーは、パーセンテージまたはインデックスに動的に変換できます。これにより、明示的に計算を作成することなく、合計と比較した項目の相対値が表示されます。

たとえば、ピボット・テーブルを使用して地域ごとの売上を確認する場合は、売上メジャーを複製し、合計のパーセンテージとして表示できます。これにより、売上実績、および各地域が占める売上のパーセンテージを表示できます。

メジャーは 0.00 ~ 100.00 のパーセンテージとして表示するか、0 ~ 1 のインデックスとして表示できます。どちらの方法を使用するかは、ユーザー次第です。

Oracle BI ピボット・テーブルで項目を相対値として表示するには

- 1 ピボット・テーブル・ビューで、相対値として表示する項目の「More Options」ボタンをクリックします。

注意： 次の手順はオプションです。ピボット・テーブルでメジャーを複製すると、メジャーの合計とその相対値の両方を表示できるようになります。これにより、ピボット・テーブルで合計とその相対値の両方を表示するために、「Criteria」タブに列を 2 回追加する必要がなくなります。

- メジャーを複製するには、「Duplicate Layer」オプションを選択します。
2 つ目のメジャーが同じ名前でもピボット・テーブルに表示されます。メジャーの名前を変更する場合は、「More Options」をクリックし、「Rename」を選択します。
- 「Show Data As」オプションを選択し、「Percent of」または「Index of」を選択して、適切なサブメニュー・オプションを選択します。

注意: 「Show Data As」オプションは、格納または計算されているメジャーの項目に対してのみ使用できません。

次の表に、「Percent of」および「Index of」のオプションを示します。「Percent of」での小数点以下の桁数はメジャーのタイプによって異なります。

「Percent of」または「Index of」	表示結果
Column	この値を含む列のパーセンテージまたはインデックス値を示します。
Row	この値を含む行のパーセンテージまたはインデックス値を示します。
Section	この値を含むセクションのパーセンテージまたはインデックス値を示します。
Page	この値を含むページのパーセンテージまたはインデックス値を示します。
Column Parent	この値を含む列の親のパーセンテージまたはインデックス値を示します。

Oracle BI ピボット・テーブルでの計算の使用

ピボット・テーブルで計算を使用すると、各種のデータ・ビューを取得できます。計算を使用すると、Oracle BI リポジトリに指定されているデフォルトの集計ルールを上書きできます。既存のレポートの場合は、作成者が選択した集計ルールを上書きできます。

表 20 では、ピボット・テーブルで使用可能な計算について説明しています。

表 20. Oracle BI ピボット・テーブルの計算

計算	説明
Default	Oracle BI リポジトリまたはレポートの最初の作成者によって設定されているデフォルトの集計ルールを適用します。
Sum	結果セット内の値をすべて加算することで、合計を計算します。この計算は、数値を含む項目に使用します。
Min	結果セット内の行の最小値（最も低い数値）を計算します。この計算は、数値を含む項目に使用します。
Max	結果セット内の行の最大値（最も高い数値）を計算します。この計算は、数値を含む項目に使用します。
Average	結果セット内の項目の平均値を計算します。この計算は、数値を含む項目に使用します。ピボット・テーブルの平均値は、最も近い整数に丸められます。
First	結果セット内の最初の項目を選択します。

表 20. Oracle BI ピボット・テーブルの計算

計算	説明
Last	結果セット内の最後の項目を選択します。
Count	項目に NULL 以外の値を持つ結果セット内の行数を計算します。項目は通常は列名です。この場合、その列の NULL 以外の値を持つ行数が返されます。
Count Distinct	個別の処理を Count 関数に追加します。つまり、項目の個別の出現が 1 回のみカウントされます。
Formula	計算に含める算術演算子を選択するためのツールバーを開きます。
None	計算は適用されません。
Server Complex Aggregate	ピボット・テーブルではなく、サーバーによって集計ルールが決定および計算されます。

Oracle BI Presentation Services では、内部で SQL SELECT 文としてピボット・テーブルの計算を処理し、指定されている関数を結果セットに対して実行します。SQL 関数の詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

Oracle BI ピボット・テーブルでの計算の構築

項目の計算は、「Pages」、「Sections」、「Rows」および「Columns」の各領域で構築できます。

Oracle BI ピボット・テーブルで項目の計算を構築するには

- 1 「Pages」、「Sections」、「Rows」または「Columns」の各領域で、計算を実行するメジャーに対して「More Options」ボタンをクリックします。
- 2 「New Calculated Item」オプションを選択します。
「Calculated Item」ウィンドウが表示されます。
- 3 計算の名前を「Name」フィールドに割り当てます。
- 4 計算式以外の計算を構築するには、次のオプションから選択を行います。
 - 1 つの計算を構築するには、使用する関数を「Function」ドロップダウン・リストから選択し、「Values」リスト内の 1 つ以上の項目をクリックして、「Function」フィールドに追加します。
 - 複数の項目に対して複数の計算を構築するには、関数を入力し、項目名をクリックして「Function」フィールドに追加します。構築可能な計算の種類の場合は、「[Oracle BI ピボット・テーブルでの計算例 \(139 ページ\)](#)」を参照してください。
 - 整数型を含む列の平均を計算する場合は、この列の計算式を変更し、double（浮動小数点）型にキャストします。たとえば、現在の計算式が x である場合は、これを $\text{CAST}(\text{double としての } x)$ に変更します。

注意：ピボット・テーブルの平均値は、最も近い整数に丸められます。

- 5 計算式を構築するには、Formula 関数を選択します。

注意：計算式によって、ピボット・テーブル内に動的なカスタム・グループが作成されます。計算式で参照されるメジャーはすべて、同じ論理列に属しており、結果に含まれている必要があります。計算式は、他の計算に挿入することも、他の計算と組み合わせることもできます。

算術演算子が表示されます。演算子を次の表に示します。

演算子	説明
+	プラス記号。計算式内の加算用。
-	マイナス記号。計算式内の減算用。
*	乗算記号。計算式内の乗算用。
/	除算記号。計算式内の除算用。
\$	ドル記号。計算式内の項目の行位置に対する操作用。
(開き括弧。計算式内のグループ演算の開始を示す。
)	閉じ括弧。計算式内のグループ演算の終了を示す。

- a 「Function」フィールドで、メジャー名を入力するかクリックし、演算子をクリックして計算式に挿入することで、計算式を構築します。可能な操作例は、「Oracle BI ピボット・テーブルでの計算例」を参照してください。
- b 必要に応じて括弧を使用します。

- 6 計算が完了したら、「Finished」をクリックします。

エラーが検出された場合は、メッセージが表示されます。エラーを修正し、「Finished」を再びクリックします。

Oracle BI ピボット・テーブルでの計算例

この項の例および説明は、読者が SQL とその構文に関して基本的な知識を持っていることを想定しています。ここに示す例は、仮定に基づいたものです。すべての可能な計算が示されているわけではありません。

例 1 この例では、SoftDrinkA、SoftDrinkB および SoftDrinkC の各製品について売上高などの現在のメジャー値を取得し、その値を合計します。

```
sum('SoftDrinkA','SoftDrinkB','SoftDrinkC')
```

これは、「Function」ドロップダウン・リストの「Sum」を選択し、SoftDrinkA、SoftDrinkB および SoftDrinkC を入力またはクリックして、これらを「Function」フィールドに追加することと同じです。

例 2 この例では、SoftDrinkA または SoftDrinkB について、どちらか低い方の売上高などの現在の最小値メジャーを取得します。

```
min('SoftDrinkA','SoftDrinkB')
```

例 1 および例 2 では、それぞれの関数計算が、「Product」レイヤーなどの外部レイヤー内の各項目に対して実行されます。たとえば、Year と Product が軸に配置されており、前述の計算のいずれかが「Product」レイヤーに基づいている場合、結果は年ごとに計算されます。

例 3 この例では、Year や Product などの外部レイヤー内の各項目の値を取得し、合計します。

```
sum(*)
```

例 4 この例では、1 行目、2 行目、3 行目の項目の売上高などの現在のメジャーを取得し、合計します。

```
sum($1,$2,$3)
```

SoftDrinkA などの名前の付いた項目を指定するかわりに、\$n や \$-n などを指定することもできます。n は項目の行位置を示す整数です。\$n を指定した場合は、n 番目の行からメジャーが取得されます。\$-n を指定した場合は、最後から n 番目の行のメジャーが取得されます。

たとえば、売上高の場合、\$1 と指定すると、データ・セット内の最初の行のメジャーが取得され、\$-1 と指定すると、データ・セット内の最後の行のメジャーが取得されます。

例 5 この例では、SoftDrinkA、SoftDrinkB および SoftDrinkC の売上が合計されます。

```
'SoftDrinkA' + 'SoftDrinkB' + 'SoftDrinkC'
```

これは、次の計算と同じです。

```
sum('SoftDrinkA','SoftDrinkB','SoftDrinkC')
```

例 6 この例では、SoftDrinkA と diet SoftDrinkA の売上を足し、SoftDrinkB と diet SoftDrinkB の売上を足して、これら 2 つの金額の最大値を返します。

```
max('SoftDrinkA' + 'diet SoftDrinkA', 'SoftDrinkB' + 'diet SoftDrinkB')
```

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

Oracle BI ゲージ・ビューを使用したゲージとしての結果の表示

ゲージ・ビューを使用して、結果をゲージに表示します。ゲージは、目標と比較したパフォーマンスを示す場合に役立ちます。サポートされているゲージのタイプには、目盛り盤、縦棒および電球のゲージがあります。

ゲージのタイプを選択し、タイトル、表示範囲および 1 行に表示するゲージ数などの外観や、ゲージ幅、目盛りおよびインジケータの針のサイズなどのその他の特性をカスタマイズできます。しきい値、境界および色を設定したり、その他のゲージ特性を制御したりすることもできます。

ゲージはナビゲートが可能です。ユーザーがゲージをクリックしたときに、保存されている別のリクエストまたはダッシュボードにユーザーをダイレクトできます。

この項では、ゲージを操作する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [「Oracle BI ゲージの説明」 \(141 ページ\)](#)
- [「Oracle BI ゲージ・ビュー・ボタンの説明」 \(142 ページ\)](#)
- [「Oracle BI ゲージ・ビューを追加または変更するための一般的な手順」 \(142 ページ\)](#)

- 「Oracle BI ゲージ・ビューでの一般的なゲージ背景プロパティの指定」(143 ページ)
- 「Oracle BI ゲージ・ビューでのタイトルとフッターの追加」(144 ページ)
- 「Oracle BI ゲージ・ビューでのゲージ範囲の追加」(144 ページ)
- 「Oracle BI ゲージ・ビューでのゲージの追加プロパティの指定」(145 ページ)
- 「目盛り盤ゲージの目盛りの詳細プロパティの設定」(146 ページ)

Oracle BI ゲージの説明

この項では、ゲージのタイプ、サブタイプおよびサイズについて説明します。

ゲージのタイプ

表 21 に、「Gauge」ドロップダウン・リストから選択できるゲージとその使用方法を示します。デフォルトのゲージは目盛り盤ゲージです。

表 21. Oracle BI ゲージの選択肢

ゲージのタイプ	説明
Dial	目盛り盤ゲージでは、事前定義された制限内でのデータ位置を表す 1 つ以上のインジケータ針を持つ目盛り盤を使用してデータを示します。
Bar	縦棒ゲージは、色を変化させることで、事前定義された制限内にデータが収まっているかどうかを表す棒を使用してデータを示します。
Bulb	電球ゲージは、色を変化させることで、事前定義された制限内にデータが収まっているかどうかを表す円を使用してデータを示します。電球ゲージを配列したものは、スコアカード・タイプの出力に特に便利です。

ゲージのサブタイプ

ゲージ・タイプの選択内容によって、「Type」ドロップダウン・リストで選択可能なゲージのサブタイプが決まります。目盛り盤ゲージにはサブタイプはありません。ゲージのサブタイプは次のとおりです。

- 縦棒ゲージ：「Filled」および「LED-style」。デフォルトのサブタイプは「Filled」です。
- 電球ゲージ：「3-dimensional (3D)」および「2-dimensional (2D)」。デフォルトのサブタイプは「3D」です。


ゲージのサイズ

ゲージのサイズには、小、中、大およびカスタムがあります。デフォルトのサイズは中です。

Oracle BI ゲージ・ビュー・ボタンの説明

ゲージ・ビュー・ページの上にあるボタンを使用すると、様々なゲージ設定にアクセスできます。表 22 に、ゲージ・ビューのボタンと設定を示します。

表 22. Oracle BI ゲージ・ビューのボタンと設定

ゲージ・ビュー・ボタン	説明
	ゲージが表示される背景の一般的なプロパティを設定できます。 詳細は、「Oracle BI ゲージ・ビューでの一般的なゲージ背景プロパティの指定」(143 ページ) を参照してください。
	ゲージのタイトル、サブタイトル、フッターおよびセカンダリ・フッターを指定できます。 詳細は、「Oracle BI ゲージ・ビューでのタイトルとフッターの追加」(144 ページ) を参照してください。
	ゲージ内に表す範囲を指定できます。 詳細は、「Oracle BI ゲージ・ビューでのゲージ範囲の追加」(144 ページ) を参照してください。
	ゲージ内の要素の外観の制御、ゲージ制限やティック・マークのプロパティの設定、ユーザーがゲージをクリックしたときに発生する相互作用の指定など、追加のゲージ・プロパティを指定できます。 詳細は、「Oracle BI ゲージ・ビューでのゲージの追加プロパティの指定」(145 ページ) を参照してください。
	スケール・ラベルの表示方法や目盛り盤の弧の長さや厚さなど、目盛り盤ゲージ内の目盛りの詳細プロパティを設定できます。 詳細は、「目盛り盤ゲージの目盛りの詳細プロパティの設定」(146 ページ) を参照してください。

Oracle BI ゲージ・ビューを追加または変更するための一般的な手順

ゲージ・ビューを追加または変更するための基本的な手順は次のとおりです。

注意： 結果と互換性のないゲージ・タイプを選択した場合、結果は表示されません。

Oracle BI ゲージ・ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しいゲージ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Gauge」を選択します。
 - 既存のゲージ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、ゲージ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。

- 2 ゲージ、タイプおよびサイズをドロップダウン・リストからそれぞれ選択します。
- 3 どのゲージ・タイプでも、「Measures」ドロップダウン・リストを使用して、ゲージのメジャーを選択します。
- 4 目盛り盤ゲージの場合は、「Marker Type」ドロップダウン・リストを使用して、コンパス、矢印、線などのインジケータ針を選択します。
 - a インジケータ針の色を選択するには、「Color」ボタンをクリックして選択を行います。
 - b 別のインジケータ針を追加するには、「Add Marker」ボタンをクリックします。
- 5 ゲージ・ビュー・ページの上部にあるボタンを使用して、追加のゲージ設定を指定します。
- 6 変更内容を破棄してデフォルトのゲージ・ビューから開始するには、「Clear」ボタンをクリックします。
- 7 作業が完了したら、ゲージ・ビューのリクエストを保存できます。

Oracle BI ゲージ・ビューでの一般的なゲージ背景プロパティの指定

ゲージが表示される背景の一般的なプロパティを設定できます。たとえば、タイトルを表示するかどうかや、各ゲージとともに凡例を表示するかどうかなどを指定できます。背景色、タイトルの色、背景の周りに境界線を表示するかどうか、1行に表示するゲージ数およびゲージ間隔も指定できます。

Oracle BI ゲージ・ビューの一般的な背景プロパティを設定するには

- 1 ゲージ・ビュー・ページの上部にあるゲージ・キャンバス・プロパティ・ボタンをクリックします。
「Gauge Canvas Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 タイトルの選択を行います。
 - メジャー名を編集するには、タイトル・フィールドの横にあるフォーマット・ボタンをクリックして「Edit text format」ダイアログ・ボックスを表示し、選択を行います。
 - 異なるタイトルを表示するには、「Override default」をクリックし、タイトルのテキストを入力します。
- 3 ドロップダウン・リストから凡例に関する選択を行います。
デフォルトでは、凡例はタイトルの下に表示されます。
 - 凡例を非表示にするには、「None」を選択します。
- 4 ゲージが表示される領域の背景色を設定するには、背景色ボタンをクリックして選択を行います。
- 5 タイトルに色を付けるには、テキストの色ボタンをクリックして選択を行います。
- 6 背景の縁に境界線を表示するには、境界線色ボタンをクリックして選択を行います。
- 7 1行に表示されるゲージ数とゲージ間隔を指定します。
ゲージ間隔は、ピクセル単位で測定されます。
- 8 「OK」をクリックします。
ゲージ・ビューがリフレッシュされます。ビューのサイズは選択内容に合わせて変更される場合があります。

Oracle BI ゲージ・ビューでのタイトルとフッターの追加

ゲージにはタイトル、サブタイトル、フッターおよびセカンダリ・フッターを指定できます。背景に複数のゲージが含まれている場合は、ゲージごとにタイトルとフッターが表示されます。タイトルとフッターはオプションです。

Oracle BI ゲージ・ビューにタイトルとフッターを追加するには

- 1 ゲージ・ビュー・ページの上にあるゲージ・タイトル・ボタンをクリックします。

「Gauge Titles」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 使用するテキストを入力し、「OK」をクリックします。

注意：説明ビューと同様に、@n を使用すると、指定した列の結果をゲージ・タイトルに含めることができます。たとえば、@1 と指定すると最初の列の結果が挿入され、@3 と指定すると 3 番目の列の結果が挿入されます。詳細は、「Oracle BI 説明ビューを使用した結果への説明テキストの追加」（151 ページ）を参照してください。

ゲージ・ビューがリフレッシュされます。

Oracle BI ゲージ・ビューでのゲージ範囲の追加

ゲージ範囲は、各範囲の最小値と最大値を識別し、範囲がゲージに表示される色を決定します。たとえば、緑は許容、黄色は警告、赤はクリティカルを表します。

ゲージ範囲は、静的な値、変数、メジャーの列名または SQL 問合せ結果に設定できます。

Oracle BI ゲージ・ビューのゲージ範囲を設定するには

- 1 ゲージ・ビュー・ページの上にあるゲージ範囲ボタンをクリックします。

「Gauge Ranges」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 最初の範囲を追加するには、「Add」ボタンをクリックします。

a 範囲のキャプションを入力します。

b 最小および最大ゲージ範囲を設定するには、プロパティ・ボタンをクリックし、「Advanced Options」ダイアログ・ボックスで選択を行います。

「Advanced Options」ダイアログ・ボックスでは、静的な値、変数、列名または SQL 文を指定できます。

c 範囲の色を指定するには、色ボタンをクリックして選択を行います。

- 3 範囲の追加が完了したら、「OK」をクリックします。

ゲージ・ビューがリフレッシュされます。

Oracle BI ゲージ・ビューでのゲージの追加プロパティの指定

追加のゲージ・プロパティには、ゲージ内の要素の外観の制御、ゲージ制限やティック・マークなどのスケール項目のプロパティの設定、ユーザーがゲージをクリックしたときに発生する相互作用の指定などがあります。これらのプロパティは、「Additional Gauge Properties」ダイアログ・ボックスで設定します。

ゲージの外観の選択は、「Appearance」タブに表示されます。このタブに含まれている項目は次のとおりです。

- データ・ラベルを表示するかどうか。
データ・ラベルは、常に表示するか、ユーザーがマウスをゲージ内の要素の上に移動したときにのみ表示するか、非表示にすることができます。
- ゲージの背景色、ゲージ内のテキストの色、ゲージの周りの境界線の選択。
- ゲージのピクセル単位の高さと幅。

スケール・プロパティの選択は、「Scale」タブに表示されます。このタブに含まれている項目は次のとおりです。

- デフォルトまたはカスタムのゲージ制限。
- メジャーおよびマイナーのティック・マークの数。

ゲージでのユーザー操作に対応する処理の選択は、「Interaction」タブに表示されます。このタブに含まれている操作は次のとおりです。

- **ナビゲート**。保存されている別のリクエストまたはダッシュボードにユーザーがナビゲートできるようにします。詳細は、「Oracle BI ゲージ・ビューにおけるユーザー操作に対応する処理を指定するには」(145 ページ)を参照してください。
- **なし**。ゲージからのナビゲートを無効にします。

Oracle BI ゲージ・ビューにおけるユーザー操作に対応する処理を指定するには

- 1 ゲージ・ビュー・ページの上にある次のボタンをクリックします。



「Additional Gauge Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「Interaction」タブをクリックします。

(ユーザーがゲージをクリックしたときに) 他の保存済リクエストやダッシュボードにナビゲートできるようにする手順は次のとおりです。

- a 「Navigate」ラジオ・ボタンを選択して、「Add Navigation Target」ボタンをクリックします。
「Target」フィールドと「Caption」フィールドが表示されます。
- b ユーザーが他の保存済リクエストやダッシュボードにナビゲートできるようにする場合は、「Browse」ボタンをクリックして「Choose Request/Dashboard」ダイアログ・ボックスを開き、対象となるリクエストまたはダッシュボードにナビゲートし、「OK」をクリックして対象を選択します。

- c (オプション) キャプションのテキストを「Caption」フィールドに入力します。
キャプションのテキストは、ユーザーがゲージをクリックしたときに表示されます。
「Caption」フィールドにテキストが入力されていない場合は、対象となるレポートやダッシュボードのタイトルがキャプションとして表示されます。
 - d 複数の保存済リクエスト、ダッシュボードまたは Web サイトへのナビゲートを可能にするには、「Add Navigation Target」ボタンをクリックし、前述の手順を繰り返します。
 - e 「OK」をクリックして変更を保存します。
ユーザーがゲージをクリックすると、次のルールが適用されます。
 - 他の保存済リクエストやダッシュボードの複数のナビゲーション・パスが存在する場合、ポップアップ・ウィンドウには、それぞれのリクエストやダッシュボードに対応するキャプションが表示されません。特定のキャプションをクリックすると、必要なリクエストまたはダッシュボードにナビゲートできます。
 - ナビゲーション・パスが1つのみの場合は、そのリクエストまたはダッシュボードが表示されます。
ナビゲートを無効にするには、「None」ラジオ・ボタンをクリックします。
- 3 「OK」をクリックします。

Oracle BI ゲージ・ビューの外観とスケール・プロパティを指定するには

- 1 ゲージ・ビュー・ページの上にある追加のゲージ・プロパティ・ボタンをクリックします。
「Additional Gauge Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 「Appearance」タブと「Scale」タブで選択を行います。
- 3 「OK」をクリックします。
ゲージ・ビューがリフレッシュされます。

目盛り盤ゲージの目盛りの詳細プロパティの設定

詳細プロパティを使用すると、スケール・ラベルの表示の有無と表示する値、目盛り盤の弧の長さ、および目盛り盤の厚さを指定できます。

スケール・ラベルの表示に可能な選択肢は次のとおりです。

- 合計のパーセンテージ
- 実績値

目盛り盤の弧の長さは度単位で表されます。たとえば、360 と指定すると、完全な円の目盛り盤ゲージが得られます。

目盛り盤の厚さはピクセル単位で表されます。大きな値を指定するとゲージが厚くなり、目盛り盤の内径が小さくなります。目盛り盤のサイズに比べて非常に大きい値を指定すると、ゲージが歪むことがあるためお薦めできません。

目盛り盤ゲージの目盛りの詳細プロパティを指定するには

- 1 ゲージ・ビューの上部にある詳細オプション・ボタンをクリックします。
「Dial Specific Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 スケール・ラベルの表示方法を選択します。
スケール・ラベルを非表示にするには、「None」を選択します。
- 3 目盛り盤の弧の長さや厚さを設定するには、手動で指定するオプションをクリックし、値を入力します。
- 4 「OK」をクリックします。
ゲージ・ビューがリフレッシュされます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

結果に適用されるフィルタの Oracle BI フィルタ・ビューを使用した表示

フィルタ・ビューは、リクエストに対して有効なフィルタを表示するために使用します。リクエストにフィルタを追加する方法の詳細は、「[Oracle BI リクエストでの列フィルタの使用](#)」(50 ページ)を参照してください。

Oracle BI フィルタ・ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しいフィルタ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Filters」を選択します。
複合的なレイアウト・ビューの「Filters」ボタンをクリックしてフィルタ・ビューを追加することもできます。
 - 既存のフィルタ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、フィルタ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。
ワークスペースにフィルタ・ビューが表示されます。
- 2 作業が完了したら、フィルタ・ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

Oracle BI 列セクタ・ビューを使用したリクエスト内の列変更の許可

列セクタ・ビューは、リクエスト内の列をユーザーが動的に変更することを許可するために使用します。1つの列セクタは特定のリクエスト内の各列にアタッチし、複数の列（属性）は各列セクタにアタッチできます。

Oracle BI 列セクタ・ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しい列セクタ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Column Selector」を選択します。
 - 既存の列セクタ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、列セクタ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。
- 2 列セクタを表示する各列に対して「Include Selector」オプションを選択します。
- 3 各セクタのラベルを入力し、ラベルの位置を選択します。
注意：ラベルを入力しなかった場合、結果を表示するユーザーにはセクタのラベルは表示されません。
- 4 選択ペインのサブジェクト領域で、セクタに表示する列を選択します。
- 5 特定の選択を列セクタから削除する場合は、「Delete」ボタンをクリックします。
すべての選択を削除するには、「Clear Choices」リンクをクリックします。
- 6 作業が完了したら、列セクタ・ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」\(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」\(95 ページ\)](#)

ビュー・セクタ・ビューを使用した特定のビューの選択の許可

ビュー・セクタ・ビューは、保存されている複数のビューの中から特定のビューの結果を選択するために使用します。ダッシュボード内に配置すると、ビュー・セクタはドロップダウン・リストとして表示されます。ユーザーはこのドロップダウン・リストから、表示する特定の結果ビューを選択できます。

一般的に、ビュー・セクタ・ビューに含まれるビューは、複合的なレイアウト・ビューのビューとしては表示されません。

Oracle BI ビュー・セクタ・ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。

- 新しいビュー・セレクタ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「View Selector」を選択します。
- 既存のビュー・セレクタ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、ビュー・セレクタ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビュー・セレクタ・ビューが表示されます。

- 2 (オプション) ビュー・セレクタのキャプションを入力し、ビュー・セレクタに対するキャプションの表示位置を示します。
- 3 ビュー・セレクタに含める、ビューに関する項目を選択します。
注意: 「None」ビューを選択すると、セレクタのみが表示されます。
- 4 作業が完了したら、ビュー・セレクタ・ビューのリクエストを保存できます。

Oracle BI 凡例ビューを使用した結果への凡例の追加

凡例ビューは、結果に適用されている特別なフォーマットについて説明するために使用します。たとえば、ゲージに適用したカスタム色の意味などが明記されます。凡例は HTML および PDF 出力に表示され、ローカライズが可能です。

たとえば、リクエスト内で条件付きフォーマットを使用して、クリティカルな項目を赤で示し、注意が必要な項目を黄色で示すとします。この場合、色の意味や適切な操作をまとめたキャプションを記述したテキストを含む凡例を追加できます。表示フォーマットを使用すると、条件付きリクエスト内の色に一致するテキストの背景色を作成できます。

Oracle BI 凡例ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しい凡例ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Legend」を選択します。
 - 既存の凡例ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、凡例ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。ワークスペースに凡例ビューが表示されます。
- 2 キャプションの表示場所と 1 行当たりの凡例項目数を選択します。
- 3 (オプション) 「凡例」など、凡例のタイトルを入力します。
- 4 最初の「Sample Text」テキスト・ボックスに、「クリティカル」などの、記述する最初の条件を入力します。
一般的なフォーマット・ダイアログ・ボックスを使用して、赤などの背景色を設定できます。
- 5 最初の「Caption」テキスト・ボックスに、「ただちに対処する必要あり」などの条件の意味を入力します。
- 6 必要に応じて、さらに「Sample Text」と「Caption」のペアを追加します。

7 作業が完了したら、凡例ビューのリクエストを保存できます。

Oracle BI ファンネル・グラフ・ビューを使用したファンネル・グラフの結果の表示

ファンネル・グラフ・ビューは、目標値と実績値およびレベルを色で表した 3D グラフとして結果を表示するために使用します。通常、ファンネル・グラフは、期間または段階ごとに変化するデータをグラフィック表示するために使用されます。たとえば、多くの場合、ファンネル・グラフは四半期の売上高を表すために使用されます。

ファンネル・グラフは、販売パイプラインなど、段階ごとに目標が大きく減少（または増加）するようなデータの目標値と比較した実績値を示す場合に適しています。色付きの領域のいずれかをクリックしてドリルダウンすると、その詳細情報を表示できます。

ファンネル・グラフでは、しきい値は目標値のパーセンテージを示し、色は各段階の視覚情報を提供します。

- 実績値が最小しきい値を下回る段階は、すべて赤で表示されます。
- 実績値が最大しきい値を下回る段階は、すべて黄色で表示されます。
- 実績値が最大しきい値を上回る段階は、すべて緑で表示されます。

Oracle BI ファンネル・グラフ・ビューを追加または変更するには

1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。

- 新しいファンネル・グラフ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Funnel Chart」を選択します。
- 既存のファンネル・グラフ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、ファンネル・グラフ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。

2 ワークスペースの各フィールドを選択します。

各フィールドについて次の表に示します。

ファンネル・グラフ・ビューのワークスペース・フィールド	説明
Chart Title	グラフに表示されるタイトルを指定します。
Stage	ドロップダウン・リストを使用して、表示する段階を識別します。
Actual Value	ドロップダウン・リストを使用して、段階の実績値を指定します。
Target Value	ドロップダウン・リストを使用して、段階の目標値を指定します。
Target value for final stage only	各段階の目標値を表示するか、最終段階のみの目標値を表示するかを示します。
Factor required to meet target	目標を満たすために必要な要因を識別します。

ファンネル・グラフ・ビューの ワークスペース・フィールド	説明
Minimum Threshold	最小しきい値を指定します。
Maximum Threshold	最大しきい値を指定します。
Size	サイズを指定します。
Force standard shape and equal stage widths	Oracle BI によって表示を自動的に強制するかどうかを示します。
Interaction	グラフに許容される相互作用レベルを示します。選択肢には、「None」、 「Drill」 および「Navigate」があります。 注意: 「Interaction」 ドロップダウン・リストから「Navigate」を選 択すると、ファンネル・グラフの基になっている列に定義されているナ ビゲーション・ターゲットが適用されます。

- 3 作業が完了したら、ファンネル・グラフ・ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

Oracle BI 説明ビューを使用した結果への説明 テキストの追加

説明ビューは、結果に表示する 1 つ以上の段落テキストを追加するために使用します。説明テキストは、コンテ
キスト、説明テキスト、拡張記述などの情報の提供に役立ちます。説明ビューで実行できる操作は次のとおりで
す。

- 結果の各列に、プレースホルダを含む文を入力する。
- 行の区切り方法を指定する。
- HTML フォーマット・ボタンを使用して、テキストを太字、イタリックまたは下線付きにしたり、改行を挿入
したりする。
- 説明ビューで使用するフォントに表示フォーマットを適用するか、以前保存したビューからフォントのフォー
マットをインポートする。
- 参照を変数に追加する。

説明テキスト・ビューの使用例

ユーザーが、結果セットの一部として 2 番目の列に地域名を返すリクエストを作成します。ユーザーは、次の例に示すように、概要テキストを含み、新しい行にそれぞれの各地域が一覧表示される説明ビューを表示することを望んでいます。

このレポートは地域別の売上を示します。地域は次のとおりです。

東部地域
西部地域

次の表は、ユーザーの説明ビューのエントリとその説明を示しています。

フィールド	エントリ	説明
Prefix	 このレポートは地域別の売上を示します。地域は次のとおりです。 	<p>このエントリは、テキストとともに説明の前に挿入されます。テキストは太字で表示され、2 つの改行がその後続きます。</p> <p>太字テキストを開始および終了するための HTML タグを挿入するには、カーソルを「Prefix」テキスト・ボックスに配置して、太字テキスト・ボタン (B) をクリックします。2 つのタグの間には次のテキストを入力します。</p> <p>このレポートは地域別の売上を示します。地域は次のとおりです。</p> <p>次に「Line Break」ボタンを 2 回クリックします。</p>
Narrative	@2	<p>エントリには、説明テキスト内の 2 番目の列 (地域名) の結果が含まれます。</p> <p>カーソルを「Narrative」テキスト・ボックスに配置して、「@2」を入力します。</p>
Row Separator	 	<p>このエントリにより、説明テキストの各行が新しい行で開始されません。</p> <p>カーソルを「Row Separator」テキスト・ボックスに配置して、「Line Break」ボタンを 2 回クリックします。</p>

説明ビューの予約文字

説明ビューでは、次の文字は予約されています。

- @ (アットマーク文字、「Narrative」テキスト・ボックスで列のプレースホルダとして使用されている場合を除く)
- [(左大カッコ)
-] (右大カッコ)
- ' (一重引用符)
- ¥ (円記号)

注意： 予約文字を含める必要がある場合は、予約文字の前にエスケープ文字 (¥) を付加する必要があります。たとえば、円記号を説明テキストに含めるには、「¥¥」と入力します。

Oracle BI 説明ビューの追加または変更

説明ビューを作成するための手順は次のとおりです。

「Prefix」、「Narrative」および「PostFix」テキスト・ボックスでは、HTML フォーマット・ボタンを使用して、テキストを太字、イタリックまたは下線付きにできます。

注意：改行を含めるには「Line Break」ボタンを使用します。[Enter] キーを押してもテキストは複数行で表示されません。

Oracle BI 説明ビューを追加または変更するには

1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。

- 新しい説明ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Narrative」を選択します。
- 説明ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、説明ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。

2 ワークスペースの各フィールドを選択します。

各フィールドについて次の表に示します。

説明ビューのワークスペース・フィールド	コメント
Prefix	<p>説明のヘッダーを指定します。このテキストは、説明の先頭に表示されます。</p> <p>変数を含めるには、@{variableName}{<value>}[format] 構文を使用します。次に例を示します。 Prefix - Region:@{myFavoriteRegion} - Year:@{myFavoriteYear}</p>
Narrative	<p>結果の各行に表示される説明テキストを示します。説明内の指定した列の結果を含めるには、@n を使用します。たとえば、@1 と指定すると説明の最初の列の結果が挿入され、@3 と指定すると 3 番目の列の結果が挿入されます。</p> <p>変数を含めるには、@{variableName}{<value>}[format] 構文を使用します。次に例を示します。 Narrative - Region:@{myFavoriteRegion} - Year:@{myFavoriteYear}</p>
Row Separator	<p>行区切りタグを指定します。次に、「Row Separator」テキスト・ボックスに目的の行区切り文字を入力します。</p>
Postfix	<p>説明の一番下に表示されるフッター・テキストを指定します。</p> <p>変数を含めるには、@{variableName}{<value>}[format] 構文を使用します。次に例を示します。 PostFix - Region:@{myFavoriteRegion} - Year:@{myFavoriteYear}</p> <p>注意：実際の説明テキストとは別の行にフッター情報を表示するには、マークアップ・タグを「Postfix」テキスト・ボックスに含めます。説明が行区切り文字で終わるか、フッターが行区切り文字で始まるようにします。</p>

- 3 説明ビューで使用するフォントに表示フォーマットを適用するには、フォーマット・ビュー・ボタンをクリックします。
表示フォーマットを適用する方法の詳細は、「[結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用](#)」(84 ページ) を参照してください。
- 4 以前保存したビューからフォントのフォーマットをインポートするには、フォーマットをインポートするボタンをクリックして保存済ビューにナビゲートします。
- 5 作業が完了したら、説明ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」](#) (28 ページ)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」](#) (95 ページ)

Oracle BI ティッカ・ビューを使用したスクロール・ティッカでの結果の表示

ティッカは、リクエストの結果をマーキー（ページ上をスクロールして移動する結果）として表示します。スクロール領域のサイズ、結果をスクロールする速度と方向、および他の表示設定をカスタマイズできます。

注意： Web ブラウザが移動テキストをサポートしていない場合、結果は表示されますが、ページ上のスクロールは行われません。

Oracle BI ティッカ・ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しいティッカ・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Ticker」を選択します。
 - 既存のティッカ・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、ティッカ・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。ワークスペースにビューのオプションと設定が表示されます。
- 2 最も一般的に使用されるフィールドにデフォルト値を設定するには、「Set Defaults」ボタンをクリックします。

警告： 「Set Defaults」ボタンをクリックすると、それ以前に他のフィールドに入力した値はクリアされます。
- 3 すべてのフィールドをクリアするには、「Clear Fields」ボタンをクリックします。

注意： すべてのフィールドをクリアしても、「Set Default」ボタンをクリックすれば、最も一般的に使用されるフィールドのデフォルト設定をリストアできます。

- 4 ワークスペースの各フィールドを選択します。
各フィールドについて次の表に示します。

ティッカ・ビューのワークスペース・フィールド	説明
Behavior	<p>ティッカ内での結果の移動方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Scroll。結果は非表示から始まり、ページ上をスクロールして、繰返しを行う前にページから抜けます。 ■ Slide。結果は非表示から始まり、ページ上をスクロールして、反対側に達すると停止します。 ■ Alternate。結果はマーカー内で前後に繰返し移動します。
Direction	ティッカ内での結果の移動方向（左、右、下または上）を指定します。
Width	<p>ティッカの幅をピクセル単位またはページ幅のパーセンテージで指定します。</p> <p>たとえば、200 は 200 ピクセルの幅を示し、25% はページの 4 分の 1 の幅を示します。</p>
Height	<p>ティッカの高さをピクセル単位またはページの高さのパーセンテージで指定します。</p> <p>たとえば、200 は 200 ピクセルの高さを示し、25% はページの 4 分の 1 の高さを示します。</p>
Beginning Text	<p>再描画した各結果の先頭に表示するオプションのテキストまたはグラフィックを指定します。テキストのフォーマットには HTML を使用できます。</p> <p>イメージを含める場合は、そのイメージが保存されている場所を確認します。ユーザー単独でイメージを使用する場合、保存場所は次のようになります。</p> <p>c:¥mycomputer¥temp¥report.gif</p> <p>共有環境で使用されるイメージは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。共有イメージでは、UNC 名を次のように指定します。</p> <p>¥¥ALLUSERS¥graphics¥report.gif</p>
Row Format	<p>結果の行のフォーマットに使用する HTML を指定します。</p> <p>指定した列の結果を含めるには、@n を使用します。たとえば、@1 と指定すると最初の列の結果が挿入され、@3 と指定すると 3 番目の列の結果が挿入されます。</p>
Row Separator	1 つの行を別の行と区別する文字を指定します。デフォルトの文字は縦棒（ ）です。
Column Separator	1 つの列を別の列と区別する文字を指定します。デフォルトの文字は縦棒（ ）です。

ティッカ・ビューのワークスペース・フィールド	説明
Ending Text	<p>再描画した各結果の最後に表示するオプションのテキストまたはグラフィックを指定します。テキストのフォーマットには HTML を使用できます。</p> <p>イメージを含める場合は、そのイメージが保存されている場所を確認します。ユーザー単独でイメージを使用する場合、保存場所は次のようになります。</p> <p>c:¥mycomputer¥temp¥report.gif</p> <p>共有環境で使用されるイメージは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。共有イメージでは、UNC 名を次のように指定します。</p> <p>¥¥ALLUSERS¥graphics¥report.gif</p>

5 追加のオプションを指定するには、次の操作を実行します。

a 「Advanced」 ボタンをクリックします。

「Advanced Ticker Options」 ダイアログ・ボックスが表示されます。

b 詳細オプションを選択し、「OK」 をクリックします。

各詳細オプションについて次の表に示します。

ティッカ・ビューのワークスペースの詳細オプション	説明
# of Loops	<p>結果のスクロール回数を指定します。デフォルトは無限回です。</p> <p>整数を指定する必要があります。</p>
Scroll Amount	結果の連続した再描画間のピクセル数を設定します。
Scroll Delay	結果の連続した再描画間のミリ秒数を指定します。
Background Color	<p>背景に使用する色を指定します。ブラウザがサポートしている内容によって、黄色や青などの色の名前を入力できる場合と、6 桁の 16 進数フォーマット（薄い青緑を表す #AFEEEE など）を使用する場合があります（16 進数フォーマットでは数字記号文字を省略できます）。</p>
Additional Marquee Attributes	<p>ブラウザがサポートしている他のマーキー・オプションを指定します。オプションには、ティッカをその周りのテキストの上、中央、または下に揃えるための ALIGN="top middle bottom" などがあります。HTML を追加して、ティッカの外観をさらにカスタマイズすることもできます。</p>

6 作業が完了したら、ティッカ・ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

Oracle BI 静的テキスト・ビューを使用した結果へのテキストの追加

静的テキスト・ビューは、結果とともに表示するテキストを追加または編集するために使用します。フォーマット済テキストや、Analytics サーバーのセキュリティ設定に応じた ActiveX コントロール、JavaScript、音声データ、アニメーション、特殊なロゴおよび変数などを含むマークアップを追加できます。

マークアップにはブラウザでサポートされる内容をすべて含めることができますが、PDF 出力に表示されるのは、ワークスペースの上部にあるボタンを使用して定義されたフォーマットのみです。

Oracle BI 静的テキスト・ビューを追加または変更するには

1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。

- 新しい静的テキスト・ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Static Text」を選択します。
- 既存の静的テキスト・ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、静的テキスト・ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースに静的テキスト・ビューが表示されます。

2 マークアップをテキスト・ボックスに入力します。

テキストを太字、イタリック、または下線付きで表示するには、該当するボタンをクリックして開始と終了の HTML タグを挿入し、そのタグの間にテキストを入力します。

注意：改行を含めるには「Line Break」ボタンを使用します。[Enter] キーを押してもテキストは複数行で表示されません。

次の表に、例と説明を示します。

静的テキスト・ビューの例	説明と使用上の注意
HTML テキスト	<p>HTML（または適切なフォーマット済テキスト）をテキスト・ボックスに貼り付けるか、入力します。HTML タグ・ボタンをクリックすることもできます。入力するテキストのフォーマットに基づき、マークアップ・タグを使用してテキストのフォーマットを制御できます。実行可能な操作例は次のとおりです。</p> <p>フォントのサイズと色を設定する例：</p> <pre> 赤色で表示するテキスト </pre> <p>追加の効果用タグを組み合わせる例：</p> <pre> 赤色で太字表示するテキスト </pre>
ActiveX オブジェクト	<p>Active-X オブジェクトは、自己完結型であると同時にブラウザによるサポートが必要です。HTML テキスト・ウィンドウにオブジェクトを貼り付けるか入力し、開始の <object...> タグと終了の </object> タグで囲まれていることを確認します。</p>

静的テキスト・ビューの例	説明と使用上の注意
JavaScript または VBScript	スクリプトは、自己完結型であると同時にブラウザによるサポートが必要です。スクリプトをテキスト・ボックスに貼り付けるか入力し、開始タグの <code><script></code> タグと終了の <code></script></code> タグで囲まれていることを確認します。
オーディオ	<p>オーディオ・クリップが保存されている場所を確認します。共有環境で使用されるオーディオ・クリップは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。</p> <p>HTML タグ <code><EMBED></code> を使用して、オーディオを追加します。フォーマット例は次のとおりです。ブラウザによっては異なるフォーマットが必要となる場合もあります。</p> <pre><EMBED SRC="audio" AUTOSTART="true" LOOP="true" HIDDEN="true"></EMBED></pre> <p>ここで、<code>"audio"</code> はオーディオ・クリップの場所と名前を示します。</p> <p>使用しているハード・ドライブにあるオーディオ・クリップを追加するには、次の HTML 例を参照してください。</p> <pre><EMBED SRC="c:\mycomputer\MIDIfiles\wakeup.mid" AUTOSTART="true" LOOP="true" HIDDEN="true"></EMBED></pre> <p>使用している Web サーバー上の共有場所にある同じオーディオ・クリップを追加するには、次の HTML 例を参照してください。</p> <pre><EMBED SRC="%DashboardFiles\wakeup.mid" AUTOSTART="true" LOOP="true" HIDDEN="true"></EMBED></pre>
背景イメージ	<p>次の例では、JavaScript を使用します。</p> <p>背景として使用するイメージが保存されている場所を確認します。共有環境で使用されるイメージは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。</p> <p>イメージが共有ダッシュボード・ファイル・フォルダに保存されている場合は、次の HTML 例を参照してください。</p> <pre><script language="javascript"> document.body.background = "/dashboardfiles/NameOfGraphic";</script></pre> <p>ここで、<code>NameOfGraphic</code> は、<code>bricks.gif</code> や <code>sand.jpg</code> などの使用するファイルの名前を示します。</p>

静的テキスト・ビューの例	説明と使用上の注意
変数	次の HTML 例には、@{<variableName>}{<value>}[format] 構文を使用した変数式が含まれています。 <pre>[u] Static Text View [/u][br/] Region: @{myFavoriteRegion} - Year: @{myFavoriteYear}[br/] System Time: @{system.currentTime}[dddd,MMMM dd,yyyy][br/] Product Version: @{system.productVersion}[br/] User ID: @{session.currentUser.id}[br/] [/br] Dashboard Path: @{dashboard.path}[br/] [/br]</pre>

- 静的テキスト・ビューで使用するフォントに表示フォーマットを適用するには、フォーマット・ビュー・ボタンをクリックします。
表示フォーマットを適用する方法の詳細は、「[結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用](#)」(84 ページ)を参照してください。
- 以前保存したビューからフォントのフォーマットをインポートするには、フォーマットをインポートするボタンをクリックして保存済ビューにナビゲートします。
- 作業が完了したら、静的テキスト・ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」](#) (28 ページ)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」](#) (95 ページ)

Oracle BI 結果なしのビューを使用したユーザーへのアラート

結果なしのビューを使用すると、リクエストによって結果が返されない場合に説明テキストの表示を指定できます。このテキストは、データが存在しなかったことをユーザーに伝える上で役立ちます。

Oracle BI 結果なしのビューを追加または変更するには

- Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しい結果なしのビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「No Results」を選択します。
 - 既存の結果なしのビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、結果なしのビューの「Edit View」ボタンをクリックします。

ワークスペースに結果なしのビューが表示されます。

- 2 説明テキストを「Headline」ボックスと「Text」ボックスに入力します。
- 3 作業が完了したら、結果なしのビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」\(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」\(95 ページ\)](#)

Oracle BI 論理 SQL ビューを使用したリクエストの論理 SQL の表示

論理 SQL ビューは、リクエストに対して生成された SQL 文を表示するために使用します。このビューは、トレーナおよび管理者には有用なものですが、通常、一般ユーザーの結果には含まれていません。

Oracle BI 論理 SQL ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しい論理 SQL ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Logical SQL」を選択します。
 - 既存の論理 SQL ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、論理 SQL ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。ワークスペースに論理 SQL ビューが表示されます。
- 2 SQL を直接 Oracle BI Server に発行するには、「Issue SQL」ボタンをクリックします。「Issue SQL Directly」ダイアログ・ボックスが表示され、SQL の発行手順が示されます。
- 3 作業が完了したら、論理 SQL ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」\(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」\(95 ページ\)](#)

Oracle BI セグメントの作成ビューを使用した Oracle Siebel Marketing でのセグメントの 作成

セグメントの作成ビューは、Oracle BI に統合されている、Oracle Siebel Marketing バージョン 7.7（またはそれ以上のバージョン）の対応アプリケーションでのみ使用可能です。

セグメントの作成ビューを使用すると、結果に「Create Segment」リンクを表示できます。このリンクをクリックすると、Oracle Siebel Marketing の対応アプリケーション内に結果データに基づいたセグメントを作成できます。

詳細は、Marketing Segmentation インタフェースのオンライン・ヘルプを参照してください。

Oracle BI セグメントの作成ビューを追加または変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、操作するリクエストを作成または変更してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - 新しいセグメントの作成ビューを追加するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Other Views」→「Create Segment」を選択します。
 - 既存のセグメントの作成ビューを編集するには、「Results」タブをクリックし、ビューのドロップダウン・リストから「Compound Layout」を選択して、セグメントの作成ビューの「Edit View」ボタンをクリックします。
- 2 作業が完了したら、セグメントの作成ビューのリクエストを保存できます。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」](#)（28 ページ）

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」](#)（95 ページ）

Oracle BI ターゲット・リストの作成ビューを使用した連絡先およびアカウントのリストの作成

ターゲット・リストの作成ビューは、Oracle Siebel Life Sciences Analytics アプリケーションに統合される Oracle Siebel Life Sciences の対応アプリケーションで使用可能です。このビューでは、Oracle BI リクエストの結果に基づいて、連絡先およびアカウントのリストを自動的に統合できます。たとえば、Oracle Siebel Pharma Sales アプリケーションでターゲット・リストを作成し、それを Oracle Siebel Pharma Mobile Analytics アプリケーションで使用できます。

ターゲット・リストの作成ビューを追加すると、ユーザーの Interactive Dashboards の Oracle BI レポートに、「Create Target List」という名前のリンクが表示されます。このリンクをクリックして、Life Sciences アプリケーションの連絡先またはアカウントのリストにデータを移入したり、リストをリフレッシュしたりできます。

注意：このビューの移入と使用の詳細は、Siebel Life Sciences アプリケーションのドキュメントを参照してください。

関連項目

[「Oracle BI Answers の概要」 \(28 ページ\)](#)

[「Oracle BI ビューを操作する際の共通のタスクの実行」 \(95 ページ\)](#)

[「Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて」 \(232 ページ\)](#)

7

Oracle BI Delivers の使用

この章では、Oracle BI Delivers の使用について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Delivers の概要」 (164 ページ)
- 「Oracle BI Delivers へのアクセス」 (166 ページ)
- 「Oracle BI Delivers のスタート・ページを使用した iBot の作成および管理」 (167 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot の設定の確認」 (169 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot の優先順位、データ表示方法および偽装の指定」 (169 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot を起動するためのリクエストの選択」 (170 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot のスケジュール」 (171 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot を受信するユーザーの選択」 (172 ページ)
- 「iBot の配信コンテンツの指定」 (176 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot の宛先の選択」 (180 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot の完了時に実行する操作の指定」 (182 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot の表示、変更、サブスクライブおよびカスタマイズ」 (186 ページ)
- 「Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成」 (189 ページ)
- 「Oracle BI Delivers の配信プロファイルの使用」 (191 ページ)
- 「Oracle BI の「Alerts」へのアクセス」 (192 ページ)

Oracle BI Delivers の概要

Oracle BI Delivers は、分析結果に基づいてアラートを作成するために使用するインタフェースです。所属する組織にこのインタフェースのライセンスが付与されている場合は、Oracle BI Delivers を使用して特定の結果を検出し、Web、ワイヤレスおよびモバイル通信チャネルを介して該当するユーザーまたはグループにただちに通知できます。

この項では、Oracle BI Delivers とその機能について紹介するとともに、Oracle BI Delivers へのアクセスの制御方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Delivers について」 (164 ページ)
- 「Oracle BI Delivers の機能」 (165 ページ)
- 「Oracle BI Delivers へのアクセスの制御」 (166 ページ)

Oracle BI Delivers について

Oracle BI Delivers を使用すると、ユーザー独自の方法で情報の有用性を保障できます。これにより、情報に基づくあらゆる問題または商機を検出し、Web、ワイヤレスおよびモバイルのデバイスを介して該当するユーザーにただちに通知できます。Oracle BI Delivers では、iBot と呼ばれるインテリジェント・エージェントすなわち Bot が使用されます。iBot は、スケジュールまたはイベントによって起動されるソフトウェアベースのエージェント（連鎖実行される iBot）であり、定義された条件に基づいてデータにアクセスしたり、データのフィルタおよび分析を実行したりできます。iBot を使用することで、予見的インテリジェント機能により、企業ネットワーク全体にリアルタイムのパーソナライズされた実行可能な情報が配信されます。

iBot では、業務系ソースから分析系ソースまでのデータを使用してインテリジェント機能が提供されます。これにより、タイムリーかつ完全で、状況に応じた情報が提供されます。特定の問題または商機が検出されると、iBot では対象となるユーザーを判断し、様々なデバイス（電子メール、ポケットベル、PDA、携帯電話など）を介して通知および情報の配信が実行されます。コンテンツと機能は各受信者のデバイスに応じて自動的に最適化されます。iBot では情報とコンテンツを他の iBot やアプリケーションに渡すこともできるため、複数の手順で構成される、目的の異なる複数の分析処理を自動化できます。

表 23 に、Oracle BI Delivers で使用する共通用語の定義を示します。

表 23. Oracle BI Delivers の共通用語の定義

用語	定義
アラート	アラートは、iBot アクティビティの結果として配信される、パーソナライズされた実行可能コンテンツです。
配信プロファイル	配信プロファイルには、コンテンツの優先順位に基づいて、コンテンツの配信に使用するデバイスが指定されます。必要に応じて複数の配信プロファイルを定義し、それらを切り替えて使用できます。Oracle BI Delivers では、ユーザーのアクティブな配信プロファイルを使用して、配信コンテンツの受信デバイスが決定されます。

表 23. Oracle BI Delivers の共通用語の定義

用語	定義
デバイス	デバイスは、コンテンツの配信に使用されるメディアです。iBot のコンテンツは、プレーン・テキストまたは HTML の電子メール、携帯電話、ポケットベル、PDA などの様々なデバイスに配信できます。
iBot	iBot は、データにアクセスしたり、データのフィルタおよび分析を実行したりするための、ソフトウェアベースのインテリジェント・エージェントです。iBot は、イベントベース（連鎖）またはスケジュールによって実行されます。iBot では、持続的な監視と、業務系ソースから分析系ソースにわたるインテリジェント機能が提供されます。また、問題や商機の検出、および通知先とコンテンツ配信方法の決定が動的に実行されます。

Oracle BI Delivers の機能

Oracle BI Delivers iBot の最も簡単な形式では、定義されたスケジュールに基づいて指定されたプレゼンテーション・カタログ・リクエスト（Oracle BI Answers で作成）が自動実行され、特定の問題または商機について結果が検証されます。結果から特定の問題または商機が検出された場合は、アラートが生成され、各ユーザーに指定された配信オプションを使用して、iBot にサブスクライブしているユーザーに渡されます。

iBot のコンテンツは、関連付けられている配信デバイスごとに調整できます。たとえば、ポケットベルに送信されるコンテンツには電話番号のみを含めたり、BlackBerry デバイスに送信されるコンテンツにはグラフなどの詳細情報を示す電子メールを含めることができます。

iBot によっては、ユーザーが自動的にサブスクライブされる場合があります。また、他のユーザーが作成した iBot にサブスクライブできる場合もあります。適切な権限と職責を持つユーザーは、独自の iBot を作成することも可能です。権限のレベルによって、iBot を他のユーザーと選択的に共有したり、すべてのユーザーが使用できるように設定したりできます。

アカウント情報とプリファレンスは、「My Account」リンク（Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers および Oracle BI Interactive Dashboards からアクセス可能）を使用して指定できます。「Delivery Options」セクションには、Oracle BI Delivers で使用するよう構成されているデバイスと配信プロファイルが表示されます。Oracle BI Delivers では、ユーザーのアクティブな配信プロファイルを使用して、配信コンテンツの受信デバイスが決定されます。情報の優先順位に応じて、コンテンツを Web ブラウザやオフィスの電子メールに配信する「In the Office」配信プロファイルと、コンテンツをポケットベルまたは PDA に配信する「On the Road」プロファイルを設定できます。「My Account」リンクにアクセスし、使用可能なプロファイルを必要に応じて切り替えることができます。

より複雑な要件に対処するために、iBot では、他の iBot、スクリプト、Java プログラムまたはアプリケーションをトリガーできます。結果は、iBot 間で、および他のアプリケーションまたはサービスに、XML、HTML またはプレーン・テキストで渡されます。たとえば、ある地域ウェアハウスでは処理できない、特定の金額を超える現在の製品注文すべてを特定するリクエストが iBot から実行される場合があります。この結果を別の iBot に渡して、これらの製品の代替ソースを探すリクエストを実行できます。企業の CRM システムに情報を提供する最後の iBot がトリガーされ、代替ソースの該当するアカウント担当者に通知されます。

Oracle BI Delivers が有効な場合は、「My Dashboard」の最初のページに「Alerts」セクションが自動的に追加されます（手動で配置されていない場合）。別のダッシュボード・ページに「Alerts」セクションを追加する手順の詳細は、Oracle BI Interactive Dashboards のヘルプ・システム、または『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』の「Oracle BI Interactive Dashboards の使用」を参照してください。

アクティブなアラートへのアクセスの詳細は、「Oracle BI の「Alerts」へのアクセス」（192 ページ）を参照してください。

Oracle BI Delivers へのアクセスの制御

デフォルトでは、Oracle BI のすべてのユーザー（Oracle BI Administration の Everyone グループ）が Oracle BI Delivers にアクセスできます。Oracle BI Delivers の特定の機能へのアクセス権の付与は、Oracle BI Administration の「Privilege Administration」ページから実行します。適切な権限があるユーザーは、次に示す処理を実行する権限など、Oracle BI Delivers の様々な権限への明示的なアクセスを許可または拒否できます。

- iBot の配信先の取得
- iBot の作成
- サブスクリプション用に iBot を公開
- 指定された、または動的に特定されたユーザーへの iBot の配信
- iBot の連鎖
- カスタム・スクリプトへの iBot の連鎖
- iBot インスタンスのエラーの表示

「Privilege Administration」ページの詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

Oracle BI Delivers へのアクセス

Oracle BI Delivers にアクセスする手順は次のとおりです。

Oracle BI Delivers の概要は、「Oracle BI Delivers の概要」（164 ページ）を参照してください。

Oracle BI Delivers にアクセスするには

- Oracle BI にナビゲートし、画面上部にある「More Products」リンクをクリックして、「Delivers」をクリックします。

注意： Delivers にアクセスしている場合は、画面上部の左側にある Delivers のロゴをクリックして、いつでもスタート・ページを表示できます。

Oracle BI Answers の保存済リクエストから Oracle BI Delivers にアクセスするには

- Oracle BI Answers で保存済リクエストを表示している場合は、「Create iBot」リンクをクリックします。「Oracle BI Delivers Schedule」タブが表示されます。
- Oracle BI Answers でリクエストを保存している場合は、「Save and Schedule」ボタンをクリックします。「Oracle BI Delivers Schedule」タブが表示されます。

詳細は、「Oracle BI Answers でのリクエスト操作の基本」(27 ページ) を参照してください。

Oracle BI Delivers のスタート・ページを使用した iBot の作成および管理

Oracle BI Delivers のスタート・ページから個人用および共有の iBot にアクセスして、iBot を検索、表示または変更できます。このページには、次の処理を実行できるリンクが含まれています。

- iBot の新規作成
- 配信プロファイルの編集
- 所有する iBot、または受信者となっている iBot の参照

注意： Oracle BI Delivers に表示される項目はユーザー ID に付与されている権限によって異なるため、Oracle BI Delivers のスタート・ページに表示されないリンクもあります。

スタート・ページには、次の 2 つの主要な領域があります。

- **選択ペイン。** 選択ペインはページの左側にあります。ここには、個人用および共有の iBot など、プレゼンテーション・カタログに保存されている Delivers のコンテンツが表示されます。
- **ワークスペース。** ワークスペースは選択ペインの右側にあります。ワークスペースには、iBot の作成および管理に使用できる iBot リンクが最初に表示されます。

保存済 iBot をクリックするなど、選択ペインで選択を実行すると、ワークスペースに選択項目が表示されて操作可能になります。ワークスペースで iBot リンクをクリックすると、ワークスペースには iBot を操作するためのタブが表示されます。Web 管理者であるか iBot の変更権限が付与されている場合を除き、これらのタブは、「Shared iBots」フォルダから選択した iBot については表示されません。

Oracle BI Delivers の概要は、「Oracle BI Delivers の概要」(164 ページ) を参照してください。

iBot を検索するには

- 1 「Search」フィールドに検索の詳細を入力します。

「Search」フィールドには、完全または部分的な iBot 名を入力できます。次に例を示します。

 - すべての iBot を表示するには、「*」と入力します。
 - 名前に AB、aB、Ab および ab が含まれる iBot を表示するには、「AB」と入力します。
- 2 「Search」ボタンをクリックします。

検索条件を満たす、自動的に機能する iBot のリストが表示されます。

3 iBot またはそのプロパティを表示するには、そのリンクをクリックします。

4 次のオプションを使用します。

- iBot のプロパティを表示するには、「View」をクリックします。
- iBot のプロパティを変更するには、「Modify」をクリックします。

注意： 選択ペインの特定のフォルダにナビゲートしてから、「Search」フィールドを使用すると、検索は、そのフォルダとサブフォルダ内の iBot に限定されます。ただし、Delivers のスタート・ページを表示している場合、検索は自動的に機能するすべての iBot に対して実行されます。

注意： 検索では、大文字と小文字は区別されません。

注意： iBot 名に円記号 (¥) を使用する場合は (たとえば Na¥me)、検索に使用する検索文字列に、追加の円記号 (エスケープ文字) を含める必要があります。たとえば、Na¥me という iBot がある場合、その iBot の詳細を取得するには、検索文字列を Na¥¥me にする必要があります。この円記号を追加しないと、エラー・メッセージが表示されます。

プレゼンテーション・カタログに保存されている Delivers のコンテンツを操作するには

1 選択ペインで項目を探してクリックします。

iBot を選択すると、その iBot がワークスペースに表示されます。リクエストを選択すると、そのリクエストに基づく新しい iBot が Delivers によって作成されます。

2 プロパティを変更するには、目的のリンクをクリックします。

iBot を新規作成するには

1 「Create New iBot」リンクをクリックします。

「Overview」タブに iBot のデフォルトのプロパティが表示されます。

2 プロパティを変更するには、目的のリンクをクリックします。

配信プロフィールを編集するには

■ 「Edit My Account」リンクをクリックします。

詳細は、「Oracle BI Delivers デバイスと配信プロフィールの構成」(189 ページ) を参照してください。

所有する iBot、または受信者となっている iBot を参照するには

1 「Show iBots Acting on My Behalf」リンクをクリックします。

所有する iBot、または受信者となっている iBot のリストが表示されます。

2 iBot を表示するには、このリンクをクリックします。

注意： My iBots」フォルダまたは Shared iBots」フォルダをクリックして、自動的に機能する iBot を表示することもできます。

Oracle BI 内の任意の場所から Oracle BI Delivers のスタート・ページに戻るには

- 「More Products」リンクをクリックして、「Delivers」をクリックします。

Oracle BI Delivers iBot の設定の確認

選択した iBot の現在の設定の概要を表示するには、「Overview」タブを使用します。

Oracle BI Delivers の概要は、「[Oracle BI Delivers の概要](#)」（164 ページ）を参照してください。

現在の iBot 設定の詳細を表示するには

- 詳細を表示する設定をクリックします。
表示が変わり、該当する情報が表示されます。

Oracle BI Delivers iBot の優先順位、データ表示方法および偽装の指定

iBot の優先順位および配信コンテンツの送信方法を指定するには、「General」タブを使用します。

優先順位は低、標準または高に設定できます。優先順位は配信プロファイルとともに機能するため、ユーザーは、異なる優先順位を持つアラートの送信先を決定できます。

データ表示方法を指定する次のオプションは、配信コンテンツのパーソナライズに影響します。

- Personalized (individual data visibility)

このオプションでは、各受信者のデータ表示方法を使用して、各受信者の iBot 配信コンテンツがカスタマイズされます。この設定では、「Run As」フィールドは使用されません。

注意：リクエストの場合、Oracle BI Server のキャッシュに各ユーザーのエントリを作成するには、このオプションを選択します。詳細は、「[Oracle BI Delivers iBot のシステム・サービスについて](#)」（181 ページ）を参照してください。

- Not personalized (use the Run As user's data visibility)

このオプションでは、iBot の配信コンテンツが、指定された受信者に送信されます。すべてのユーザーが、「Run As」フィールドに指定されているユーザーであるかのように、同一のコンテンツを受信します。

このオプションは、Oracle BI Web Administration で、次の少なくとも 1 つの権限が設定された Oracle BI Web 管理者として定義されているユーザーのみが使用できます。

- サブスクリプション用に iBot を公開
- 特定のまたは動的に指定されたユーザーへの iBot の配信

■ Not personalized (use iBot owner's data visibility)

このオプションでは、iBot の配信コンテンツが、対象の iBot を作成したユーザーのデータ表示方法を使用して、指定された受信者に送信されます。すべてのユーザーが、iBot の所有者であるかのように、同一のコンテンツを受信します。

このオプションは、前述の少なくとも 1 つの権限が設定されているユーザーが使用できますが、Oracle BI Web 管理者として定義されている必要はありません。

Oracle BI Delivers の概要は、「[Oracle BI Delivers の概要](#)」(164 ページ) を参照してください。

iBot の優先順位と配信コンテンツの送信方法を指定するには

1 「Priority」ドロップダウン・リストから優先順位を選択します。

2 「Data Visibility」ドロップダウン・リストからデータ表示方法を選択します。

「Not personalized」オプションを選択した場合は、「Run As」ユーザーとして操作できるようにユーザー ID を指定します。

Oracle BI Delivers iBot を起動するためのリクエストの選択

iBot を起動するリクエストを選択するには、「Conditional Request」タブを使用します。Oracle BI Answers でリクエストを再度開き、サブクエリーを使用することによって、リクエストをより詳細に指定できます。

リクエストの結果により、iBot から配信コンテンツを送信して、後続の処理を開始するかどうかが決まります。

■ リクエストで行が返されない場合、iBot は起動しません。

■ リクエストで 1 つ以上の行が返されると、iBot から配信コンテンツが送信され、後続の処理が開始されます。

複数のリクエストを連鎖させて、複合条件の論理を作成できます。たとえば、昨年の売上上位 10 の製品を判別するリクエストを実行した後、これらの製品について、各地域の今年の売上における変化を判断して売上が落ちた製品を報告するリクエストを実行できます。

Oracle BI Delivers の概要は、「[Oracle BI Delivers の概要](#)」(164 ページ) を参照してください。

リクエストを選択するには

■ 「Select Condition...」ボタンをクリックしてリクエストを選択し、表示されるダイアログ・ボックスに入力します。

Oracle BI Delivers iBot のスケジュール

iBot を実行するタイミング、頻度および実行を中止するタイミングを指定するには、「Schedule」タブを使用します。

iBot は、指定したスケジュールに基づいて実行できます。iBot の開始日時、反復スケジュールおよび終了日を定義できます。

スケジュールを指定しない iBot を作成することもできます。これは、iBot 連鎖の一部としてのみ実行する iBot や、外部プロセスによって開始される iBot を作成する場合に便利です。

Oracle BI Delivers の概要は、「[Oracle BI Delivers の概要](#)」(164 ページ) を参照してください。

スケジュールを指定しない iBot を作成するには

- 「Set schedule」オプションをクリックして、チェック・マークを外します。

iBot をすぐに開始するには

- 1 「Set schedule」オプションをクリックして、チェック・マークを付けます。
- 2 「Start Immediately」ラジオ・ボタンを選択します。
- 3 「Save this iBot」ボタンをクリックします。

指定された日時に iBot を開始するには

- 1 「Start Date」ボックスに日を入力するか、カレンダーのアイコンをクリックして日を選択します。

使用可能な日付フォーマットのオプションは、次のとおりです。

- すべてのロケールで使用可能：
 - yyyy-mm-dd
- 特定のロケールで使用可能：
 - mm-dd-yy または mm/dd/yy (たとえば、ロケールが US に設定されている場合)
 - dd-mm-yy または dd/mm/yy (たとえば、ロケールが UK に設定されている場合)

- 2 (オプション) 開始時間を入力します。
- 3 (オプション) iBot の開始時間を指定するタイムゾーンを選択します。

注意： 指定する日時は、「Set Time Zone」フィールドで選択するタイムゾーンによって決まります。Oracle Business Intelligence Scheduler が配置されているコンピュータの場所 (タイムゾーン) は関係ありません。

iBot を 1 日に複数回実行するには

- 1 「Repeat every」チェック・ボックスを選択します。
- 2 実行間隔を分単位で入力し、繰返しを停止する時間を入力します。

- 3 「Recurrence」セクションの「Daily」ラジオ・ボタンを選択して、毎日と指定します。

iBot を 1 回のみ実行するには

- 「Once」オプションの「Run once」（繰り返す場合は「Run on one day」）をクリックします。

これはデフォルトのオプションです。

iBot がすでに実行されている場合は、このオプションを使用して、特定の時間または日に iBot がもう 1 回だけ実行されるように指定できます。

iBot を日次スケジュールで実行するには

- 「Daily」オプションを選択して、2 日おきなど、日次の実行間隔を指定します。

iBot を週次スケジュールで実行するには

- 1 「Weekly」オプションを選択して、毎週など、週次の実行間隔を指定します。
- 2 月曜日から金曜日など、iBot を実行する曜日を選択します。

iBot を月次スケジュールで実行するには

- 1 「Monthly」オプションを選択して、月の 1 日を日にちで、または第 1 火曜日などの曜日で指定します。
- 2 該当する月を選択します。

終了日を選択するには

- 「End by」オプションを選択して、日を入力するか、カレンダーから日を選択します。

デフォルトでは、終了日は指定されていません。

Oracle BI Delivers iBot を受信するユーザーの選択

iBot の配信コンテンツを受信するユーザーおよびグループを選択するには、「Recipients」タブを使用します。

注意：条件付きリクエストの結果から受信者を指定して関連する行のみを各ユーザーに表示するオプションを選択している場合、Oracle BI Delivers では、条件付きリクエストの結果が「Delivery Content」タブの配信コンテンツとして設定されると見なされます。（「Clear」ボタンまたは「Select Content」ボタンをクリックすることによって）「Delivery Content」タブのコンテンツが別のものに設定されている場合は、メッセージが表示されます。メッセージでは、配信コンテンツを、条件付きリクエストの結果に更新するかどうか尋ねられます。処理を続行し、配信コンテンツを更新する場合は「はい」をクリックします。現在の配信コンテンツを維持する場合は「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックしても受信者は条件付きリクエストから指定されますが、ユーザーは関連するコンテンツのみを受信するのではなく、すべてのコンテンツを受信することになります。

Oracle BI Delivers の概要は、「[Oracle BI Delivers の概要](#)」（164 ページ）を参照してください。

既存フォルダまたは新規作成したフォルダに保存して iBot を編成する方法の詳細は、「[「Save iBot」ダイアログ・ボックスを使用した iBot の編成](#)」(175 ページ) を参照してください。

配信コンテンツを iBot の作成者に送信するには

- 「Me」 オプションを選択します。

配信コンテンツを複数のユーザーに送信するには

- 1 「A specific list of recipients」 オプションをクリックします。
- 2 「Choose recipients」 ボタンをクリックして、「Select Recipients」 ダイアログ・ボックスを開き、適切なユーザーとグループを指定します。

詳細は、「[「Select Recipients」ダイアログ・ボックスの使用](#)」(175 ページ) を参照してください。

ユーザーが iBot にサブスクライブできるようにするには

- 1 次のオプションをクリックします。

Publish for subscription

- 2 「Select」 ボタンをクリックして、「Select Subscribers」 ダイアログ・ボックスを開き、適切なユーザーとグループを指定します。

詳細は、「[「Select Recipients」ダイアログ・ボックスの使用](#)」(175 ページ) を参照してください。

注意：「Publish for subscription」 オプションを選択すると、「Allow subscribers to customize iBot」 オプションが有効になります。

注意：コンテンツが共有可能である iBot のみを公開できます。

条件付きリクエストの結果から受信者を動的に指定できるようにするには

- 1 次のオプションをクリックします。

Determine recipients from conditional request

- 2 目的の受信者を含む列を指定するには、「Column Containing Recipients」 ドロップダウン・リストから選択します。

リクエストの 2 つ目の列を指定することもできます。

- 3 配信コンテンツのデータのサブセットを送信するには、次のオプションを選択します。

Show relevant rows only

たとえば、リクエストが実行され、結果の行のサブセットのみが 1 人のユーザーに関連する場合は、それらの行のみが配信されます。

注意：このオプションは、iBot に条件付きリクエストが含まれる場合にのみ有効です。

サブスクライバがiBot をカスタマイズできるようにするには

- 1 次のオプションをクリックします。

Publish for subscription

- 2 「Select」 ボタンをクリックして、「Select Recipients」 ダイアログ・ボックスを開き、適切なユーザーとグループを指定します。

詳細は、「[「Select Recipients」 ダイアログ・ボックスの使用](#)」（175 ページ）を参照してください。

注意：「Publish for subscription」 オプションを選択すると、「Allow subscribers to customize iBot」 オプションが有効になります。

- 3 次のオプションをクリックします。

Allow subscribers to customize iBot

このオプションを選択すると、サブスクライバが、iBot の列についてプロンプトが設定されているフィルタに、フィルタ値を入力できるようになります。詳細は、「[Oracle BI Delivers iBot サブスクリプションのカスタマイズ](#)」（188 ページ）を参照してください。

このオプションは、サブスクリプション・オプションに「Publish」を選択した場合のみ使用可能です。

注意：リクエストをカスタマイズ可能にするには、プロンプトを含むようにそのリクエストを構成する必要があります。詳細は、Oracle BI Answers のヘルプ・システムを参照してください。

ユーザーがiBot にサブスクライブできないようにするには

- 次のオプションをクリックして、チェック・マークを外します。

Publish for subscription

注意：「Publish for subscription」 オプションの選択を解除すると、選択されたサブスクライバはすべて無効になり、「Allow subscribers to customize iBot」 オプションが選択解除されて無効になります。

iBot に対するユーザーのサブスクライブを解除するには

- 1 「Current Subscribers」 領域の「Modify」 ボタンをクリックします。

注意：「Modify」 ボタンは、Web 管理者と、「Modify current subscriptions for iBots」 権限を持つユーザーのみが使用できます。

「Modify Subscribers」 ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 サブスクライブを解除するユーザーを選択して、「Delete」 ボタンをクリックし、「OK」 をクリックします。

ヒント：[Shift] または [Ctrl] キーを押しながら隣接するまたは隣接しないユーザーを選択することによって、複数のユーザーを選択できます。

「Select Recipients」ダイアログ・ボックスの使用

「Select Recipients」ダイアログ・ボックスに、現在選択されている受信者と選択可能な受信者がすべて表示されます。

注意：このダイアログ・ボックスは、サブスクライバの選択に使用する場合は「Select Subscribers」ダイアログ・ボックスとして表示されます。

注意：ユーザーが iBot にサブスクライブしてカスタマイズを実行した場合、次にそのユーザーが受信者として選択されると、iBot の次回の実行時にそのユーザーのカスタマイズは失われます。

「Select Recipients」ダイアログ・ボックスを使用するには

- 1 受信者をグループごと、またはユーザーとグループごとに表示するには、ドロップダウン・リストから選択します。
- 2 ユーザーまたはグループをクリックして選択し、「Select Recipients」矢印ボタンをクリックして、選択したユーザーまたはグループを受信者のリストに移動します。
[Shift] または [Ctrl] キーを押しながら隣接するまたは隣接しない受信者を選択することによって、複数の受信者を選択できます。
- 3 受信者を削除するには、ユーザーまたはグループをクリックして選択し、「Remove Recipients」ボタンをクリックします。
複数のグループまたはユーザーを選択するには、[Shift] または [Ctrl] キーを使用します。
- 4 「OK」をクリックします。

「Save iBot」ダイアログ・ボックスを使用した iBot の編成

「Save iBot」ダイアログ・ボックスを使用すると、iBot を既存フォルダまたは新規作成したフォルダに保存することによって、iBot を編成できます。「Save iBot」ダイアログ・ボックスを使用して、iBot を保存するフォルダ階層を作成できます。

既存フォルダに iBot を保存するには

- 1 次のいずれかのオプションをクリックして、「Save iBot」ダイアログ・ボックスを表示します。
 - 新しい iBot の場合は、「Save this iBot」ボタンをクリックします。
 - 既存の iBot の場合は、「Save this iBot as」ボタンをクリックします。
- 2 iBot を保存（またはコピー）するフォルダにナビゲートします。
- 3 iBot の名前と説明を入力します。
- 4 「OK」をクリックして、選択したフォルダに iBot を保存（またはコピー）します。

新規作成したフォルダに iBot を保存するには

- 1 次のいずれかのオプションをクリックして、「Save iBot」ダイアログ・ボックスを表示します。
 - 新しい iBot の場合は、「Save this iBot」ボタンをクリックします。

- 既存の iBot の場合は、「Save this iBot as」 ボタンをクリックします。

2 新しいフォルダを作成するフォルダにナビゲートします。

新しいフォルダは、次に示すように、iBot がサブスクライブ可能かどうかによって、¥Shared iBots」または ¥My iBots」ルート・フォルダの下に作成されます。

- サブスクライブ可能な iBot の場合、新しいフォルダは、¥Shared iBots の下にのみ作成できます。
たとえば、ユーザーが Sales という新しいフォルダを追加する場合、iBot は、新しいフォルダ ¥Shared iBots¥Sales に保存されます。
- サブスクライブ不可の iBot の場合、新しいフォルダは、¥My iBots の下にのみ作成できます。
たとえば、ユーザーが Sales という新しいフォルダを追加する場合、iBot は、新しいフォルダ ¥My iBots¥Sales に保存されます。

iBot のサブスクライブの詳細は、「[Oracle BI Delivers iBot の表示、変更、サブスクライブおよびカスタマイズ](#)」(186 ページ) を参照してください。

3 iBot の名前と説明を入力します。

4 「Create Folder」 ボタンをクリックして、現在のフォルダの下に新しいフォルダを作成します。

5 新しいフォルダの名前を入力して、「OK」をクリックします。

6 「OK」をクリックして、新しいフォルダに iBot を保存 (またはコピー) します。

注意: (既存の iBot の場合に) 「Save this iBot」 ボタンをクリックすると、「Save iBot」 ダイアログ・ボックスは表示されず、対象の iBot が保存されます。ただし、サブスクリプションのステータスが変更されると、対象の iBot を保存する前に「Save iBot」 ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細は、「[Oracle BI Delivers iBot の表示、変更、サブスクライブおよびカスタマイズ](#)」(186 ページ) を参照してください。

iBot の配信コンテンツの指定

ダッシュボード・ページや保存済リクエストなど、iBot を使用して配信するコンテンツのタイプを指定するには、「Delivery Content」タブを使用します。HTML、PDF、XLS、CSV、テキストなど、コンテンツの配信フォーマットを指定することもできます。

コンテンツには、内容を説明する短いヘッドラインを含めることができます。ヘッドラインは、iBot の配信時に件名として表示されます。iBot の添付ファイルのコンテキストを提示するテキスト・メッセージを追加できます。リポジトリ変数、セッション変数またはプレゼンテーション変数を使用して、ヘッドラインまたはテキスト・メッセージをパーソナライズすることもできます。

配信コンテンツが空白の場合 (レコードは返されません)、この状態の説明を追加できます (条件付きリクエストにのみ適用されます)。

この項の内容は次のとおりです。

- 「[iBot の配信コンテンツの選択肢](#)」(177 ページ)
- 「[iBot の配信コンテンツの配信フォーマット・オプション](#)」(177 ページ)
- 「[「Delivery Content」タブの操作手順](#)」(178 ページ)

Oracle BI Delivers の概要は、「[Oracle BI Delivers の概要](#)」（164 ページ）を参照してください。

iBot の配信コンテンツの選択肢

iBot には、配信コンテンツとして次のものを指定できます。

■ 条件付きリクエストの結果

注意：「Recipients」タブで関連する行のみを各ユーザーに表示するオプションが選択されている場合に、コンテンツを消去するか別の配信コンテンツを選択しようとする、メッセージが表示されます。このメッセージでは、コンテンツの消去または別の配信コンテンツの選択を続行すると、関連する行を表示するオプションがリセットされることが警告されます。続行する場合は「はい」をクリックし、現在の配信コンテンツの選択を維持する場合は「いいえ」をクリックします。「はい」をクリックしても受信者は条件付きリクエストから指定されますが、ユーザーは関連するコンテンツのみを受信するのではなく、すべてのコンテンツを受信することになります。

- 条件付きリクエストの説明テキスト（条件付きリクエストが存在する場合にのみ表示）
- 「My Dashboard」のダッシュボード・ページ
- パブリック（共有）ダッシュボードのダッシュボード・ページ
- ブリーフィング・ブック
- 保存済リクエスト（共有およびプライベート）
- 接続解除されたアプリケーションのデータ・セット

iBot の配信コンテンツの配信フォーマット・オプション

含まれるコンテンツのフォーマット・オプションは、選択する配信コンテンツのタイプによって異なります。フォーマット・オプションは、「Send Content As」ドロップダウン・リストに一覧表示されます。すべてのコンテンツのタイプで、すべてのフォーマット・オプションを選択できるわけではありません。

■ デバイスのデフォルト設定

Oracle BI Delivers では、デバイスのデフォルト設定を使用して、コンテンツのフォーマットが決定されます。

■ HTML

配信コンテンツは、インラインで HTML として送信されます。

■ 添付ファイル（HTML）

配信コンテンツは、HTML 添付ファイルとして送信されます。

■ 添付ファイル（PDF）

配信コンテンツは、PDF 添付ファイルとして送信されます。

■ 添付ファイル（Excel および Excel 2000）

配信コンテンツは、XLS 添付ファイルとして送信されます。

- 添付ファイル（CSV データ）
配信コンテンツは、CSV（カンマ区切り値）添付ファイルとして送信されます。
- プレーン・テキスト
配信コンテンツは、プレーン・テキストのフォーマットで送信されます。

「Delivery Content」タブの操作手順

この項では、「Delivery Content」タブを使用して、操作中の iBot について選択を実行する手順を説明します。

iBot の件名行として表示されるヘッドラインを追加するには

- 「Headline」テキスト・ボックスに、内容を説明する短いヘッドラインを入力します。

iBot の件名行として表示されるヘッドラインに変数を追加するには

- 「Headline」テキスト・ボックスに、内容を説明する短いヘッドラインを、次の表に示されている構文を使用して、セッション変数、リポジトリ変数またはプレゼンテーション変数とともに入力します。

変数のタイプ	構文
リポジトリ	@{Variable_Name}
セッション	@{NQ_SESSION.Variable_Name}
プレゼンテーション	@{Variable_Name}

たとえば、「@{NQ_SESSION.DISPLAYNAME} 営業地域週次更新」と入力します。

注意：@ 文字を使用する場合は、¥（円記号）を文字の前に付けて変数構文と区別する必要があります。たとえば、「Dear @{NQ_SESSION.DISPLAYNAME}, ¥@ New York」は、「Dear Joe Smith, @ New York」と表示されます。

iBot の配信コンテンツを選択するには

- 1 「Select Content」ボタンをクリックします。
- 2 「Choose Delivery Content」ダイアログ・ボックスで、配信コンテンツを選択して「OK」をクリックします。
詳細は、「iBot の配信コンテンツの選択肢」（177 ページ）を参照してください。
- 3 「Send content as」ドロップダウン・リストから配信コンテンツのフォーマットを選択します。
詳細は、「iBot の配信コンテンツの配信フォーマット・オプション」（177 ページ）を参照してください。

iBot の配信コンテンツを削除するには

- 「Clear Content」ボタンをクリックします。

iBot の添付ファイルのコンテキストを提示するテキスト・メッセージを追加するには

- 1 次のオプションをクリックします。
If sent as attachment, include this text
- 2 テキストをテキスト・ボックスに入力します。

iBot の添付ファイルのコンテキストを提示するテキスト・メッセージに変数を追加するには

- 1 次のオプションをクリックします。
If sent as attachment, include this text
- 2 次の表に示されている構文を使用して、セッション変数、リポジトリ変数またはプレゼンテーション変数とともに、テキストをテキスト・ボックスに入力します。

変数のタイプ	構文
リポジトリ	@{Variable_Name}
セッション	@{NQ_SESSION.Variable_Name}
プレゼンテーション	@{Variable_Name}

たとえば、「@{NQ_SESSION.Variable_Name} 様、パーソナライズされた週次営業地域更新をお送りします。」と入力します。

注意：@ 文字を使用する場合は、¥ (円記号) を文字の前に付けて変数構文と区別する必要があります。たとえば、「Dear @{NQ_SESSION.DISPLAYNAME}, ¥@ New York」は、「Dear Joe Smith, @ New York」と表示されます。

配信される iBot コンテンツがない受信者に配信するテキスト・メッセージを指定するには

- 1 次のオプションをクリックします。
Deliver this message when no records are returned by the conditional request
- 2 テキストをテキスト・ボックスに入力します。

注意：配信される iBot コンテンツがない場合に、受信者に配信するテキストを入力しておく必要があります。「General」タブで、特定のユーザーとしてすべてのリクエストを実行するよう iBot が構成されている場合は、すべての受信者が対象となることがあります。これにより、対象となる受信者は、配信されるデータがないだけで、iBot でエラーが発生したわけではないことがわかります。たとえば、100 万ドルを超えるすべての売上について受信者にアラートが通知されるように設定されている場合、受信者は、100 万ドルを超える売上がない特定の月についても確認が必要なことがあります。

iBot コンテンツがないことを知らせるテキスト・メッセージに変数を追加するには

- 1 次のオプションをクリックします。
Deliver this message when no records are returned

- 2 次の表に示されている構文を使用して、セッション変数、リポジトリ変数またはプレゼンテーション変数とともに、テキストをテキスト・ボックスに入力します。

変数のタイプ	構文
リポジトリ	@{Variable_Name}
セッション	@{NQ_SESSION.Variable_Name}
プレゼンテーション	@{Variable_Name}

たとえば、「@{NQ_SESSION.Variable_Name} 様、今週の週次営業地域更新にはデータはありません。」と入力します。

注意：@ 文字を使用する場合は、¥ (円記号) を文字の前に付けて変数構文と区別する必要があります。たとえば、「Dear @{NQ_SESSION.DISPLAYNAME}, ¥@ New York」は、「Dear Joe Smith, @ New York」と表示されます。

Oracle BI Delivers iBot の宛先の選択

iBot の送信先デバイスと宛先の範囲を指定するには、「Destinations」タブを使用します。この項の内容は次のとおりです。

- [「Oracle BI Delivers iBot のユーザー宛先について」](#) (180 ページ)
- [「Oracle BI Delivers iBot の特定のデバイスについて」](#) (181 ページ)
- [「Oracle BI Delivers iBot のシステム・サービスについて」](#) (181 ページ)

Oracle BI Delivers の概要は、[「Oracle BI Delivers の概要」](#) (164 ページ) を参照してください。

iBot のデバイスと宛先を指定するには

- 対象の iBot に指定するデバイスまたは宛先の横にあるチェック・ボックスを選択します。

Oracle BI Delivers iBot のユーザー宛先について

この項では、「Destinations」ページで選択可能な iBot のユーザー宛先について説明します。

- Interactive Dashboard

アクティブな iBot がダッシュボードの「Alerts」セクションおよび「Alerts!」ページに一覧表示されます。新しい iBot の配信時、この概要ページへのリンクがアプリケーションのナビゲーション・リンクとともに表示されます。「Alerts」ページでこれらの iBot がクリアされると、アラートへのリンクは削除されます。

- Active Delivery Profile

iBot は、アクティブな配信プロファイルで指定されているデバイスに送信されます。アクティブな配信プロファイルは、「My Account」ページから構成します。詳細は、[「Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成」](#) (189 ページ) を参照してください。

Oracle BI Delivers iBot の特定のデバイスについて

「Destinations」ページで特定のデバイスを選択すると、「My Account」ページで選択されているデフォルトのデバイスが、ユーザーのアクティブな配信プロファイルで設定されているデバイスよりも優先されます。「Destinations」ページで指定されるデバイスは、アクティブな配信プロファイルへの追加として機能します。たとえば、ユーザー構成に依存する必要のない iBot があります。このような iBot は、「My Account」ページの「Devices」領域にあるデフォルト・デバイスのデバイス情報だけを使用するように構成できます。

アクティブな配信プロファイルとデバイスの詳細は、「[Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成](#) (189 ページ) を参照してください。

使用可能なデバイスは次のとおりです。

- 電子メール
- ポケットベル
- デジタル電話
- 携帯情報端末
- その他のデバイス

Oracle BI Delivers iBot のシステム・サービスについて

この項では、「Destinations」ページで管理者が選択できるシステム・サービスについて説明します。

■ Oracle BI Server Cache

この設定はキャッシュの生成に使用します。

Oracle BI 管理者は、個々のユーザーについてサーバー・キャッシュを作成できます。キャッシュの生成操作では、ダッシュボード・ページでリクエストを実行して、またはプレゼンテーション・カタログに保存されているリクエストを実行して、サーバー・キャッシュを作成できます。これにより、ユーザーがダッシュボードでリクエストを実際に行う場合の応答時間が短縮されます。指定したリクエストのキャッシュにデータがすでに存在する場合は、iBot の実行時にそのデータが削除され、リフレッシュされます。

リクエストまたはダッシュボード・ページのキャッシュは、指定された一連のユーザーに該当するスケジュールで作成されます。

注意：ユーザーごとにキャッシュが作成されるようにするには、「General」タブで、データ表示方法として「Personalized」オプションを選択します。

この種類のリクエストには、通常、他の宛先は選択しません。

■ Disconnected Application Cache

この設定は、Disconnected Analytics のライセンスが付与されている組織、または Oracle Siebel Pharma Mobile Analytics などの接続解除されたアプリケーションを使用する組織で指定されます。これは、Disconnected Analytics アプリケーションの事前処理された同期モードに関連します。

接続解除されたアプリケーションのユーザーにサーバーのデータ・セットを作成して、これらのユーザーがアプリケーションを同期化するときに、データがより迅速にダウンロードされるようにできます。

事前処理された同期モードは、ユーザーに推奨されるデータのダウンロード・モードです。これにより、通常の営業時間中にオンライン・モードでデータ作成リクエストを実行すると発生する可能性のあるオーバーヘッドが回避され、ダウンロードの待機時間が短縮されます。事前処理されたデータは、Oracle BI Web を実行しているマシン上の各ユーザーのディレクトリに保存されます。このモードを使用してデータのキャッシュ作成をスケジュールする場合は、十分なディスク領域が使用可能であることを確認します。Oracle Disconnected Analytics の詳細は、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

注意：ユーザーごとに、接続解除されたアプリケーションのキャッシュが作成されるようにするには、「General」タブで、データ表示方法として「Personalized (individual data visibility)」オプションを選択します（パーソナライズされていないデータは、Disconnected Analytics ユーザーでは使用されません）。

この種類のリクエストには、通常、他の宛先は選択しません。

Oracle BI Delivers iBot の完了時に実行する操作の指定

iBot の完了時に実行する 1 つ以上の操作を指定するには、「Advanced」タブを使用します。操作は、iBot の受信者となっている各ユーザーで自動的に実行されます。各 iBot 操作のデフォルトの動作を変更できます。操作には、他の iBot、カスタム・スクリプトおよびカスタム Java プログラムの実行や、Oracle Siebel Workflow バージョン 7.7（またはそれ以上のバージョン）のアプリケーションを使用して定義されたワークフローの実行が含まれます。iBot の条件が満たされる場合、またはレコードが返されない場合のいずれかに実行する操作を指定することもできます。

注意：デフォルトでは、Oracle BI 管理者のみが、これらすべての操作の指定に必要な権限を持ちます。管理者ではないユーザーは、他の iBot の操作の実行のみを指定できます。

追加された操作には、クリックしてプロパティを表示または変更できる「Properties」ボタンと、クリックして操作を削除できる「Delete」ボタンがともに表示されます。

この項の内容は次のとおりです。

- 「iBot の操作プロパティについて」 (183 ページ)
- 「カスタム・スクリプトの操作プロパティについて」 (183 ページ)
- 「ワークフローの操作プロパティについて」 (184 ページ)
- 「カスタム Java プログラムの操作プロパティについて」 (184 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot の完了時に実行する操作の指定手順」 (184 ページ)

Oracle BI Delivers の概要は、「Oracle BI Delivers の概要」 (164 ページ) を参照してください。

iBot の操作プロパティについて

現在の iBot の完了時に実行する次の iBot を指定できます。

「Path」フィールドに詳細を入力するには、「Browse」ボタンを使用して「Select iBot」ダイアログ・ボックスを表示し、実行する iBot を選択します。

次のオプションは、「Execute for Recipients」ドロップダウン・リストから受信者の有効範囲として選択できません。

- Of specified iBot

このダイアログで参照している iBot の受信者を選択する場合は、このオプションを選択します。

- Of current iBot

後続の操作が指定されている現在の iBot の受信者を選択する場合は、このオプションを選択します。

- Of both specified and current iBot

双方の iBot の受信者を結合して選択する場合は、このオプションを選択します。

- Common to specified and current iBot

双方の iBot の共通する受信者を選択する場合は、このオプションを選択します。

- Of specific iBot, but not current iBot

参照している iBot の受信者を選択し、現在の iBot の受信者を除外する場合は、このオプションを選択します。

最初の iBot のフィルタを後続の iBot に適用する場合、フィルタ値は、「Conditional Request」タブで指定された条件付きリクエストによって生成されます。「Advanced」タブで指定された iBot は、条件付きレポートの行ごとに 1 回実行され、各行の値によってフィルタが生成されます。

カスタム・スクリプトの操作プロパティについて

現在の iBot の完了時に（Microsoft Windows で）実行するカスタム・スクリプトのファイル名を指定できます。カスタム・スクリプト・ファイルは、Oracle BI Delivers サーバー（スケジューラ）と同じサーバーに配置する必要があります。カスタム・スクリプトのタイプは、Javascript と VBScript のいずれかです。デフォルトでは、Oracle BI 管理者のみがカスタム・スクリプトの構成に必要な権限を持ちます。この機能の構成手順の詳細は、『Oracle Business Intelligence Scheduler ガイド』を参照してください。

結果をスクリプトに渡すかどうかのオプションと、必要なフォーマットを選択できます。さらにパラメータを手動で追加することもできます。

コンテンツのタイプ（条件付きリクエストからのものであるか、または配信コンテンツからのものであるか）によって、結果が次のいずれかのフォーマットで渡されます。

- MHTML（電子メールで使用される MIME HTML）

- XML（eXtensible Markup Language）

- プレーン・テキスト

- CSV（カンマ区切り値）

- PDF（Portable Document Format）

ワークフローの操作プロパティについて

Oracle Siebel Workflow バージョン 7.7（またはそれ以上のバージョン）のアプリケーションでワークフローをトリガーするように iBot を構成できます。デフォルトでは、Oracle BI 管理者のみが、ワークフローをトリガーするよう iBot を構成するために必要な権限を持ちます。この機能の構成手順の詳細は、『Oracle Business Intelligence Scheduler ガイド』を参照してください。

動的なプロパティは、「Conditional Request」タブで指定された条件付きリクエストによって生成されます。ワークフローは条件付きリクエストの行ごとに 1 回実行され、動的プロパティが各行の値から生成されます。条件付きリクエストから列を選択することもできます。

カスタム Java プログラムの操作プロパティについて

現在の iBot の完了時に（Windows および UNIX で）実行するカスタム Java プログラムを指定できます。デフォルトでは、Oracle BI 管理者のみが、カスタム Java プログラムの構成に必要な権限を持ちます。この機能の構成手順の詳細は、『Oracle Business Intelligence Scheduler ガイド』を参照してください。

結果を Java プログラムに渡すかどうかのオプションと、必要なフォーマットを選択できます。さらにパラメータを手動で追加することもできます。

コンテンツのタイプ（条件付きリクエストからのものであるか、または配信コンテンツからのものであるか）によって、結果が次のいずれかのフォーマットで渡されます。

- MHTML（電子メールで使用される MIME HTML）
- XML（eXtensible Markup Language）
- プレーン・テキスト
- CSV（カンマ区切り値）
- PDF（Portable Document Format）

Oracle BI Delivers iBot の完了時に実行する操作の指定手順

この項では、iBot の完了時に実行する操作を指定する手順について説明します。

現在の iBot の完了時に実行する次の iBot を選択するには

- 1 「Add Action」 ボタンをクリックして、「iBot」を選択します。
- 2 「Browse」 ボタンをクリックして、次に実行する iBot を選択します。
- 3 「Execute for Recipients」 ドロップダウン・リストから受信者の有効範囲を選択します。
詳細は、「[iBot の操作プロパティについて](#)」（183 ページ）を参照してください。
- 4 現在の iBot のフィルタが次の iBot に適用されるように指定するには、次のオプションを選択します。
Propagate filters from parent

注意：この手順は、選択するコンテンツにフィルタが含まれる場合にのみ適用されます。

- 5 さらにフィルタを追加するには、「Add」ボタンをクリックします。
追加のフィルタをすべて削除するには、「Clear」ボタンをクリックします。

現在の iBot の完了時に実行するカスタム・スクリプトを指定するには

- 1 「Add Action」ボタンをクリックして、「Custom Script」を選択します。
「Custom Script Properties」ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 「Filename」テキスト・ボックスに、スクリプトへのパスを入力します。
注意：スクリプトは、Oracle BI Delivers サーバー（スケジューラ）と同じサーバーに配置する必要があります。
- 3 「Type」ドロップダウン・リストからスクリプトのタイプを選択します。
- 4 「Results」領域で、結果をスクリプトに渡すかどうか、また渡す場合はそのフォーマットを選択します。
- 5 さらにパラメータを手動で追加するには、「Add」ボタンをクリックします。
- 6 入力したパラメータをすべて削除するには、「Clear」ボタンをクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

実行するワークフローを指定するには

- 1 「Add Action」ボタンをクリックして、「Workflow」を選択します。
「Workflow Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 「Workflow Name」フィールドに、ワークフローの名前を入力します。
注意：Oracle Siebel Workflow バージョン 7.7（またはそれ以上のバージョン）のアプリケーションを使用して定義されているワークフローを指定します。
- 3 名前と値のペアをワークフローに渡すには、「Static Properties」セクションにそれらの名前と値を入力します。
- 4 さらに静的プロパティを追加するには、「Add」ボタンをクリックします。
追加した静的プロパティをすべて削除するには、「Clear」ボタンをクリックします。
- 5 「Dynamic Properties」セクションに、適切な動的値を入力します。
- 6 複数の動的プロパティを追加するには、「Add」ボタンをクリックします。
- 7 追加した動的プロパティをすべて削除するには、「Clear」ボタンをクリックします。
- 8 条件付きリクエストから列を選択するには、「Value Column」ドロップダウン・リストからその列を選択します。
- 9 「OK」をクリックします。

現在の iBot の完了時に実行するカスタム Java プログラムを指定するには

- 1 「Add Action」 ボタンをクリックして、「Custom Java Program」 を選択します。
「Custom Java Program Properties」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 「Class Name」 フィールドに、Java プログラムの操作の完全修飾された実装クラスを入力します。
次に例を示します。
 - MyCompany.Application.Class1
- 3 「Class Path」 フィールドに、対象の Java プログラムを含む JAR ファイルの名前を入力します。
注意：パスは、JAR ファイルの名前に限定されます。相対パスまたは絶対パスを指定することはできません。
注意：JAR ファイルは、Oracle BI JavaHost に指定されているように、ユーザーの JAR ファイルのデフォルト・パスに配置する必要があります。詳細は、『Oracle Business Intelligence Scheduler ガイド』を参照してください。
- 4 「Additional Class Path(s)」 フィールドに、その他の JAR ファイル（対象の Java プログラムの実行に必要なユーティリティ・クラスおよびユーティリティ・ライブラリを含む）の名前を入力します。
注意：追加のパスは、JAR ファイルの名前に限定されます。相対パスまたは絶対パスを指定することはできません。
注意：複数の追加 JAR ファイルを指定する場合は、各ファイルをセミコロン (;) で区切って指定します。
- 5 「Results」 領域で、結果を Java プログラムに渡すかどうか、また渡す場合はそのフォーマットを選択します。
- 6 さらにパラメータ値を手動で追加するには、詳細を入力して、「Add」 ボタンをクリックします。
- 7 入力したパラメータをすべて削除するには、「Clear」 ボタンをクリックします。
- 8 「OK」 をクリックして、カスタム Java プログラムを iBot に追加します。

Oracle BI Delivers iBot の表示、変更、サブスクライブおよびカスタマイズ

この項の内容は次のとおりです。

- 「自動的に機能する Oracle BI Delivers iBot の表示と変更」 (187 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot へのサブスクライブ」 (187 ページ)
- 「Oracle BI Delivers iBot サブスクリプションのカスタマイズ」 (188 ページ)

Oracle BI Delivers の概要は、「Oracle BI Delivers の概要」 (164 ページ) を参照してください。

自動的に機能する Oracle BI Delivers iBot の表示と変更

Delivers のスタート・ページで「Show iBots Acting on My Behalf」リンクをクリックするか、選択ペインのフォルダにナビゲートすることによって、所有しているまたは受信者となっている iBot を表示できます。iBot の詳細を表示したり、プロパティを変更したりすることもできます。

注意：「Search」フィールドに検索文字列を入力して、「Search」ボタンをクリックすることによって、iBot を検索することもできます。Delivers のワークスペースに検索結果が表示されます。ワークスペースでは、続けて iBot のプロパティの表示または変更を実行できます。詳細は、「iBot を検索するには」(167 ページ) を参照してください。

自動的に機能する iBot を表示するには

- Oracle BI Delivers にナビゲートし、「Show iBots Acting on My Behalf」リンクをクリックします。
ワークスペースに概要リストが表示され、所有しているまたは受信者となっている iBot の詳細が示されます。詳細は、「Oracle BI Delivers のスタート・ページを使用した iBot の作成および管理」(167 ページ) を参照してください。
- Oracle BI Delivers にナビゲートして、Oracle BI Delivers のスタート・ページの選択ペインにある My iBots または Shared iBots の下のフォルダをクリックします。
ワークスペースに iBot のリストが表示され、選択したフォルダの iBot サブスクリプションのリストが示されます。Shared iBots フォルダのリストに表示されるリンクを使用して、共有 iBot にサブスクライブしたり、共有 iBot のサブスクライブを解除したりできます（詳細は、「Oracle BI Delivers iBot へのサブスクライブ」(187 ページ) を参照してください）。

iBot のリストから特定の iBot の詳細を表示するには

- 1 iBot の名前をクリックします。
新しいウィンドウに、選択した iBot に関する情報が表示されます。「Overview」タブに、選択した iBot の概要情報が表示されます。
- 2 対象の iBot の詳細を表示するには、「Overview」タブの該当するリンクをクリックするか、その他のタブをクリックします。

Oracle BI Delivers iBot へのサブスクライブ

サブスクリプションが可能な iBot に対して、サブスクライブまたはサブスクライブ解除を実行できます。サブスクライブ可能な（ただし現在サブスクライブされていない）各 iBot には「Subscribe」リンクが表示され、サブスクライブされている各 iBot には「Remove Subscription」リンクが表示されます。

現在の iBot サブスクリプションを変更するには

- 1 iBot にサブスクライブするには、「Subscribe」リンクをクリックします。
対象の iBot の下に「Remove Subscription」リンクが表示され、アイコンが変わり（チェック・マークが表示されます）、この iBot にサブスクライブされていることが示されます。

- 2 iBot からサブスクリプションを解除するには、「Remove Subscription」リンクをクリックします。
対象の iBot の下に「Subscribe」リンクが表示され、アイコンが変わり（チェック・マークが消えます）、この iBot にはもうサブスクリプションされていないことが示されます。

Oracle BI Delivers iBot サブスクリプションのカスタマイズ

特定の iBot サブスクリプションについて、列でプロンプトが設定されているフィルタ値をカスタマイズできます。

注意：このオプションは、「Recipients」タブで「Allow subscribers to customize iBots」オプションが選択されている場合にのみ使用できます。詳細は、「サブスクリプションが iBot をカスタマイズできるようにするには」（174 ページ）を参照してください。

iBot サブスクリプションをカスタマイズするには

- 1 「Customize Subscription」リンクをクリックします。
「Customize iBot」ページが表示されます。このページでは、対象の iBot サブスクリプションについてカスタマイズ可能な、列のフィルタ値を変更できます。
- 2 「Customize」をクリックして、変更する列を選択します。
- 3 「Modify」ボタンをクリックして、「Create/Edit Filter value」ダイアログを表示します。
このダイアログでは、次のように、列のフィルタ値を変更できます。
 - a 「Operator」ドロップダウン・リストから演算子を選択します。
 - b 「Add」ボタンをクリックして、次のように、列と比較するオプションを（ドロップダウン・リストから）選択します。
Value: 値を入力できます。
SQL Expression: SQL 式を入力できます。
Variable (Session, Repository, or Presentation): 変数を入力できます。
 - c 既存の値をすべて削除するには、「Clear Values」ボタンをクリックします。
 - d 「Match」ドロップダウン・リストから値を選択して、隣りのフィールドに適切な値を入力します。
 - e 「All Choices」リンクをクリックすると、変更可能な各列値のリンクが示されます。
たとえば、列が「Region」の場合に「All Choices」リンクをクリックすると、全地域のリンクが表示されます。ここで、代替地域を選択できます。
 - f 「OK」をクリックします。
「Customize iBot」ページが表示されます。このページでは、対象の iBot サブスクリプションについて、列のフィルタ値を引き続き変更できます。

- 4 「Save」をクリックして、加えた変更を適用します。

注意：前述の手順で設定したカスタマイズしたフィルタ値は、iBot の結果に自動的に表示されることはありません。詳細は、「[iBot の結果にカスタマイズしたフィルタ値を表示するには](#)」(189 ページ) を参照してください。

iBot の結果にカスタマイズしたフィルタ値を表示するには

iBot の結果にカスタマイズしたフィルタ値を表示するには、次の操作を実行する必要があります。

- 1 Oracle BI Answers を起動して、カスタマイズされているレポートを特定します。
- 2 Oracle BI Answers の「Results」タブを表示します。
- 3 「Add View」ボタンをクリックします。
- 4 ドロップダウン・リストから「Filters」オプションを選択します。
- 5 レポートを保存します。

これで、レポートによって、iBot の結果にカスタマイズしたフィルタ値が表示されるようになります。詳細は、Oracle BI Answers のヘルプ・システムを参照してください。

Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成

Oracle BI ユーザーは、「My Account」リンクを使用して、配信デバイスおよび配信プロファイルを構成できます。このリンクは、Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers および Oracle BI Interactive Dashboards のメイン・ページからアクセスできます。

デバイスおよび配信プロファイルでは、iBot によってアラートがトリガーされた場合の、Oracle BI Delivers からユーザーへの配信方法が制御されます。1 つ以上のデバイスを追加したら、配信プロファイルを作成して、アラートを受信するアクティブなプロファイルに設定する配信プロファイルを指定できます。

注意：「Delivery Options」領域にすでにデバイスとプロファイルが含まれている場合は、「Delivery Options」領域を変更する前に、まず Oracle BI 管理者に問い合わせる必要があります（加えた変更によって、構成されていた配信デバイスおよびプロファイルの情報が上書きされます）。

ユーザーはデバイスの追加、代替のデフォルト・デバイスの指定および配信プロファイルの構成を実行できます。詳細は、「[Oracle BI Delivers に配信オプションを構成するには](#)」(189 ページ) を参照してください。

Oracle BI Delivers に配信オプションを構成するには

- 1 Oracle BI にログインします。
- 2 「Settings」（使用可能な場合）をクリックし、「My Account」リンクをクリックします。
「My Account」ページが表示されます。
- 3 デバイスを追加するには、次の手順を実行します。

- a 追加するデバイスのリンクをクリックします。
たとえば、「Email」リンクをクリックします。
 - b デバイスを追加するリンク（たとえば、「Add Email Device」リンク）をクリックします。
「Device Name」フィールドに値が入力された「Device」ページが表示されます。「Device / Provider」リストからオプションを選択できます。
 - c 「Device / Provider」ドロップダウン・リストからデバイスのカテゴリとして適切なオプションを選択します。
 - d 「Address」フィールドにデバイスのアドレスを入力します。
たとえば、電子メールの場合は電子メール・アドレスを入力し、デジタル電話の場合は電話番号を入力します。
注意：デバイスの電話番号を入力するときは、スペース、ダッシュ、カッコなどの記号を使用しないでください。
 - e 「Finished」をクリックして、「My Account」ページに戻ります。
該当するカテゴリの「Devices」領域に、追加したデバイスが表示されます（電子メール・デバイスなど）。
 - f デバイスの情報を変更するには、「Edit」リンクをクリックして、「Device」ページに戻ります。
 - g デバイスがなくなった場合は、「Delete」リンクをクリックします。
これによって、「Devices」領域から対象のデバイスが削除されます。
 - h 別のデバイスを追加するには、前述の手順を繰り返します。
- 4 代替のデフォルト・デバイスを指定するには、次の手順を実行します。
- a デフォルトのデバイス（電子メール、電話など）を設定するデバイス・カテゴリのタブをクリックします。
選択したデバイス・カテゴリのデバイスがすべて表示されます。
 - b デフォルトとして選択するデバイスの横にあるラジオ・ボタンを選択します。
ここでデフォルトのデバイス（Email1 など）を選択して、「iBot Destinations」ページの「Email」チェック・ボックスを選択すると、このデフォルトのデバイスが、アクティブな配信プロファイルの他の電子メール・デバイスよりも優先されます。詳細は、「[Oracle BI Delivers iBot の宛先の選択](#)」（180 ページ）を参照してください。
- 5 配信プロファイルを追加するには、次の手順を実行します。
- a 「Add Delivery Profile」リンクをクリックします。
「Delivery Profile」ページが表示されます。
 - b 「Name」フィールドに、配信プロファイルの名前を入力します。
「Delivery Profile」ページでの選択および配信プロファイルの機能の詳細は、「[Oracle BI Delivers の配信プロファイルの使用](#)」（191 ページ）を参照してください。
 - c 「Finished」をクリックして、「Delivery Profile」ページに戻ります。
「Delivery Profiles」リストに、追加したプロファイルが表示されます。

- d 配信プロファイルの情報を変更するには、「Edit」リンクをクリックして、「Delivery Profile」ページに戻ります。
 - e 配信プロファイルが必要なくなった場合は、「Delete」リンクをクリックします。
これにより、「Delivery Profiles」領域から対象の配信プロファイルが削除されます。
 - f 別の配信プロファイルを追加するには、前述の手順を繰り返します。
- 6 特定の配信プロファイルをアクティブなプロファイルに指定するには、そのプロファイルの横にあるラジオ・ボタンを選択します。
プロファイルの横のラジオ・ボタンが選択されて、これがアクティブな配信プロファイルであることが示されます。

Oracle BI Delivers の配信プロファイルの使用

Oracle BI Delivers では、アクティブな配信プロファイルを使用して、iBot によってアラートがトリガーされた場合のユーザーへの配信方法と、配信されたコンテンツを受信するデバイスが指定されます。ユーザーは自身の配信プロファイルを「My Account」ページで構成します。「My Account」ページにアクセスして配信プロファイルを構成する方法の詳細は、「[Oracle BI Delivers デバイスと配信プロファイルの構成](#)」(189 ページ) を参照してください。

iBot のコンテンツは、Web、ワイヤレス、モバイルのデバイスなど、様々なデバイスに配信できます。デフォルトでは、iBot のコンテンツは、ダッシュボードと、(iBot のコンテンツの優先順位に基づいて) アクティブな配信プロファイルで定義されている適切なデバイスに配信できます。コンテンツは、あるデバイスに特定して配信されることがあります。そのような場合は、その配信デバイスがアクティブな配信プロファイルで定義されていても、定義されていなくても、その配信デバイスでコンテンツが受信されます。

コンテンツは、アクティブな配信プロファイルで指定されている複数デバイスの共通部分と、ターゲットのコンテンツに定義されている特定のデバイスに配信されます。コンテンツは、デバイスがアクティブな配信プロファイルに定義されていて、さらに対象の iBot コンテンツに配信デバイスとして特定されている場合であっても、各デバイスに 1 回だけ配信されます。特定されたデバイスまたはアクティブな配信プロファイルが見つからない場合、iBot のコンテンツは自動的にダッシュボードに送信されます。

iBot のコンテンツには、特定の優先順位が割り当てられます。デフォルトの優先順位は標準です。アクティブなプロファイルにデバイスを選択すると、そのデバイスに送信されるコンテンツの優先順位を指定できます。たとえば、配信プロファイルにポケットベルを追加した場合、そのポケットベルに、優先順位が高いコンテンツのみを関連付けることができます。頻繁にオフィスから電子メールの圏外に外出している場合は、オフィスの電子メールでは低い優先順位のコンテンツのみを受信するように選択できます。

任意の数の配信プロファイルを作成できます。ただし、常にアクティブにできるプロファイルは 1 つだけです。

Oracle BI Delivers の配信プロファイルを追加または編集するには

- 1 「Delivery Profile」ページで、「Name」フィールドに、追加または編集するプロファイルの名前を入力します。

- 2 プロファイルで使用するデバイスごとに、配信されるコンテンツの優先順位を選択します。

注意： 使用しないデバイスには優先順位を設定しないでください。優先順位が選択されていないデバイスは、プロファイルでは使用されません。

該当するチェック・ボックスを選択することによって、いずれかのまたはすべての優先順位を選択できます。

- 3 「Finished」をクリックしてプロファイルを保存し、「My Accounts」ページに戻ります。

「Delivery Profiles」リストに、追加または編集した配信プロファイルが表示されます。

Oracle BI の「Alerts」へのアクセス

Oracle BI の「Alerts」ページには、現在アクティブなアラートと、コンテンツが配信された時間に関する情報が表示されます。アラートの設定に応じて、アクティブなアラートのコンテンツの表示、発生したすべてのアクティブなアラートの消去、アラートを生成した iBot の表示、またはアラートを生成した iBot の再実行による現状の確認を実行できるリンクが表示されます。

Oracle BI Delivers が有効な場合、任意のダッシュボード・ページに「Alerts」セクションを追加できます。アラートが存在すると、Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers および Oracle BI Interactive Dashboards の各ページの上部に、「Alerts!」リンクが表示されます。

注意： 「Alerts」セクションを手動で配置しない場合は、「My Dashboard」の最初のページにこのセクションが自動的に追加されます。

RSS フィード・オプションを使用すると、HTTP Basic 認証をサポートする、RSS 2.0 互換リーダーを介してアラートを受信できます。ただし、Oracle BI Presentation Server で HTTPS プロトコルが使用されている場合は、使用する RSS リーダーでも HTTPS プロトコルのサポートが必要です。

「Alerts」ページには、「XML」ボタンが表示されます。このボタンは、「Alerts」ページの URL の検索に使用します。「Alerts」ページに「XML」ボタンを表示するには、ユーザーに適切な権限が必要です。RSS フィード権限は、Oracle BI Presentation Services Server 管理者により付与されます。

RSS の要件の詳細は、Oracle BI Interactive Dashboards のヘルプ・システム、または『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』の「Oracle BI Interactive Dashboards の使用」を参照してください。

Answers、Delivers または Interactive Dashboards からアラートにアクセスするには

- 1 Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers または Oracle BI Interactive Dashboards で、「Alerts!」リンクをクリックします。

新しいウィンドウに、ヘッドライン、配信日時および各アクティブ・アラートの発生数とともに、「Oracle BI Alerts」ページが表示されます。

- 2 アラートを処理するには、該当するリンクをクリックします。

アラートにRSS フィードを追加するには

- 1 Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers または Oracle BI Interactive Dashboards で、「Alerts!」リンクをクリックします。

新しいウィンドウに、ヘッドライン、配信日時および各アクティブ・アラートの発生数とともに、「Oracle BI Alerts」ページが表示されます。ページの下部に「RSS」ボタンが表示されます。

- 2 「XML」ボタンを右クリックして、リンク情報をコピーします。
- 3 RSS リーダーを起動して、アラート・ページの RSS の URL を手動で追加します。アラートの RSS ソースの作成の詳細は、RSS リーダーの製品ドキュメントを参照してください。

8

Oracle BI Interactive Dashboards の使用

Oracle BI Interactive Dashboards は、Oracle BI リクエストの結果および他の種類のコンテンツの表示に使用される Analytics アプリケーションのページです。ユーザーは、各自の権限に応じて、事前構成済のダッシュボードを表示したり、ダッシュボードを作成または変更したりできます。

この章では、ダッシュボード上のコンテンツを作成および管理する方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Interactive Dashboards の概要」 (196 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards におけるナビゲート」 (198 ページ)
- 「新しい Oracle BI Interactive Dashboards の作成」 (199 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards への新しいページの追加」 (200 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加」 (201 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更」 (219 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページの個人用および共有の保存済選択の作成と割当て」 (221 ページ)
- 「他の Oracle BI ユーザー・アカウントへのアクセス」 (224 ページ)
- 「Oracle BI Publisher レポートの操作」 (225 ページ)
- 「Oracle BI ブリーフィング・ブックの操作」 (228 ページ)
- 「Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて」 (232 ページ)

Oracle BI Interactive Dashboards の概要

Oracle BI Interactive Dashboards により、企業内の情報および外部の情報のパーソナライズされたビューを実現します。ダッシュボードは 1 つ以上のページで構成され、その各ページはダッシュボードの上部にタブとして表示されます。ページには、Web ブラウザを使用してアクセスしたり開いたりできるすべてのもの（保存済の Oracle BI リクエスト、Oracle BI Delivers からのアラート、イメージ、グラフ、テーブル、テキスト、Web サイトやドキュメントへのリンクなど）を表示できます。

ダッシュボードに配置可能なコンテンツの種類は、ダッシュボード・オブジェクト、Oracle BI Presentation Catalog に保存されたコンテンツ、Presentation Catalog 内のフォルダのビューがあります。適切な権限を持つユーザーは、Dashboard Editor を使用して、コンテンツを選択ペインからダッシュボードのレイアウト・ページにドラッグ・アンド・ドロップすることで、コンテンツをダッシュボードに追加できます。レイアウト・ページは、コンテンツを編成する列と、コンテンツを格納する列内のセクションで構成されます。ダッシュボードの外観（背景色やテキスト・サイズなど）はスタイルとスキンによって制御され、表示フォーマットのダイアログ・ボックスを使用した変更も可能です。

Oracle BI Interactive Dashboards の機能の多くは自己説明方式が採用されており、各ページにその定義と使用方法の情報が表示されます。そのページに関して参照可能な情報がさらにある場合は、右上部に「Help」ボタンが表示されます。そのボタンをクリックすると、さらに詳細な情報が表示されます。

ダッシュボードの作成は、管理職責のあるユーザーにのみ許可されています。ダッシュボード（個人用および共有）を変更する権限は、Oracle BI 管理者による決定に従って、広範な範囲のユーザーに付与されます。適切な権限と職責のあるユーザーは、ダッシュボードを変更できます。

表 24 に、Oracle BI Interactive Dashboards で使用する基本用語の定義を示します。

表 24. Oracle BI Interactive Dashboards の基本用語の定義

用語	定義
列	ダッシュボードにあるコンテンツの位置合せを行うために列を使用します（列の内部にあるセクションには、実際のコンテンツが格納されます）。ダッシュボード・ページには、必要な数だけ列を作成できます。新しく作成された各ダッシュボード・ページには、空の列と空のセクションがそれぞれ 1 つ自動的に配置されます。Oracle BI Interactive Dashboards で使用される列は、Oracle BI Answers で使用される列と関連しません。
ダッシュボード・オブジェクト	ダッシュボード・オブジェクトは、ダッシュボードにのみ使用される項目です。ダッシュボード・オブジェクトには、コンテンツを格納するセクション、ナビゲーション・リンク、ダッシュボードのフレーム内に表示される埋込みコンテンツなどがあります。
フォルダ	フォルダは、Oracle BI Answers で作成したリクエストなどの、Presentation Catalog に保存されるコンテンツを格納する整理用オブジェクトです。UNIX のディレクトリや Microsoft Windows のフォルダに似ています。
ページ	ページは、ダッシュボードのコンテンツを格納する列とセクションで構成されます。すべてのダッシュボードには、ページが 1 ページ以上あります。Oracle BI Interactive Dashboards のページは、ダッシュボード上部にあるタブによって区別されます。複数のページを使用して、コンテンツを整理します。たとえば、毎日参照する Oracle BI Answers の結果を格納するページ、サプライヤの Web サイトへのリンクがあるページ、企業のイントラネットへのリンクが含まれるページなどです。

表 24. Oracle BI Interactive Dashboards の基本用語の定義

用語	定義
結果	結果はレポートとも呼ばれます。Oracle BI Server から返される出力で、Oracle BI Answers を使用して指定されたリクエスト条件に一致します。ダッシュボードへの結果表示に使用されるデフォルトのフォーマットは表形式です (Oracle BI Presentation Services 管理者が組織内で別の結果ビューをデフォルトで構成している場合がある)。結果は、グラフなどの他のフォーマットでも表示できます。ユーザーは、結果の調査と分析を行ったり、保存や印刷を行ったり、スプレッドシートにダウンロードしたりできます。
セクション	セクションは、ダッシュボード・レイアウトの列に表示されます。セクションには、選択ペインからドラッグ・アンド・ドロップしたコンテンツが格納され、列におけるコンテンツの整理に使用します。
スキン	スキンにより、Oracle BI Presentation Services インタフェースの表示 (背景の色、企業のロゴ、使用するスタイル・シートなど) を行う方法を制御します。スキンは、ユーザーのログイン時に自動的に割り当てることができます。Oracle BI 管理者は、Oracle BI のデフォルト・スキンをカスタマイズしたり新規スキンを作成したりできます。 Oracle BI で使用されるスキンの詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。
スタイル	スタイルにより、ダッシュボードと結果の表示フォーマット (テキストおよびリンクの色、テキストのフォントおよびサイズ、テーブルの境界線、グラフの色および属性など) を制御します。スタイルは、カスケーディング・スタイル・シート (拡張子が .css のファイル)、イメージおよびグラフのテンプレートのあるフォルダに編成されます。Oracle BI 管理者は、いくつかのスタイル・シートをカスタマイズしたり新規スタイル・シートを作成したりできます。ユーザーは、Oracle BI Answers で結果をフォーマットするときに、スタイル・シートのいくつかの要素 (テーブルの境界線やテキストのサイズなど) を上書きできます。 Oracle BI で使用されるスタイルの詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。
Presentation Catalog	Oracle BI Presentation Catalog には、Oracle BI Answers および Oracle BI Interactive Dashboards によって作成されるコンテンツが格納されます。コンテンツは、共有フォルダまたは個人用フォルダのいずれかに編成されます。Presentation Catalog に格納できるコンテンツのタイプには、Oracle BI Answers によって作成されるリクエスト、結果に適用されるフィルタ、Oracle BI Delivers の設定、ダッシュボードに関する情報などがあります。 Presentation Catalog の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

ダッシュボードに対する権限の管理の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。Oracle BI アプリケーションのユーザーのデフォルト権限および職責の詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

注意：オラクル社の Siebel 対応アプリケーションを使用するときは、ダッシュボードの統合は Oracle Siebel アプリケーションを使用して行われます。詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

関連項目

- [「Oracle BI Interactive Dashboards におけるナビゲート」](#) (198 ページ)
- [「新しい Oracle BI Interactive Dashboards の作成」](#) (199 ページ)
- [「Oracle BI Interactive Dashboards への新しいページの追加」](#) (200 ページ)
- [「Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加」](#) (201 ページ)
- [「Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更」](#) (219 ページ)
- [「Oracle BI Interactive Dashboards ページの個人用および共有の保存済選択の作成と割当て」](#) (221 ページ)
- [「Oracle BI ブリーフィング・ブックの操作」](#) (228 ページ)
- [「Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて」](#) (232 ページ)

Oracle BI Interactive Dashboards におけるナビゲート

この項では、ダッシュボードの表示とダッシュボード・ページへのナビゲートを行う方法およびキーボード・ショートカットを使用してダッシュボード内をナビゲートする方法について説明します。

注意：ダッシュボードの印刷方法の詳細は、「Oracle BI のダッシュボードまたは保存済リクエストの印刷」(17 ページ) を参照してください。

ダッシュボードを表示するには

- 1 Oracle BI にログインします。
- 2 ページの上部で、表示するダッシュボードの名前をクリックします。
ダッシュボードが表示されます。

ダッシュボード・ページにナビゲートするには

- 1 Oracle BI にログインします。
- 2 ダッシュボードにナビゲートします。
- 3 ダッシュボードの上部で、表示するダッシュボード・ページのタブをクリックします。
ダッシュボード・ページのコンテンツが表示されます。コンテンツが追加されていない場合は、ダッシュボード・ページが空であることを示すメッセージが表示されます。

キーボード・ショートカットを使用してダッシュボードでナビゲートするには

- 1 Oracle BI にログインします。
- 2 ダッシュボードにナビゲートします。
- 3 表 25 に示すキーボード・ショートカットを使用して、ダッシュボード内でナビゲートします。

表 25. Oracle BI Interactive Dashboards のナビゲートに使用するキーボード・ショートカット

キーボード・ショートカット	実行結果
[Ctrl]+[Shift]+[F2]	ページのダッシュボード一覧に表示されている最初のダッシュボードにナビゲートします。通常は、「My Dashboard」という名前の個人用ダッシュボードになります。
[Ctrl]+[Shift]+[F3]	現行のダッシュボードの最初のページにナビゲートします。
[Ctrl]+[Shift]+[I]	現行のダッシュボードにあるコンテンツの次のセクションにナビゲートします。左から右、次に下への順でナビゲートします。
[Ctrl]+[Shift]+[U]	現行のダッシュボードにあるコンテンツの前のセクションにナビゲートします。右から左、次に上への順でナビゲートします。
[Ctrl]+[Shift]+[F8]	コンテンツのセクション内にある次の項目にナビゲートします。セクションが横並びに配置されている場合は、左から右にナビゲートします。
[Ctrl]+[Shift]+[F7]	コンテンツのセクション内にある前の項目にナビゲートします。セクションが横並びに配置されている場合は、右から左にナビゲートします。

新しい Oracle BI Interactive Dashboards の作成

次の手順では、新しい空の Oracle BI Interactive Dashboards を作成する手順を示します。ダッシュボードの作成は、適切な権限と職責のあるユーザーにのみ許可されます。

新しい空のダッシュボードを作成するには

- 1 Oracle BI にログインし、「Settings」→「Administration」リンクをクリックします。
「Oracle BI Presentation Services Administration」ページが表示されます。
- 2 「Activities」セクションにある次のリンクをクリックします。
Manage Interactive Dashboards
「Manage Dashboards」ページが表示されます。
- 3 ページの下部にある次のリンクをクリックします。
Create a new Interactive Dashboard

4 「Create Dashboard」 ページで、ダッシュボードの場所と名前、およびダッシュボードを変更可能なユーザーまたはグループの名前を入力します。

5 Oracle BI Administration を終了し、Oracle BI Interactive Dashboards に戻ります。

新しく作成したダッシュボードの名前が、画面の上部に表示されます。

注意：新しく作成したダッシュボードには、空のページが 1 ページ配置されます。1 ページのみ配置されているダッシュボードでは、ページ名がダッシュボードの上部にタブとして表示されません。ダッシュボードのページ名がダッシュボードの上部に表示されるのは、ダッシュボードに複数のページがある場合のみです。

6 新しいダッシュボードの名前をクリックします。

空のダッシュボード・ページが表示されます。

7 コンテンツをダッシュボードに追加するには、次のいずれかのリンクをクリックします。

■ [Click here to add content](#)

■ [Edit Dashboard](#)

Dashboard Editor が表示されます。

Oracle BI Interactive Dashboards への新しいページの追加

次の手順では、新しいページを Oracle BI Interactive Dashboards に追加する手順を示します。

注意：ダッシュボードの変更は、適切な権限および職責を持つユーザーにのみ許可されます。

新しいページをダッシュボードに追加するには

1 Oracle BI にログインして、Oracle BI Interactive Dashboards にナビゲートします。

2 ページの上部で、新しいページを追加するダッシュボードの名前をクリックします。

ダッシュボードが表示されます。

3 「Edit Dashboard」 リンクをクリックします。

Dashboard Editor が表示されます。

4 Dashboard Editor の上部にある「Add Dashboard Page」 ボタンをクリックします。



「Add Dashboard Page」 画面が表示されます。

5 ダッシュボード・ページの名前と説明を入力します。

- 6 「Finished」 ボタンをクリックします。

新しいページがダッシュボード上に表示されます。

注意：ダッシュボードのページが 1 ページのみある場合は、ページ名はタブとして表示されません。タブが表示されるのはページが複数あるときのみで、その場合は、タブをクリックしてページ間を移動できます。

Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加

Dashboard Editor を使用して、Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツのレイアウトと追加を行います。この項では、Dashboard Editor へのアクセス手順とその操作方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページとレイアウトの操作」(202 ページ)
- 「Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの追加と表示」 (204 ページ)
- 「Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのオブジェクトの名前変更および削除」 (216 ページ)
- 「Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更」 (217 ページ)

Oracle BI Interactive Dashboard Editor にアクセスするには

- 1 Oracle BI にログインして、Oracle BI Interactive Dashboards にナビゲートします。
- 2 ページの上部で、編集するダッシュボードの名前をクリックします。
ダッシュボードが表示されます。
- 3 「Edit Dashboard」 リンクをクリックします。
Dashboard Editor が表示されます。

関連項目

- 「新しい Oracle BI Interactive Dashboards の作成」 (199 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards への新しいページの追加」 (200 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards におけるナビゲート」 (198 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページの個人用および共有の保存済選択の作成と割当て」 (221 ページ)

Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページとレイアウトの操作

この項では、ダッシュボード・ページの表示を制御する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「編集する Oracle BI Interactive Dashboards ページの選択」 (202 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページの列の操作」 (202 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへのセクションの追加」 (203 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの「Alerts」セクションの追加」 (203 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページのセクションの水平表示」 (204 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの変更の保存」 (204 ページ)

注意： iBot が Oracle BI Delivers において有効化されているときに、「Alerts」セクションが「My Dashboard」の最初のページに手動で配置されていない場合は、このセクションが最初のページに自動的に追加されます。

編集する Oracle BI Interactive Dashboards ページの選択

次の手順では、操作を行うページを選択する方法について説明します。

ダッシュボード・ページを選択するには

- ダッシュボードの名前の横にある「Page」ドロップダウン・リストから、編集するページを選択します。

注意： プロパティを編集すると、操作していたページの変更がすべて保存されます。

Oracle BI Interactive Dashboards ページの列の操作

ダッシュボードにあるコンテンツの位置合せを行うためには、列を使用します。列の内部にあるセクションには、実際のコンテンツが格納されます。列の追加または削除、ダッシュボード・ページに対するパーセンテージまたはピクセル単位での幅の設定、および列のブレイク処理を実行できます。

ダッシュボード・ページに複数の列があるときは、列のブレイクを行うとページ上で整理ができます (ドラッグ・アンド・ドロップでは列の位置は変更されません)。たとえば、2 列が左右横並びにある場合に右側の列のブレイクを行うと、その列が最初の列の下に移動し、横並びのときに占有していた元の幅まで両方の列が広がります。3 列が左右横並びにある場合に中央の列のブレイクを行うと、左右外側の 2 列が最初の列の下に移動し、最初の 2 列が占有していた元の幅まで最初の列が広がります。

新しい列を追加するには

- Dashboard Editor の上部にある「Add Column」ボタンをクリックします。



列がダッシュボード・ページに追加されます。

列の幅を設定するには

- 1 「Properties」ボタンをクリックし、「Set Width」を選択します。
「Column Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 列の幅を指定します。
 - ピクセル単位で幅を指定する場合は、200 などのピクセル値を入力します。
 - ダッシュボード・ページに対するパーセンテージで幅を指定する場合は、20% のようにパーセント記号 (%) を使用します。
- 3 「OK」をクリックします。

列のブレイクを行うには

- 「Properties」ボタンをクリックし、「Insert Column Break」を選択します。
列のブレイクを再び行くと、列のレイアウトは元のレイアウトに戻ります。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへのセクションの追加

セクションは、ダッシュボードのコンテンツが格納される列の内部で使用されます。セクションはデフォルトで上下に配置されます。必要な数のセクションを列にドラッグできます。

コンテンツを格納するセクションを最初に追加することなくコンテンツを列にドラッグ・アンド・ドロップした場合、セクションが自動的に作成されます。

セクションを別の列にドラッグすると、セクション内のすべてのコンテンツと一緒にドラッグされます。

注意： Oracle BI Delivers が有効化されているときに、アラート用のセクションが、ユーザーの個人用ダッシュボード（「My Dashboard」）の最初のページに手動で配置されていない場合は、アラート用のセクションが最初のページに自動的に追加されます。

セクションを列に追加するには

- 選択ペインで、「Dashboard Objects」領域のセクション・オブジェクトを列にドラッグ・アンド・ドロップします。
列の適切な場所においてセクションをドロップすると、列が強調表示されます。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの「Alerts」セクションの追加

iBot が Oracle BI Delivers において有効化されている場合、「Alerts」セクションがユーザーの「My Dashboard」の最初のページに追加されます。このセクションが手動で配置されていない場合は、自動的に追加されます。「Alerts」セクションが「My Dashboard」の最初のページに表示される処理は無効化できません。

「Alerts」セクションを別のダッシュボード・ページに追加するには、次の手順を実行します。この手順によって「Alerts」セクションが両方のダッシュボード・ページに表示されます。

「Alerts」セクションをダッシュボード・ページに追加するには

- 1 選択ペインで、「Dashboard Objects」領域のセクション・オブジェクトを列にドラッグ・アンド・ドロップします。

列の適切な場所においてセクションをドロップすると、列が強調表示されます。

セクションにはデフォルト名が表示されます。

- 2 セクションの名前を _Delivers に変更し、「Save」ボタンをクリックします。
「Alerts」セクションがページに追加されます。

Oracle BI Interactive Dashboards ページのセクションの水平表示

セクションのデフォルトの位置合せは、垂直方向です。

セクションを水平表示するには

- セクションの「Properties」ボタンをクリックし、「Horizontal Alignment」を選択します。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの変更の保存

変更内容はいつでも保存できます。

ダッシュボード・ページへの変更を保存するには

- 次の操作のいずれかを実行します。
 - 「Save」ボタンをクリックします。
 - Dashboard Editor で作業中のページから離れ別の操作に進みます。

たとえば、別のページの追加または編集、ダッシュボード・プロパティの変更、プロンプト、フィルタまたはリクエストの変更を行うと、変更内容が保存されます。

Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの追加と表示

この項では、コンテンツをダッシュボード・ページに追加および表示する方法（ガイド付きナビゲーションを使用してコンテンツを条件表示する方法など）について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの条件表示」（205 ページ）
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへのガイド付きナビゲーション・リンクの追加」（205 ページ）
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへのブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクの追加」（206 ページ）
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへのテキスト・リンクまたはイメージ・リンクの追加」（206 ページ）
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの埋込みコンテンツの追加」（209 ページ）

- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの HTML の追加」 (210 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Presentation Catalog フォルダのビューの追加」 (212 ページ)
- 「ダッシュボード・ページのカatalog・フォルダへの RSS フィード・オプションの追加」 (213 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Presentation Catalog に保存されたコンテンツの追加」 (213 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Oracle BI Publisher レポートの追加」 (214 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards でのドリルダウン結果の表示方法の制御」 (215 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards のプロンプトおよびレポートのプロパティの編集」 (215 ページ)

Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの条件表示

特定のリクエストに対して Oracle BI Answers から返された結果に基づいて、ダッシュボードのセクション全体とそのコンテンツを条件表示できます。

詳細は、「Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて」 (232 ページ) を参照してください。

コンテンツを条件表示するには

- 1 コンテンツがあるセクションの「Properties」ボタンをクリックし、「Guided Navigation」を選択します。
「Guided Navigation Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 Presentation Catalog からのリクエストを参照して選択することでオプションを指定し、「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへのガイド付きナビゲーション・リンクの追加

ガイド付きナビゲーション・リンクは、静的にも条件付きにもできます。静的リンクは常に表示されます。条件付きリンクは、結果が特定の条件に一致する場合にのみ表示されます。

詳細は、「Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて」 (232 ページ) を参照してください。

ガイド付きナビゲーション・リンクを追加するには

- 1 選択ペインで、ガイド付きナビゲーション・リンク・オブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 リンクの「Properties」ボタンをクリックします。
「Guided Navigation Link Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 追加するリンクのタイプを選択します。
 - リンクを条件付きにするには、「Conditional Link Properties」領域のオプションを指定します。

- リンクを静的にするには、「Guided Navigation Properties」領域のオプションを指定します。

注意：URL の場合は、フルパスを入力します。

- 4 「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへのブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクの追加

ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクは、Disconnected Analytics のブリーフィング・ブックで使用します。ダッシュボード・ページをブリーフィング・ブックに保存する場合は、このリンクを使用して、オフライン分析で使用する他のリクエストやダッシュボード・コンテンツへのナビゲーション・リンクを挿入します。ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクは、ブリーフィング・ブックでないダッシュボードでも機能します。

ブリーフィング・ブックの詳細は、「Oracle BI ブリーフィング・ブックの操作」(228 ページ) を参照してください。

ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクを追加するには

- 1 選択ペインで、ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクのオブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 リンクの「Properties」ボタンをクリックします。
「Briefing Book Link Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 オプションを指定してから「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへのテキスト・リンクまたはイメージ・リンクの追加

テキスト・リンクおよびイメージ・リンクをダッシュボードに追加し、ユーザーがリンクをクリックしたときに実行する処理を指定できます。たとえば、ユーザーを別の Web サイトやダッシュボードに導いたり、ドキュメントを開いたり、アプリケーションを起動したり、ブラウザがサポートする任意の処理を行うよう指定できます。リンクのないイメージまたはテキストのみの追加もできます。

テキスト・リンクまたはイメージを追加するには

- 1 選択ペインで、リンクまたはイメージのオブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 オブジェクトの「Properties」ボタンをクリックします。
「Link or Image Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 次のオプションを指定します。
 - テキスト・リンクの場合は、「Caption」フィールドにテキストを入力します。
 - イメージ・リンクの場合は、「Image」フィールドにイメージの場所と名前を入力します。
場所は URL として指定します。次に例を示します。

```
http://imageserver/MyImage.gif  
/DashboardFiles/image.gif
```

イメージがローカル・サーバーにない場合は、URL に http:// を含める必要があります。共有環境で使用されるイメージは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。

イメージにキャプションを付ける場合は、「Caption」フィールドにイメージのキャプションを入力し、イメージに対するキャプションの相対表示位置を「Layout」ドロップダウン・リストから選択します。

4 ユーザーがテキストまたはイメージをクリックしたときに実行する処理を指定します。

- ユーザーがリンクまたはイメージをクリックしたときにリクエストまたはダッシュボードが表示されるよう指定するには、リンク先として「Request」または「Dashboard」を指定し、「Browse」ボタンをクリックしてリンク先のリクエストまたはダッシュボードを選択します。
- Web サイト、ドキュメントまたはプログラムのオープンなど他の処理を指定するには、リンク先として「URL」を指定し、「Destination」オプションに続くフィールドにフルパスを入力します。

リンクは、ブラウザが解釈可能な URL (Uniform Resource Locator) として定義されます。URL は、Web サイト、ドキュメント、イメージ、FTP サイト、ニュースグループなどをポイントすることができます。ブラウザによって異なりますが、次に有効な URL の例を示します。

```
http://home.netscape.com/index.html
```

```
ftp://ftp.microsoft.com
```

```
news:news.announce.newusers
```

リンク可能な内部コンテンツおよび外部コンテンツの種類の詳細は、[208 ページの表 26](#) を参照してください。

注意： Oracle BI 管理者は、共有ドキュメント用の仮想ディレクトリ ¥DashboardFiles を Presentation Server 上に作成し、同じ名前の共有ネットワーク・ディレクトリにマップする必要があります。これによって、適切な権限のあるユーザーは、完全修飾のネットワーク共有名ではなく相対 URL 名 (たとえば、¥¥SharedServer¥CommonShare¥DashboardFiles¥AnnualReport.doc ではなく ¥DashboardFiles¥AnnualReport.doc) を使用すると、このフォルダにファイルを公開したり、ファイルを参照できるようになります。

- 「Target」領域で、リンク先の内容をユーザーの現行のブラウザ・ウィンドウに表示するか新しいウィンドウに表示するかを選択します。

ヒント： メール送信とプログラムの実行を除くすべての処理に対して、リンク先の表示方法を制御できます。ダッシュボードの表示ペイン内で処理を実行する場合は、現行のウィンドウを選択します。このオプションでは、ダッシュボードはアクティブなままですがバックグラウンドになります。新しいブラウザ・ウィンドウで処理を実行する場合は、新しいウィンドウを選択します。このオプションでは、ブラウザの別のインスタンスが起動されます。

注意： テキストまたはイメージのみをリンクなしで追加するには、「Destination」オプションに続くフィールドを空白のままにします。

5 「OK」をクリックします。

表 26. Dashboard Editor を使用してテキスト・リンクまたはイメージ・リンクを追加するためのオプション

リンク・オプション	コメント
Web サイトまたはドキュメント	<p>サイトまたはドキュメントの URL (アドレス) を指定する必要があります。リンク先のアドレスは、ブラウザのアドレスまたはロケーション・ボックスからコピーしてから貼り付けることができます。</p> <p>Web サイトの URL が Web サーバー上にある場合 (イントラネット・サイトなど)、アドレスから http:// の部分を省略できます。</p> <p>URL が組織の Web サーバー上にある場合は、ファイルの相対アドレスを入力できます。次に例を示します。</p> <p>¥DashboardFiles¥Logo.gif</p>
ローカル・ドキュメントまたは共有ドキュメント	<p>共有環境で使用されるドキュメントは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。公開可能なドキュメントの種類には、最新の販売レポートを含むスプレッドシート、新製品を紹介するスライド・プレゼンテーション・ファイル、企業の年次決算報告が記載された Microsoft Word ドキュメント、空港から本社までの範囲の地図を含むグラフィック・ファイルなどがあります。</p> <p>ユーザー単独でドキュメントを使用する場合、保存場所は次のようになります。</p> <p>c:¥mycomputer¥reports¥report.doc</p> <p>共有ドキュメントでは、UNC 名を次のように指定します。</p> <p>¥¥ALLUSERS¥reports¥report.doc</p>
特定のユーザーへの電子メールの送信	<p>次に示すような mailto URL を確認する必要があります。</p> <p>mailto:support@oracle.com</p> <p>ユーザーがこのリンクを選択すると、ブラウザによってメール・アプリケーションが起動され、宛先フィールドにアドレスが自動的に挿入されます (メール・プログラムの起動はブラウザによって制御されます)。</p>

表 26. Dashboard Editor を使用してテキスト・リンクまたはイメージ・リンクを追加するためのオプション

リンク・オプション	コメント
プログラムの実行	<p>共有環境で使用されるプログラムは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。この機能は、アプリケーションのダウンロードと実行に使用できます（アプリケーションの起動はオペレーティング・システムによって制御されます）。</p> <p>たとえば、ユーザー単独で Microsoft Word を起動する場合、アプリケーションの配置場所は次のようになります。</p> <p>c:¥MSOFFICE¥OFFICE¥winword.exe</p> <p>マルチユーザー・ライセンスのプログラムが共有ドライブにある場合は、UNC 名を次のように指定します。</p> <p>¥¥ALLUSERS¥SOFTWARE¥MSOFFICE¥OFFICE¥WORD¥winword.exe</p>
JavaScript を使用したブラウザのリフレッシュ	<p>次のコード例を使用するには、ブラウザが JavaScript をサポートしている必要があります。</p> <p>javascript:window.location.reload()</p> <p>「Target」領域で、「Current Window」オプションを選択します。</p>

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの埋込みコンテンツの追加

埋込みコンテンツは、ダッシュボード内のウィンドウ（フレームと呼ばれる）内に表示されるコンテンツで、リンクのクリックによってアクセスされるコンテンツとは異なります。埋込みが適したコンテンツには、レポート、Excel のグラフ、ドキュメント、Web サイト、Web サイトからのティッカなどがあります。

レポートは、デフォルトで埋め込まれます。レポートをダッシュボードに埋め込むと、レポートが自動実行され、ダッシュボードにその結果が表示されます。ここでは、現在の結果にアクセスできます。

コンテンツをダッシュボードに埋め込むと、対象となるコンテンツに必要な HTML が Oracle BI によって自動的に追加されます。ウィンドウのデフォルト・サイズは、600 × 440 ピクセルです。ウィンドウのサイズは拡大または縮小して変更できます。

スクロール・バーは、必要に応じてウィンドウに自動的に追加されます。スクロール・バーは非表示にできます。

注意： サード・パーティの Web サイトでは、その作成方法によって他の Web ページに埋め込むことができないサイトがあります。埋込みの Web サイトを表示したときに予期しない結果が発生した場合は、Oracle BI 画面が再表示されるまでブラウザの「戻る」ボタンをクリックするか、ブラウザを一度閉じてから再起動する必要がある場合があります。その後で、その埋込み Web サイトをダッシュボードから削除してください。

埋込みコンテンツを追加するには

- 1 選択ペインで、埋込みコンテンツのオブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 オブジェクトの「Properties」ボタンをクリックします。
「Embedded Content Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3 「URL」ボックスに、埋込みコンテンツの場所および名前を入力します。

次に例を示します。

`http://www.oracle.com`

`/dashboardfiles/piechart.xls`

注意：使用する Web サーバー上に保存されている項目を使用する場合を除いて、指定する URL は `http://` で始まる必要があります。ネットワーク・パスを使用して項目の場所を示す場合は、正確なパスを使用してください。共有ダッシュボードに埋め込まれる項目は、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。

4 ウィンドウのデフォルト・サイズを変更する場合は、「Width」および「Height」のボックスに別の値を入力します。値を入力するときは、次の点に注意してください。

- ダッシュボードにある埋込みコンテンツ領域のデフォルト・サイズは 600 × 440 ピクセルで、埋込みコンテンツにある表示領域のデフォルト・サイズは 300 × 150 ピクセルです。コンテンツ領域に指定したサイズは、コンテンツがその領域と合わない場合でも適用されます。たとえば、幅と高さをそれぞれ 100 ピクセルに指定した領域に、幅と高さがそれぞれ 50 ピクセルのイメージを埋め込む場合、ダッシュボードに適用されるサイズは、指定した 100 × 100 ピクセルになります。コンテンツ領域に配置する項目は、領域に合うように伸縮しません。
- 値を指定しない場合は、デフォルトの設定 (300 × 150 ピクセル) が使用されます。一方の値のみを指定すると、もう一方の指定していない値にはデフォルト値が使用されます。
- 値はピクセル (px) またはパーセント (%) で指定できます。ブラウザではパーセントの値を完全には解釈できないため、幅のパーセンテージのみがレンダリングされます。高さをパーセンテージで指定すると、システムによって高さの値が 150 ピクセルに置換されます。
- ピクセルとパーセントのいずれも指定しない場合、値はピクセルとして解釈されます。
- 値には空白を入力できます。たとえば、入力は 130px でも 130 px でもかまいません。

5 ウィンドウにスクロール・バーを表示しない場合は、次のオプションをクリックします。

Hide Scroll Bars

6 「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの HTML の追加

フォーマット済テキスト、Active-X コントロール、Java スクリプト、音声データ、アニメーション、背景イメージなどを含む HTML を追加できます。Dashboard Editor で割り当てる名前は、Presentation Catalog の HTML オブジェクトに使用される名前になります。HTML には、ブラウザでサポートされるものであればどんなものでも含めることができます。

211 ページの表 27 に、いくつかの HTML 要素の使用上の注意と使用例を示します。この表に目的の処理に近い使用例が記載されている場合は、その例をコピーしてから貼り付け、必要な編集を行うこともできます。

ブラウザ内のウィンドウに表示される埋込みコンテンツを追加する場合は、埋込みコンテンツのオブジェクトを Dashboard Editor で選択します。次に、埋込みコンテンツ機能を使用してターゲットの名前と場所を指定すると、Oracle BI Presentation Services によって、必要な HTML がターゲットの周囲に生成されます。

HTML をダッシュボード・ページに追加するには

- 1 選択ペインで、HTML オブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 オブジェクトの「Properties」ボタンをクリックします。
「HTML Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 HTML を入力します。
- 4 結果をプレビューするには、「Preview」をクリックします。
変更を加えた場合は、「Preview」を再度クリックすると結果を確認できます。
- 5 「OK」をクリックします。

表 27. Oracle BI Interactive Dashboards における HTML 要素の使用上の注意と使用例

HTML 要素	使用上の注意と使用例
テキスト	<p>HTML タグを使用すると、テキストのフォーマットを制御できます。HTML タグによって適用可能なフォーマット設定例の一部を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テキストをセクションで中央揃えにする例： <CENTER> 中央揃えにするテキスト </CENTER> ■ テキストを太字にする例： 太字にするテキスト ■ フォントのサイズと色を設定する例： 赤色で表示するテキスト ■ タグを組み合わせて使用する例： <CENTER> 中央揃えにする赤色の太字テキスト </CENTER>
Active-X オブジェクト	<p>Active-X オブジェクトは、自己完結型であると同時にブラウザによるサポートが必要です。HTML テキスト・ウィンドウにオブジェクトを貼り付けるか入力し、開始の <object...> タグと終了の </object> タグで囲まれていることを確認します。</p>
JavaScript および VBScript	<p>スクリプトは、自己完結型であると同時にブラウザによるサポートが必要です。HTML テキスト・ウィンドウにスクリプトを貼り付けるか入力し、開始の <script> タグと終了の </script> タグで囲まれていることを確認します。</p> <p>開始の <SCRIPT> タグに <SCRIPT LANGUAGE="javascript"> または <SCRIPT LANGUAGE="vbscript"> を指定して、スクリプト言語を指定します。</p>

表 27. Oracle BI Interactive Dashboards における HTML 要素の使用上の注意と使用例

HTML 要素	使用上の注意と使用例
オーディオ	<p>オーディオ・クリップが保存されている場所を確認します。共有環境で使用されるオーディオ・クリップは、すべてのユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブに配置されている必要があります。HTML タグの <EMBED> を使用して、オーディオをダッシュボードに追加します。その HTML 例を次に示します。</p> <pre data-bbox="500 554 1419 611"><EMBED SRC="audio" AUTOSTART="true" LOOP="true" HIDDEN="true"></EMBED></pre> <p>ここで、「audio」は、オーディオ・クリップの場所と名前です。</p> <p>注意： ブラウザによって、HTML の調整が必要な場合があります。</p> <p>HTML の <EMBED> タグの使用例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 使用しているハード・ドライブにあるオーディオ・クリップを追加する場合は、次のような HTML を指定します。 <pre data-bbox="545 877 1287 934"><EMBED SRC="c:¥mycomputer¥MIDIfiles¥wakeup.mid" AUTOSTART="true" LOOP="true" HIDDEN="true"></EMBED></pre> ■ 使用している Web サーバー上の共有場所にある同じオーディオ・クリップを追加する場合は、次のような HTML を指定します。 <pre data-bbox="545 1039 1360 1096"><EMBED SRC="/DashboardFiles/wakeup.mid" AUTOSTART="true" LOOP="true" HIDDEN="true"></EMBED></pre>

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Presentation Catalog フォルダのビューの追加

Presentation Catalog フォルダとそのコンテンツ（保存済リクエストなど）のビューを、ダッシュボードに追加できます。たとえば、頻繁に実行する一連の保存済リクエストがある場合、ダッシュボード内のフォルダを開いてから保存済リクエストにナビゲートし、クリックして実行できます。

フォルダのビューを追加するには

- 1 選択ペインで、フォルダ・オブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 2 フォルダの「Properties」ボタンをクリックします。
「Folder Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 目的のフォルダを参照して選択し、「OK」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックしてプロパティを保存します。

ダッシュボード・ページのカatalog・フォルダへの RSS フィード・オプションの追加

Oracle BI Interactive Dashboards ページに表示されるカatalog・フォルダには、RSS フィード・オプションを組み込むことができます。RSS フィード・オプションをダッシュボード・ページのカatalogに追加するには、適切な権限が必要です。RSS フィード権限は、Oracle BI Presentation Services Server 管理者により付与されます。

Oracle BI の RSS フィード・オプションを使用すると、HTTP Basic 認証をサポートする RSS 2.0 互換リーダーから、ダッシュボードのカatalog・フォルダにアクセスできます。Oracle BI Presentation Server で HTTPS プロトコルが使用されている場合、使用する RSS リーダーでも HTTPS プロトコルをサポートする必要があります。RSS リーダーは、Web ベースの様々な場所から 1 つのブラウザ・ウィンドウに情報（ニュース・フィードやイベント一覧など）を集約できるサード・パーティ製プログラムです。

RSS リンクをダッシュボードのカatalog・フォルダに追加すると、カatalogの URL を実行する XML アイコンがそのフォルダに表示されます。ユーザーが RSS リーダーからカatalog・フォルダにアクセスすると、Oracle BI サーバーへのログインが要求されます。

カatalog・フォルダをダッシュボード・ページに追加する方法の詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Presentation Catalog フォルダのビューの追加](#)」（212 ページ）を参照してください。

RSS フィード・オプションをカatalog・フォルダに追加するには

- 1 Dashboard Editor で、RSS フィード・オプションを追加するフォルダの「Properties」ボタンをクリックします。
「Folder Properties」ページが表示されます。
- 2 「Show RSS Link」チェック・ボックスを選択し、「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Presentation Catalog に保存されたコンテンツの追加

共有フォルダまたはダッシュボードに保存されているコンテンツ（ダッシュボード・プロンプトやレポートなど）を追加できます。必要なコンテンツを探すには、コンテンツが格納されている Presentation Catalog フォルダまたはコンテンツが表示されているダッシュボードを参照します。

保存済コンテンツを追加するには

- 1 選択ペインの「Saved Content」領域で、ダッシュボードに追加するコンテンツを含むフォルダまたはダッシュボードにナビゲートします。
- 2 追加するコンテンツを、ダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
これによって、Presentation Catalog に保存されたコンテンツへのショートカットが追加されます。コンテンツが変更されると、変更内容がダッシュボード・ページに反映されます。

ダッシュボードおよびレポートのプロパティを編集する方法の詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards のプロンプトおよびレポートのプロパティの編集](#)」（215 ページ）を参照してください。

Oracle BI Interactive Dashboards ページへの Oracle BI Publisher レポートの追加

この項では、Dashboard Editor を使用して、Oracle BI Publisher のレポートをダッシュボードに追加および表示する方法について説明します。ダッシュボード・ページに含めることのできる Oracle BI Publisher レポートは 1 つのみです。

注意：ダッシュボードの変更は、適切な権限および職責を持つユーザーにのみ許可されています。

Oracle BI Publisher のレポートの詳細は、「[Oracle BI Publisher レポートの操作](#)」(225 ページ) を参照してください。

ダッシュボード・ページに Oracle BI Publisher レポートを追加するには

- 1 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Edit Dashboard」をクリックします。「Dashboard Editor」画面が表示されます。
- 2 選択ペインで、「Dashboard Objects」領域の BI Publisher レポート・オブジェクトをダッシュボード・ページのセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 3 新しく配置した BI Publisher レポート・オブジェクトの「Properties」ボタンをクリックします。「BI Publisher Report Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 「Browse」ボタンをクリックし、Oracle BI Publisher レポートを探して選択します。すでに実行されているレポートは、その保存済履歴とともに「Pick BI Publisher Report」ダイアログ・ボックスに表示されます。Oracle BI Publisher レポートの任意の履歴インスタンスを選択できます。「OK」をクリックします。

注意：ダッシュボード・ページで Oracle BI Publisher レポートを追加することもできます。選択ペインで、「Saved Content」領域の「Dashboards」フォルダから BI Publisher レポート・オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
- 5 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「Embedded Content」

このオプションを選択すると、Oracle BI Publisher レポートがダッシュボードに直接表示されます。レポートでは、このオプションがデフォルトで選択されています。

埋込みコンテンツの詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards ページへの埋込みコンテンツの追加](#)」(209 ページ) を参照してください。
 - 「Link」

Oracle BI Publisher レポートのリンクがダッシュボードに表示されます。リンクをクリックすると、レポートが新しいブラウザ・ウィンドウに表示されます。
- 6 「Embedded Content」を選択する場合は、そのコンテンツの幅と高さを指定できます。デフォルトの高さは 550px ですが、適切に表示されるように設定を調整する必要があります。次の事項に注意してください。
 - 値を指定しない場合は、デフォルトの設定が使用されます。一方の値のみを指定すると、もう一方の指定していない値にはデフォルト値が使用されます。

- 値はピクセル (px) またはパーセント (%) で指定できます。ブラウザではパーセントの値を完全には解釈できないため、幅のパーセンテージのみがレンダリングされます。高さをパーセンテージで指定すると、システムによって高さの値が 550px に置換されます。
 - ピクセルとパーセントのいずれも指定しない場合、値はピクセルとして解釈されます。
 - 値には空白を入力できます。たとえば、入力は 500px でも 500 px でもかまいません。
- 7 スケジュールされているレポートを選択した場合、最新バージョンのレポートをダッシュボードに表示するには、「View Latest Version」を選択します。
 - 8 「OK」をクリックします。
 - 9 「Save」ボタンをクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards でのドリルダウン結果の表示方法の制御

ドリルダウンしたレポートの新しい結果は、次のいずれかの方法で表示できます。

- 元のレポートを置換して、新しい結果を直接ダッシュボードに表示します。これはデフォルトの動作です。元のレポートの占有領域が自動的にサイズ調整され、新しい結果が表示されます。
- ダッシュボード全体を置換して新しい結果を表示します。

表示方法は「Drill in Place」オプションで制御します。このオプションはセクション・レベルで設定されるため、セクション内のドリル可能なレポートすべてに適用されます。ブラウザの「戻る」ボタンをクリックすると、元のレポートまたはダッシュボードに戻ることができます。

ドリルダウン時の結果の表示方法を制御するには

- 該当するセクションの「Properties」ボタンをクリックし、「Drill in Place」オプションを選択または選択解除します。
 - 新しい結果を直接ダッシュボードに表示するには、「Drill in Place」をクリックして選択します。選択すると、このオプションの横にチェック・マークが表示されます。これはデフォルトの動作です。
 - ダッシュボードを置換して新しい結果を表示するには、「Drill in Place」をクリックしてチェック・マークを外します。

Oracle BI Interactive Dashboards のプロンプトおよびレポートのプロパティの編集

Presentation Catalog からダッシュボードに追加したダッシュボード・プロンプトとレポートのプロパティを編集できます。プロパティを編集すると、操作していたページの変更がすべて保存されます。

ダッシュボード・プロンプトのプロパティを編集するには

- 1 ダッシュボード・プロンプトの「Properties」ボタンをクリックし、「Modify」をクリックします。
「Dashboard Prompt」ページが表示されます。
- 2 ダッシュボード・プロンプトの変更を行います。
詳細は、「Dashboard Prompt」ページの「Help」ボタンをクリックしてください。

- 3 「Save」をクリックしてダッシュボード・プロンプトを保存します。

レポートのプロパティを編集するには

- 1 レポートの「Properties」ボタンをクリックします。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「Embed in section」

このオプションを選択すると、リクエストを実行して結果を表示するためにクリックする必要があるリンクではなく、自動実行されたリクエスト結果が直接ダッシュボードに表示されます。レポートでは、このオプションがデフォルトで選択されています。

埋込みコンテンツの詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards ページへの埋込みコンテンツの追加 \(209 ページ\)](#)」を参照してください。
 - 「Show View」

このオプションを選択すると、Oracle BI Answers で構築されたレポートの選択可能なビューが表示されます。目的のビューを選択して表示できます。
 - 「Links」

このオプションを選択すると、「Report Links」ダイアログ・ボックスが表示され、ダッシュボード・ページのレポートに表示するリンクを選択できます。
 - 「Modify」

このオプションを選択すると、Oracle BI Answers の「Criteria」タブが表示され、レポートを生成するリクエストを変更できます。

Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのオブジェクトの名前変更および削除

この項では、Oracle BI Interactive Dashboards でオブジェクトの名前変更や削除を行う方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「[Oracle BI Interactive Dashboards ページでのオブジェクトの名前変更 \(216 ページ\)](#)」
- 「[Oracle BI Interactive Dashboards ページでのオブジェクトの削除 \(217 ページ\)](#)」

Oracle BI Interactive Dashboards ページでのオブジェクトの名前変更

名前を付けていないダッシュボード上のオブジェクトには、Section 1、Link 1 などの名前がデフォルトで割り当てられます。オブジェクトの名前は、意味のある説明的な名前に変更できます。

オブジェクトの名前を変更するには

- 1 Dashboard Editor で、そのオブジェクトの「Rename」ボタンをクリックします。
「Rename」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 オブジェクトの新しい名前を入力し、「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards ページでのオブジェクトの削除

必要のないオブジェクトは削除できます。

Presentation Catalog に保存されているオブジェクトは、ダッシュボード・ページからのみ削除されます。Oracle BI Presentation Catalog からは削除されません（適切な権限を持つユーザーは、Oracle BI Answers の選択ペインにある「Catalog」タブの「Manage」ボタンをクリックすると、Presentation Catalog のコンテンツを編集できます）。

ダッシュボード・ページのオブジェクトを削除するには

- Dashboard Editor で、そのオブジェクトの「Delete」ボタンをクリックします。
注意：列を削除すると、そのページの他の列のサイズが自動的に変更され、列間で位置合せが行われます。

Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更

この項では、Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティおよび印刷オプションの変更方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更」（217 ページ）
- 「PDF および印刷オプションの変更」（218 ページ）

注意：Oracle BI Answers のビューについても PDF および印刷オプションを設定できます。

Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更

使用するスタイルやページの削除、並替え、非表示など、ダッシュボード全体のプロパティを設定できます。ダッシュボードのプロパティを変更すると、操作していたページの変更がすべて自動的に保存されます。

ダッシュボードのプロパティを変更するには

- 1 Dashboard Editor の上部にある「Dashboard Properties」ボタンをクリックします。



「Dashboard Properties」ページが表示されます。

設定を変更します。詳細は、「Help」ボタンをクリックするか、[「Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更」\(219 ページ\)](#) を参照してください。

- 2 操作を終了したら、「Finished」ボタンをクリックして Dashboard Editor に戻ります。

PDF および印刷オプションの変更

Oracle BI Interactive Dashboards のダッシュボードや Oracle BI Answers のビューを印刷する場合は、PDF 出力用に、ページ設定やヘッダーおよびフッターの内容を指定できます。ダッシュボードおよびビューは、Adobe Acrobat の PDF フォーマットで印刷されます。Adobe PDF を使用して印刷するには、Adobe Reader 6.0 以上が必要です。

ヘッダーおよびフッターのフォーマットは、HTML および PDF 出力で表示されます。

注意： 指定する印刷設定は PDF 出力にのみ適用されます。PDF をローカルまたはネットワークのプリンタで印刷する場合は、用紙サイズを選択など、使用するブラウザで指定されている印刷設定が有効となります。

PDF および印刷オプションを変更するには

- 1 ワークスペースの上部にある「PDF and Print Control Properties」ボタンをクリックします。



「PDF and Print Control」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 ページ設定を行います。
- 3 ヘッダーまたはフッターを追加するには、適切なオプションを選択し、「Edit」ボタンをクリックします。
- 4 ダイアログ・ボックス内のオプションを使用して、ヘッダーまたはフッターを作成します。
ヘッダーまたはフッターの最大行数は 3 です。
- 5 ヘッダーまたはフッター要素の体裁を整えるには、表示フォーマット・ボタンをクリックします。
一般的なフォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細は、[「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」\(84 ページ\)](#) を参照してください。
- 6 終了したら「OK」をクリックします。

Oracle BI Interactive Dashboards のプロパティの変更

この項では、「Dashboard Properties」ページを使用して、ダッシュボードのプロパティを表示または変更する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Interactive Dashboards の「Dashboard Properties」ページへのアクセス」(219 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards のスタイルの選択」(219 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards の説明の追加」(220 ページ)
- 「Oracle BI Interactive Dashboards ページの名前変更、削除、並替えおよび非表示」(220 ページ)

注意：ダッシュボードの変更は、適切な権限および職責を持つユーザーにのみ許可されています。

Oracle BI Interactive Dashboards の「Dashboard Properties」ページへのアクセス

この項では、「Dashboard Properties」ページにナビゲートする方法について説明します。

ダッシュボードの「Dashboard Properties」ページにアクセスするには

- 1 Oracle BI にログインして、Oracle BI Interactive Dashboards にナビゲートします。
- 2 ページ上部に表示されている、プロパティを変更するダッシュボードの名前をクリックします。
ダッシュボードが表示されます。
- 3 「Edit Dashboard」リンクをクリックします。
Dashboard Editor が表示されます。
- 4 Dashboard Editor の上部にある「Dashboard Properties」ボタンをクリックします。



「Dashboard Properties」ページが表示されます。

Oracle BI Interactive Dashboards のスタイルの選択

ダッシュボードおよび結果の表示フォーマットは、スタイルによって制御されます。Oracle BI 管理者が事前に作成したスタイルを選択できます。スタイルが作成されていない場合、結果はデフォルトのスタイルでフォーマットされます。

スタイルの詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

ダッシュボードのスタイルを選択するには

- 「Dashboard Properties」ページの「General Properties」領域で、「Style」ドロップダウン・リストから使用するスタイルを選択します。

Oracle BI Interactive Dashboards の説明の追加

説明は Oracle BI 管理者が Catalog Manager を使用するときに表示されます。ダッシュボードには表示されません。

ダッシュボードの説明を追加するには

- ダッシュボードの説明を「Dashboard Properties」ページの「Description」ボックスに入力します。

Oracle BI Interactive Dashboards ページの名前変更、削除、並替えおよび非表示

この項では、ダッシュボード・ページの名前変更、削除、並替えおよび非表示を行う手順について説明します。ダッシュボードのページは、「Dashboard Properties」ページの「Dashboard Pages」領域に表示されます。ページはそれぞれのタブと同じ順序で表示されます。

ダッシュボードの名前を変更する場合は、以前の名前を使用したダッシュボードへのユーザー参照を保持できません。これにより、名前の変更されたダッシュボードをポイントする、以前の名前を使用したショートカットが Presentation Catalog に作成されます。

ダッシュボード・ページを操作している場合は、変更作業が完了するまでそのページを非表示にできます。

警告： 次の手順で説明する操作は、「取消」をクリックしても元に戻りません。

ダッシュボード・ページの名前を変更するには

- 「Dashboard Properties」ページで「Rename」ボタンをクリックして「Rename Item」ページを開き、表示される指示に従います。

ダッシュボード・ページを削除するには

- 「Dashboard Properties」ページで「Delete」ボタンをクリックし、プロンプトが表示されたら削除を確定します。

ダッシュボード・ページのコンテンツの権限を変更するには

- 「Dashboard Properties」ページで「Security」ボタンをクリックして「Change Item Permissions」ページを開き、表示される指示に従います。

注意： 「Security」ボタンは、共有ダッシュボードでのみ、ユーザー ID がセキュリティ機能へのアクセスを許可されている場合にのみ表示されます。

ダッシュボード・ページを並べ替えるには

- ダッシュボード・ページをリスト内で上に移動するには、「Dashboard Properties」ページで「Move Up」ボタンをクリックします。

これにより、ダッシュボード上でそのページのタブが左に移動します。

- ダッシュボード・ページをリスト内で下に移動するには、「Dashboard Properties」ページで「Move Down」ボタンをクリックします。

これにより、ダッシュボード上でそのページのタブが右に移動します。

ダッシュボード・ページを非表示にするには

- 「Dashboard Properties」ページで、そのページの「Hidden」オプションをクリックします。

現在そのページを参照しているユーザーには、ページが継続して表示されます。

関連項目

[「結果およびダッシュボードへの表示フォーマットの適用」\(84 ページ\)](#)

Oracle BI Interactive Dashboards ページの個人用および共有の保存済選択の作成と割当て

保存済選択を使用すると、ダッシュボードに表示されるプロンプトやフィルタを手動で選択することなく、ユーザーが最も頻繁に使用する、またはお気に入りのフィルタやプロンプトを事前選択したダッシュボード・ページを表示できます。プロンプトおよびフィルタの異なる組合せでビューを複数保存して、それらを切り替えて使用できます。

保存済選択では、カスタマイズした再使用可能なダッシュボードを複数作成して、適切なユーザー・グループに割り当てることもできます。適切な権限を持つユーザーは、次のタスクを実行して、選択するビューの作成、保存および割当てができます。

- フィルタおよびプロンプトの様々な組合せを、個人用または他のユーザー用の選択ビューとして保存する。
- 個人用または他のユーザー用のデフォルト・ビューに使用する保存済選択を指定する。

保存済選択を作成および使用する例

この項では、保存済選択の作成と使用について 2 つの例を使用して説明します。

使用例 1: グループで作成される他のユーザー用の保存済選択

消費財を扱う組織の IT グループが、様々な製品グループで参照する必要があるコンテンツを含むマスター・ダッシュボードを構築します。このダッシュボードには、製品グループのメンバーが関連する結果を表示するために通常選択するフィルタおよびプロンプトがあります。

マスター・ダッシュボードには、東部、西部、北部および南部地域の売上を示すレポートと、それらの地域で出荷されたすべての製品を示すレポートの 2 つのレポートが表示されます。地域ごとの売上を示すレポートには、特定地域を選択できるプロンプトがあります。出荷されたすべての製品を示すレポートには、製品を選択できるフィルタがあります。

ここで IT コンサルタントが、各地域の Fizzy Brands 社製品グループ用にビューをカスタマイズします。最初にダッシュボードのフィルタおよびプロンプトを使用して東部地域と Fizzy Brands 社製品を選択し、この組合せを、他のユーザーと共有できる 1 つの選択として保存します。次に Fizzy Brands 社製品を販売する東部地域のグループ・メンバーに、この選択をデフォルト・ビューとして割り当てます。この処理を西部、北部、南部の地域についても行います。

西部地域の Fizzy Brands 社販売担当者が Oracle BI にログインしてダッシュボードを表示すると、最初に、そのグループのデフォルト・ビューとして割り当てられた地域と製品の選択に基づいた、売上および出荷情報が表示されます。これにより、通常そのグループ内の、同様の地域および製品を選択するすべての販売担当者は、この選択操作を繰り返す必要がなくなります。

使用例 2: 個人用に作成される保存済選択

全地域の売上を示すレポートと出荷されたすべての製品を示すレポートの 2 つのレポートを含む、ビジネス・ユーザーのダッシュボードがあります。各レポートにはプロンプトがあり、特定の地域および製品を選択できます。ユーザーが東部地域と Fizzy Brands 社製品を選択します。ダッシュボードがリフレッシュされ、このデータのビューが表示されます。ユーザーはこのビューの選択を保存し、これが個人用ビューであり、ダッシュボードを表示する際のデフォルトの選択であることを示します。その後、最も興味のある他の製品と地域の組合せをさらに作成し、後で使用できるように保存します。

このユーザーは、IT グループが共有の選択として保存した他の選択にもアクセスできます。Fizzy Brands 社の西部地域の売上を表示するには、「Page Options」ボタンをクリックし、「Saved Selections」をクリックして、Dollar Sales, Western Region, Fizzy Brands という名前のビューを選択します。ダッシュボードがリフレッシュされ、そのデータの新しいビューが表示されます。

保存済選択のオプションへのアクセス

適切な権限を持つユーザーのダッシュボードには、「Dashboard Editor」リンクのかわりに「Page Options」ボタンが表示されます（Dashboard Editor へのアクセスは、「Page Options」メニューの 1 つとして選択できます）。

保存済選択のメニューにアクセスするには

- 「Page Options」ボタンをクリックします。

注意： 選択可能な項目は、Oracle BI Presentation Services の管理での権限設定によって異なります。

Dashboard Editor にアクセスするには

- ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Edit Dashboard」を選択します。

Dashboard Editor が表示されます。詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加](#)」(201 ページ) を参照してください。

個人または他のユーザーが使用できるように選択を保存するには

- 1 ダッシュボードでプロンプトおよびフィルタを選択します。
- 2 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。

- 個人用に選択を保存するには、「Save Current Selections」→「For Me」を選択します。
 - 他のユーザーが使用できるように選択を保存するには、「Save Current Selections」→「For Others」を選択します。
- 3 選択の説明的な名前を入力するか、デフォルトの名前を使用します。
 - 4 (オプション) この選択をデフォルトに割り当てるには、「default」オプションを選択します。
 - 5 (オプション) 共有の保存済選択に必要な権限を持っている場合は、「Set Permissions」ボタンをクリックして、ここでアクセス権を指定することもできます。

保存済選択を適用するには

- 1 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Apply Saved Selections」を選択します。

個人用の保存済選択がある場合はリスト上部に表示されます。続いて共有の保存済選択が表示されます。現在のデフォルトの選択は太字で示されます。
- 2 リストで保存済選択を1つクリックして、基礎となるダッシュボードに適用します。

個人用の保存済選択のデフォルト・ビューを作成または変更するには

- 1 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Save Current Selections」→「Edit Saved Selections and Defaults」を選択します。
- 2 任意の保存済選択の横にあるラジオ・ボタンをクリックし、デフォルトの選択として割り当てます。
デフォルトの選択は太字で示されます。
- 3 終了したら「OK」をクリックします。

基本のダッシュボードをデフォルト・ビューとしてリストアするには

- 1 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Save Current Selections」→「Edit Saved Selections and Defaults」を選択します。
- 2 リストの上部にあるオプションをクリックして、変更されていないダッシュボードを使用します。
- 3 終了したら「OK」をクリックします。

保存済選択を名前変更または削除するには

- 1 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Save Current Selections」→「Edit Saved Selections and Defaults」を選択します。
- 2 名前を変更する、または削除する選択を指定して、適切なボタンをクリックします。
- 3 終了したら「OK」をクリックします。

保存済選択を共有する、または他のユーザーのデフォルト選択として割り当てるには

- 1 ダッシュボード・ページで「Page Options」ボタンをクリックし、「Save Current Selections」→「Edit Saved Selections and Defaults」を選択します。
- 2 「Shared Selection」領域で、他のユーザーのデフォルトの保存済選択として割り当てる選択を指定して、「security」ボタンをクリックします。
- 3 保存済選択をグループで共有するには、そのグループを「Groups with Permission」領域に移動します。
- 4 グループの横にあるチェック・ボックスを選択して、この保存済選択をデフォルトに設定します。
- 5 終了したら「OK」をクリックします。

他の Oracle BI ユーザー・アカウントへのアクセス

「Act As」機能を使用すると、他のユーザーのレポートやダッシュボードにアクセスできます。他のユーザーのアカウントにアクセスするには、管理者が、そのユーザーのアカウントにアクセスする権限とアクセスのタイプ（完全または制限付き）を割り当てる必要があります。アクセスのタイプによって、ユーザー・アカウントを表示できるか変更できるかが決まります。

他のユーザー・アカウントに対する完全なアクセスが付与されている場合は、対象ユーザーの権限を継承し、そのユーザーのデフォルトのダッシュボードを変えたり、コンテンツやプリファレンスを変更したりできます。他のユーザー・アカウントに対する制限付きアクセスが付与されている場合は、自身の権限を維持したまま、対象ユーザーのデータの参照権限を継承します。制限付きアクセスでは、データの参照のみ許可されます。

「Act As」機能は、テクニカル・サポートがトラブルシューティングを行う目的で、または任意のユーザーが他のユーザーのレポートやダッシュボードの情報を参照する目的で使用します。

自身のアカウントにアクセス可能なユーザーを参照するには、「My Account」ページを開いて「Delegated Users」セクションにスクロールします。このセクションには、レポートおよびダッシュボードにアクセスできる各ユーザーの名前とアクセスのタイプが記述されています。

他のユーザーのレポートおよびダッシュボードにアクセスするには

- 1 Oracle BI にログインします。
- 2 「Settings」リンクをクリックし、「Act As」を選択します。
「Act As」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 他のユーザーのアカウントにアクセスするには、「User」ドロップダウン・リストからユーザー名を選択し、「OK」をクリックします。

注意：システム設定によっては、「Act As」ダイアログ・ボックスにテキスト・ボックスが表示されます。通常、このテキスト・ボックスは、項目の多いユーザー・リストが返された場合に表示されます。このテキスト・ボックスには、権限を継承するユーザーの ID を入力する必要があります。

ユーザーのデフォルトのダッシュボードが表示されます。管理者から付与されたアクセスのタイプに応じて、このダッシュボードでコンテンツを表示または変更できます。

- 4 自身のアカウントに戻るには、「Act As」ダイアログ・ボックスにアクセスして「Stop」をクリックします。

Oracle BI Publisher レポートの操作

Oracle BI Publisher を使用すると、完全にフォーマットされた印刷可能なレポートを作成できます。Oracle BI Publisher は Oracle Business Intelligence に統合されており、Oracle BI Answers、Delivers および Interactive Dashboards アプリケーションからアクセスします。BI Publisher レポートは、Oracle BI Server の使用可能なサブジェクト領域に対して直接構築されるか、Answers リクエストに基づいて構築できます。BI Publisher レポートはダッシュボード・ページに追加できます。BI Publisher と Oracle BI の統合によってシングル・サインオン機能も実現されます。これにより、Oracle BI にログインするだけで、同時に Oracle BI Publisher アプリケーションにもログインできるようになります。

組織で Oracle BI Publisher を使用している場合は、ダッシュボード・ページで Oracle BI Publisher レポートを実行、表示および操作できます。ダッシュボードに表示される Oracle BI Publisher ツールバーを使用して、レイアウト・テンプレートの選択、Oracle BI Publisher レポートの出力フォーマットの変更、Oracle BI Publisher レポートのエクスポート、(プリンタ、FAX、電子メール、FTP などの) 使用可能な宛先への Oracle BI Publisher レポートの送信、Oracle BI Publisher レポートのスケジュール、およびデータの分析を実行できます。

注意：ダッシュボード・ページに含めることのできる Oracle BI Publisher レポートは 1 つのみです。また Oracle BI Publisher レポートを Oracle BI Answers で作成または変更したり、Oracle BI Delivers で使用したり、Oracle BI プリーフィング・ブックへ保存したりすることはできません。Oracle BI Publisher レポートが表示されるダッシュボード・ページでは、「Add to Briefing Books」ボタンおよび「Printer Friendly」ボタンは無効になっています。

Oracle BI Publisher では、BI Publisher Analyzer for Excel の起動、レポート・クエリーやデータ・モデルの構築、レポートの翻訳、および Oracle BI Publisher に関連する管理タスクの実行だけでなく、レポートの表示およびスケジュールも実行できます。

Oracle BI Publisher を使用すると、Oracle BI Publisher レポートを作成してレポート・リポジトリに保存できます。ダッシュボードに Oracle BI Publisher レポートを追加するには、そのリポジトリを参照して、Oracle BI Publisher レポートを選択します。

Oracle BI Publisher レポートの作成およびスケジュールの詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Publisher へのアクセス」(226 ページ)
- 「ダッシュボード・ページに表示する Oracle BI Publisher レポートの選択」(226 ページ)
- 「ダッシュボード・ページでの Oracle BI Publisher ツールバーの使用」(226 ページ)
- 「パラメータ化された Oracle BI Publisher レポートのダッシュボード・プロンプトの使用」(227 ページ)

注意：ダッシュボード・ページに Oracle BI Publisher レポートを追加する方法の詳細は、「Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの追加と表示」(204 ページ) を参照してください。

Oracle BI Publisher へのアクセス

Oracle BI Publisher アプリケーションには、Oracle BI Answers、Delivers および Dashboards アプリケーションからアクセスできます。

Oracle BI Publisher の使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- Oracle BI の画面で「More Products」をクリックし、BI Publisher を選択します。
Oracle BI Publisher アプリケーションが新しいブラウザ・ウィンドウに表示されます。

ダッシュボード・ページに表示する Oracle BI Publisher レポートの選択

レポートがスケジュールされている場合は、そのレポートの特定の実行を選択してダッシュボードに含めることができます。選択するレポートの実行によって、ダッシュボード・プロンプトが使用可能かどうか決まります。

スケジュールされていないレポート、または前回の履歴がないレポートがダッシュボードに含まれている場合、そのレポートは、ユーザーがダッシュボード・ページへのアクセスする際に実行され生成されます。ダッシュボード・プロンプトを使用すると、レポートを再作成して、更新されたデータを表示できます。

スケジュールされているレポート、または実行履歴を持つレポートをダッシュボードに追加する場合は、レポートの特定の実行履歴または最新バージョンのいずれかを指定できます。このレポートはスケジューラを介して実行されているため、ダッシュボード・プロンプトを使用してダッシュボードからレポートを再作成することはできません。

注意：ダッシュボード・ページに Oracle BI Publisher レポートを追加する方法の詳細は、「[Dashboard Editor を使用した Oracle BI Interactive Dashboards ページのコンテンツの追加と表示](#)」（204 ページ）を参照してください。

ダッシュボード・ページでの Oracle BI Publisher ツールバーの使用

Oracle BI Publisher ツールバーは、Oracle BI Publisher レポートが含まれるダッシュボードに表示されます。表示されるオプションはユーザーの権限によって異なります。

ダッシュボード・ページで Oracle BI Publisher ツールバーを使用するには

- 参照する Oracle BI Publisher レポートを含むダッシュボードにアクセスします。様々な機能の詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ツールバーの機能について、次の表で説明します。

機能	説明
「Template」	レポートのテンプレートが複数ある場合は「Template」リストに表示されます。新しいテンプレートを選択して「View」をクリックします。
「Output Type」	出力タイプが複数ある場合は、このリストから目的のタイプ（HTML、PDF、RTF、Excel、データ）を選択して「View」をクリックします。出力がレンダリングされてブラウザに表示されます。
「View」	テンプレートを選択するか出力タイプを指定した後、このボタンをクリックすると、Oracle BI Publisher レポートが表示されます。

機能	説明
「Export」	このボタンをクリックすると、Oracle BI Publisher レポートを保存するか、出力タイプに応じた適切なアプリケーションを開くように求めるプロンプトが表示されます。
「Send」	このボタンをクリックすると、「Destination」ダイアログ画面が表示されます。この画面で、送信先（電子メール、プリンタ、FAX、FTP または Web フォルダなど）を選択し、適切な情報を入力します。送信先は複数選択できます。
「Schedule」	このボタンをクリックすると、Oracle BI Publisher レポートをスケジュールできます。レポートのスケジュールの詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
「Analyzer」	オンライン・アナライザにアクセスする権限が付与されている場合、このボタンをクリックすると、Oracle BI Publisher レポートのデータのピボット・テーブルを作成できます。オンライン・アナライザの使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

パラメータ化された Oracle BI Publisher レポートのダッシュボード・プロンプトの使用

ダッシュボード・プロンプトを使用すると、パラメータ化された埋込み Oracle BI Publisher レポートの結果をフィルタして、プロンプト条件に一致する結果のみを表示できます。ダッシュボード・プロンプトの設定方法は、Oracle BI Publisher レポートに設定されたデータの取得方法によって異なります。

パラメータ化された Oracle BI Publisher レポートのダッシュボード・プロンプトを使用するには

- 1 ダッシュボードに追加した Oracle BI Publisher レポートのパラメータに該当する新しいダッシュボード・プロンプトを作成します。レポートのダッシュボード・プロンプトを作成する場合は、次の要件に注意してください。
 - Answers リクエストからデータを受け取る Oracle BI Publisher レポートには、Answers リクエストで「Is Prompted」に設定されたフィルタ対象のレポート列が必要です。このタイプのレポートはダッシュボード・プロンプトの式を完全にサポートしますが、Oracle BI レポートにはパラメータを含めることはできません。
 - Oracle BI Publisher レポートは、Oracle BI Server、または Oracle データベースなどの他のデータ・ソースからデータを受け取る場合があります。このタイプのレポートには、デフォルト値のパラメータが含まれることがあります。ダッシュボード・プロンプトを適切に設定するには、各プロンプトにプレゼンテーション変数を定義して、その変数名をレポートのパラメータ名と一致させる必要があります。ダッシュボードではプロンプトの値がレポートの SQL 問合せに渡されるため、ダッシュボード・プロンプトの演算子は「is equal to」または「is in」に設定する必要があります。

ダッシュボード・プロンプトの作成方法の詳細は、「[Oracle BI リクエストのフィルタに使用するダッシュボード・プロンプトの作成](#)」(63 ページ)を参照してください。Oracle BI Publisher レポートの作成方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

注意：ダッシュボードの変更は、適切な権限および職責を持つユーザーにのみ許可されています。

- 2 Oracle BI Interactive Dashboards で、パラメータ化された Oracle BI Publisher レポートを含むダッシュボードにナビゲートして、Dashboard Editor のリンクをクリックします。
Dashboard Editor が表示されます。
- 3 選択ペインの「Saved Content」領域で、追加するダッシュボード・プロンプトを含むフォルダにナビゲートします。
- 4 Oracle BI Publisher レポートを含むダッシュボード・ページのセクションに、ダッシュボード・プロンプトをドラッグ・アンド・ドロップします。
- 5 「Save」ボタンをクリックします。

Oracle BI ブリーフィング・ブックの操作

所属する組織に Oracle BI ブリーフィング・ブックのライセンスが付与されている場合は、ダッシュボード・ページまたは個々のリクエストの静的なスナップショットを 1 つ以上のブリーフィング・ブックに格納できます。ブリーフィング・ブックは、オフラインでの表示用にダウンロードして共有できます。ブリーフィング・ブックとそのコンテンツは、Oracle BI Delivers を使用して更新、スケジュールおよび配信することもできます。

注意： Oracle BI Publisher レポートはブリーフィング・ブックに保存できません。

次の各項では、ブリーフィング・ブックの操作方法について説明します。

- 「Oracle BI ブリーフィング・ブックの作成」(228 ページ)
- 「Oracle BI ブリーフィング・ブックへのコンテンツの追加」(229 ページ)
- 「Oracle BI ブリーフィング・ブックの編集、ダウンロードまたは印刷」(230 ページ)
- 「Oracle BI Delivers を使用した Oracle BI ブリーフィング・ブックの配信」(231 ページ)
- 「Oracle BI ブリーフィング・ブックの表示」(232 ページ)

Oracle BI ブリーフィング・ブックの作成

ブリーフィング・ブックを作成する手順は次のとおりです。

Oracle BI ブリーフィング・ブックを作成するには

- 1 Oracle BI Interactive Dashboards のダッシュボードにナビゲートして、次のいずれかの操作を実行します。
 - ダッシュボード・ページの下部にある「Add to Briefing Book」ボタンをクリックします。



注意： 空のダッシュボード・ページではこのボタンを使用できません。

- 個々のリクエストとともにダッシュボードに表示される「Add to Briefing Book」リンクをクリックします。

「Save Briefing Book Content」ページが表示されます。

- 2 次のボタンをクリックします。

「Create New Briefing Book」

「Create New Briefing Book」ページが表示されます。

- 3 ブリーフィング・ブックの名前と説明を入力し、そのブリーフィング・ブックを保存します。

ブリーフィング・ブックは「Save Briefing Book Content」ページの「Current Briefing Books」リストに表示されます。

- 4 Oracle BI Interactive Dashboards に戻るには、「取消」ボタンをクリックします。

これにより、空のブリーフィング・ブックが作成されます。ブリーフィング・ブック・フォルダが Oracle BI Answers および Oracle BI Delivers の選択ペインに表示されます。

- 5 ブリーフィング・ブックを追加するには、「Add to Briefing Book」リンクまたはボタンをクリックし、前述の手順を実行して作成します。

Oracle BI ブリーフィング・ブックへのコンテンツの追加

ブリーフィング・ブックにダッシュボード・ページのコンテンツや個々のリクエストを追加するには、次の手順を実行します。

Oracle BI ブリーフィング・ブックにコンテンツを追加するには

- 1 Oracle BI Interactive Dashboards にナビゲートして、次のいずれかの操作を実行します。

- ブリーフィング・ブックにダッシュボード・ページのコンテンツを追加するには、ダッシュボードにナビゲートして「Add to Briefing Book」ボタンをクリックします。



- ブリーフィング・ブックに個々のリクエストの結果を追加するには、ダッシュボードでリクエストを検索して次のリンクをクリックします。

「Add to Briefing Book」

注意：このリンクは、「Add to Briefing Book」リンクを表示するオプションが選択されているダッシュボードにリクエストが追加された場合のみ表示されます。

「Save Briefing Book Content」ページが表示されます。

- 2 「Current Briefing Books」ドロップダウン・リストからブリーフィング・ブックを選択します。

- 3 「Save Options」領域で選択を行います。

- a 「Content Type」では、次のいずれかのオプションを選択します。

- **「Snapshot」** : コンテンツが現在の状態で追加されます。スナップショットのコンテンツには元のデータが保持され、ブリーフィング・ブックを再実行しても更新されません。Oracle BI Delivers を使用してスナップショットのコンテンツを更新することはできません。
- **「Updatable」** : コンテンツは、ブリーフィング・ブックがダウンロードされるたびに、または Oracle BI Delivers で iBot の配信コンテンツとしてブリーフィング・ブックが指定されるとリフレッシュされます。
- b 「Follow Briefing Book Navigation Links」には、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **「いいえ」** : ブリーフィング・ブックのナビゲーション・リンクを追跡しません。
 - **「はい」** : ブリーフィング・ブックのナビゲーション・リンクを追跡します。
- c 「Briefing Book Navigation Links」に「はい」を指定する場合は、ブリーフィング・ブックで追跡するリンクの数を選択してください。

デフォルトの最大リンク数は 5 です。

注意 : ブリーフィング・ブックのナビゲーション・リンクは、Dashboard Editor を使用してダッシュボードに追加できる特別なタイプのリンクです。ブリーフィング・ブックのナビゲーション・リンクがブリーフィング・ブックのコンテンツに含まれる場合は、そのリンク先コンテンツもブリーフィング・ブックに含まれます。詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards ページへのブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクの追加](#)」(206 ページ) を参照してください。

Oracle BI ブリーフィング・ブックの編集、ダウンロードまたは印刷

保存されたブリーフィング・ブックは、Oracle BI Answers および Oracle BI Delivers の選択ペインに表示されます。「Catalog」タブでは、ブリーフィング・ブックは「My Briefing Books」リストに表示されます。Presentation Catalog では、ブリーフィング・ブックが _briefingbook フォルダに保存されます。

ユーザーは、ブリーフィング・ブックについて、コンテンツの並替えや削除、コンテンツ・タイプやナビゲーション・リンクのプロパティの変更、印刷およびコンピュータへのダウンロードを実行できます。ブリーフィング・ブックのリストをダッシュボード・ページに追加することもできます。

Oracle BI ブリーフィング・ブックを編集、ダウンロードまたは印刷するには

- 1 企業ネットワークにアクセスして、Oracle BI にログインします。
- 2 Oracle BI Answers の選択ペインで、目的のブリーフィング・ブックにナビゲートしてクリックします。ブリーフィング・ブックのコンテンツが右側のペインに表示されます。
- 3 コンテンツを並べ替えるには、「Move Up」および「Move Down」の矢印をクリックします。
- 4 コンテンツを削除するには「Delete」ボタンをクリックします。
- 5 コンテンツ・タイプ、ナビゲーション・リンクのプロパティまたは説明を変更するには、「Properties」ボタンをクリックします。
「Page Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 6 コンテンツ・タイプ、ブリーフィング・ブックのナビゲーション・リンク、および説明を変更して「OK」をクリックします。

- 7 ブリーフィング・ブックをダウンロードするには、「Get Now」ボタンをクリックして保存場所を指定します。

ダウンロードしたブリーフィング・ブックは、.ssb という拡張子で保存されます。これでブリーフィング・ブックを電子メールで送信および共有できるようになります。

注意：ダウンロードしたブリーフィング・ブックを表示するには、Oracle Business Intelligence Briefing Book Reader アプリケーションが必要です。詳細は、「Oracle BI ブリーフィング・ブックの表示」(232 ページ) を参照してください。

- 8 ブリーフィング・ブックの PDF を生成するには、「Print Now」ボタンをクリックします。

PDF ファイルが生成され、右側のペインに表示されます。このペインでアイコンをクリックすると、ブリーフィング・ブックを印刷できます。

注意：ブリーフィング・ブックの PDF を表示または印刷するには、Adobe Reader アプリケーションが必要です。

- 9 操作を終了したら「Finished」ボタンをクリックし、変更したプロパティを保存します。

ダッシュボード・ページにブリーフィング・ブックのリストを追加するには

- 1 Oracle BI Interactive Dashboards にナビゲートして、「Edit Dashboard」リンクをクリックします。「Dashboard Editor」ページが表示されます。
- 2 「Dashboard Objects」リストから、フォルダ・オブジェクトをセクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- 3 フォルダの「Properties」ボタンをクリックします。「Folder Properties」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 My Folder という名前のフォルダを探して表示します。_briefingbook フォルダをクリックし、「OK」をクリックして「Folder Properties」ダイアログ・ボックスに戻ります。
- 5 「OK」をクリックして「Save」ボタンをクリックします。ダッシュボードに My Briefing Books という名前のフォルダが追加されます。
 - ブリーフィング・ブックのリストを表示するには、このフォルダをクリックします。
 - ブリーフィング・ブックのプロパティを編集するには、そのリンクをクリックします。

Oracle BI Delivers を使用した Oracle BI ブリーフィング・ブックの配信

所属する組織に Oracle BI Delivers のライセンスが付与されている場合は、Oracle BI Delivers を使用して、iBot の配信コンテンツとしてブリーフィング・ブックを指定できます。

Oracle BI Delivers を使用してブリーフィング・ブックのコンテンツを更新するには

- 1 Oracle BI Delivers にナビゲートして、適切な iBot を作成または変更します。

- 2 「Delivery Content」タブで「Select Content」ボタンをクリックし、コンテンツを配信するブリーフィング・ブックにナビゲートします。

iBot の実行時にブリーフィング・ブックの更新可能コンテンツが配信されます。

Oracle BI ブリーフィング・ブックの表示

Oracle BI Briefing Book Reader アプリケーションを使用すると、ダウンロードしたブリーフィング・ブックを表示できます。Oracle BI Briefing Book Reader アプリケーションが必要な場合は、Oracle BI の管理者に相談してください。

Oracle BI ブリーフィング・ブックを表示するには

- 1 ブリーフィング・ブックをクリックして開きます。

注意：ブリーフィング・ブックの拡張子は .sbb です。

これにより、Oracle BI Briefing Book Reader アプリケーションが起動します。ブリーフィング・ブックがブラウザに表示されます。

- 2 コンテンツをナビゲートするには、矢印またはメニュー・オプションを使用します。

ブリーフィング・ブックのナビゲーション・リンクがある場合は、それをクリックしてナビゲートすることもできます。

Oracle BI のガイド付きナビゲーションについて

ガイド付きナビゲーションを使用すると、Oracle BI Answers から取得した結果を調査して、ビジネス上の問題や実行する適切な操作を的確に把握する場合に役立ちます。ガイド付きナビゲーションが企業または組織の一般的な使用例やベスト・プラクティスに基づいている場合、ユーザーは関連する結果セット、別のダッシュボードまたは URL にナビゲートして、関連する問題を表示および分析できます。ガイド付きナビゲーションは Dashboard Editor を使用して指定します。

ガイド付きナビゲーションには次の 3 つがあります。

- **静的なリンクを使用するガイド付きナビゲーション。** リクエストに対して指定すると、ダッシュボードに表示される結果には、常に別のリクエスト、ダッシュボードまたは URL へのリンクが含まれます。たとえば、顧客満足度の差異傾向を示すレポートに、製品ライン別の顧客満足度を示すレポートへのリンクを常に表示できます。
- **条件付きリンクを使用するガイド付きナビゲーション。** リクエストに対して指定すると、結果が特定の条件に一致する場合のみ、別のリクエスト、ダッシュボードまたは URL へのリンクが表示されます。たとえば、未処理のクリティカルなサービス・リクエスト数が特定のしきい値を超えた場合に、結果セットに従業員別の顧客満足度を示すレポートへのリンクを含めることができます。
- **条件付きセクションを使用するガイド付きナビゲーション。** ダッシュボード全体のセクションを、特定のリクエストに対して Oracle BI Answers から返される結果に基づいて表示できます。たとえば、この 1 週間で売上が 15% 以上減少していることを示す結果が返された場合に、関連するレポートおよびツールへのリンクを含むダッシュボードのセクションを表示できます。

通常、静的リンクの表示はダッシュボードのレンダリング時間に影響しません。多くの条件付きリンクまたはセクションを表示する場合は、ダッシュボードのレンダリング時間に影響することがあります。

Dashboard Editor の詳細は、「[Oracle BI Interactive Dashboards へのコンテンツの追加](#)」(201 ページ) を参照してください。

9

Oracle BI Presentation Catalog のコンテンツの管理

この章では、Oracle BI Presentation Catalog のコンテンツの管理について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Presentation Catalog でのフォルダおよびコンテンツの管理」 (236 ページ)
- 「Oracle BI Presentation Catalog でのオブジェクトの名前と説明の編集」 (239 ページ)
- 「Oracle BI Presentation Catalog でのフォルダや項目のコピーまたは移動」 (240 ページ)

Oracle BI Presentation Catalog でのフォルダおよびコンテンツの管理

フォルダおよび項目の編集、名前変更、権限設定および削除を行うには、「Manage Catalog」機能を使用します。

Presentation Catalog には、Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers、Oracle BI Interactive Dashboards およびその他の Analytics ベースのアプリケーションによって作成されるコンテンツが保持されます。コンテンツは、共有フォルダまたは個人用フォルダのいずれかに編成されます。カタログに格納できるコンテンツのタイプには、Oracle BI Answers のリクエストと結果、および Oracle BI Interactive Dashboards Editor を使用して作成される項目（HTML コンテンツ、プレーン・テキスト、他のイメージ、ドキュメントおよびサイトへのリンクなど）があります。

ページ下部に「Show Hidden Items」チェック・ボックスが表示されている場合、このチェック・ボックスを選択すると、隠しフォルダ（_Portal、_Filters、_Prefs、_Alerts、_iBots、_Delivers）を表示できます。このオプションが選択可能かどうかは、「Privilege Administration」ページの「Catalog」セクションにある「See Hidden Items」権限の設定に基づきます。

「Manage Catalog」ページに表示される項目は、サイト管理者によってユーザーに指定されているセキュリティ設定と、使用する Analytics 製品によって異なります。たとえば、個人用ダッシュボードのフォルダとコンテンツに加えて、操作権限を持つすべての共有フォルダと項目が表示されます。管理者は、カタログ・オブジェクトの権限を変更できるユーザーを、「Privilege Administration」ページの「Admin: Catalog」セクションで変更権限を介して制御します。

この項では、フォルダとコンテンツの操作方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 「Oracle BI Presentation Catalog のフォルダのアクセス」(236 ページ)
- 「Oracle BI Presentation Catalog の項目またはフォルダのプロパティの操作」(237 ページ)
- 「Oracle BI Presentation Catalog の項目に対する権限の割当て」(237 ページ)
- 「Oracle BI Presentation Catalog のアーカイブ」(238 ページ)
- 「Presentation Catalog のフォルダまたは項目の削除」(238 ページ)

Oracle BI Presentation Catalog のフォルダのアクセス

この項では、フォルダを検索、表示および作成する手順について説明します。

フォルダを検索するには

- 個人用フォルダとそのコンテンツを操作するには、「My Folders」リンクをクリックします。
または
共有フォルダとアクセス権限を持つ項目を操作するには、「Shared Folders」リンクをクリックします。

新しいフォルダを作成するには

- 「Create New Folder」リンクをクリックし、ページに表示される指示に従います。

フォルダ・コンテンツを表示するには

- フォルダの名前をクリックします。

Oracle BI Presentation Catalog の項目またはフォルダのプロパティの操作

項目またはフォルダのプロパティは、適切な権限を持つユーザーに表示されます。プロパティには、項目またはフォルダのパス、作成日時、更新日時、アクセス日時および属性が含まれます。ユーザーは、項目やフォルダの現在の所有者を表示したり、その項目の所有権を取得したりすることもできます。

項目またはフォルダのプロパティを操作するには

- 1 Oracle BI Answers で、選択ペインの「Catalog」タブにある「Manage Catalog」ボタンをクリックします。
注意：「Manage Catalog」ボタンを使用できるのは、管理ユーザー ID を持つユーザーおよび適切な権限を持つユーザーです。
「Manage Catalog」ページが表示されます。
- 2 項目またはフォルダの横にある「Properties」ボタンをクリックします。
「Item Properties」ページが表示されます。このページには、フォルダまたは項目のタイプ、場所およびパスなどの一般的な情報が表示されます。また、使用履歴情報、所有権、その他の属性、およびこのフォルダに RSS フィードを作成するために使用する XML ボタンや URL も表示されます。
- 3 適切な権限がある場合は、この項目の「Take Ownership」リンクをクリックするか、「Ownership」領域でこの項目とすべてのサブ項目の「Take Ownership」リンクをクリックすると、項目またはフォルダの所有権を取得できます。

Oracle BI Presentation Catalog の項目に対する権限の割当て

適切な権限を持つユーザーは、項目について既存の権限を削除したり、新しい権限を割り当てたりできます。権限の割当てを可能にするには、事前に Oracle BI Presentation Server で設定する必要があります。

注意：権限の割当ての詳細は、「Change Item Permissions」ページに移動してヘルプ・ボタンをクリックするか、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

共有フォルダとその項目の権限を変更するには

- 1 Oracle BI Answers で、選択ペインの「Catalog」タブにある「Manage Catalog」ボタンをクリックします。
注意：「Manage Catalog」ボタンを使用できるのは、管理ユーザー ID を持つユーザーおよび適切な権限を持つユーザーです。
「Manage Catalog」ページが表示されます。
- 2 フォルダの横にある「Change Permissions」ボタンをクリックします。
「Change Item Permissions」ページが表示されます。
- 3 「Change Item Permissions」ページで設定を変更して、「Finished」ボタンをクリックします。

Oracle BI Presentation Catalog のアーカイブ

適切な権限を持つユーザーは、特定のフォルダまたはプレゼンテーション・カタログ全体をアーカイブできます。アーカイブの作成時は、項目およびフォルダの権限とタイムスタンプを維持するかどうかを選択できます。

注意：アーカイブされたプレゼンテーション・フォルダまたはカタログを解凍できるのは管理者のみです。

フォルダまたはカタログをアーカイブするには

- 1 Oracle BI Answers で、選択ペインの「Catalog」タブにある「Manage Catalog」ボタンをクリックします。

注意：「Manage Catalog」ボタンを使用できるのは、管理ユーザー ID を持つユーザーおよび適切な権限を持つユーザーです。

「Manage Catalog」ページが表示されます。
- 2 プレゼンテーション・カタログ全体をアーカイブするには、そのページのカタログのアーカイブ・セクションを探します。特定のフォルダをアーカイブするには、アーカイブするフォルダを参照して、そのページのカタログのアーカイブ・セクションを探します。
- 3 プレゼンテーション・カタログまたはフォルダ内の各項目に割り当てられている権限をアーカイブするには、「Keep Permissions」チェック・ボックスを選択します。

このオプションを選択しない場合、アーカイブ処理には権限が含まれません。アーカイブを解凍する際、システムによって、親フォルダの権限がすべての項目およびフォルダに割り当てられます。
- 4 アーカイブする項目およびフォルダに割り当てられているタイムスタンプをアーカイブするには、「Keep Timestamp」チェック・ボックスを選択します。このオプションを選択しない場合、アーカイブ処理にはタイムスタンプ情報が含まれません。アーカイブを解凍する際、システムによって、項目またはフォルダが解凍された時間を示すタイムスタンプが適用されます。
- 5 「Archive Catalog」ボタンをクリックします。

「File Download」ページが表示されます。
- 6 「Save」をクリックします。

「Save As」ページが表示されます。
- 7 アーカイブ・ファイルを保存する場所を指定します。「Save」をクリックします。

Presentation Catalog のフォルダまたは項目の削除

適切な権限を持つユーザーは、Presentation Catalog のフォルダまたは項目を削除できます。

フォルダまたは項目を削除するには

- 1 Oracle BI Answers で、選択ペインの「Catalog」タブにある「Manage Catalog」ボタンをクリックします。

注意：「Manage Catalog」ボタンを使用できるのは、管理ユーザー ID を持つユーザーおよび適切な権限を持つユーザーです。

「Manage Catalog」ページが表示されます。

- 2 削除するフォルダまたは項目の横にある「Delete」ボタンをクリックします。
「Confirm Item Deletion」ページが表示されます。
- 3 共有のフォルダまたは項目を削除する場合は、個人用ダッシュボードに共有項目（「Quick Answers」リストに対するリクエスト、または HTML コンテンツ、リンクおよびリクエストなど）を追加した他のユーザーが、それ以降、これらの項目にアクセスできなくなることに注意してください。
- 4 削除を確定するには、「はい」をクリックします。

Oracle BI Presentation Catalog でのオブジェクトの名前と説明の編集

適切な権限を持つユーザーは、「Manage Catalog」機能を使用して、Oracle BI Presentation Catalog のオブジェクトの名前と説明を編集できます。オブジェクトの名前を変更する場合は、以前の名前への参照を維持してリンクの破損を防止できます。これにより、名前の変更されたオブジェクトへのショートカットが、以前の名前を使用して作成されます。

Presentation Catalog のオブジェクトの名前と説明を編集するには

- 1 Oracle BI Answers で、選択ペインの「Catalog」タブにある「Manage Catalog」ボタンをクリックします。
注意：「Manage Catalog」ボタンを使用できるのは、管理ユーザー ID を持つユーザーおよび適切な権限を持つユーザーです。
「Manage Catalog」ページが表示されます。
- 2 編集するオブジェクトを検索して、次のボタンをクリックします。
「Edit Name and Description」
- 3 「Name」テキスト・ボックスにオブジェクトの新しい名前を入力します。
- 4 以前の名前を使用したオブジェクトへの参照を維持するには、次のオプションをクリックします。
「Preserve reference to old name of this item」
これにより、名前の変更されたオブジェクトをポイントする、以前の名前を使用したショートカットが作成されます。
- 5 「Description」テキスト・ボックスにオプションの説明を入力します。
- 6 「Rename」をクリックします。

Oracle BI Presentation Catalog でのフォルダや項目のコピーまたは移動

適切な権限を持つユーザーは、項目を新しい場所にコピーまたは移動できます。

フォルダや項目をコピーまたは移動するには

- 1 Oracle BI Answers で、選択ペインの「Catalog」タブにある「Manage Catalog」ボタンをクリックします。

注意：「Manage Catalog」ボタンを使用できるのは、管理ユーザー ID を持つユーザーおよび適切な権限を持つユーザーです。

「Manage Catalog」ページが表示されます。

- 2 コピーまたは移動するフォルダまたは項目の横にある「Copy/Move」ボタンをクリックします。

「Copy/Move」ページが表示されます。

- 3 フォルダまたは項目のコピー先または移動先フォルダをクリックします。フォルダまたは項目を移動する場合は、「Move Item」チェック・ボックスを選択します。

注意：フォルダまたは項目をコピーする場合、それらのフォルダまたは項目は、元の場所にも保持されたまま新しい場所にコピーされます。一方のフォルダまたは項目のインスタンスを変更しても、両方のフォルダまたは項目のインスタンスが変更されるわけではありません。

索引

A

Adobe PDF

- 印刷、使用 17
- ダッシュボード・ページ、PDF オプションの変更 218
- ビューの印刷、使用 96

「Advanced」タブ

- 概要 34

Answers

- ページ、表示 23
- 列フィルタ、削除 57
- 列フィルタ・プロンプト、プロパティの変更 60

C

Catalog Manager

- ダッシュボードへの説明の追加 220

「Criteria」タブ

- 概要 33

D

Dashboard Editor

- 「Dashboard Properties」ページ、アクセス 219
- HTML、ダッシュボード・ページへの追加 210
- PDF および印刷オプション、変更 218
- Presentation Catalog フォルダ、ダッシュボード・ページへの保存済コンテンツの追加 213
- Presentation Catalog フォルダのビュー、ダッシュボード・ページへの追加 212
- アクセス 201
- 埋込みコンテンツ、ダッシュボード・ページへの追加 209
- オブジェクト、ダッシュボード・ページでの名前変更 216
- ガイド付きナビゲーション・リンク、追加 205
- 結果、ドリルダウン時の制御 215
- 権限、変更 220
- コンテンツ、使用について 201
- コンテンツ、条件表示 205
- スタイル、ダッシュボード用に選択 219
- 説明、ダッシュボード用に追加 220
- ダッシュボードのプロパティ、変更 217
- ダッシュボード・プロンプト、プロパティの編集 215
- ダッシュボード・ページ、新しい列の追加 202

- ダッシュボード・ページ、コンテンツの追加と表示について 204
- ダッシュボード・ページ、セクションの水平表示 204
- ダッシュボード・ページ、セクションの追加 203
- ダッシュボード・ページ、ダッシュボード・ページへの変更の保存 204
- ダッシュボード・ページでのオブジェクトの削除 217
- ダッシュボード・ページとレイアウト、操作について 202
- ダッシュボード・ページの削除 220
- ダッシュボード・ページの名前変更 220
- ダッシュボード・ページの並替え 220
- ダッシュボード・ページの非表示 220
- ダッシュボード・ページ、編集用に選択 202
- ダッシュボード・ページ、列の操作について 202
- ダッシュボード・ページ、列の幅の設定 203
- ダッシュボード・ページ、列のブレイク 203
- テキスト・リンクまたはイメージ、ダッシュボード・ページへの追加 206
- ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 206
- レポート、プロパティの編集 215

「Dashboard Properties」ページ

- アクセス 219

Delivers

- ページ、表示 23

「Delivery Options」セクション

- デバイスの追加または変更について 25

Disconnected Analytics

- ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンクの使用について 206

Disconnected Application Cache

- 概要 182

「Drill in Place」オプション、使用について 215

E

「Edit Filter」オプション

- 注意、可用性について 56

「Edit Formula」ボタン

- 概要 36

Excel

- Web クエリー、リクエストの統合 42
- フォーマット、結果のダウンロード 18

F

「Filter By Column」 ボタン

概要 36

「Format Column」 ボタン、概要 36

H

HTML

印刷、使用 17

ダッシュボード・ページ、追加 210

ビューの印刷、使用 96

I

iBot

1 回のみ、実行 172

iBot をすぐに開始 171

Oracle BI Answers の保存済リクエストからの直接作成 34

Oracle BI Delivers における有効化について 202

カスタム・スクリプト、指定して iBot 完了時に実行 185, 186

カスタム・スクリプトの操作プロパティ、概要 183, 184

該当するユーザー、iBot へのサブスクライブの禁止 174

検索、検索対象 167

月次スケジュール、実行 172

現在選択されている受信者と選択可能な受信者、表示 175

コンテンツ、指定について 176

コンテンツの選択肢 177

コンテンツの配信、選択 178

作成 168

作成と管理、概要 167

サブクエリー、リクエストの詳細化に使用 170

サブスクリプション、カスタマイズ 188

サブスクリプション、カスタマイズについて 188

サブスクリプションのリスト、詳細の表示 187

サブスクリプションのリスト、表示 187

サブスクリプションのリスト、リストの変更 187

システム・サービス、概要 181

週次スケジュール、実行 172

終了日、選択 172

受信者、指定の許可 173

スケジュール、概要 171

設定、確認 169

操作、指定について 182

操作プロパティ、概要 183

次の iBot、実行に選択 184

テキスト・メッセージ、iBot コンテンツがない場合に指定 179

テキスト・メッセージ、iBot コンテンツがない場合に配信するテキストに変数を追加 179

テキスト・メッセージ、iBot の添付ファイルのコンテキストに変数を追加 179

テキスト・メッセージ、追加して iBot の添付ファイルのコンテキストを提示 179

適切なユーザー、iBot へのサブスクライブの許可 173

デバイス、概要 181

デバイスと宛先、指定 180

日時、開始 171

日次スケジュール、実行 172

配信コンテンツ、iBot 作成者への送信 172

配信コンテンツ、削除 178

配信コンテンツ、複数のユーザーへの送信 173

配信フォーマット・オプション 177

配信プロファイル、編集 168

複数回、実行 171

ヘッダライン、追加して iBot の件名行として表示 178

ヘッダライン、変数の追加 178

ユーザー宛先、概要 180

優先順位、データ表示方法および偽装、指定 169

リクエスト、リクエストを選択して iBot を起動 170

リスト、リストの表示 168

ワークフロー、指定して実行 185

ワークフローの操作プロパティ、概要 184

L

Lotus Notes データベース

Oracle BI レポートの保存 40

M

「Manage Catalog」

オブジェクトの名前と説明の編集 239

カタログのアーカイブ 238

Microsoft

Excel の Web クエリー、リクエストの統合 42

Excel フォーマット、結果のダウンロード 18

「My Account」 ページ

Presentation Catalog、オブジェクトの名前と説明の編集 239

アカウント設定、表示 24

実行する操作 24

デバイス、追加または変更について 25

プリファレンス、設定 24

My Folder フォルダ

概要と保存済リクエスト 34

N

Notes

Oracle BI レポートの Lotus Notes データベースへの保存 40

O

ODBC カスタムフォーマット文字列、表 81
Oracle BI Answers

「Advanced」タブ、概要 34
 「Criteria」タブ、概要 33
 ODBC カスタム・フォーマット文字列、表 81
 Oracle BI レポート、Lotus Notes データベースへの保存 40
 Presentation Catalog に格納された保存済リクエスト、表示 32
 「Prompts」タブ、概要 34
 「Results」タブ、概要 33
 SQL、リクエストでの列フィルタの編集 67
 一般的なカスタム・フォーマット文字列、表 80
 イメージ・プロンプト、削除 62
 イメージ・プロンプト、実行順序の移動 62
 イメージ・プロンプト、追加または変更 61
 イメージ・プロンプト、プロパティの変更 62
 カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列、入力 80
 概要 12
 結果、表示および操作 38
 サブジェクト領域およびリクエスト、アクセス 31
 使用と共通定義 28
 新規リクエスト、作成 34
 新規リクエスト、条件の作成または変更 35
 時と分に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
 時に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 82
 時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
 重複データ、抑止 75
 条件付フォーマット、適用する例 79
 条件付フォーマット、列コンテンツへの適用 78
 スタート・ページの例 30
 スタート・ページ、戻る 32
 整数フィールドのカスタム・フォーマット文字列 82
 選択ペイン、情報のリフレッシュ 38
 ダッシュボード・プロンプト、ダッシュボードまたはページへの追加 66
 ダッシュボード・プロンプト、編集 66
 ダッシュボード・プロンプト、保存 65
 ダッシュボード・プロンプト、リクエストのフィルタのために作成 63
 フィルタの例 68
 フィルタ、別の保存済リクエストに基づいて作成 67
 フィルタ、リクエストでのプロンプトによる簡略化 58
 保存済フィルタ、プロパティの表示 56
 保存済リクエスト、検索 32

保存済リクエスト、実行 34
 保存済リクエストをダッシュボード別に整理、表示 31
 リクエスト、Excel の Web クエリーとの統合 42
 リクエスト、個人用フォルダまたは共有フォルダへの保存 39
 リクエスト、ダッシュボードへの埋込み 41
 リクエスト、列のソート順序の指定 37
 列、結果における非表示 74
 列コンテンツ、表示の編集 72
 列コンテンツ、フォーマット 76
 列コンテンツ・レイアウト、日付 / 時刻列への「TimeZone」アイコンの追加 75
 列コンテンツ・レイアウト、編集 73, 74
 列式、編集 108
 列のクリック、処理の指定 75
 列フィルタ、再利用のために保存 55
 列フィルタ、作成 51
 列フィルタ・プロンプト、削除 61
 列フィルタ・プロンプト、リクエストへの追加 59
 列フィルタ、編集 56
 列フィルタ、他の列フィルタとの結合 57
 列フィルタ、リクエストから削除 57
 列フィルタ、リクエストの一部として保存 55
 列フォーマット関数、使用について 72
 列プロパティ設定、システム全体のデフォルトとしての保存 79
 論理 SQL、リクエストに対する調査と編集 44
 ワークスペース、タブへのアクセス 32
 ワークスペース、タブへのアクセスについて 32

Oracle BI Delivers

iBot、1 回のみ実行 172
 iBot、カスタム・スクリプトの操作プロパティについて 183, 184
 iBot、該当するユーザーのサブスクライブの禁止 174
 iBot、検索 167
 iBot、件名行、ヘッダーを追加して表示 178
 iBot、件名行、変数の追加 178
 iBot、月次スケジュールで実行 172
 iBot、現在選択されている受信者と選択可能な受信者の表示 175
 iBot、コンテンツの指定について 176
 iBot、コンテンツの配信の選択 178
 iBot、作成者への配信コンテンツの送信 172
 iBot、作成と管理について 167
 iBot、サブクエリーを使用したリクエストの詳細化 170
 iBot サブスクリプション、カスタマイズ 188
 iBot、サブスクリプションのカスタマイズについて 188
 iBot サブスクリプションのリスト、詳細の表示 187

iBot サブスクリプションのリスト、表示 187
 iBot サブスクリプションのリスト、リストの変更 187
 iBot、システム・サービスについて 181
 iBot、指定された日時に開始 171
 iBot、週次スケジュールで実行 172
 iBot、終了日の選択 172
 iBot、実行するワークフローの指定 185
 iBot、受信者の指定の許可 173
 iBot、スケジュールについて 171
 iBot、設定の確認 169
 iBot、操作の指定について 182
 iBot、操作プロパティについて 183
 iBot、適切なユーザーのサブスクライブの許可 173
 iBot、デバイスと宛先の指定 180
 iBot、デバイスについて 181
 iBot、日次スケジュールで実行 172
 iBot、配信コンテンツの削除 178
 iBot、配信コンテンツの選択肢 177
 iBot、配信フォーマット・オプション 177
 iBot、複数回実行 171
 iBot、複数のユーザーへの配信コンテンツの送信 173
 iBot、ユーザー宛先について 180
 iBot、優先順位、表示方法および偽装の指定 169
 iBot、リクエストを選択して iBot を起動 170
 iBot、リストの表示 168
 iBot、ワークフローの操作プロパティについて 184
 iBot をすぐに開始 171
 「My Dashboard」に自動的に追加されたアラート 203
 Oracle BI Delivers の機能 165
 アクセス 166
 アクセス、制御 166
 新しい iBot、作成 168
 アラート、アクセス 192
 カスタム・スクリプト、指定して iBot 完了時に実行 185, 186
 概要 12
 概要と共通用語について 164
 コンテンツ、プレゼンテーション・カタログの保存済データの操作 168
 スタート・ページ、戻る 169
 次の iBot、実行に選択 184
 テキスト・メッセージ、iBot コンテンツがない場合に指定 179
 テキスト・メッセージ、iBot コンテンツがない場合に配信するテキストに変数を追加 179
 テキスト・メッセージ、iBot の添付ファイルのコンテキストに変数を追加 179
 テキスト・メッセージ、追加して iBot の添付ファイルのコンテキストを提示 179

デバイスとプロファイル、構成 189
 配信プロファイル、使用について 191
 配信プロファイル、編集 168
 ブリーフィング・ブック、更新のための使用 231
 ユーザー、ビューのカスタマイズ 100

Oracle BI Interactive Dashboards

「ダッシュボード」を参照

Oracle BI Publisher

アクセス 226
 操作 225
 ダッシュボード、レポートの追加 214
 レポートのタイプ 226
 レポートのダッシュボード・プロンプトの使用 227

Oracle BI Publisher レポート

ツールバー、使用 226

Oracle BI Server Cache

概要 181

Oracle BI アプリケーションのビジネス・ロジック・オブジェクトのセキュリティ 13

Oracle BI の終了 17

「Order By」ボタン

概要 36
 リクエストのソート、使用 37

P

PDF

印刷、使用 17
 ダッシュボード・ページ、PDF オプションの変更 218
 ビューの印刷、使用 96

Presentation Catalog

Oracle BI Delivers、保存済コンテンツの操作 168
 アーカイブ 238
 オブジェクト、名前と説明の編集 239
 ダッシュボード・ページ、フォルダのビューの追加 212
 保存済コンテンツ、ダッシュボード・ページへの追加 213
 保存済リクエストの表示、格納されたものを表示 32

Presentation Catalog オブジェクトのセキュリティ 13

「Prompts」タブ

概要 34

R

「Refresh Display」リンク

使用について 39

「Remove Column」ボタン、概要 36

「Results」タブ

概要 33

RSS フィード

- アラート 192
- カタログ・フォルダ 213
- リーダーの要件 213

S**「Security」 ボタン**

- 注意、表示について 220

「Select Recipients」 ダイアログ・ボックス

- 使用 175

SQL

- 列フィルタ、リクエスト用の編集 67
- 論理 SQL、リクエストに対する調査と編集 44
- 論理 SQL、リクエスト用の表示 160

T**「TimeZone」 アイコン**

- 日付 / 時刻列への挿入 75

W**Web クエリー**

- リクエストの統合 42

Web ページ

- 結果のダウンロード 19

WHERE 句

- 列フィルタの変換 50

あ**アーカイブ**

- 注意、*.mht ファイル 18
- プレゼンテーション・カタログ 238

アカウント

- ターゲット・リストの作成ビュー、アカウントのリストの作成 162
- 他のユーザー・アカウントへのアクセス 224

アカウント設定

- 「My Account」 ページの表示 24

アクセス

- Oracle BI 14
- Oracle BI Delivers 166
- Oracle BI Publisher 226
- スタンドアロン Oracle BI 15
- 他のユーザー・アカウント 224

宛先

- iBot 180

アラート

- RSS フィードの追加 192
- アクセス 192
- 注意、iBot 使用時の配置について 202
- 注意、「My Dashboard」 への自動追加について 203

イメージ・プロンプト

- イメージ・プロンプトの削除 62

- 実行順序、移動 62
- 追加または変更 61
- プロパティ、変更 62

イメージ・リンク

- ダッシュボード・ページへの追加 206

印刷

- ダッシュボード・ページ、印刷オプションの変更 218
- ダッシュボードまたは保存済リクエスト 17
- ビュー 96
- ブリーフィング・ブック 230

埋込みコンテンツ

- ダッシュボード・ページへの追加 209

円グラフのタイプ**演算子**

- 列の演算子リストと使用ガイドライン 51

オブジェクト

- Presentation Catalog、名前と説明の編集 239
- ダッシュボード・ページでの削除 217
- ダッシュボード・ページでの名前変更 216

か**階段グラフのタイプ****書込み**

- 使用 21

カスタム・フォーマット、使用**カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列**

- ODBC カスタム・フォーマット文字列、表 81
- 一般的なカスタム・フォーマット文字列、表 80
- カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列の入力 80
- 時と分に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 時に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 82
- 時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 整数フィールドのカスタム・フォーマット文字列 82

ガイド付きナビゲーション

- 概要とタイプ 232
- リンク、ダッシュボード・ページへの追加 205

機能リンク、使用**キャッシュ**

- 概要 20

共有フォルダ

- リクエスト、保存 39

業務系アプリケーション

- 概要 12

グラフ・ビュー

- 色、背景、文字および境界、指定 120
- 概要 92

- グラフのタイプ 113
- グラフのプロパティ、指定 117
- グラフ・ビューの追加または変更 116
- グリッド線、色の表示の制御 119
- 結果、表示について 112
- ゲージのタイプ 141
- 軸スケール・オプション、設定 121
- 軸のタイトルとラベル、グラフ・ビューにおける指定 123
- 軸、表示する列の選択 120
- 凡例、場所の指定 119
- ボタン、説明 115
- ユーザー操作に対応する処理、指定 124
- グリッド線**
- 表示の制御と色 119
- 計算**
- ピボット・テーブル、計算の構築 138
- ピボット・テーブル、使用 137
- 例 139
- 結果**
- Oracle BI Answers、表示および操作 38
- 現行リクエスト、リフレッシュ 98
- 静的テキスト・ビュー、結果へのマークアップ・テキストの追加 157
- ダウンロード 18
- ダッシュボード・ページ、ドリルダウン時の制御 215
- データなし、ユーザーへのアラート 159
- ドリルダウンについて 95
- ビュー、操作と結果の表示 97
- ピボット・テーブル・ビュー、表示 129
- ファンネル・グラフ・ビュー、結果の表示 150
- ファンネル・グラフ・ビュー、結果への説明テキストの追加 151
- フィルタ・ビュー、適用されるフィルタの表示について 147
- 結果なしのビュー**
- 概要 94
- データなし、ユーザーへのアラート 159
- 権限**
- Oracle BI Answers、表示項目 31
- ダッシュボード・ページ、変更 220
- 検索**
- 保存済リクエストの検索 32
- ゲージ・ビュー**
- 概要 92
- 結果、表示について 140
- ゲージ・ビューの追加または変更 142
- ボタン、説明 142
- 「更新」ボタン**
- 注意、リクエストでの使用 35
- 個人用フォルダ**
- 注意、保存したプロンプトについて 65
- リクエスト、保存 39
- コピー**
- ビューの作成 97
- コンテンツ**
- Presentation Catalog、ダッシュボード・ページへの保存済コンテンツの追加 213
- 埋込みコンテンツ、ダッシュボード・ページへの追加 209
- コンポーネント**
- リスト 12
- さ**
- 再配置**
- 複合的なレイアウト・ビューを使用したビューの再配置 102
- 削除**
- イメージ・プロンプト 62
- ダッシュボード・ページ 220
- ダッシュボード・ページオブジェクト 217
- ビュー 98
- ビュー、複合的なレイアウト・ビューを使用した削除 102
- 列フィルタ・プロンプト 61
- サブジェクト領域**
- Oracle BI Answers からのアクセス 31
- サブスクリプションのリスト**
- iBot、詳細の表示 187
- 表示 187
- リストの変更 187
- 散布グラフのタイプ**
- 式**
- 列式、編集 108
- システム・サービス**
- iBot 181
- システム全体のデフォルト**
- 列プロパティ設定の保存 79
- 集計ルール**
- ピボット・テーブルにおけるデフォルト・ルールの上書き 132
- 終了**
- Oracle BI 17
- 時**
- 時と分に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 時に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 82
- 時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 軸**
- スケール・オプション、設定 121
- タイトルとラベル、グラフ・ビューにおける指定 123
- 列、軸として表示するための選択 120
- 時刻**

- 「カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列」を参照
- 実行順序**
 - イメージ・プロンプト、上下に移動 62
 - 列フィルタ・プロンプト、上下に移動 61
- 重複データ、抑止** 75
- 条件**
 - iBot 受信者、結果による指定の許可 173
 - ダッシュボード・ページのコンテンツ、条件表示 205
 - リンク、概要 205
- 条件付フォーマット**
 - 適用する例 79
 - 列コンテンツ、適用 78
- 条件プロンプト**
 - 概要 58
- 水平**
 - ダッシュボード・ページのセクション表示 204
- スクリプト**
 - カスタム・スクリプト、iBot 完了時の実行について 183, 184
 - カスタム・スクリプト、スクリプトを指定して iBot 完了時に実行 185, 186
- スクロール・ティッカ**
 - 結果の表示 154
- スタート・ページ**
 - サブジェクト領域およびリクエスト、アクセス 31
 - 戻る 32
 - 例 30
- スタンドアロン Oracle BI**
 - アクセス 15
 - 概要 13
 - 機能リンク、概要 22
- 整数フィールド**
 - カスタム・フォーマット文字列 82
- 静的テキスト・ビュー**
 - 概要 94
 - 結果へのマークアップ・テキストの追加 157
- 制約列**
 - 注意、ダッシュボード・プロンプト 63
- セキュリティ**
 - タイプ 13
- セグメント**
 - セグメントの作成ビューを使用した作成 161
- セグメントの作成ビュー**
 - 概要 94
 - セグメント、作成 161
- 説明ビュー**
 - 概要 93
 - 説明テキスト、結果への追加 151
 - 例 152
- 選択ペイン**
 - 情報のリフレッシュ 20
- 挿入句フィルタ**
 - 「フィルタ」を参照
- ソート**
 - リクエストの列 37
- た**
- ターゲット・リストの作成ビュー**
 - 概要 94
 - 連絡先およびアカウント、リストの作成 162
- タイトル・ビュー**
 - 概要 91
 - 操作 103
- タイムスタンプ**
 - 「カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列」を参照
- タイムゾーン**
 - 優先タイムゾーンの設定 24
- 縦棒ゲージ** 141
- タブ**
 - 概要 23
- タブ区切りの値リスト**
 - 結果のダウンロード 19
- ダウンロード**
 - オプション 18
 - 結果、Web ページ 19
 - 結果、タブ区切りの値リストとしてダウンロード 19
- ダッシュボード**
 - Dashboard Editor、アクセス 201
 - Dashboard Editor、新しい列の追加 202
 - Dashboard Editor、コンテンツの条件表示 205
 - Dashboard Editor、コンテンツの追加と表示について 204
 - Dashboard Editor、セクションの水平表示 204
 - Dashboard Editor、ダッシュボード・ページとレイアウトの操作について 202
 - Dashboard Editor、ダッシュボード・ページの列の操作について 202
 - Dashboard Editor、ダッシュボード・ページへのセクションの追加 203
 - Dashboard Editor、ダッシュボード・ページへの変更の保存 204
 - Dashboard Editor、編集するダッシュボード・ページの選択 202
 - Dashboard Editor、列の幅の設定 203
 - Dashboard Editor、列のブレイク 203
 - 「Dashboard Properties」ページ、アクセス 219
 - HTML、ダッシュボード・ページへの追加 210
 - Oracle BI Dashboards 12
 - Oracle BI Publisher、レポートの追加 214
 - PDF および印刷オプション、変更 218
 - Presentation Catalog、ダッシュボード・ページへの保存済コンテンツの追加 213
 - Presentation Catalog フォルダのビュー、ダッ

- ダッシュボード・ページへの追加 212
- 新しいページ、ダッシュボードへの追加 200
- 埋込みコンテンツ、ダッシュボード・ページへの追加 209
- ガイド付きナビゲーション、概要とタイプ 232
- ガイド付きナビゲーション・リンク、追加 205
- 概要 196
- キーボード・ショートカット、ナビゲートのために使用 199
- 基本用語の定義 196
- 結果、ドリルダウン時の制御 215
- 権限、変更 220
- コンテンツ、コンテンツの追加について 201
- スタイル、ダッシュボード用に選択 219
- 説明、ダッシュボード用に追加 220
- 説明、表示 17
- 選択ペイン、情報のリフレッシュ 38
- ダッシュボードの印刷 17
- ダッシュボードの表示 198
- ダッシュボード・プロンプト、追加 66
- ダッシュボード・プロンプト、プロパティの編集 215
- ダッシュボード・ページでのオブジェクトの削除 217
- ダッシュボード・ページでのオブジェクトの名前変更 216
- ダッシュボード・ページ、ナビゲート 198
- ダッシュボード・ページの削除 220
- ダッシュボード・ページの電子メール送信 18
- ダッシュボード・ページの名前変更 220
- ダッシュボード・ページの並替え 220
- ダッシュボード・ページの非表示 220
- テキスト・リンクまたはイメージ、ダッシュボード・ページへの追加 206
- ビュー、プレビュー 97
- 複合的なレイアウト・ビュー、アクセス 101
- 複合的なレイアウト・ビュー、ビューを再配置するための使用 102
- 複合的なレイアウト・ビュー、ビューを削除するための使用 102
- 複合的なレイアウト・ビュー、ビューを追加するための使用 101
- ブリーフィング・ブック、Oracle BI Delivers を使用した更新 231
- ブリーフィング・ブック、コンテンツの追加 229
- ブリーフィング・ブック、作成 228
- ブリーフィング・ブック、ダッシュボード・ページへのブック・リストの追加 231
- ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 206
- ブリーフィング・ブック、ブックの表示 232
- ブリーフィング・ブック、編集、ダウンロードおよび印刷 230
- プロパティ、変更 217
- プロンプト、概要 58
- 保存済リクエスト、ダッシュボード別に整理して表示 31
- ユーザー・アカウント、アクセス 224
- リクエスト、埋込み 41
- リフレッシュ 20
- レポート、プロパティの編集 215
- ダッシュボード・プロンプト**
- Oracle BI Publisher レポートで使用 227
- リクエスト、ダッシュボードまたはページへの追加 66
- リクエスト、編集 66
- リクエスト、保存 65
- リクエスト、リクエストのフィルタのために作成 63
- ダッシュボード・ページ**
- 「Dashboard Properties」ページ、アクセス 219
- HTML、追加 210
- PDF および印刷オプション 218
- Presentation Catalog フォルダのビュー、追加 212
- Presentation Catalog、保存済コンテンツの追加 213
- 埋込みコンテンツ、追加 209
- オブジェクト、名前変更 216
- オブジェクトの削除 217
- カタログ・フォルダへの RSS フィードの追加 213
- ガイド付きナビゲーション・リンク、追加 205
- 結果、ドリルダウン時の制御 215
- 権限、変更 220
- コンテンツ、条件表示 205
- コンテンツ、追加と表示について 204
- スタイル、ダッシュボード用に選択 219
- 説明、ダッシュボード用に追加 220
- ダッシュボードのプロパティ、変更 217
- ダッシュボード・プロンプト、プロパティの編集 215
- ダッシュボード・ページの削除 220
- ダッシュボード・ページの名前変更 220
- ダッシュボード・ページの並替え 220
- ダッシュボード・ページの非表示 220
- テキスト・リンクまたはイメージ、追加 206
- ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンク、追加 206
- 変更の保存 204
- レポート、プロパティの編集 215
- ティッカ・ビュー**
- 概要 93
- スクロール・ティッカ、結果の表示 154
- テーブル・ビュー**
- 書込みの追加 105

概要 91
操作 105

テキスト・リンク
ダッシュボード・ページへの追加 206

添付ファイル
iBot コンテキストへの変数の追加 179
テキスト・メッセージによる iBot のコンテキストの追加 179

データ
重複データ、抑止 75

データ型
データ駆動ナビゲーションのフォーマットと構成 95

データ・レベルのセキュリティ 13

デバイス
iBot 181
追加または変更、概要 25

デフォルト
システム全体のデフォルトとしての列プロパティ設定の保存 79

デフォルト集計ルール
ピボット・テーブルにおける上書き 132

電球ゲージ 141

電子メール送信
ダッシュボード・ページまたはリクエスト 18

ドリルダウン
概要 23
結果、ドリルダウン 95
結果、ドリルダウン時の表示の制御 215

ドロップダウン・リスト
ピボット・テーブルにおける複数のリストの使用 132

な

ナビゲート
Oracle BI のページ、コンポーネントについて 23
Oracle BI へのアクセス、表示内容 21
ガイド付きナビゲーション、概要とタイプ 232
ガイド付きナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 205
データ駆動ナビゲーション、データ型の構成とフォーマット 95
ドリルダウン、概要 23
ヒント、リンク表示の制御 207
ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 206
リンク、使用 22

名前変更
ダッシュボード・ページ 220
ダッシュボード・ページのオブジェクト 216

並替え

ダッシュボード・ページ 220

は

配信デバイス
配信オプションの構成 189

配信プロファイル
使用、概要 191
配信オプションの構成 189

凡例
グラフ・ビューにおける指定 119

凡例ビュー
概要 93

パレット・グラフのタイプ 114

日付 / 時刻フォーマット文字列、カスタム
ODBC カスタム・フォーマット文字列、表 81
一般的なカスタム・フォーマット文字列、表 80
カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列の入力 80
時と分に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
時に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 82
時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
整数フィールドのカスタム・フォーマット文字列 82

非表示
結果における列 74
ダッシュボード・ページ 220

ビュー
Oracle BI Delivers ユーザー、ビューのカスタマイズ 100
概要 90
グラフのタイプ 113
グラフ・ビュー、色の指定、背景、文字および境界 120
グラフ・ビュー、グラフの一般的なプロパティの指定 117
グラフ・ビュー、グリッド線と色の表示の制御 119
グラフ・ビュー、結果の表示について 112
グラフ・ビュー、追加または変更 116
グラフ・ビュー、凡例の場所の指定 119
グラフ・ビュー・ボタン 115
計算例 139
結果データ、ビューの操作の表示 97
結果、ドリルダウンについて 95
結果なしのビュー、ユーザーへのデータなしのアラート 159
ゲージのタイプ 141
ゲージ・ビュー、結果の表示について 140
ゲージ・ビュー、追加または変更 142
ゲージ・ビュー・ボタン 142

- 現行リクエスト、結果のリフレッシュ 98
- コピー、作成 97
- 新規リクエスト、作成 99
- 軸スケール・オプション、設定 121
- 軸のタイトルとラベル、グラフ・ビューにおける指定 123
- 軸、表示する列の選択 120
- 静的テキスト・ビュー、結果へのマークアップ・テキストの追加 157
- セグメントの作成ビュー、セグメントの作成 161
- 説明ビュー、結果への説明テキストの追加 151
- 説明ビューの例 152
- ターゲット・リストの作成ビュー、連絡先およびアカウントのリストの作成 162
- タイトル・ビュー、操作 103
- ダッシュボード、ビューのプレビュー 97
- ティック・ビュー、スクロール・ティックでの結果の表示 154
- テーブル・ビュー、操作 105
- データ型、データ駆動ナビゲーションのフォーマットと構成 95
- デフォルト集計ルール、上書き 132
- ドロップダウン・リスト、複数の使用 132
- ビューの印刷 96
- ビューの削除 98
- ビューの名前および説明 91
- ビューの保存 96
- ピボット・テーブル、計算の構築 138
- ピボット・テーブル、計算の表示 137
- ピボット・テーブル、項目の相対値の表示 136
- ピボット・テーブル・ビュー、結果の表示 129
- ピボット・テーブル・ビュー、追加または変更 129
- ピボット・テーブル、フォーマットの追加 133
- ピボット・テーブル、累計の表示 136
- ファンネル・グラフ・ビュー、結果の表示 150
- フィルタ・ビュー、追加または変更 147
- 複合的なレイアウト・ビュー、ダッシュボードでのアクセス 101
- 複合的なレイアウト・ビュー、ビューを再配置するための使用 102
- 複合的なレイアウト・ビュー、ビューを削除するための使用 102
- 複合的なレイアウト・ビュー、ビューを追加するための使用 101
- 複合的なレイアウト・ビュー、プロパティを編集するための使用 102
- 複合的なレイアウト・ビュー、別のビューからのアクセス 99
- 保存済リクエスト、オープン 99
- ユーザー操作に対応する処理、指定 124
- 列セレクト・ビュー、リクエスト内の列変更の許可 148
- 論理 SQL ビュー、リクエストの論理 SQL の表示 160
- ビュー・セレクト・ビュー**
 - 概要 93
- ビューの複製** 97
- 秒**
 - 時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- ピボット・テーブル**
 - 注意、条件付フォーマット 78
- ピボット・テーブル・ビュー**
 - 概要 92
 - 計算、構築 138
 - 計算、使用 137
 - 計算例 139
 - 結果、表示 129
 - 項目の相対値、表示 136
 - デフォルト集計ルール、上書き 132
 - ドロップダウン・リスト、複数の使用 132
 - ビュー、追加または変更 129
 - フォーマット、追加 133
 - 累計の表示 136
- ファンネル・グラフ・ビュー**
 - 概要 93
 - 表示の結果 150
- フィルタ**
 - Oracle BI Answers のフィルタの例 68
 - SQL、リクエストでの列フィルタの編集 67
 - WHERE 句、変換について 50
 - 概要 49
 - 選択ペインの情報のリフレッシュ 38
 - 注意、「更新」ボタンのクリック 51
 - ヒント、列への追加 51
 - フィルタ、別の保存済リクエストに基づいて作成 67
 - 保存済フィルタ、プロパティの表示 56
 - リクエスト、リクエストへの保存済列フィルタの適用 56
 - 列の演算子、リストと使用ガイドライン 51
 - 列フィルタ、Answers での作成 51
 - 列フィルタ、Oracle BI Answers での削除 57
 - 列フィルタ、再利用のために保存 55
 - 列フィルタ、使用と要素について 50
 - 列フィルタの特性 50
 - 列フィルタ、編集 56
 - 列フィルタ、他の列フィルタとの結合 57
 - 列フィルタ、リクエストから削除 57
 - 列フィルタ、リクエストの一部として保存 55
- フィルタ・ビュー**
 - 概要 93
 - 追加または変更 147
- フォーマット文字列**
 - 一般的なカスタム・フォーマット文字列 80
 - 時と分、変換 83
 - 時、分および秒、変換 83

- 時、変換 82
- 整数フィールド 82
- フォルダ**
- RSS フィールドの追加 213
- アーカイブ 238
- ダッシュボード・ページへのビューの追加 212
- 複合的なレイアウト・ビュー**
- 概要 91
- ダッシュボード、アクセス 101
- ビュー、再配置するための使用 102
- ビュー、削除するための使用 102
- ビュー、追加するための使用 101
- プロパティ、編集するための使用 102
- 別のビュー、アクセス 99
- 分**
- 時と分に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- ブリーフィング・ブック**
- Oracle BI Delivers を使用した更新 231
- コンテンツ、追加 229
- コンテンツ、編集、ダウンロードおよび印刷 230
- 作成 228
- 選択ペイン、情報のリフレッシュ 38
- ダッシュボード・ページ、ブック・リストの追加 231
- ナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 206
- ブックの表示 232
- プリファレンス**
- 「My Account」 ページの設定 24
- プロパティ**
- 「Dashboard Properties」 ページ、アクセス 219
- イメージ・プロンプト、プロパティの変更 62
- グラフのプロパティ、指定 117
- ダッシュボードのプロパティ、変更 217
- ダッシュボード・プロンプト、プロパティの編集 215
- ビューのプロパティ、編集 102
- 保存済フィルタ、表示 56
- 列フィルタ・プロンプト、プロパティの変更 60
- レポート、プロパティの編集 215
- プロンプト**
- イメージ・プロンプト、削除 62
- イメージ・プロンプト、実行順序の移動 62
- イメージ・プロンプト、追加または変更 61
- イメージ・プロンプト、プロパティの変更 62
- タイプ 58
- ダッシュボード・プロンプト、Oracle BI Publisher レポートで使用 227
- ダッシュボード・プロンプト、ダッシュボードまたはページへの追加 66
- ダッシュボード・プロンプト、プロパティの編集 215
- ダッシュボード・プロンプト、編集 66
- ダッシュボード・プロンプト、保存 65
- ダッシュボード・プロンプト、リクエストのフィルタのために作成 63
- 列フィルタ・プロンプト、削除 61
- 列フィルタ・プロンプト、プロパティの変更 60
- 列フィルタ・プロンプト、リクエストへの追加 59
- 変数**
- プレゼンテーション変数およびシステム変数の使用 46
- ペイン**
- 概要 23
- ページ**
- コンポーネントについて 23
- 保存**
- Oracle BI ビュー 96
- ダッシュボード・プロンプト 65
- ダッシュボード・ページ、変更の保存 204
- 列フィルタ、再利用のために保存 55
- 列フィルタ、リクエストの一部として保存 55
- ま**
- マークアップ・テキスト**
- 結果へのテキストの追加 157
- 目盛り盤ゲージ** 141
- や**
- ユーザー宛先**
- iBot 180
- 優先タイムゾーン**
- 設定 24
- ら**
- リクエスト**
- Excel の Web クエリー、統合 42
- My Folder フォルダ、概要と保存済リクエスト 34
- Oracle BI Answers、アクセス 31
- Oracle BI Answers、作成の概要 28
- Oracle BI Answers のフィルタの例 68
- SQL、リクエストでの列フィルタの編集 67
- イメージ・プロンプト、削除 62
- イメージ・プロンプト、実行順序の移動 62
- イメージ・プロンプト、追加または変更 61
- イメージ・プロンプト、プロパティの変更 62
- 個人用フォルダまたは共有フォルダ、保存 39
- 新規リクエスト、作成 34
- 新規リクエスト、条件の作成または変更 35
- 新規リクエスト、ビューの操作中の作成 99
- 説明、表示 17

- 選択ペイン、情報のリフレッシュ 38
- ダッシュボード、埋込み 41
- ダッシュボード・プロンプト、ダッシュボードまたはページへの追加 66
- ダッシュボード・プロンプト、編集 66
- ダッシュボード・プロンプト、保存 65
- ダッシュボード・プロンプト、リクエストのフィルタのために作成 63
- ヒント、列へのフィルタの追加 51
- フィルタ、結果を絞り込むための使用について 49
- フィルタ、プロンプトによる簡略化 58
- フィルタ、別の保存済リクエストに基づいて作成 67
- 保存済フィルタ、プロパティの表示 56
- 保存済リクエスト、Presentation Catalog に格納されたものを表示 32
- 保存済リクエスト、検索 32
- 保存済リクエスト、実行 34
- 保存済リクエスト、ダッシュボード別に表示 31
- 保存済リクエストの印刷 17
- 保存済リクエスト、ビューの操作中のオープン 99
- 保存済列フィルタ、リクエストへの適用 56
- リクエストの電子メール送信 18
- リフレッシュ 20
- 列式、編集 108
- 列セレクトタ・ビュー、リクエスト内の列変更の許可 148
- 列、ソート順序の指定 37
- 列フィルタ、Oracle BI Answers での削除 57
- 列フィルタ、Oracle BI Answers での作成 51
- 列フィルタ、再利用のために保存 55
- 列フィルタ、使用と要素について 50
- 列フィルタの特性 50
- 列フィルタ・プロンプト、削除 61
- 列フィルタ・プロンプト、プロパティの変更 60
- 列フィルタ・プロンプト、リクエストへの追加 59
- 列フィルタ、編集 56
- 列フィルタ、他の列フィルタとの結合 57
- 列フィルタ、リクエストから削除 57
- 列フィルタ、リクエストの一部として保存 55
- 論理 SQL、リクエストに対する調査と編集 44
- 論理 SQL、リクエスト用の表示 160
- 列フィルタ、WHERE 句への変換について 50
- リクエスト、フォーマット**
- ODBC カスタム・フォーマット文字列、表 81
- 一般的なカスタム・フォーマット文字列、表 80
- カスタム・テーブルおよび列ヘッダー、作成 74
- カスタム日付 / 時刻フォーマット文字列、入力 80
- 時と分に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 時に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 82
- 時、分および秒に変換するためのカスタム・フォーマット文字列 83
- 重複データ、抑止 75
- 条件付フォーマット、適用する例 79
- 条件付フォーマット、列コンテンツへの適用 78
- 整数フィールドのカスタム・フォーマット文字列 82
- 列、結果における非表示 74
- 列コンテンツ、Oracle BI Answers におけるフォーマット 76
- 列コンテンツ、表示の編集 72
- 列コンテンツ・レイアウト、編集 73
- 列のクリック、処理の指定 75
- 列フォーマット関数、使用について 72
- 列プロパティ設定、システム全体のデフォルトとしての保存 79
- リフレッシュ**
- Oracle BI のメタデータ、選択ペインの情報のリフレッシュ 38
- 選択ペインの情報 38
- ダッシュボードまたはリクエスト 20
- ビューの現行リクエスト 98
- リンク**
- ガイド付きナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 205
- 機能リンク、使用 22
- テキストまたはイメージ・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 206
- ヒント、リンク表示の制御 207
- ブリーフィング・ブック・ナビゲーション・リンク、ダッシュボード・ページへの追加 206
- リーダー・グラフのタイプ** 114
- 列**
- 「Edit Formula」ボタン、概要 36
- 「Filter By Column」ボタン、概要 36
- 「Format Column」ボタン、概要 36
- 「Remove Column」ボタン、概要 36
- 「TimeZone」アイコンの挿入 75
- 演算子、リストと使用ガイドライン 51
- カスタム・テーブルおよび列ヘッダー、作成 74
- 結果、非表示 74
- 軸、表示する列の選択 120
- 重複データ、抑止 75
- 条件付フォーマット、適用する例 79
- 条件付フォーマット、列コンテンツへの適用 78
- ダッシュボード・ページ、新しい列の追加 202
- ダッシュボード・ページ、セクションの追加 203
- ダッシュボード・ページ、列の操作について 202
- ダッシュボード・ページ、列の幅の設定 203
- ダッシュボード・ページ、列のブレイク 203
- 注意、「更新」ボタンのクリック 51

- ヒント、フィルタの追加 51
- 保存済フィルタ、プロパティの表示 56
- 保存済列フィルタ、リクエストへの適用 56
- リクエスト、ソート 37
- 列コンテンツ、Oracle BI Answers における
フォーマット 76
- 列コンテンツ、表示の編集 72
- 列式、編集 108
- 列のクリック、処理の指定 75
- 列フィルタ、Oracle BI Answers での削除 57
- 列フィルタ、Oracle BI Answers での作成 51
- 列フィルタ、Oracle BI Answers での保存 55
- 列フィルタ、使用と要素について 50
- 列フィルタの特性 50
- 列フィルタ、編集 56
- 列フィルタ、他の列フィルタとの結合 57
- 列フィルタ、リクエストから削除 57
- 列フィルタ、リクエストの一部として保存 55
- 列フォーマット関数、使用について 72
- 列プロパティ設定、システム全体のデフォルトとし
ての保存 79
- 列レイアウト、編集 73
- 列フィルタ、WHERE 句への変換について 50
- 列式**
 - 編集 108
- 列セレクタ・ビュー**
 - 概要 93
 - リクエスト、列変更の許可 148
- 列フィルタ**
 - Oracle BI Answers、削除 57
 - Oracle BI Answers、作成 51
 - Oracle BI Answers、保存 55
 - SQL、リクエスト用の編集 67
 - Where 句、変換について 50
 - 使用、概要と要素 50
- 特性 50
- 編集 56
- 他の列フィルタとの結合 57
- リクエスト、一部として保存 55
- リクエスト、削除 57
- 列フィルタ・プロンプト**
 - 実行順序、上下に移動 61
 - プロパティ、変更 60
 - リクエスト、追加 59
 - 列フィルタ・プロンプト、削除 61
- 列プロパティ設定**
 - システム全体のデフォルトとしての保存 79
- レポート**
 - Lotus Notes データベース、保存 40
 - プロパティ、編集 215
- 連絡先**
 - ターゲット・リストの作成ビュー、連絡先のリスト
の作成 162
- 論理 SQL ビュー**
 - 概要 94
 - リクエストの論理 SQL の表示 160
- わ**
- ワークスペース**
 - 「Advanced」タブ、概要 34
 - 「Criteria」タブ、概要 33
 - 「Prompts」タブ、概要 34
 - 「Results」タブ、概要 33
 - タブ、アクセス 32
 - タブ、アクセスについて 32
- ワークフロー**
 - iBot、ワークフローの操作プロパティについ
て 184
 - 指定して実行 185

